

足立区障がい福祉関連計画のためのアンケート調査

報告書

令和2年3月

足立区

目次

第1部 調査概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査対象	3
3. 調査方法	3
4. 調査期間	4
5. 回収数	4
6. 報告書の見方	4
第2部 調査結果まとめ	5
1. 調査結果から明らかになった課題等	7
第3部 調査結果	13
第1節 障がい者・障がい児調査	15
1. 基本属性	15
2. 医療機関の利用について	30
3. 暮らしについて	37
4. 日中活動・就労について	52
5. 療育・教育について	60
6. 外出について	66
7. 趣味・生きがいについて	75
8. 障がい福祉サービスについて	85
9. 相談・障がい福祉の状況について	93
10. 災害対策について	102
11. 足立区での生活について	110
12. 権利擁護について	118
13. 障がい福祉政策についての意見	123
第2節 事業者調査	132
1. 事業者の概要について	132
2. 運営状況や事業展開について	141
3. サービスの質の向上について	146
4. 障がい者の地域生活の向上に向けた取り組みの状況について	151
5. 事故や災害等に対する取り組みについて	153
6. 障がい福祉施策に関する意見	156
資料編	159
1. 集計表	160
2. 調査票	363

第1部 調査概要

1. 調査の目的

「第6期障がい福祉計画」「第2期障がい児福祉計画」を策定するにあたって、実態や障がい福祉に対する意見・要望を聴取し、計画を策定するための基礎資料とする。

2. 調査対象

区内の18歳以上の障がい者、18歳未満の障がい児と保護者、区内の障がい福祉サービス事業者の3調査を実施した。

	18歳以上	18歳未満・保護者	事業者
調査対象	区内に在住する障がいに関する手帳等を持つ18歳以上の方	区内に在住する障がいに関する手帳等を持つ18歳未満の方及びその保護者	区内の障害福祉サービス事業者
配付数	手帳等を有する方の構成比を考慮して、障がいごとに、以下の件数を抽出した 合計:2,600件 ・視覚障がい:200件 ・聴覚・平衡機能障がい:200件 ・音声・言語・そしゃく機能障がい:200件 ・肢体不自由:800件 ・内部障がい:500件 ・知的障がい:300件 ・精神障がい:500件	手帳等を有する方の構成比を考慮して、障がいごとに、以下の件数を抽出した 合計:400件 ・肢体不自由:150件 ・知的障がい:250件	区内の全事業者(運営法人単位)の悉皆調査 合計:224件 ・訪問系:121件 ・日中活動系:34件 ・居住系:26件 ・児童系:30件 ・相談支援:13件

3. 調査方法

郵送調査(郵送配付—郵送回収)

4. 調査期間

	18歳以上	18歳未満・保護者	事業者
調査期間	2019年12月27日(金) ～2020年1月31日(金)	2019年12月27日(金) ～2020年1月31日(金)	2020年1月10日(金) ～2020年2月13日(木)

5. 回収数

	18歳以上	18歳未満・保護者	事業者
有効回収数	1,015件(39.0%)	168件(42.0%)	134件(59.8%)

6. 報告書の見方

結果の見方について

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示している。そのため、単数回答(回答を1つだけ選ぶ設問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせても100%にならない場合がある。
- ・複数回答(回答を2つ以上選んでよい設問)においては、%の合計が100%を超える。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、信頼性の面で参考値として扱い、グラフや数表を非掲載としている場合がある。回答者数30以上の層を中心に言及するものとする。

分析について

本報告書においては、所持する手帳等の分類を基本としている。ただし、回答ベースであるため、誤認等により、実際に所持する手帳等とは完全に一致しない場合があると想定される。

同じ障がい手帳を所持していても、障がいの種類によって傾向が異なるため、サンプル数が多い18歳以上の調査では、特に重要な設問において、障がいの種類によるクロス集計の結果を掲載している。

本文中の表記について

本文中において、「自立支援医療受給者証(精神通院)」を「自立支援医療(精神通院)」、「特定医療費受給者証(難病医療券)」を「特定医療費(難病医療)」と省略して記載しています。

第2部

調査結果まとめ

1. 調査結果から明らかになった課題等

調査結果の概要及び明らかになった課題等は以下の通りである。

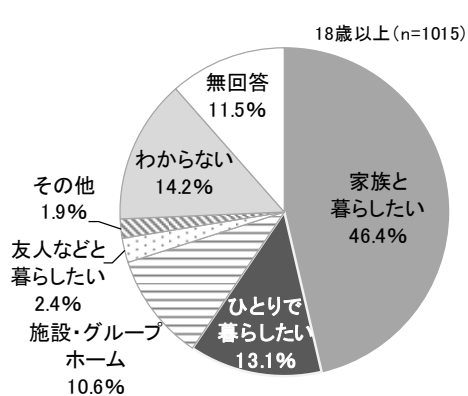
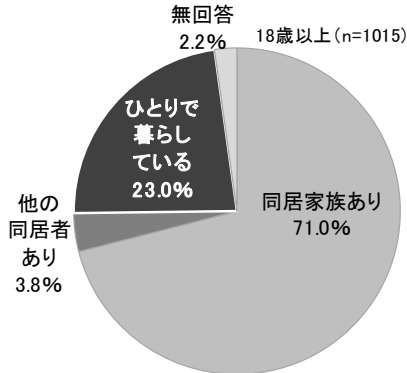
暮らし

調査結果の概要

①自立した生活

ひとり暮らしの障がい者は2割強

将来ひとり暮らしの希望も多い

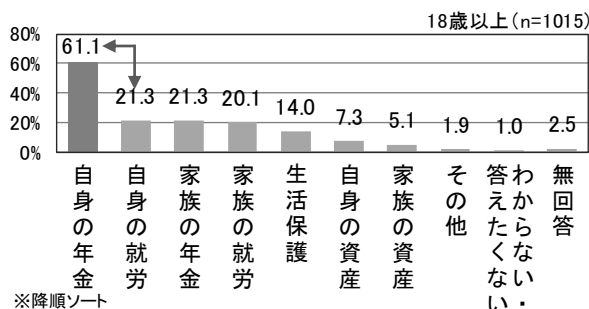


明らかになった課題等

- 介助や住まいなど、自立した生活を実現するための支援を拡充する
- 症状悪化時や災害時などの支援体制を整備していく必要がある

②収入源

収入源は年金が中心で、就労により賃金を得ている人は少ない

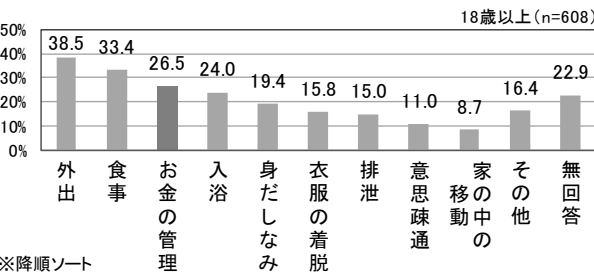
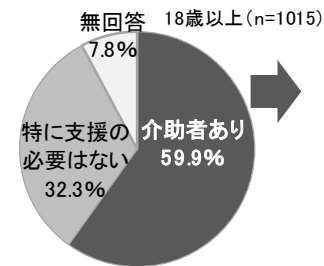


- 就労支援など、経済的な自立に向けた支援を拡充していく必要がある

③財産管理

お金の管理の介助が必要な障がい者も比較的多いものの、成年後見制度の内容まで理解しているのは2割である

愛の手帳では他の手帳等と比較して成年後見制度の認知率が低い



【成年後見制度】

	内容まで知っている	名前知っている	知らない・わからない	無回答
18歳以上全体(n=1015)	22.1	31.8	34.6	11.5
身体障害者手帳(n=754)	22.7	34.0	31.2	12.2
愛の手帳(n=137)	16.8	29.2	44.5	9.5
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	24.3	30.9	38.8	5.9

- 成年後見制度に関する情報提供や必要に応じて制度利用につなげる体制を整備していく必要がある

相 談

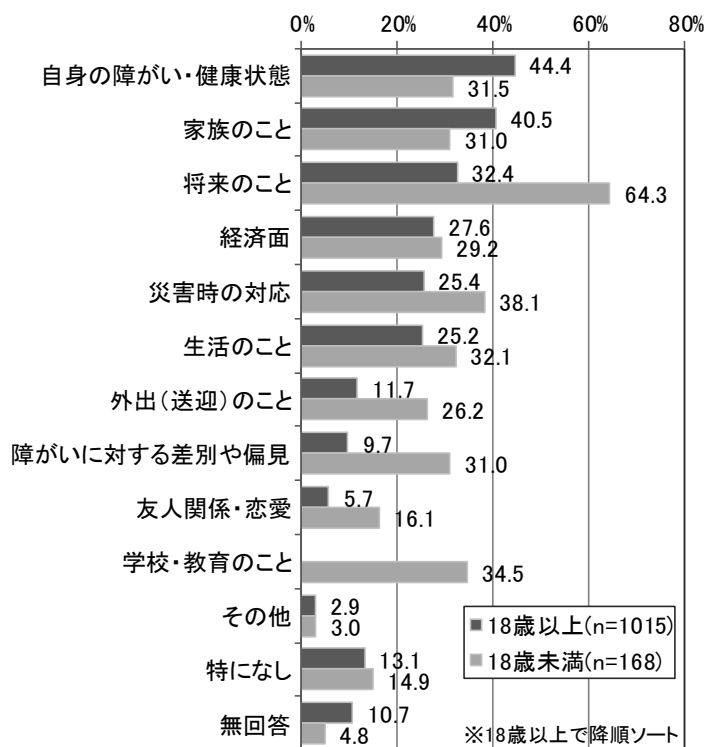
調査結果の概要

①家族の悩み
 18歳以上は、自分自身だけでなく、家族の健康や年齢に対する悩み・不安が多い

明らかになった課題等
 ・ 仕事をしている家族や高齢の親の介護負担の軽減を図る支援が必要である

②将来への不安
 18歳未満は、「将来のこと」に対する悩み・不安が特に多い

・ 「親なき後」問題の解決に向けた取組が必要である

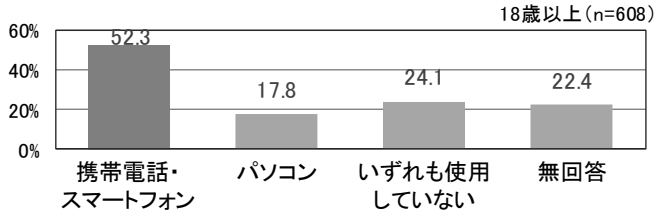


情報

調査結果の概要

① 情報手段

「携帯電話・スマートフォン」は18歳以上の半数が所有



障がい児の保護者は、「インターネット・SNS※」から情報を入手することが多い
※ツイッター・フェイスブックなど

18歳以上		(%)	18歳未満・保護者		(%)
1	あだち広報	29.5	インターネット検索・SNS	33.9	
2	足立区 障がい者のしおり	16.3	足立区 障がい者のしおり	28.0	
3	医療関係者	15.7	障がい福祉課各援護係	23.2	
4	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等	11.9	障がい福祉サービス事業所スタッフ	22.6	
5	区のホームページ・公式SNS	9.9	あだち広報	22.0	
6	インターネット検索・SNS	9.7	区のホームページ・公式SNS	20.8	

※それぞれ上位6位について掲載

明らかになった課題等

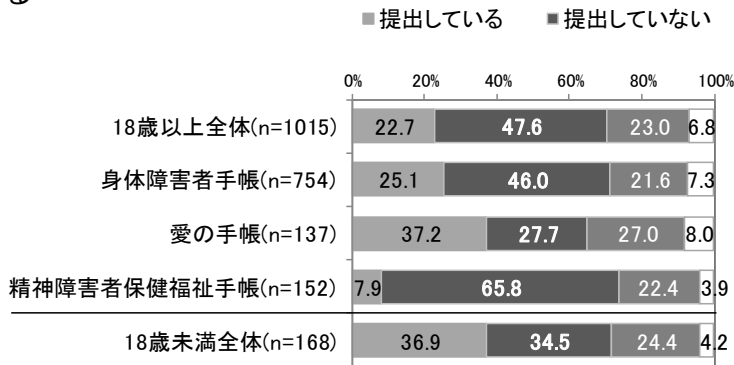
- 情報発信の手段として、SNS等ソーシャルメディアの活用が望まれる

災 害

調査結果の概要

①災害時安否確認申出書

災害時安否確認申出書は未提出者が多く、制度に不安を持っている人もいる

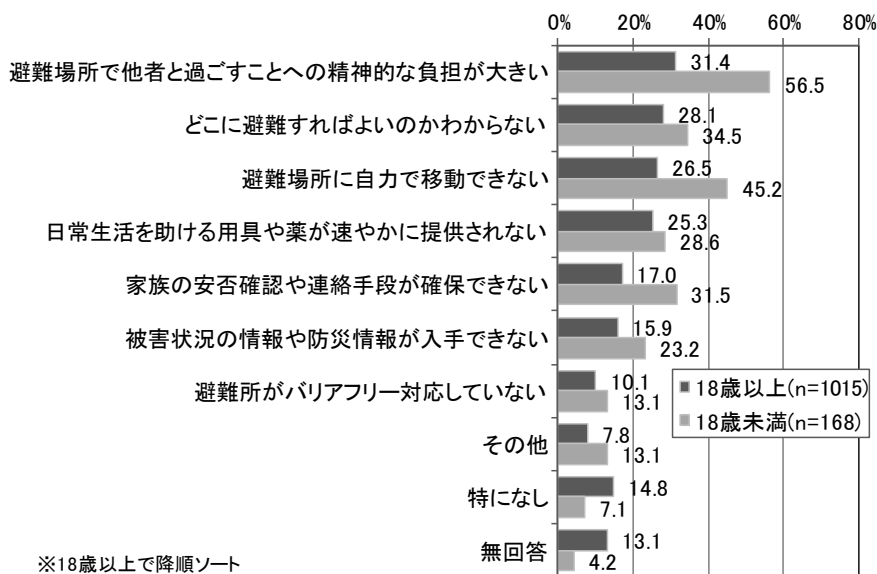


明らかになった課題等

- 理解・協力を得るため、さらに情報提供が必要である

②避難場所

年齢に関わらず、災害発生時の避難場所において、他者と過ごすことへの不安が大きい



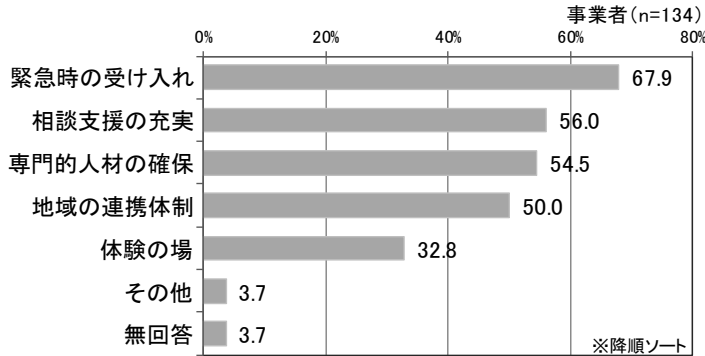
- 障がい児者の避難所利用について、対応策を検討していく必要がある

事業

調査結果の概要

①地域生活支援拠点

地域生活支援拠点の整備について、緊急時の受け入れに対するニーズが高い



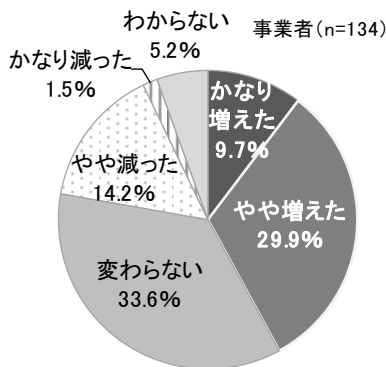
明らかになった課題等

- 人材や体制の整備など、幅広く課題を集約して、進めていく必要がある

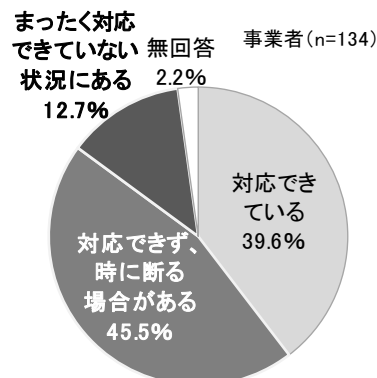
②サービス提供体制

新規サービス提供依頼者数は維持・増加傾向にあるものの、職員数の不足により、対応できないことがある事業者が多い

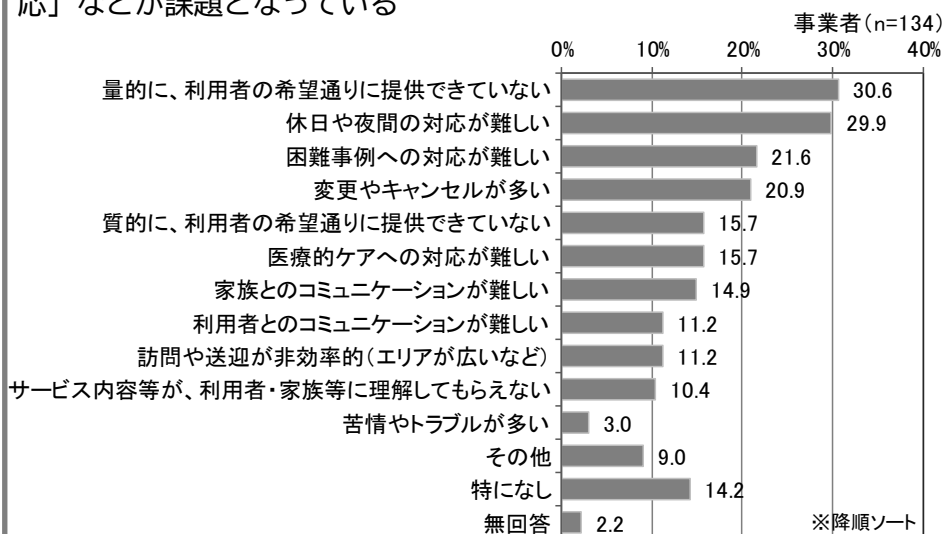
【新規依頼者数H29→H30】



【新規依頼への対応】



サービス提供において「利用者の希望量への対応」、「休日や夜間の対応」などが課題となっている



- 十分な人員体制が組めないことが要因と考えられ、人材確保のための支援策を拡充することが必要である

意見

調査結果の概要

明らかになった課題等

①日中の活動の場

18歳未満は日中活動の場の確保や就学・就労支援に対する施策のニーズが高い

- 場の拡充や、マッチングと合わせ、社会参加を支援するための外出・介助等のサービス拡充を検討していく必要がある

②経済的支援

18歳以上は「経済的な支援の充実」に対するニーズが高い

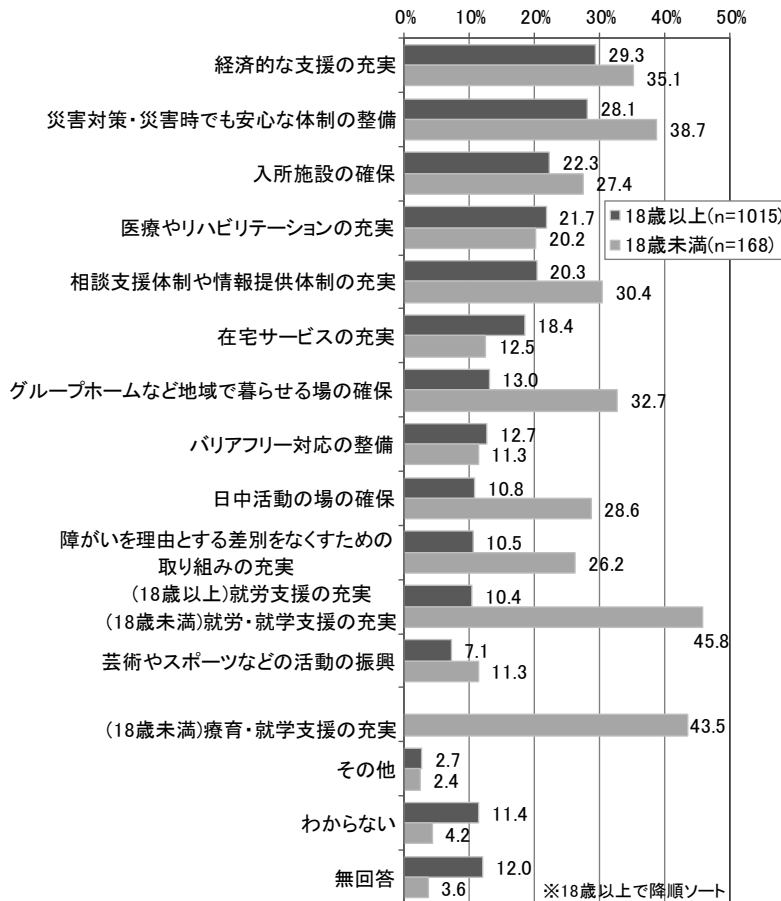
18歳未満は、兄弟の養育にも費用がかかる時期であり、本人の成長に伴って必要なものも増えるため、支出が増える傾向にある

- 障がい児は生活全般において介助を必要としており、主に母親が対応しているため、母親の就労に影響を与えていることが考えられる
- ニーズを把握し、対策を検討していくことが望まれる

③外出支援

18歳以上は「経済的な支援の充実」に対するニーズが高い

- ニーズに対応できるよう、サービスの拡充が必要である



第3部 調査結果

第1節 障がい者・障がい児調査

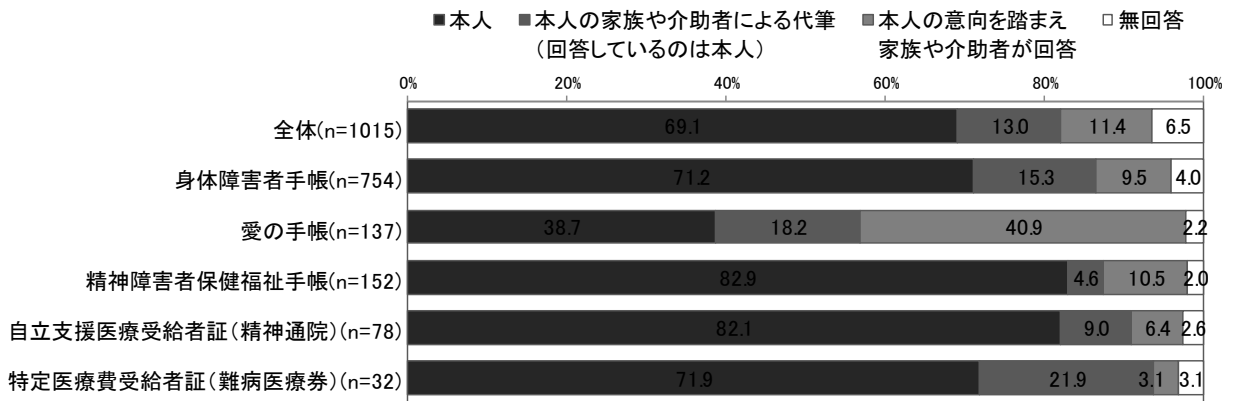
1. 基本属性

(1) 回答者

18歳以上

全体では、「本人」が69.1%と最も高く、次いで「本人の家族や介助者による代筆(回答しているのは本人)」が13.0%、「本人の意向を踏まえ家族や介助者が回答」が11.4%となっている。

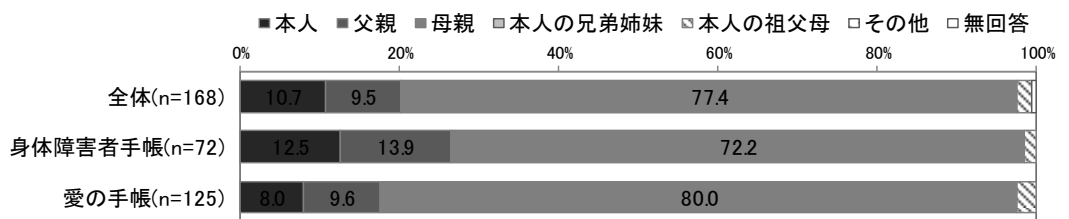
手帳別に見ると、愛の手帳では「本人の意向を踏まえ家族や介助者が回答」(40.9%)が最も高くなっているが、それ以外では「本人」が7割から8割を占めている。



18歳未満

全体では、「母親」が77.4%と最も高く、次いで「本人」が10.7%、「父親」が9.5%となっている。

手帳別に見ると、いずれも「母親」が最も高く、次いで「父親」、「本人」がそれぞれ1割程度となっている。



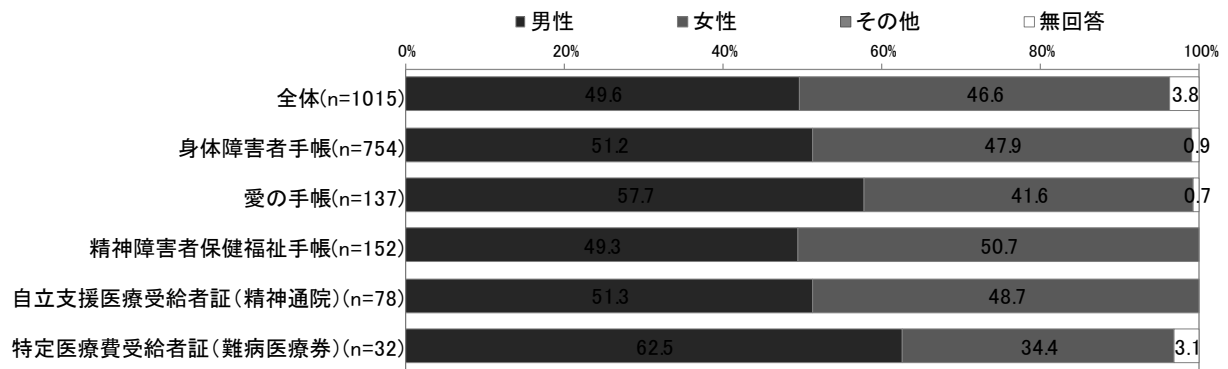
1. 基本属性

(2) 性別

18歳以上

全体では、「男性」が49.6%、「女性」が46.6%となっている。

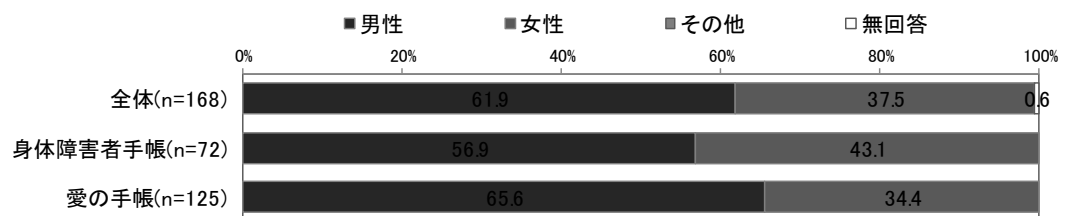
手帳別に見ると、愛の手帳、特定医療費(難病医療)では、他の手帳等と比較して「男性」の割合がやや高くなっている。



18歳未満

全体では、「男性」が61.9%、「女性」が37.5%となっている。

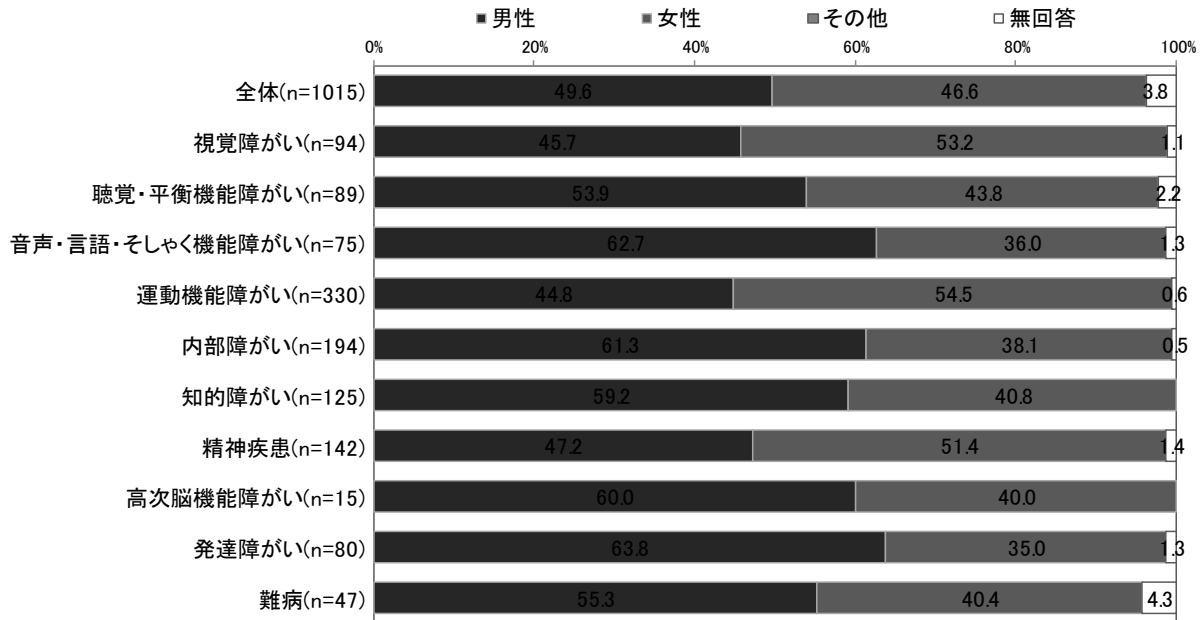
手帳別に見ると、身体障害者手帳のほうが、愛の手帳と比較して「女性」の割合が高い傾向である。



18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、発達障がい、音声・言語・そしゃく機能障がい、内部障がいなどで、「男性」の割合が高くなっている。

運動機能障がい、視覚障がいでは、「女性」の割合が比較的高い傾向である。



(3) 年齢

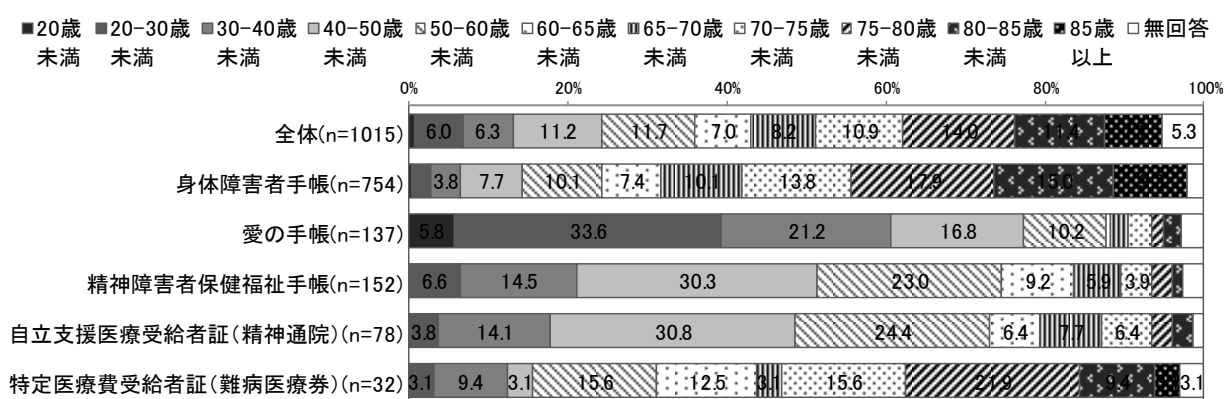
18歳以上

全体では、「75-80歳未満」が14.0%と最も高く、次いで「50-60歳未満」が11.7%、「80-85歳未満」が11.4%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「75-80歳未満」が17.9%と最も高く、70歳から85歳未満にかけての割合が高くなっている。

愛の手帳では、「20-30歳未満」(33.6%)、「30-40歳未満」(21.2%)の割合が高くなっている。

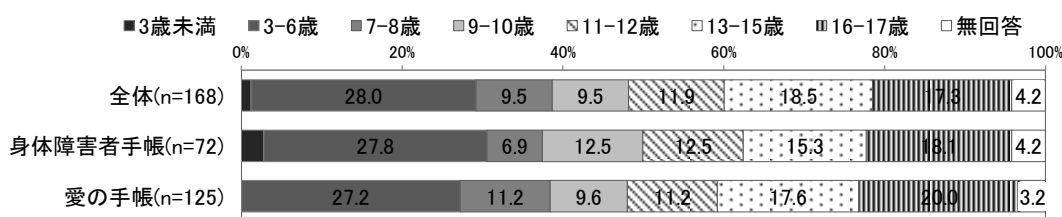
精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、「40-50歳未満」が最も高く、次いで「50-60歳未満」、「30-40歳未満」の割合が高い傾向となっている。



18歳未満

全体では、「3歳-6歳」が28.0%と最も高く、次いで「13-15歳」が18.5%、「16-17歳」が17.3%となっている。

手帳別でも、概ね同様の傾向が見られる。



18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、視覚障がいでは、「50-60歳未満」、「65-70歳未満」(14.9%)が最も高くなっている。

聴覚・平衡機能障がいでは、「80-85歳未満」が22.5%と最も高く、次いで「70-75歳」、「85歳以上」が13.5%となっている。

音声・言語・そしゃく機能障がいでは、「75-80歳未満」が20.0%で最も高く、次いで「40-50歳未満」、「70-75歳未満」が12.0%となっている。

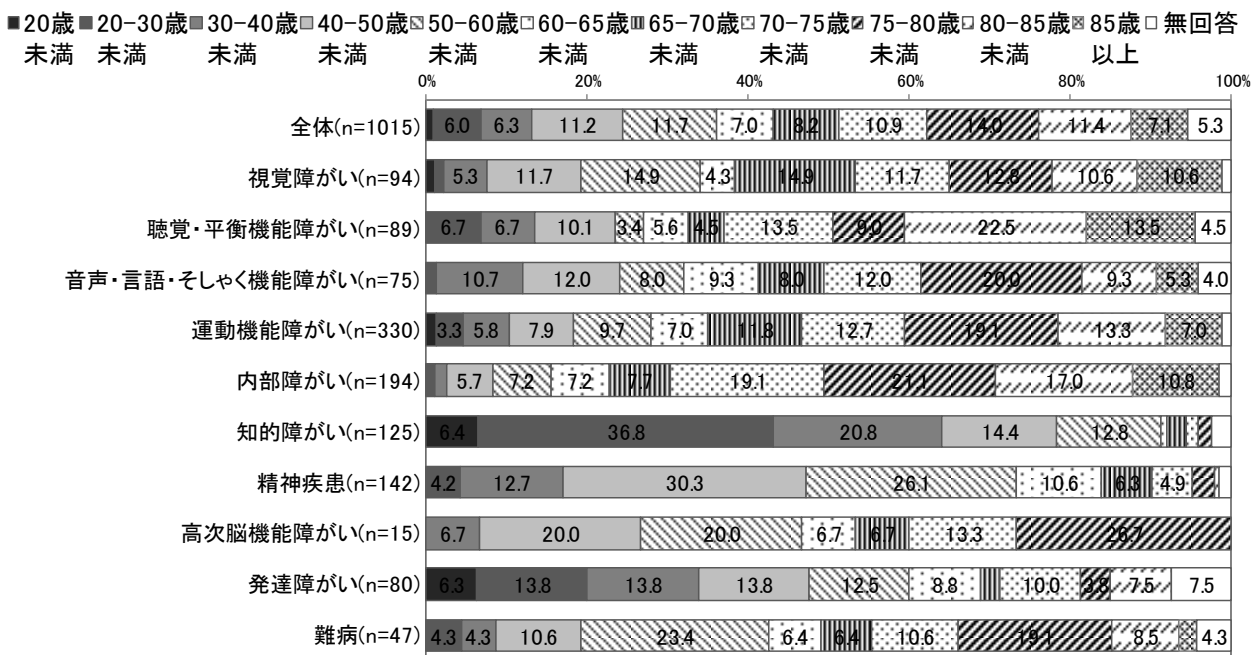
運動機能障がい、内部障がいでは、「75-80歳未満」(19.1%)の占める割合が最も高く、70歳から85歳未満の年代の割合が高くなっている。

知的障がいでは「20-30歳未満」(36.8%)、「30-40歳未満」(20.8%)の割合が高くなっている。

精神疾患では、「40-50歳未満」(30.3%)、「50-60歳未満」(26.1%)の割合が高くなっている。

発達障がいでは、「20-30歳未満」、「30-40歳未満」、「40-50歳未満」(13.8%)の割合が最も高いものの、各年代にばらついている。

難病では、「50-60歳未満」(23.4%)、「75-80歳未満」(19.1%)が高くなっている。



(4) 所持している手帳等

18歳以上

全体では、「身体障害者手帳」が74.3%と最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」が15.0%、「愛の手帳」が13.5%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、併せて所持する手帳等として「愛の手帳」が6.1%と最も高く、次いで「特定医療費(難病医療)」が3.8%となっている。

愛の手帳では、「身体障害者手帳」が33.6%と最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」が10.2%となっている。

精神障害者保健福祉手帳では、「自立支援医療(精神通院)」が42.1%と最も高く、次いで「身体障害者手帳」が10.5%となっている。

自立支援医療(精神通院)では、82.1%が「精神障害者保健福祉手帳」を併せて所持している。

特定医療費(難病医療)では、90.6%が「身体障害者手帳」を併せて所持している。

18歳未満

全体では、「愛の手帳」が74.4%と最も高く、次いで「身体障害者手帳」が42.9%、「発達障がいの診断を受けている」が15.5%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、所持する手帳等として「愛の手帳」が43.1%と最も高く、次いで「発達障がいの診断を受けている」が12.5%となっている。

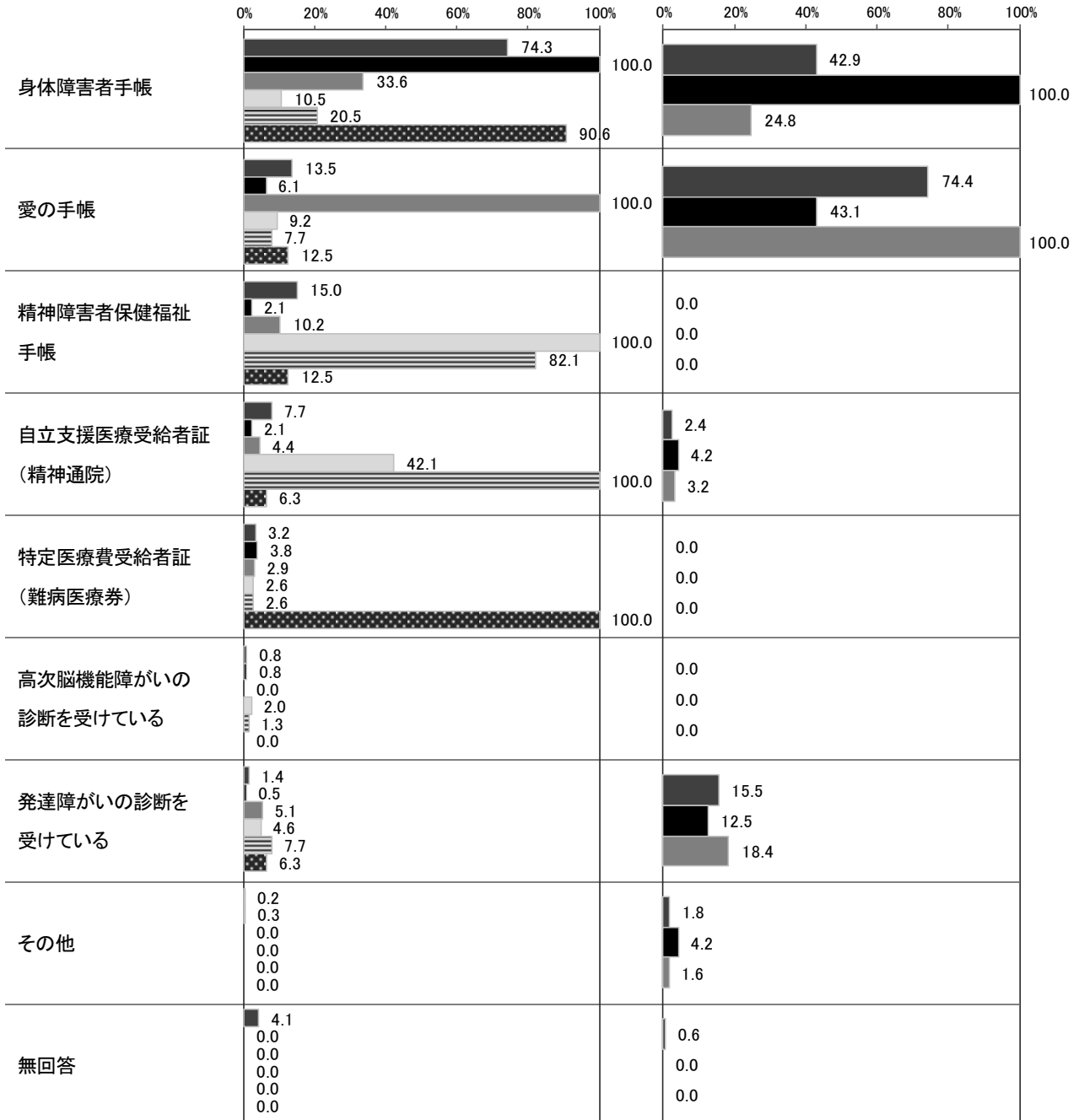
愛の手帳では、「身体障害者手帳」が24.8%と最も高く、次いで「発達障がいの診断を受けている」が18.4%となっている。

18歳以上

18歳未満

- 全体(n=1015)
- 身体障害者手帳(n=754)
- 愛の手帳(n=137)
- 精神障害者保健福祉手帳(n=152)
- 自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)
- 特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)

- 全体(n=168)
- 身体障害者手帳(n=72)
- 愛の手帳(n=125)



1. 基本属性

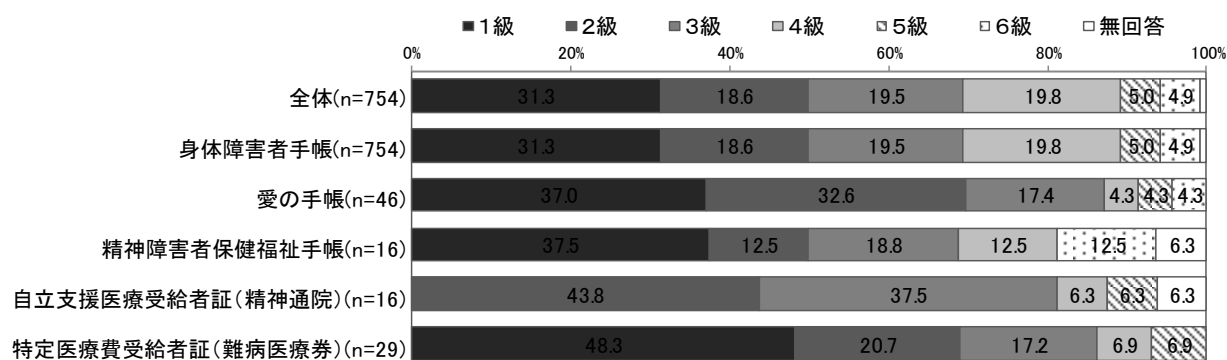
(5) 身体障害者手帳の等級

身体障害者手帳を所持している人に対して、手帳の等級をたずねた。

18歳以上

身体障害者手帳所持者全体では、「1級」が31.3%と最も高く、次いで「4級」が19.8%、「3級」が19.5%となっている。

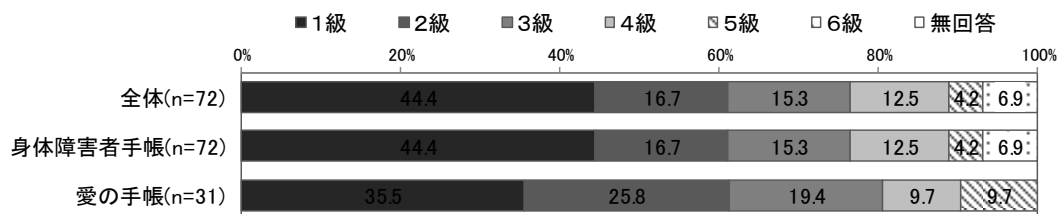
愛の手帳所持者では、「1級」が37.0%と最も高く、次いで「2級」が32.6%、「3級」が17.4%となっている。



18歳未満

身体障害者手帳所持者全体では、「1級」が44.4%と最も高く、次いで「2級」が16.7%、「3級」が15.3%となっている。

愛の手帳では、「1級」が35.5%と最も高く、次いで「2級」が25.8%、「3級」が19.4%となっている。



18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、視覚障がい者が所持している身体障害者手帳では、「1級」が36.3%で最も高く、次いで「2級」が34.1%となっている。

聴覚・平衡機能障がいでは、「2級」が23.8%で最も高く、次いで「6級」が22.6%となっている。

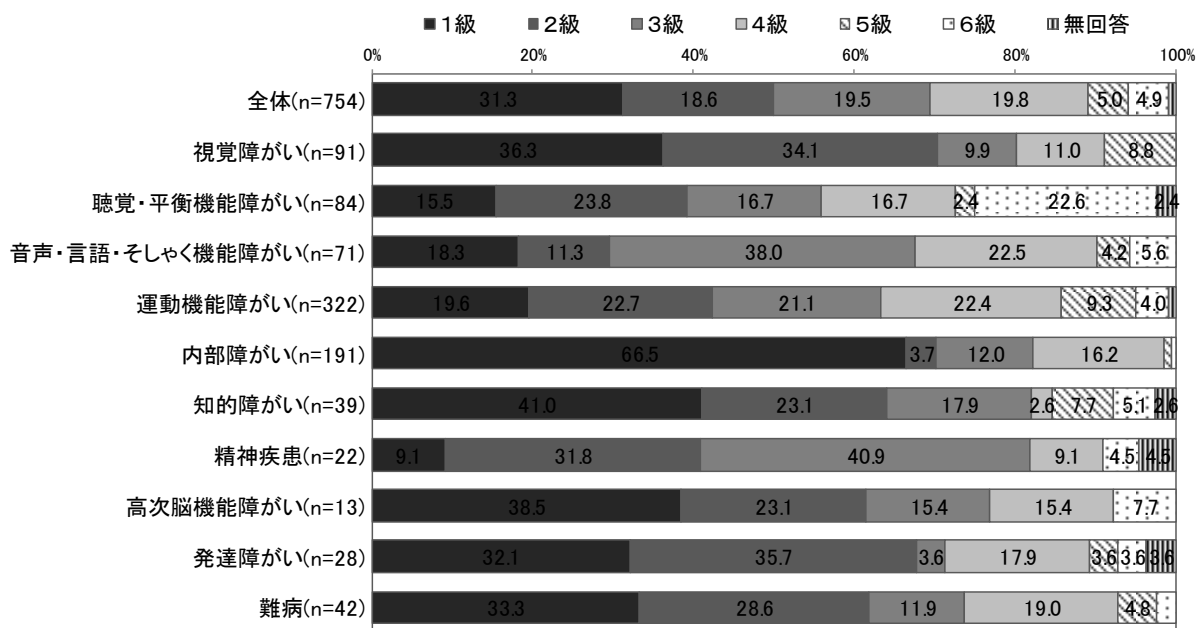
音声・言語・そしゃく機能障がいでは、「3級」が38.0%、次いで「4級」が22.5%となっている。

運動機能障がいでは、「2級」が22.7%で最も多く、「1級」、「3級」、「4級」もそれぞれ2割程度であり、各等級にばらついている。

内部障がいでは、「1級」の割合が特に高く、66.5%を占める。

知的障がいでは、「1級」が41.0%と最も高く、次いで「2級」が23.1%、「3級」が17.9%となっている。

難病では、「1級」が33.3%と最も高く、次いで「2級」が28.6%となっている。



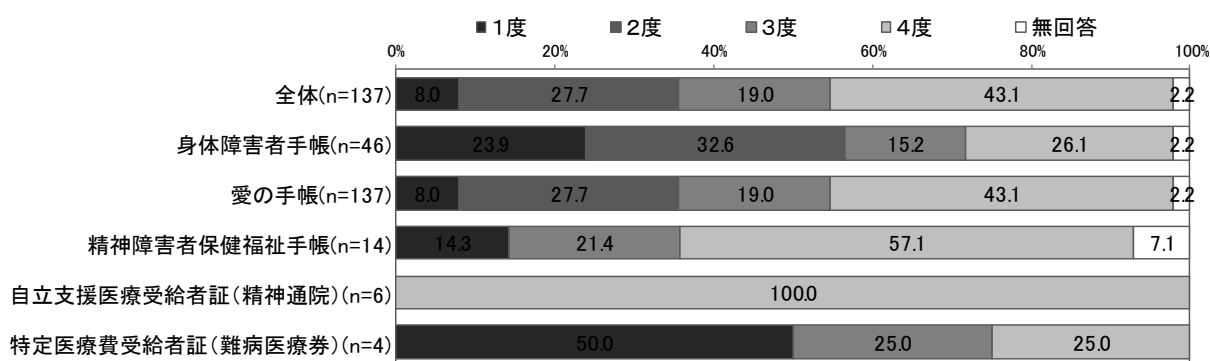
(6) 愛の手帳の等級

愛の手帳を所持している人に対して、手帳の等級をたずねた。

18歳以上

愛の手帳所持者全体では、「4度」が43.1%と最も高く、次いで「2度」が27.7%、「3度」が19.0%となっている。

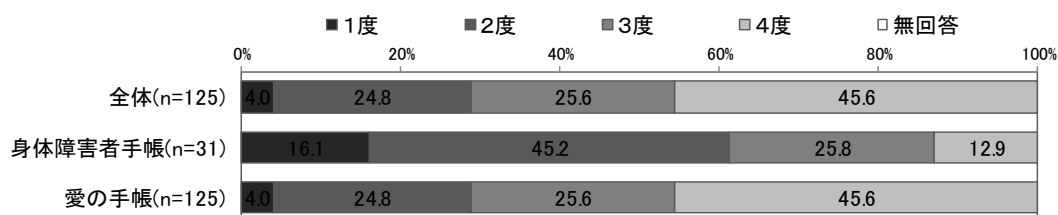
身体障害者手帳所持者が所持している愛の手帳では、「2度」が32.6%と最も高く、次いで「4度」が26.1%、「1度」が23.9%となっている。



18歳未満

愛の手帳所持者全体では、「4度」が45.6%と最も高く、次いで「3度」が25.6%、「2度」が24.8%となっている。

身体障害者手帳所持者が所持している愛の手帳では、「2度」が45.2%と最も高く、次いで「3度」が25.8%、「1度」が16.1%となっている。



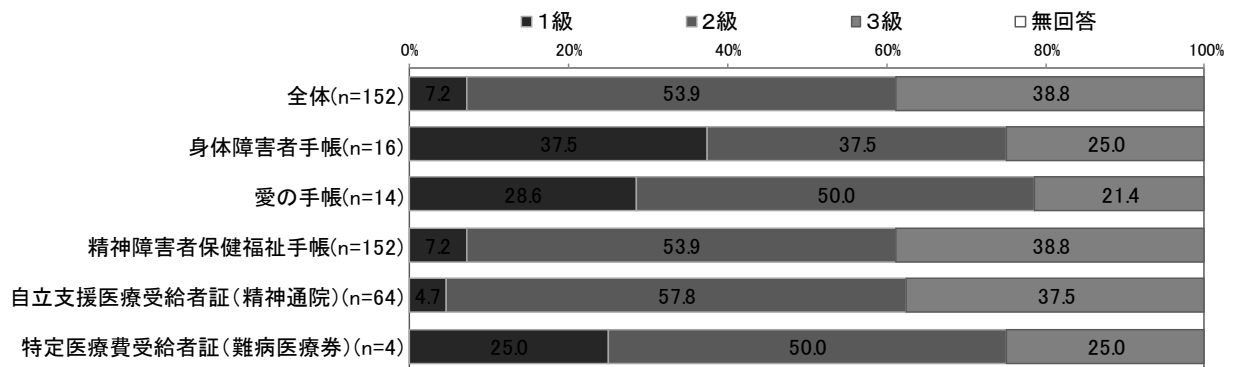
(7) 精神障害者保健福祉手帳の等級

精神障害者保健福祉手帳を所持している人に対して、手帳の等級をたずねた。

18歳以上

精神障害者保健福祉手帳所持者全体では、「2級」が53.9%と最も高く、次いで「3級」が38.8%、「1級」が7.2%となっている。

自立支援医療(精神通院)所持者が所持している精神障害者保健福祉手帳では、「2級」が57.8%と最も高く、次いで「3級」が37.5%、「1級」が4.7%となっている。



1. 基本属性

(8) 該当する障がい

18歳以上

全体では、「体幹や上肢・下肢などの運動機能障がい」が32.5%と最も高く、次いで「内臓や免疫機能などの内部障がい」が19.1%、「精神疾患」が14.0%となっている。

身体障害者手帳では、「体幹や上肢・下肢などの運動機能障がい」が42.7%と最も高く、次いで「内臓や免疫機能などの内部障がい」が25.3%、「視覚障がい」が12.1%となっている。

愛の手帳では、「知的障がい」が85.4%と最も高く、次いで「体幹や上肢・下肢などの運動機能障がい」が24.1%、「発達障がい」が22.6%となっている。

精神障害者保健福祉手帳では、「精神疾患」が79.6%と最も高く、次いで「発達障がい」が23.0%、「知的障がい」が8.6%となっている。

自立支援医療(精神通院)では、「精神疾患」が83.3%で特に高くなっている。

特定医療費(難病医療)では、「難病」(40.6%)のほか、「内臓や免疫機能などの内部障がい」(37.5%)、「体幹や上肢・下肢などの運動機能障がい」(31.3%)となっている。

	視覚障がい	聴覚・平衡機能障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	体幹や上肢・下肢などの運動機能障がい	内臓や免疫機能などの内部障がい	知的障がい	精神疾患	高次脳機能障がい	発達障がい	難病	その他	無回答
(横%)												
全体(n=1015)	9.3	8.8	7.4	32.5	19.1	12.3	14.0	1.5	7.9	4.6	1.5	6.6
身体障害者手帳(n=754)	12.1	11.1	9.4	42.7	25.3	5.2	2.9	1.7	3.7	5.6	1.5	3.8
愛の手帳(n=137)	5.1	5.1	5.8	24.1	3.6	85.4	8.8	0.0	22.6	2.9	4.4	0.7
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	2.0	2.6	3.3	6.6	2.6	8.6	79.6	2.6	23.0	3.3	2.6	2.0
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)	2.6	2.6	2.6	5.1	3.8	7.7	83.3	1.3	15.4	5.1	0.0	3.8
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)	12.5	3.1	0.0	31.3	37.5	6.3	9.4	0.0	12.5	40.6	3.1	6.3

18歳未満

全体では、「知的障がい」が68.5%と最も高く、次いで「発達障がい」が38.1%、「体幹や上肢・下肢などの運動機能障がい」が29.8%となっている。

身体障害者手帳では、「体幹や上肢・下肢などの運動機能障がい」が68.1%と最も高く、次いで「知的障がい」が54.2%、「聴覚・平衡機能障がい」と「発達障がい」が18.1%となっている。

愛の手帳では、「知的障がい」が84.8%と最も高く、次いで「発達障がい」が46.4%、「体幹や上肢・下肢などの運動機能障がい」が21.6%となっている。

	視覚障がい	聴覚・平衡機能障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	体幹や上肢・下肢などの運動機能障がい	内臓や免疫機能などの内部障がい	知的障がい	精神疾患	高次脳機能障がい	発達障がい	難病	その他	無回答
(横%)												
全体(n=168)	4.8	7.7	6.5	29.8	8.3	68.5	1.8	0.6	38.1	6.0	6.0	1.2
身体障害者手帳(n=72)	11.1	18.1	12.5	68.1	15.3	54.2	2.8	0.0	18.1	13.9	4.2	0.0
愛の手帳(n=125)	1.6	1.6	5.6	21.6	5.6	84.8	1.6	0.8	46.4	4.0	6.4	0.8

(9) 発達障がいの診断

該当する障がいについて「発達障がい」と回答した人に、診断内容をたずねた。

18歳以上

全体では、「わからない」が32.5%と最も高く、次いで「自閉症」が26.3%、「注意欠陥多動性障がい(ADHD)」が15.0%となっている。

愛の手帳では、「自閉症」が45.2%と最も高く、次いで「わからない」が19.4%、「学習障がい(LD)」が16.1%となっている。

精神障害者保健福祉手帳では、「自閉症」と「注意欠陥多動性障がい(ADHD)」と「わからない」が28.6%で最も高くなっている。

(横%)	自閉症	アスペルガー症候群	学習障がい(LD)	注意欠陥多動性障がい(ADHD)	トゥレット症候群(運動チック・音声チック)	吃音	その他	わからない	無回答
全体(n=80)	26.3	11.3	8.8	15.0	0.0	2.5	10.0	32.5	12.5
身体障害者手帳(n=28)	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	14.3	39.3	32.1
愛の手帳(n=31)	45.2	9.7	16.1	12.9	0.0	0.0	6.5	19.4	16.1
精神障害者保健福祉手帳(n=35)	28.6	25.7	11.4	28.6	0.0	0.0	5.7	28.6	5.7
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=12)	25.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	8.3	41.7	8.3
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=4)	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

18歳未満

全体では、「自閉症」が62.5%と最も高く、次いで「注意欠陥多動性障がい(ADHD)」が21.9%、「わからない」が10.9%となっている。

愛の手帳では、「自閉症」が65.5%と特に高く、次いで「注意欠陥多動性障がい(ADHD)」が24.1%、「わからない」が10.3%となっている。

(横%)	自閉症	アスペルガー症候群	学習障がい(LD)	注意欠陥多動性障がい(ADHD)	トゥレット症候群(運動チック・音声チック)	吃音	その他	わからない	無回答
全体(n=64)	62.5	1.6	7.8	21.9	3.1	0.0	9.4	10.9	1.6
身体障害者手帳(n=13)	23.1	0.0	15.4	7.7	7.7	0.0	30.8	30.8	7.7
愛の手帳(n=58)	65.5	1.7	6.9	24.1	3.4	0.0	5.2	10.3	1.7

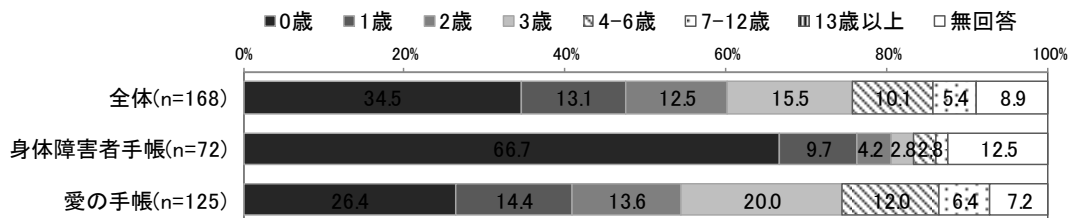
(10) 障がいや症状に気付いた年齢

18歳未満

全体では、「0歳」が34.5%と最も高く、次いで「3歳」が15.5%、「1歳」が13.1%となっている。

身体障害者手帳では、「0歳」が66.7%と特に高く、次いで「1歳」が9.7%となっている。

愛の手帳では、「0歳」が26.4%と最も高く、次いで「3歳」が20.0%、「1歳」が14.4%となっている。



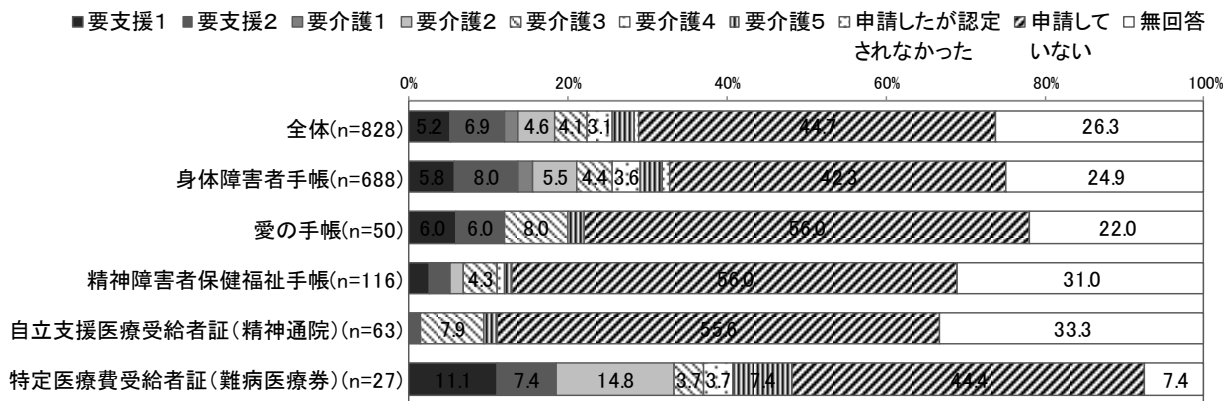
(11) 介護保険制度の要支援または要介護の認定状況

40歳以上の人に対して、介護保険制度の要支援または要介護の認定状況をたずねた。

18歳以上

40歳以上の回答者全体では、「申請していない」が44.7%と最も高く、次いで「要支援2」が6.9%、「要支援1」が5.2%となっている。

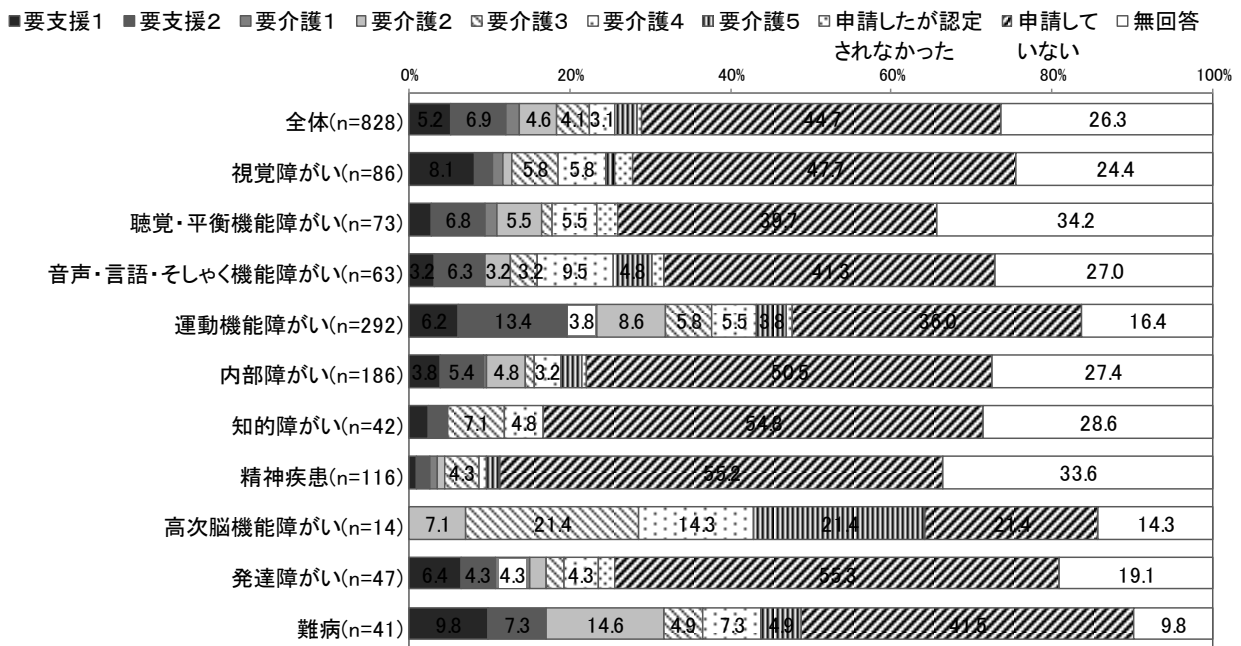
手帳別に見ると、身体障害者手帳では、他の手帳等と比較して、要支援または要介護の認定を受けている人の割合が高くなっている。



18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、運動機能障がいでは、他の障がいと比較して、要支援または要介護の認定を受けている人の割合が高くなっている。

精神疾患、知的障がい、内部障がいなどでは、「申請していない」の割合がやや高い傾向である。



2. 医療機関の利用について

(12) 障がいや病気の治療を目的とした入院の有無 (2018年12月1日～2019年11月30日の間)

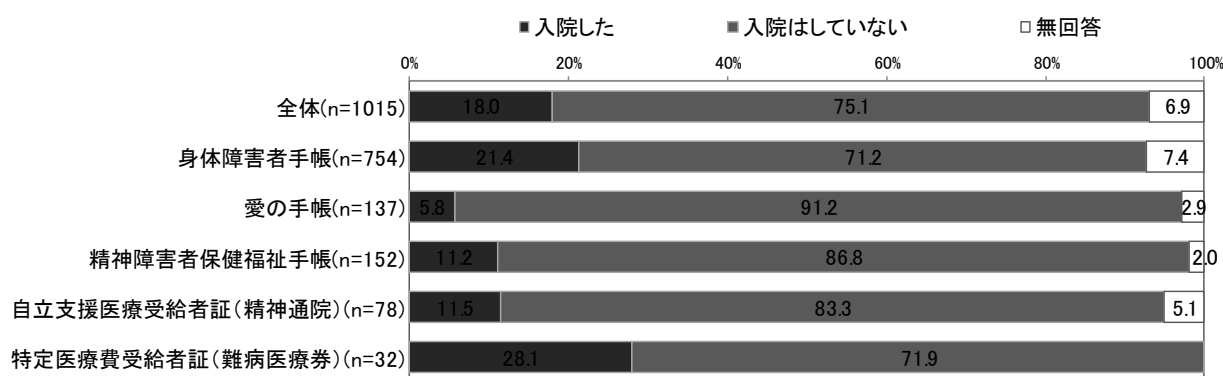
18歳以上

全体では、「入院はしていない」が75.1%で「入院した」が18.0%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「入院はしていない」が71.2%で、「入院した」が21.4%となっている。

愛の手帳では、「入院はしていない」が91.2%で、「入院した」が5.8%となっている。

精神障害者保健福祉手帳では、「入院はしていない」が86.8%で、「入院した」が11.2%となっている。

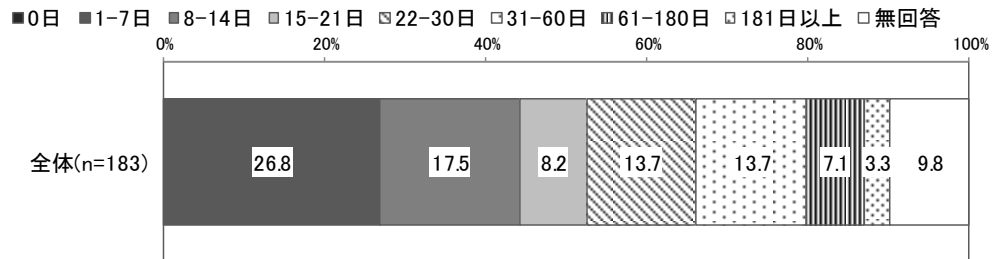


(13) 入院日数（1年間の合計）

2018年12月1日～2019年11月30日の1年間に入院したことがある人に対して、1年間の入院日数をたずねた。

18歳以上

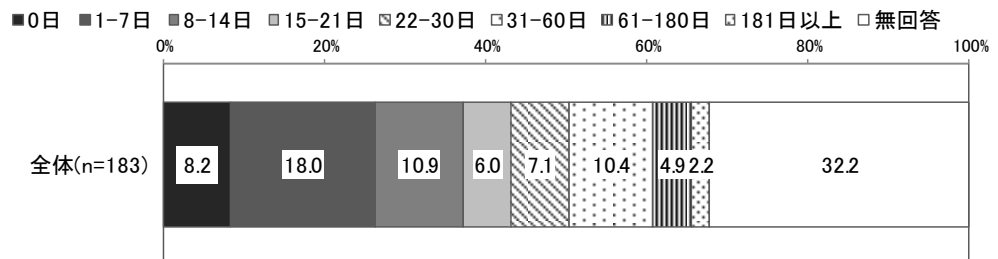
全体では、「1-7日」が26.8%と最も高く、次いで「8-14日」が17.5%、「22-30日」と「31-60日」が13.7%となっている。



(13-2) 入院日数のうち、障がいや症状の治療のために入院した日数

18歳以上

全体では、「1-7日」が18.0%と最も高く、次いで「8-14日」が10.9%、「31-60日」が10.4%となっている。



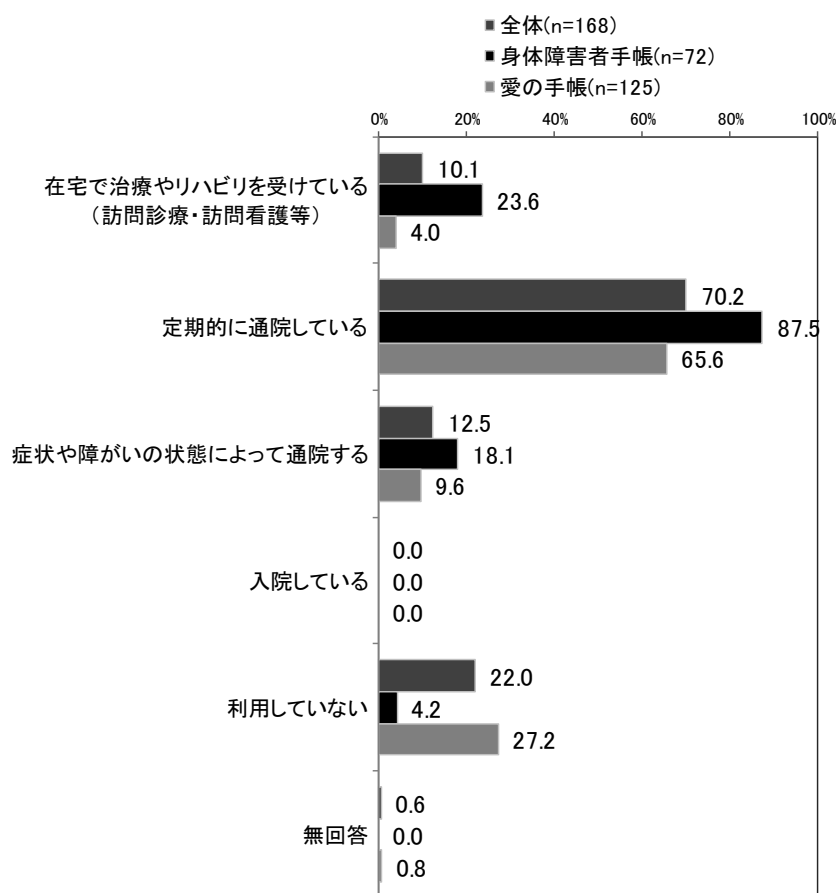
(14) 治療などでの医療機関の利用状況

18歳未満

全体では、「定期的に通院している」が70.2%と最も高く、次いで「利用していない」が22.0%、「症状や障がいの状態によって通院する」が12.5%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「定期的に通院している」が87.5%と最も高く、次いで「在宅で治療やリハビリを受けている(訪問診療・訪問看護等)」が23.6%、「症状や障がいの状態によって通院する」が18.1%となっている。

愛の手帳では、「定期的に通院している」が65.6%と最も高く、次いで「利用していない」が27.2%、「症状や障がいの状態によって通院する」が9.6%となっている。



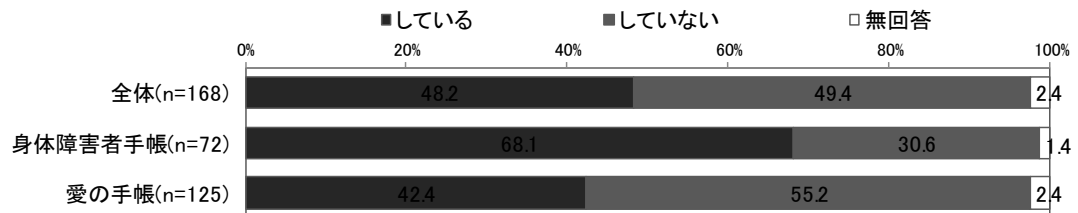
(15) 薬（内服薬・外用薬）の使用状況

18歳未満

全体では、服薬を「していない」が49.4%で、「している」が48.2%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「している」が68.1%で、「していない」が30.6%となっている。

愛の手帳では、「している」が42.4%、「していない」が55.2%となっている。



(16) 服薬の介助の要否

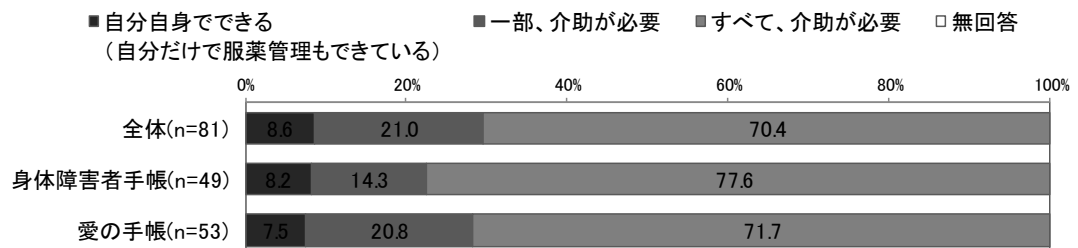
服薬している人に対して、服薬の介助の要否をたずねた。

18歳未満

全体では、「すべて、介助が必要」が70.4%と最も高く、次いで「一部、介助が必要」が21.0%、「自分自身でできる(自分だけで服薬管理もできている)」が8.6%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「すべて、介助が必要」が77.6%を占め、次いで「一部、介助が必要」が14.3%、「自分自身でできる(自分だけで服薬管理もできている)」が8.2%となっている。

愛の手帳では、「すべて、介助が必要」が71.7%と最も高く、次いで「一部、介助が必要」が20.8%、「自分自身でできる(自分だけで服薬管理もできている)」が7.5%となっている。



(17) 現在受けている医療的ケア

18歳以上

全体では、「服薬管理(内服薬・外用薬)」が51.0%で過半数となっているが、「特に受けていない」も30.4%を占めている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「服薬管理(内服薬・外用薬)」が49.7%と最も高く、次いで「特に受けていない」が30.0%、「人工透析」が8.1%となっている。

愛の手帳では、「特に受けていない」が45.3%と最も高く、次いで「服薬管理(内服薬・外用薬)」が41.6%、「吸入・吸引」が6.6%となっている。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「服薬管理(内服薬・外用薬)」の割合が高くなっている。

特定医療費(難病医療)では、「服薬管理(内服薬・外用薬)」が75.0%と最も高く、次いで「人工透析」が37.5%となっている。

	服薬管理(内服薬・外用薬)	吸入・吸引	点滴(中心静脈栄養等)	じょくそ う処置	人工透 析	気管切 開	人工呼 吸器 (レスピ レーター)	胃ろう・ 腸ろう・ 経鼻経 管栄養	在宅酸 素療法	導尿・ 人工膀 胱・人 工肛門	その他	特に受 けてい ない	無回答
全体(n=1015)	51.0	4.0	1.2	0.4	6.1	0.7	0.5	0.9	0.9	3.5	5.1	30.4	7.8
身体障害者手帳(n=754)	49.7	4.5	1.3	0.4	8.1	0.7	0.5	1.1	1.1	4.5	5.2	30.0	7.7
愛の手帳(n=137)	41.6	6.6	1.5	0.0	0.0	1.5	2.2	2.2	0.7	2.2	5.1	45.3	6.6
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	73.7	1.3	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	0.7	1.3	5.3	19.7	3.3
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)	76.9	5.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	1.3	6.4	14.1	3.8
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)	75.0	3.1	6.3	0.0	37.5	0.0	0.0	3.1	6.3	3.1	9.4	3.1	0.0

18歳未満

全体では、「特に受けていない」が70.2%と最も高く、次いで「服薬管理(内服薬・外用薬)」が23.8%、「吸入・吸引」と「胃ろう・腸ろう・経鼻経管栄養」が6.0%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「特に受けていない」が52.8%と最も高く、次いで「服薬管理(内服薬・外用薬)」が37.5%、「吸入・吸引」が13.9%となっている。

愛の手帳では、「特に受けていない」が75.2%を占め、「服薬管理(内服薬・外用薬)」(20.0%)以外は特に少なくなっている。

	服薬管理(内服薬・外用薬)	吸入・吸引	点滴(中心静脈栄養等)	じょくそ う処置	人工透 析	気管切 開	人工呼 吸器 (レスピ レーター)	胃ろう・ 腸ろう・ 経鼻経 管栄養	在宅酸 素療法	導尿・ 人工膀 胱・人 工肛門	その他	特に受 けてい ない	無回答
全体(n=168)	23.8	6.0	0.0	1.2	0.0	2.4	2.4	6.0	4.2	1.8	1.2	70.2	2.4
身体障害者手帳(n=72)	37.5	13.9	0.0	2.8	0.0	5.6	5.6	12.5	9.7	4.2	2.8	52.8	2.8
愛の手帳(n=125)	20.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	3.2	1.6	0.0	0.8	75.2	2.4

(18) 医療的ケアをしている人

医療的ケアを受けている人に対して、ケアをしている人についてたずねた。

18歳以上

全体では、「自分自身」が54.2%と最も高く、次いで「医師」が46.6%、「家族・親族」が25.7%となっている。

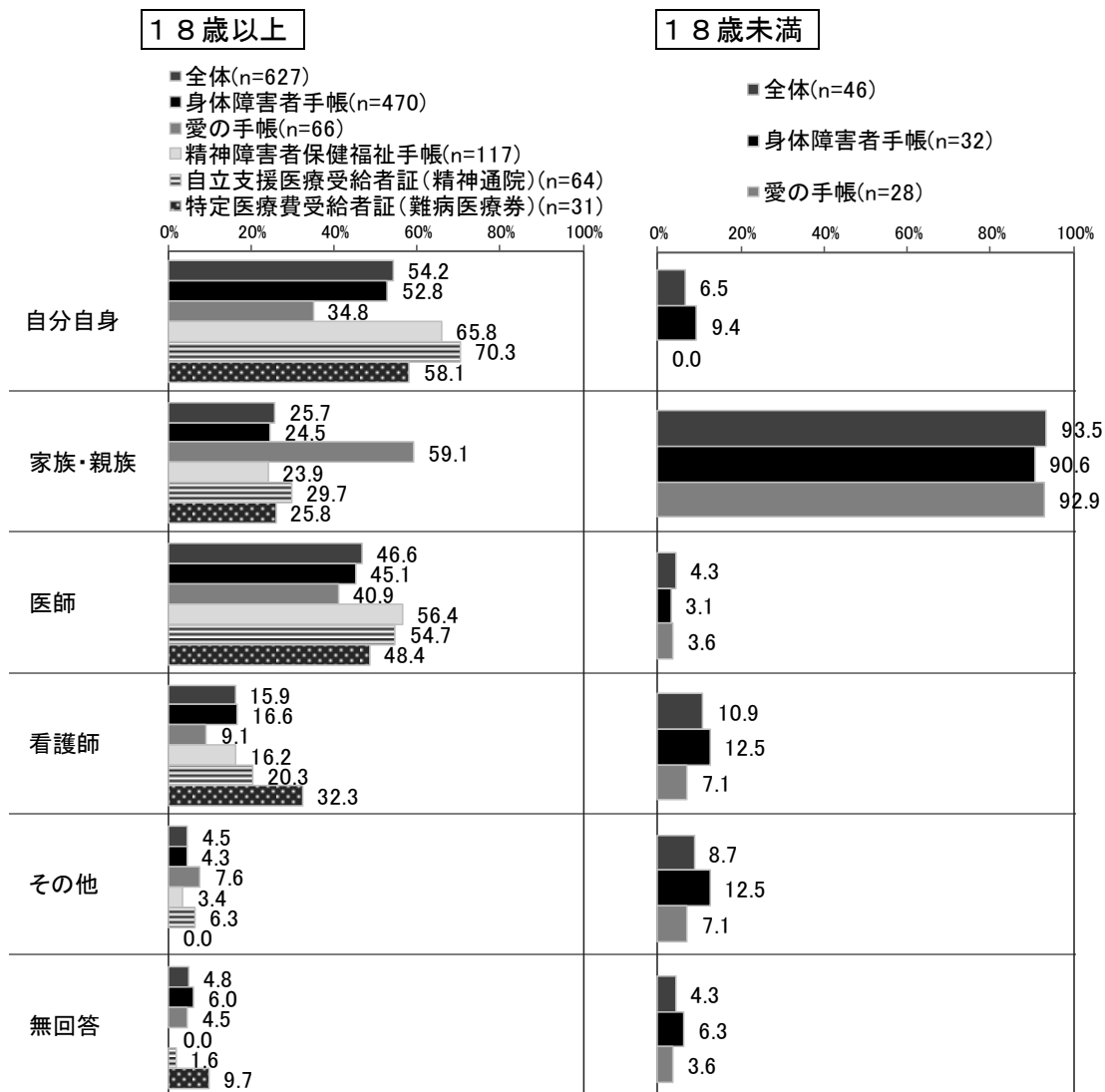
手帳別に見ると、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「自分自身」の割合が高くなっている。

他方、愛の手帳では、「家族・親族」の割合が最も高くなっている。

18歳未満

全体では、「家族・親族」が93.5%を占め、次いで「看護師」となっている。

身体障害者手帳では、「家族・親族」が90.6%と最も高く、次いで「看護師」と「その他」が12.5%となっている。



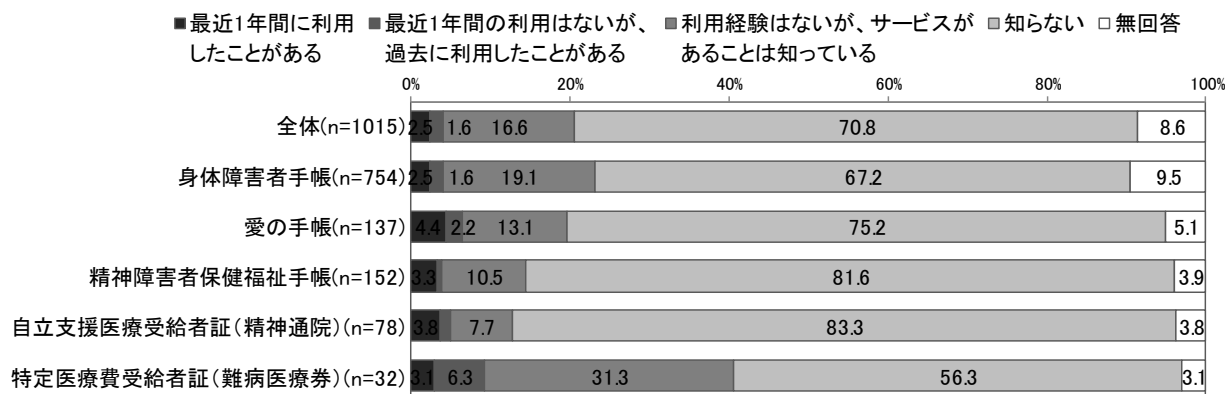
(19) 医療型短期入所の認知度

18歳以上

全体では、「知らない」が70.8%と最も高く、次いで「利用経験はないが、サービスがあることは知っている」が16.6%、「最近1年間に利用したことがある」が2.5%となっている。

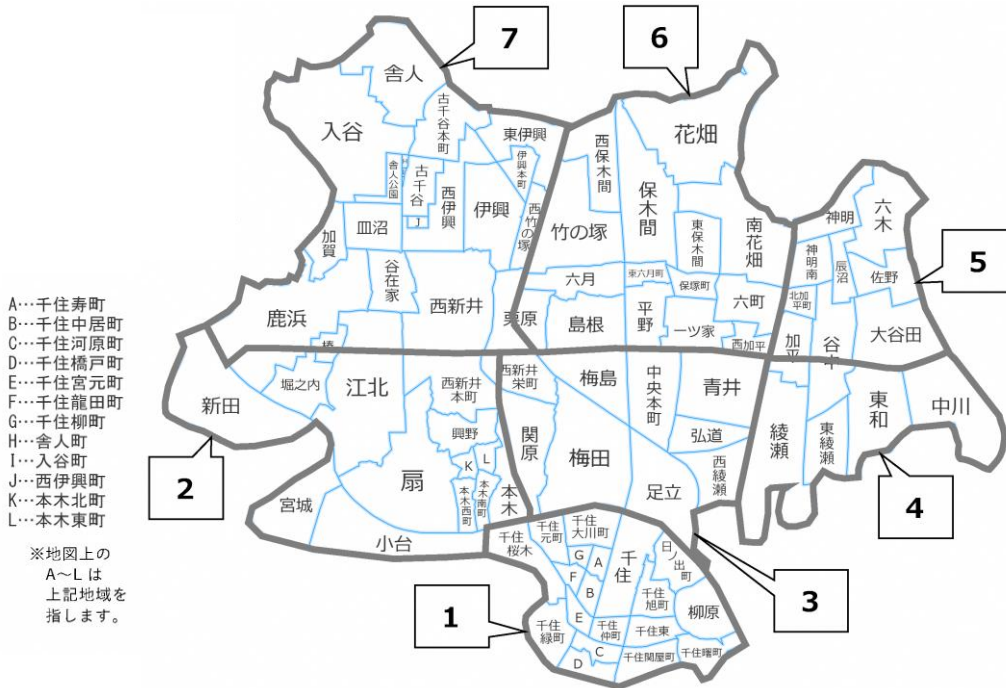
手帳別に見ると、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「知らない」の割合が高い傾向である。

特定医療費(難病医療)では、他の手帳等と比較して「最近1年間の利用はないが、過去に利用したことがある」の割合が高く、サービスの認知率が高い傾向である。



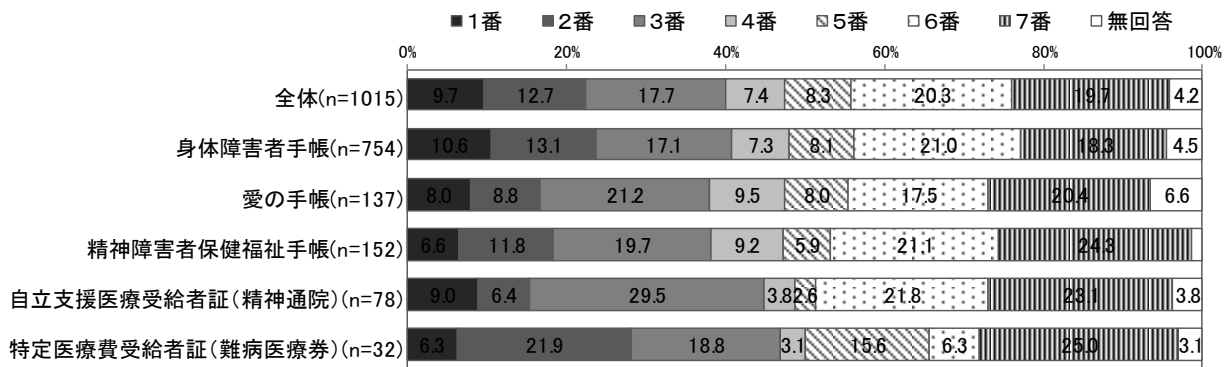
3.暮らしについて

(20) 居住地 (地図番号)



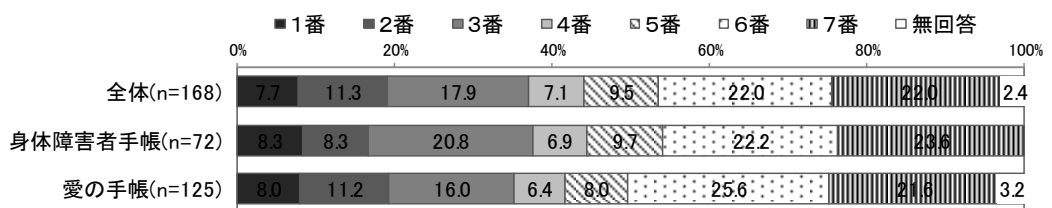
18歳以上

全体では、「6番」が20.3%と最も高く、次いで「7番」が19.7%、「3番」が17.7%となっている。



18歳未満

全体では、「6番」と「7番」が22.0%と最も高く、次いで「3番」が17.9%となっている。



(21) 暮らしている場所

18歳以上

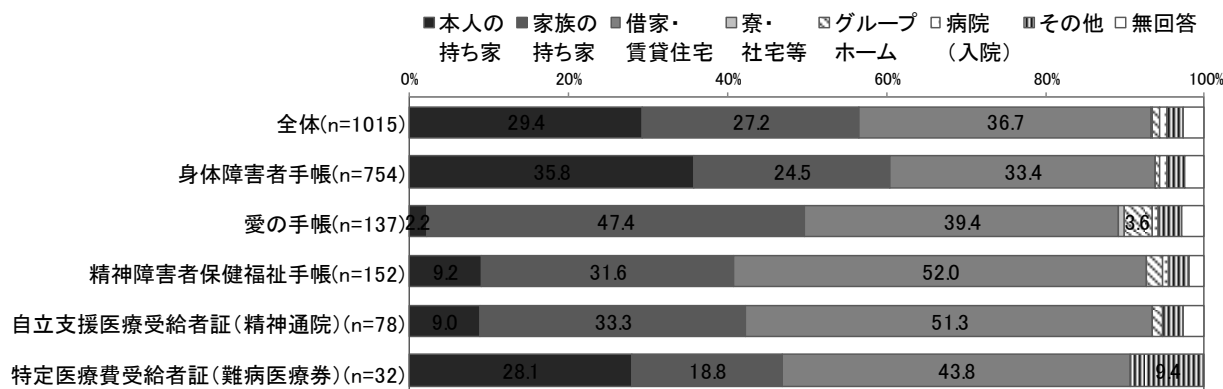
全体では、「借家・賃貸住宅」が36.7%と最も高く、次いで「本人の持ち家」が29.4%、「家族の持ち家」が27.2%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「本人の持ち家」が35.8%と最も高く、次いで「借家・賃貸住宅」が33.4%、「家族の持ち家」が24.5%となっている。

愛の手帳では、「家族の持ち家」が47.4%と最も高く、次いで「借家・賃貸住宅」が39.4%となっており、「本人の持ち家」の割合は低くなっている。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、「借家・賃貸住宅」が過半数を占め、次いで「家族の持ち家」となっており、「本人の持ち家」の割合は低い傾向である。

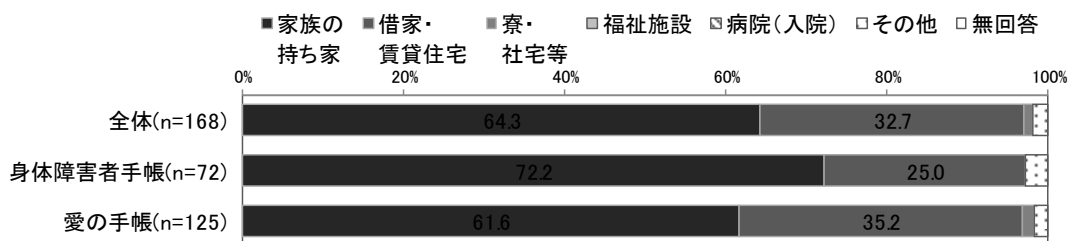
特定医療費(難病医療)では、「借家・賃貸住宅」が43.8%と最も高く、次いで「本人の持ち家」28.1%、「家族の持ち家」が18.8%となっている。



18歳未満

全体では、「家族の持ち家」が64.3%と最も高く、次いで「借家・賃貸住宅」が32.7%、「その他」が1.8%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳のほうが、愛の手帳と比較して「家族の持ち家」の割合が高い傾向である。



(22) 同居者

18歳以上

全体では、「配偶者」が40.5%と最も高く、次いで「ひとりで暮らしている」が23.0%、「子(息子・娘・義理の息子・義理の娘)」が22.6%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「配偶者」が48.4%と最も高く、次いで「子(息子・娘・義理の息子・義理の娘)」が26.3%、「ひとりで暮らしている」が22.4%となっている。

愛の手帳では、「親(父・母・義父・義母)」が70.1%で特に高く、次いで「兄弟姉妹・義理の兄弟姉妹」が29.2%となっており、「ひとりで暮らしている」の割合は低くなっている。

精神障害者保健福祉手帳では、「親(父・母・義父・義母)」が34.2%と最も高く、次いで「ひとりで暮らしている」が31.6%、「配偶者」が21.7%となっている。

自立支援医療(精神通院)では、「ひとりで暮らしている」が34.6%と最も高く、次いで「親(父・母・義父・義母)」が29.5%、「配偶者」が20.5%となっている。

(横%)	配偶者	子(息子・娘・義理の息子・義理の娘)	親(父・母・義父・義母)	兄弟姉妹・義理の兄弟姉妹	祖父母	孫・ひ孫	友人など家族以外の人	施設の職員・他の障がい者	その他	ひとりで暮らしている	無回答
全体(n=1015)	40.5	22.6	20.3	9.1	1.0	2.9	0.2	2.0	1.7	23.0	2.2
身体障害者手帳(n=754)	48.4	26.3	12.5	6.6	0.9	3.4	0.1	1.5	1.2	22.4	2.0
愛の手帳(n=137)	6.6	2.9	70.1	29.2	5.1	0.0	1.5	5.8	1.5	9.5	2.9
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	21.7	15.1	34.2	11.8	0.7	0.0	0.7	3.3	3.9	31.6	2.0
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)	20.5	11.5	29.5	10.3	0.0	0.0	0.0	1.3	3.8	34.6	2.6
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)	50.0	12.5	18.8	6.3	6.3	3.1	3.1	3.1	3.1	21.9	0.0

18歳未満

全体では、「母親」が98.8%と最も高く、次いで「父親」が88.1%、「兄弟姉妹」が70.2%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳は、愛の手帳と比較して「父親」、「兄弟姉妹」と同居している割合がやや高い傾向である。

(横%)	父親	母親	兄弟姉妹	祖父母	その他	無回答
全体(n=168)	88.1	98.8	70.2	13.1	0.6	0.0
身体障害者手帳(n=72)	94.4	98.6	72.2	9.7	1.4	0.0
愛の手帳(n=125)	84.0	98.4	66.4	16.0	0.0	0.0

18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、視覚障がい、内部障がいでは、他の手帳等と比較して「配偶者」、「子(息子・娘・義理の息子・義理の娘)」と同居している人の割合が高い傾向である。

知的障がいでは、「親(父・母・義父・義母)」が72.8%で特に高く、「兄弟姉妹・義理の兄弟姉妹」(30.4%)も他の手帳等と比較して高くなっている。

内部障がいでは、「配偶者」が56.2%と最も高く、次いで「子(息子・娘・義理の息子・義理の娘)」が31.4%、「ひとりで暮らしている」が22.2%となっている。

精神疾患では、「ひとりで暮らしている」が34.5%と最も高く、次いで「親(父・母・義父・義母)」が30.3%、「配偶者」が19.7%となっている。

発達障がいでは、「親(父・母・義父・義母)」が38.8%と最も高く、「ひとりで暮らしている」が22.5%、「配偶者」が21.3%となっている。

難病では、「配偶者」、「ひとりで暮らしている」が34.0%と最も高く、次いで「親(父・母・義父・義母)」が19.1%となっている。

(横%)	配偶者	子(息子・娘・義理の息子・義理の娘)	親(父・母・義父・義母)	兄弟姉妹・義理の兄弟姉妹	祖父母	孫・ひ孫	友人など家族以外の人	施設の職員・他の障がい者	その他	ひとりで暮らしている	無回答
全体(n=1015)	40.5	22.6	20.3	9.1	1.0	2.9	0.2	2.0	1.7	23.0	2.2
視覚障がい(n=94)	54.3	29.8	20.2	6.4	2.1	3.2	0.0	1.1	0.0	13.8	2.1
聴覚・平衡機能障がい(n=89)	42.7	22.5	12.4	7.9	3.4	2.2	0.0	2.2	1.1	28.1	3.4
音声・言語・そしゃく機能障がい(n=75)	44.0	16.0	22.7	12.0	1.3	4.0	0.0	8.0	2.7	17.3	4.0
運動機能障がい(n=330)	42.1	23.6	17.3	10.3	1.2	2.1	0.0	2.7	1.2	23.0	1.2
内部障がい(n=194)	56.2	31.4	4.1	2.6	0.5	5.7	0.5	0.5	1.5	22.2	1.5
知的障がい(n=125)	7.2	1.6	72.8	30.4	4.8	0.0	0.8	6.4	1.6	8.8	0.8
精神疾患(n=142)	19.7	14.1	30.3	8.5	0.0	0.0	0.0	3.5	4.2	34.5	2.1
高次脳機能障がい(n=15)	46.7	20.0	40.0	13.3	0.0	6.7	0.0	13.3	0.0	6.7	0.0
発達障がい(n=80)	21.3	13.8	38.8	17.5	3.8	0.0	2.5	5.0	3.8	22.5	2.5
難病(n=47)	34.0	12.8	19.1	2.1	0.0	2.1	0.0	4.3	2.1	34.0	4.3

(23) 同居家族のうち、自分以外の要支援者の有無

同居家族がいる人に対して、支援が必要な家族についてたずねた。

18歳以上

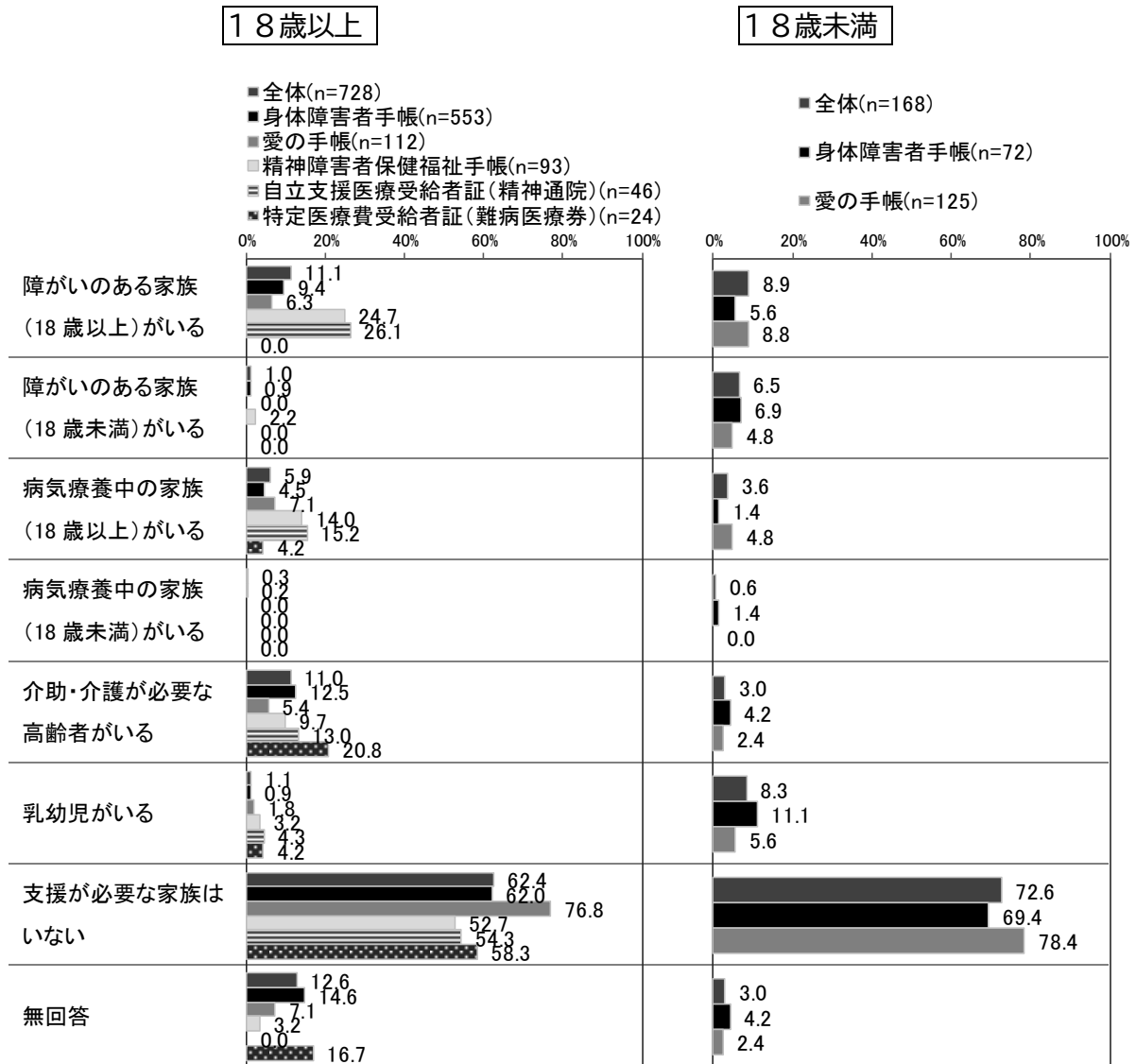
全体では、「支援が必要な家族はいない」が62.4%と最も高く、次いで「障がいのある家族(18歳以上)がいる」が11.1%、「介助・介護が必要な高齢者がいる」が11.0%となっている。

手帳別に見ると、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)は、他の手帳等と比較して障がいのある家族(18歳以上及び18歳未満)のいる割合が高くなっている。

18歳未満

全体では、「支援が必要な家族はいない」が72.6%と最も高く、次いで「障がいのある家族(18歳以上)がいる」が8.9%、「乳幼児がいる」が8.3%となっている。

愛の手帳では、「支援が必要な家族はいない」の割合がやや高くなっている。



(24) 生活費の取得方法

18歳以上

全体では、「自身の年金」が61.1%と最も高く、次いで「自身の就労」と「家族の年金」が21.3%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、他の手帳等と比較して「家族の就労」が高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「生活保護」の割合が高い傾向である。

特定医療費(難病医療)において、他の手帳等と比較して「自身の就労」、「自身の年金」の割合が高い傾向となっている。

(横%)	自身の就労	自身の年金	自身の資産	家族の就労	家族の年金	家族の資産	生活保護	その他	わからない・答えたくない	無回答
全体(n=1015)	21.3	61.1	7.3	20.1	21.3	5.1	14.0	1.9	1.0	2.5
身体障害者手帳(n=754)	18.2	65.1	7.8	18.3	22.1	4.6	12.2	1.5	0.5	2.4
愛の手帳(n=137)	24.8	52.6	0.7	36.5	23.4	2.9	9.5	2.9	2.9	2.2
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	28.3	48.7	8.6	22.4	19.1	7.2	23.0	3.9	2.6	2.6
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)	26.9	56.4	9.0	19.2	21.8	6.4	30.8	3.8	0.0	3.8
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)	31.3	75.0	9.4	21.9	25.0	9.4	3.1	0.0	0.0	0.0

18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、いずれの障がいにおいても「自身の年金」が最も高くなっている。

知的障がいでは、他の障がいと比較して「家族の就労」の割合が高くなっている。

精神疾患では、他の障がいと比較して「生活保護」の割合が高くなっている。

(横%)	自身の就労	自身の年金	自身の資産	家族の就労	家族の年金	家族の資産	生活保護	その他	わからない・答えたくない	無回答
全体(n=1015)	21.3	61.1	7.3	20.1	21.3	5.1	14.0	1.9	1.0	2.5
視覚障がい(n=94)	16.0	63.8	5.3	26.6	25.5	5.3	9.6	1.1	0.0	3.2
聴覚・平衡機能障がい(n=89)	21.3	62.9	7.9	15.7	16.9	7.9	15.7	1.1	1.1	4.5
音声・言語・そしゃく機能障がい(n=75)	25.3	65.3	9.3	12.0	22.7	2.7	8.0	1.3	0.0	4.0
運動機能障がい(n=330)	15.5	63.6	8.5	20.9	23.0	4.2	13.0	1.8	0.9	1.2
内部障がい(n=194)	22.2	67.5	6.2	20.1	19.6	4.1	12.4	1.0	0.5	2.1
知的障がい(n=125)	28.0	52.0	1.6	38.4	24.8	3.2	10.4	3.2	2.4	0.8
精神疾患(n=142)	23.9	52.1	9.9	17.6	19.0	5.6	28.9	4.2	1.4	2.8
高次脳機能障がい(n=15)	13.3	60.0	6.7	13.3	40.0	6.7	13.3	0.0	0.0	0.0
発達障がい(n=80)	30.0	51.3	5.0	27.5	11.3	5.0	20.0	2.5	1.3	2.5
難病(n=47)	23.4	55.3	4.3	12.8	21.3	6.4	21.3	0.0	0.0	6.4

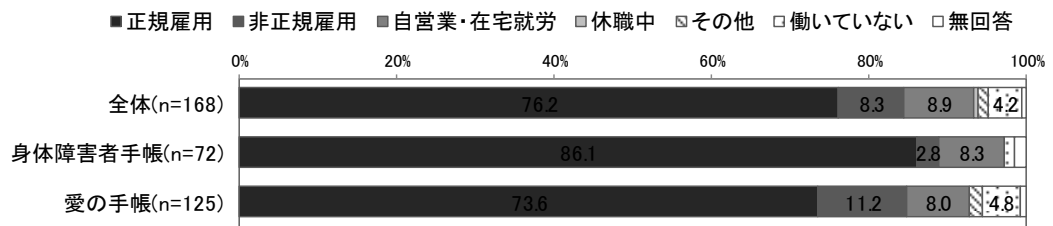
(25) 保護者の就業状況

18歳未満

全体では、「正規雇用」が76.2%と最も高く、次いで「自営業・在宅就労」が8.9%、「非正規雇用」が8.3%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「正規雇用」が86.1%を占め、愛の手帳と比較して高い傾向である。

愛の手帳では、「正規雇用」が73.6%と最も高く、次いで「非正規雇用」が11.2%、「自営業・在宅就労」が8.0%となっている。

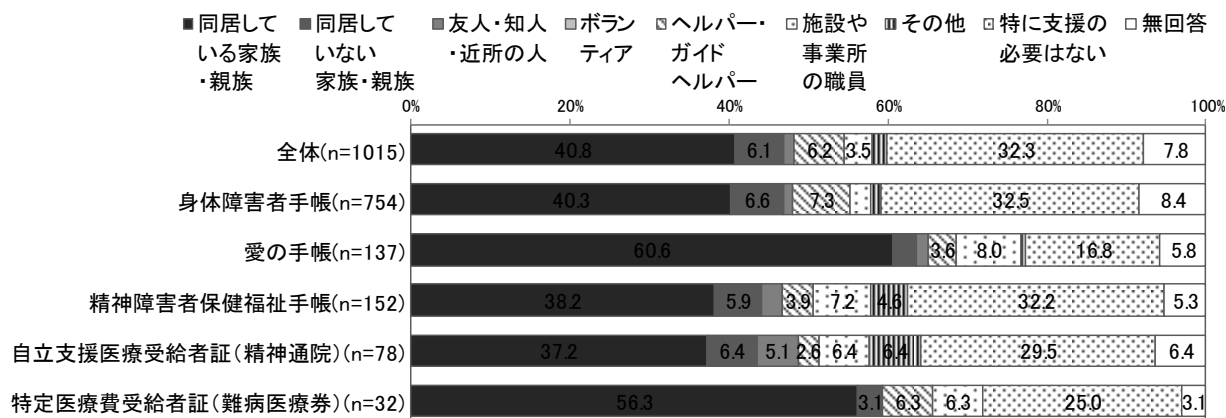


(26) 主な介助者・支援者

18歳以上

全体では、「同居している家族・親族」が40.8%と最も高く、次いで「特に支援の必要はない」が32.3%、「ヘルパー・ガイドヘルパー」が6.2%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳、特定医療費(難病医療)では、他の手帳等と比較して「同居している家族・親族」の割合が高く、「特に支援の必要はない」の割合が低い傾向である。

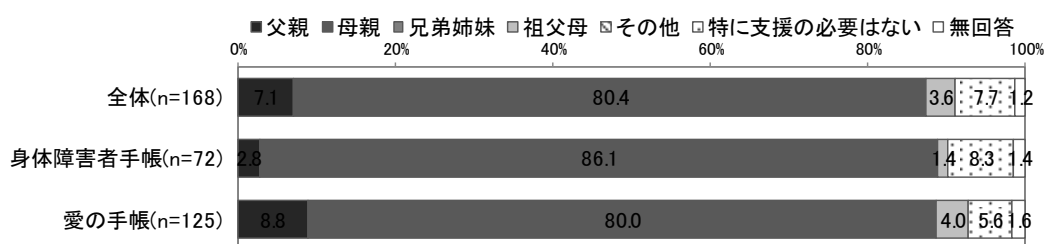


18歳未満

全体では、「母親」が80.4%を占め、次いで「特に支援の必要はない」が7.7%、「父親」が7.1%となっている。

身体障害者手帳では、愛の手帳と比較して「母親」の割合がやや高い傾向である。

愛の手帳では、「母親」が80.0%と最も高く、次いで「父親」が8.8%、「特に支援の必要はない」が5.6%となっている。

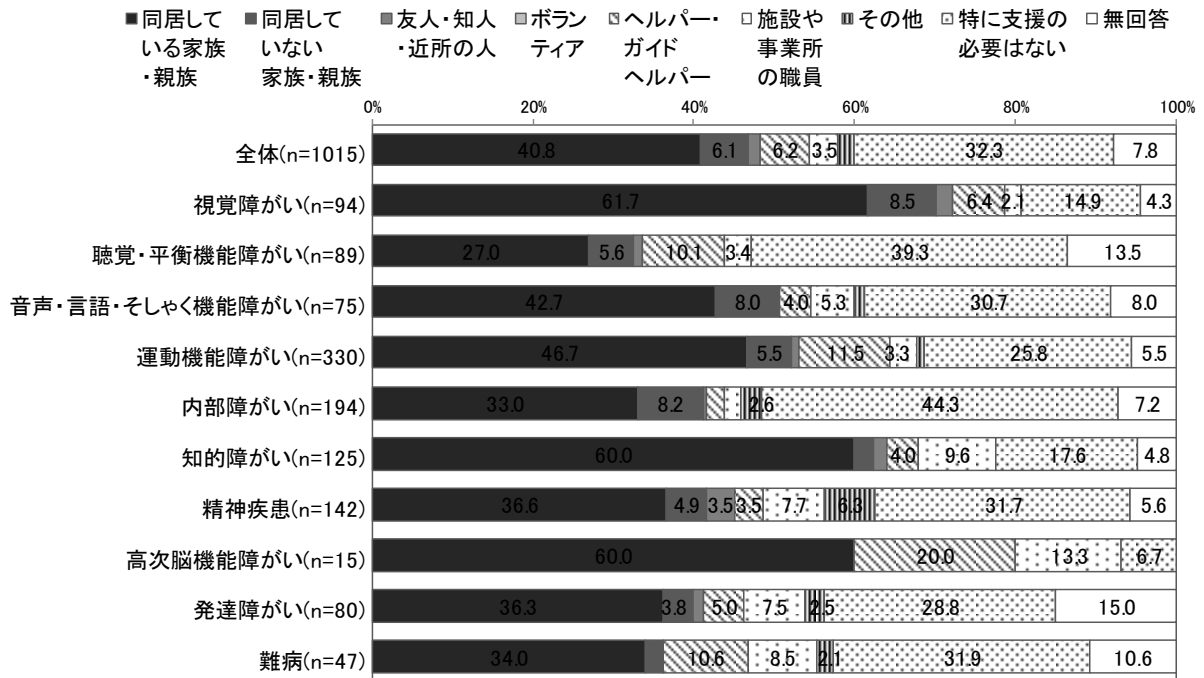


18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、視覚障がい、知的障がいでは、他の障がいと比較して「同居している家族・親族」の割合が高い傾向である。

聴覚・平衡機能障がい、内部障がいでは、他の障がいと比較して「特に支援の必要はない」の割合が高い傾向である。

運動機能障がいでは、「同居している家族」が46.7%と最も高く、次いで「特に支援の必要はない」が25.8%を占めているが、他の障がいと比較して「ヘルパー・ガイドヘルパー」の割合がやや高い傾向である。



(27) 主な介助者・支援者の年齢

主な介助者・支援者が家族・親族である人に対して、その年齢についてたずねた。

18歳以上

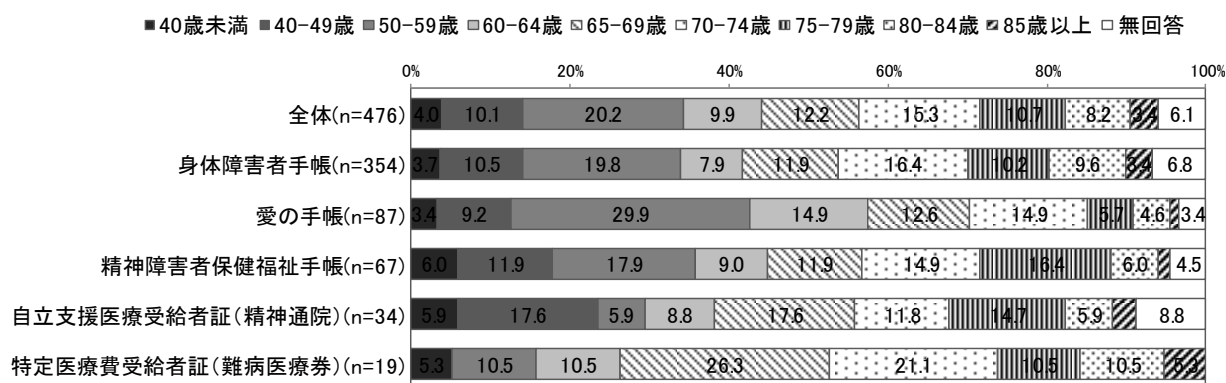
全体では、「50-59歳」が20.2%と最も高く、次いで「70-74歳」が15.3%、「65-69歳」が12.2%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、他の手帳等と比較して「50-59歳」の割合が高く、「60-64歳」もやや高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳では、「50-59歳」が17.9%と最も高いが、他の手帳等と比較して「75-79歳」の割合がやや高い傾向である。

自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「40-49歳」の割合がやや高い傾向である。

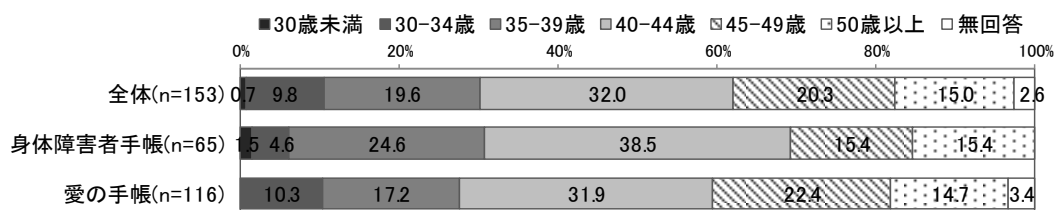
特定医療費受給者証(難病医療医療券)では、他の手帳等と比較して「65-69歳」、「70-74歳」の年代で割合が高くなっている。



18歳未満

全体では、「40-44歳」が32.0%と最も高く、次いで「45-49歳」が20.3%、「36-39歳」が19.6%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、愛の手帳と比較して「35-39歳」、「40-44歳」の年代の割合が高い傾向である。



(28) 主な介助者・支援者が介助・支援できない場合に依頼する人

主な介助者・支援者がいる人に対して、主な介助者・支援者が介助・支援できない場合についてたずねた。

18歳以上

全体では、「同居していない他の家族・親族」が27.0%と最も高く、次いで「同居している他の家族・親族」が25.7%、「頼める人がいない」が16.4%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、「同居している他の家族・親族」が43.4%と最も高くなっている。次いで「ヘルパー・ガイドヘルパー」が25.5%、「施設や事業所の職員」が23.6%となっており、他の手帳等と比較して、割合が高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「頼める人がいない」の割合が高い傾向である。

特定医療費(難病医療)では、「同居していない他の家族・親族」、「ヘルパー・ガイドヘルパー」が30.4%と最も高く、他の手帳等と比較してもやや高い傾向である。

	同居している他の家族・親族	同居していない他の家族・親族	友人・知人・近所の人	ボランティア	ヘルパー・ガイドヘルパー	施設や事業所の職員	その他の人	頼める人がいない	他の人には頼みたくないのに依頼しない	無回答
(横%)										
全体(n=608)	25.7	27.0	4.9	0.2	14.6	11.7	2.1	16.4	4.4	13.8
身体障害者手帳(n=446)	24.7	27.8	5.6	0.2	16.6	10.5	1.6	14.6	4.0	14.1
愛の手帳(n=106)	43.4	17.9	2.8	0.0	25.5	23.6	4.7	13.2	2.8	9.4
精神障害者保健福祉手帳(n=95)	16.8	21.1	3.2	0.0	5.3	13.7	5.3	33.7	7.4	11.6
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=50)	14.0	26.0	4.0	2.0	6.0	14.0	4.0	30.0	10.0	12.0
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=23)	17.4	30.4	4.3	0.0	30.4	13.0	4.3	17.4	4.3	8.7

18歳未満

全体では、「同居している他の家族・親族に頼む」が71.2%と最も高く、次いで「同居していない他の家族・親族に頼む」が42.5%、「短期入所・日中一時保護を利用する」が13.7%となっている。

手帳別でも、概ね同様の傾向が見られる。

	同居している他の家族・親族	同居していない他の家族・親族	友人・知人・近所の人	(項目なし)	介護や家事援助などを行うホームヘルプサービス	短期入所・日中一時保護を利用する	その他の人	頼める人がいない	他の人には頼みたくないのに依頼しない	無回答
(横%)										
全体(n=153)	71.2	42.5	5.2		11.8	13.7	9.2	9.8	0.0	0.0
身体障害者手帳(n=65)	72.3	40.0	6.2		15.4	16.9	9.2	9.2	0.0	0.0
愛の手帳(n=116)	69.8	43.1	4.3		9.5	12.1	10.3	11.2	0.0	0.0

(29) 現在受けている介助・支援

主な介助者・支援者がいる人に対して、現在受けている介助・支援についてたずねた。

18歳以上

全体では、「外出」が38.5%と最も高く、次いで「食事」が33.4%、「お金(小遣い等)の管理」が26.5%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、「お金(小遣い等)の管理」が58.5%と最も高く、「外出」(56.6%)、「身だしなみ」(39.6%)、「入浴」(38.7%)なども高くなっている。また、他の手帳等と比較して高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して、「外出」、「入浴」、「身だしなみ」等で低い傾向である。

(横%)	食事	排泄(トイレ)	入浴	衣服の着脱	身だしなみ	家の中の移動	外出	家族以外の人の意思疎通	お金(小遣い等)の管理	その他	無回答
全体(n=608)	33.4	15.0	24.0	15.8	19.4	8.7	38.5	11.0	26.5	16.4	22.9
身体障害者手帳(n=446)	35.7	17.3	26.5	20.0	20.0	10.3	40.6	9.9	21.1	17.5	22.9
愛の手帳(n=106)	34.9	26.4	38.7	17.9	39.6	9.4	56.6	27.4	58.5	8.5	12.3
精神障害者保健福祉手帳(n=95)	28.4	8.4	12.6	6.3	9.5	6.3	25.3	14.7	30.5	18.9	26.3
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=50)	18.0	8.0	10.0	4.0	8.0	6.0	30.0	16.0	28.0	22.0	22.0
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=23)	30.4	8.7	34.8	21.7	30.4	8.7	39.1	8.7	17.4	26.1	21.7

18歳未満

全体では、「外出」が75.2%と最も高く、次いで「身だしなみ」が66.7%、「入浴」が64.7%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、愛の手帳と比較して「お金(小遣い等の管理)」以外の介助・支援において高い傾向である。

(横%)	食事	排泄(トイレ)	入浴	衣服の着脱	身だしなみ	家の中の移動	外出	家族以外の人の意思疎通	お金(小遣い等)の管理	その他	無回答
全体(n=153)	50.3	54.2	64.7	52.3	66.7	20.3	75.2	46.4	56.2	5.2	5.9
身体障害者手帳(n=65)	67.7	75.4	81.5	73.8	76.9	43.1	84.6	53.8	53.8	6.2	3.1
愛の手帳(n=116)	50.0	50.9	63.8	48.3	67.2	10.3	73.3	44.8	56.9	3.4	6.0

18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、視覚障がいでは、「外出」が65.8%と最も高く、他の障がいと比較しても高い傾向である。

音声・言語・そしゃく機能障がいでは、「食事」が56.5%と最も高く、次いで「外出」が43.5%となっている。

内部障がいでは、「食事」が31.9%と最も高く、他の介助・支援については、受けている割合は比較的低い傾向である。

知的障がいでは、「外出」と「お金(小遣い等)の管理」が56.7%と最も高く、「身だしなみ」(41.2%)、「入浴」(40.2%)、なども高くなっている。

精神疾患では、「お金(小遣い等)の管理」が29.2%で最も高く、他の障がいと比較して介助・支援を受けている割合は低い傾向である。

(横%)	食事	排泄(トイレ)	入浴	衣服の着脱	身だしなみ	家の中の移動	外出	家族以外の人との意思疎通	お金(小遣い等)の管理	その他	無回答
全体(n=608)	33.4	15.0	24.0	15.8	19.4	8.7	38.5	11.0	26.5	16.4	22.9
視覚障がい(n=76)	39.5	13.2	19.7	18.4	28.9	9.2	65.8	7.9	30.3	10.5	11.8
聴覚・平衡機能障がい(n=42)	38.1	16.7	23.8	16.7	21.4	11.9	42.9	23.8	23.8	21.4	19.0
音声・言語・そしゃく機能障がい(n=46)	56.5	26.1	34.8	28.3	32.6	13.0	43.5	23.9	26.1	10.9	23.9
運動機能障がい(n=227)	40.5	25.6	35.2	26.9	23.3	15.0	49.8	12.8	26.0	18.1	18.5
内部障がい(n=94)	31.9	13.8	21.3	14.9	22.3	5.3	25.5	8.5	22.3	14.9	34.0
知的障がい(n=97)	39.2	26.8	40.2	19.6	41.2	8.2	56.7	26.8	56.7	9.3	10.3
精神疾患(n=89)	27.0	9.0	10.1	4.5	5.6	6.7	27.0	14.6	29.2	20.2	24.7
高次脳機能障がい(n=14)	71.4	50.0	71.4	50.0	50.0	21.4	28.6	14.3	35.7	0.0	0.0
発達障がい(n=45)	28.9	8.9	11.1	4.4	20.0	6.7	24.4	17.8	40.0	15.6	17.8
難病(n=27)	33.3	18.5	40.7	29.6	25.9	11.1	40.7	11.1	18.5	18.5	14.8

(30) 使用している用具等

18歳以上

全体では、「携帯電話・スマートフォン」が52.3%と最も高く、次いで「杖・歩行補助具」が20.9%、「パソコン」が17.8%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「携帯電話・スマートフォン」が51.1%と最も高く、続く「杖・歩行補助具」(26.3%)は他の手帳等と比較して使用割合が高い傾向である。

愛の手帳では、「携帯電話・スマートフォン」が40.9%と最も高くなっている。また、他の手帳等と比較して用具の使用割合が低い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「携帯電話・スマートフォン」、「パソコン」の使用割合が高い傾向である。

特定医療費(難病医療)では、他の手帳等と比較して「手動車いす」の使用割合が高い傾向である。

(横%)	白杖	補聴器・人工内耳	活字文書読み上げ装置	音声読み上げソフト	ファックス	パソコン	携帯電話・スマートフォン	GPS等位置情報確認ツール	手動車いす	電動車いす	杖・歩行補助具	介助ロボット	補助犬	その他	無回答
全体(n=1015)	5.1	9.4	0.6	1.0	6.8	17.8	52.3	2.5	10.7	2.0	20.9	0.1	0.2	4.8	22.4
身体障害者手帳(n=754)	6.5	11.5	0.8	1.3	7.8	16.0	51.1	1.6	13.1	2.5	26.3	0.1	0.1	5.0	18.7
愛の手帳(n=137)	2.9	2.9	0.0	0.0	1.5	7.3	40.9	3.6	11.7	0.7	5.8	0.0	0.0	5.1	37.2
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	0.7	3.3	0.0	0.0	6.6	33.6	63.2	7.2	5.9	1.3	5.9	0.0	0.7	5.9	23.7
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)	0.0	1.3	0.0	0.0	6.4	37.2	65.4	5.1	7.7	0.0	2.6	0.0	0.0	5.1	23.1
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)	3.1	3.1	0.0	0.0	6.3	25.0	68.8	9.4	21.9	9.4	25.0	0.0	0.0	3.1	9.4

18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、視覚障害では、「携帯電話・スマートフォン」(43.6%)、「白杖」(37.2%)が高くなっている。

聴覚・平衡機能障がいでは、「補聴器・人工内耳」(66.3%)が最も高くなっている。また、他の障がいと比較して「ファックス」(20.2%)がやや高い傾向である。

運動機能障がいでは、「携帯電話・スマートフォン」(48.4%)、「杖・歩行補助具」(43.6%)が高くなっている。

知的障がいでは、「携帯電話・スマートフォン」(42.4%)が最も高くなっている。また、他の障がいと比較して、用具の使用割合は低い傾向である。

精神疾患では、「携帯電話・スマートフォン」(62.7%)が最も高くなっている。また、他の障がいと比較して「パソコン」(31.0%)が高い傾向である。

難病では、「携帯電話・スマートフォン」(66.0%)、「杖・歩行補助具」(25.5%)が高くなっている。

(横%)	白杖	補聴器・人工内耳	活字文書読み上げ装置	音声読み上げソフト	ファックス	パソコン	携帯電話・スマートフォン	GPS等位置情報確認ツール	手動車いす	電動車いす	杖・歩行補助具	介助ロボット	補助犬	その他	無回答
全体(n=1015)	5.1	9.4	0.6	1.0	6.8	17.8	52.3	2.5	10.7	2.0	20.9	0.1	0.2	4.8	22.4
視覚障がい(n=94)	37.2	7.4	5.3	8.5	1.1	13.8	43.6	0.0	12.8	1.1	17.0	0.0	0.0	10.6	19.1
聴覚・平衡機能障がい(n=89)	2.2	66.3	1.1	2.2	20.2	19.1	47.2	3.4	7.9	3.4	10.1	0.0	0.0	4.5	13.5
音声・言語・そしゃく機能障がい(n=75)	6.7	14.7	0.0	0.0	10.7	20.0	50.7	2.7	16.0	4.0	18.7	1.3	1.3	6.7	21.3
運動機能障がい(n=330)	3.9	4.2	0.0	0.0	6.7	16.4	48.8	1.2	21.2	4.2	43.6	0.0	0.0	4.8	12.1
内部障がい(n=194)	0.0	4.6	0.5	0.0	8.2	15.5	57.7	1.5	6.7	1.5	12.9	0.0	0.0	4.6	23.2
知的障がい(n=125)	2.4	1.6	0.0	0.0	1.6	8.0	42.4	4.0	13.6	0.8	4.0	0.0	0.0	3.2	37.6
精神疾患(n=142)	0.7	2.1	0.0	0.0	4.2	31.0	62.7	7.0	4.9	0.0	4.2	0.0	0.0	3.5	26.8
高次脳機能障がい(n=15)	6.7	6.7	0.0	0.0	6.7	13.3	33.3	0.0	33.3	13.3	53.3	0.0	6.7	13.3	13.3
発達障がい(n=80)	3.8	6.3	0.0	0.0	8.8	20.0	57.5	3.8	5.0	1.3	7.5	0.0	0.0	7.5	20.0
難病(n=47)	4.3	4.3	0.0	0.0	4.3	12.8	66.0	2.1	21.3	0.0	25.5	0.0	0.0	6.4	10.6

4. 日中活動・就労について

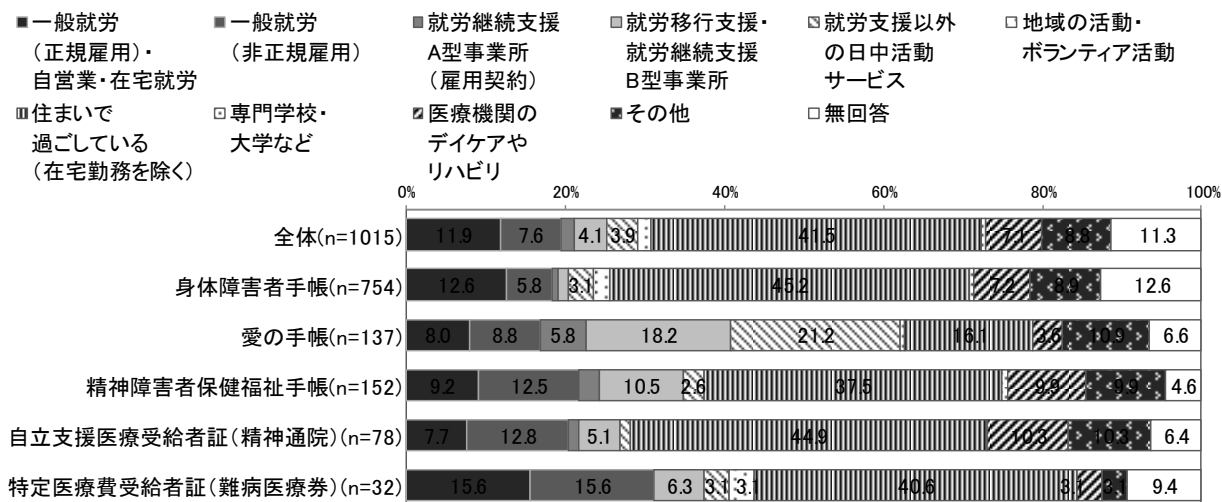
(31) 平日の日中の過ごし方

18歳以上

全体では、「住まいで過ごしている（在宅勤務を除く）」が41.5%と最も高く、次いで「一般就労（正規雇用）・自営業・在宅就労」が11.9%、「その他」が8.8%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療（精神通院）、特定医療費（難病医療）では、「住まいで過ごしている（在宅勤務を除く）」が最も高くなっている。

愛の手帳では、「就労支援以外の日中活動サービス」が21.2%と最も高く、次いで「就労移行支援・就労継続支援B型事業所」が18.2%となっている。



18歳未満

全体では、「特別支援学校」が36.3%と最も高く、次いで「放課後等デイサービス」が34.5%、「小学校・中学校(特別支援学級)」が25.6%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「特別支援学校」が51.4%と最も高く、次いで「放課後等デイサービス」が37.5%、「児童発達支援」が15.3%となっている。

愛の手帳では、「特別支援学校」と「放課後等デイサービス」が36.0%と最も高く、次いで「小学校・中学校(特別支援学級)」が32.8%となっている。

	保育園	幼稚園	認定こども園	児童発達支援	特別支援学校	放課後等デイサービス	小学校・中学校(特別支援学級)	小学校・中学校(通常学級)	特別支援学校以外の高等学校・専門学校	フリースクール	その他	無回答
(横%)												
全体(n=168)	9.5	3.0	0.6	17.9	36.3	34.5	25.6	5.4	3.6	0.0	8.3	1.2
身体障害者手帳(n=72)	9.7	2.8	0.0	15.3	51.4	37.5	2.8	12.5	2.8	0.0	11.1	2.8
愛の手帳(n=125)	11.2	2.4	0.8	19.2	36.0	36.0	32.8	0.0	3.2	0.0	5.6	1.6

18歳以上：障がい別

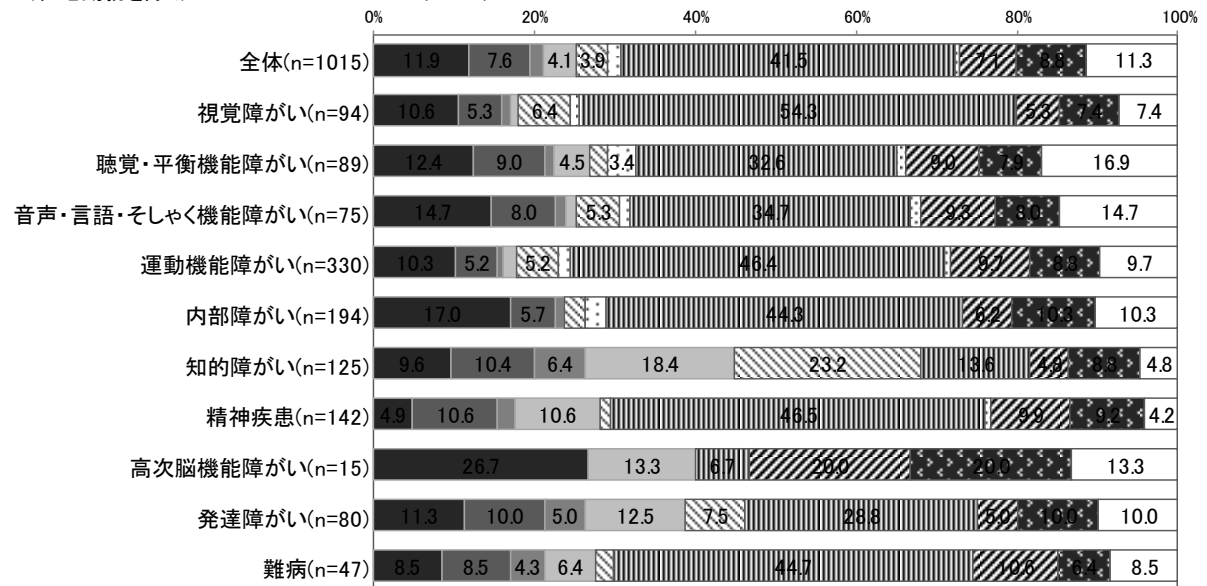
18歳以上について該当する障がい別に見ると、視覚障がいでは、「住まいで過ごしている(在宅勤務を除く)」が54.3%を占め、他の障がいと比較して高い傾向である。

運動機能障がいでは、「住まいで過ごしている(在宅勤務を除く)」が46.4%と最も高く、次いで「一般就労(正規雇用)・自営業・在宅就労」が10.3%、「医療機関のデイケアやリハビリ」が9.7%となっている。

内臓や免疫機能などの内部障がいでは、「住まいで過ごしている(在宅勤務を除く)」が44.3%と最も高く、次いで「一般就労(正規雇用)・自営業・在宅就労」が17.0%、「その他」が10.3%となっている。

精神疾患では、「住まいで過ごしている(在宅勤務を除く)」が46.5%と最も高く、次いで「一般就労(非正規雇用)」と「就労移行支援・就労継続支援B型事業所」が10.6%となっている。

- 一般就労 (正規雇用)・自営業・在宅就労
- 住まいで過ごしている (在宅勤務を除く)
- 一般就労 (非正規雇用)
- 専門学校・大学など
- 就労継続支援 A型事業所 (雇用契約)
- 医療機関のデイケアやリハビリ
- 就労移行支援・就労継続支援 B型事業所
- その他
- 就労支援以外の日中活動サービス
- 無回答
- 地域の活動・ボランティア活動



(32) 働き続ける上で悩みや不安など

一般就労・就労継続支援A型事業所で就労している人に対して、働き続ける上での悩みや不安についてたずねた。

18歳以上

全体では、「給与が希望より少ない」が31.6%と最も高く、次いで「特に悩みや不安はない」が25.6%、「体調や障がい、精神面の状態の維持が難しい」が24.2%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「特に悩みや不安はない」が31.0%と最も高く、次いで「給与が希望より少ない」が26.9%、「昇給や昇進が難しい」が20.7%となっている。

愛の手帳では、「給与が希望より少ない」が35.5%と最も高く、次いで「特に悩みや不安はない」が22.6%、「仕事の内容がやりがいに欠ける」と「職場での人間関係が難しい」が19.4%となっている。

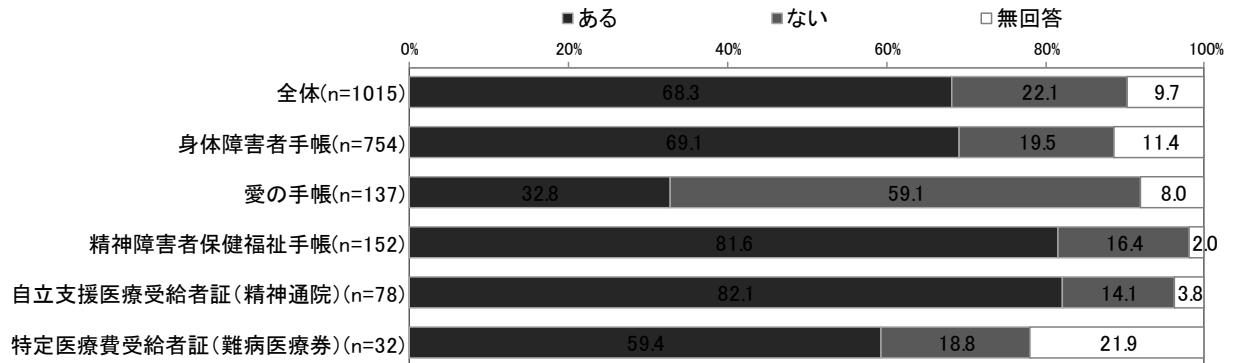
精神障害者保健福祉手帳では、「体調や障がい、精神面の状態の維持が難しい」が56.8%と最も高く、次いで「給与が希望より少ない」が43.2%、「職場での人間関係が難しい」が40.5%となっている。

(横%)	給与が希望より少ない	雇用形態や社会保険などの条件がよくない	昇給や昇進が難しい	体調や障がい、精神面の状態の維持が難しい	通勤が大変である	勤務先のバリアフリー対応が進んでいない	仕事に難しい・負担が大きい	仕事の内容がやりがいに欠ける	職場の人の障がいに対する理解が十分でない	職場での人間関係が難しい	仕事の悩みを相談できる相手・窓口がない	その他	特に悩みや不安はない	無回答
全体(n=215)	31.6	7.9	21.4	24.2	14.4	4.2	7.9	7.4	16.3	16.3	11.2	7.4	25.6	7.0
身体障害者手帳(n=145)	26.9	6.9	20.7	17.2	13.8	4.8	5.5	4.8	15.2	9.7	9.7	6.9	31.0	8.3
愛の手帳(n=31)	35.5	3.2	12.9	16.1	9.7	0.0	12.9	19.4	12.9	19.4	6.5	9.7	22.6	3.2
精神障害者保健福祉手帳(n=37)	43.2	16.2	29.7	56.8	24.3	2.7	16.2	13.5	24.3	40.5	21.6	8.1	10.8	2.7
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=17)	35.3	17.6	29.4	64.7	23.5	0.0	17.6	17.6	29.4	47.1	17.6	11.8	5.9	0.0
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=10)	40.0	20.0	30.0	40.0	20.0	20.0	10.0	20.0	30.0	0.0	20.0	10.0	20.0	0.0

(33) 一般企業で働いた経験

18歳以上

全体では、「ある」が68.3%で「ない」が22.1%となっている。
手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「ある」が69.1%で「ない」が19.5%となっている。
愛の手帳では、「ある」が32.8%に対して、「ない」が59.1%を占めている。
精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、「ある」が8割以上を占めている。
特定医療費(難病医療)では、「ある」が59.4%、「ない」が18.8%となっている。



(34) これからの働き方について思うこと

18歳以上

全体では、「働きたいと思わない」が25.3%と最も高く、次いで「今の働き方で働きたい」と「わからない」が19.5%となっている。

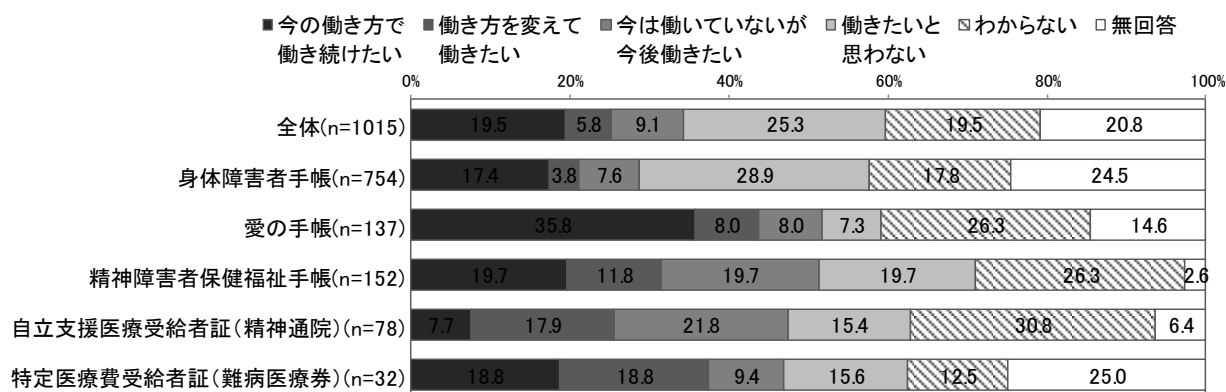
手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「働きたいと思わない」が28.9%と最も高く、次いで「わからない」が17.8%、「今の働き方で働きたい」が17.4%となっている。

愛の手帳では、「今の働き方で働きたい」が35.8%と最も高く、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳では、「わからない」が26.3%と最も高く、次いで「今の働き方で働きたい」、「今は働いていないが今後働きたい」、「働きたいと思わない」が19.7%で、考え方にばらつきが見られる。

自立支援医療(精神通院)では、「わからない」が30.8%と最も高く、次いで「今は働いていないが今後働きたい」が21.8%となっている。また、他の手帳等と比較して「今の働き方で働きたい」の割合が低い傾向である。

特定医療費(難病医療)では、「今の働き方で働きたい」、「働き方を変えて働きたい」が18.8%、次いで「働きたいと思わない」が15.6%となっている。



(35) 働き続けたい・これから働きたいと思う上で悩みや不安など

就労継続意向及び就労意向のある人に対して、悩みや不安についてたずねた。

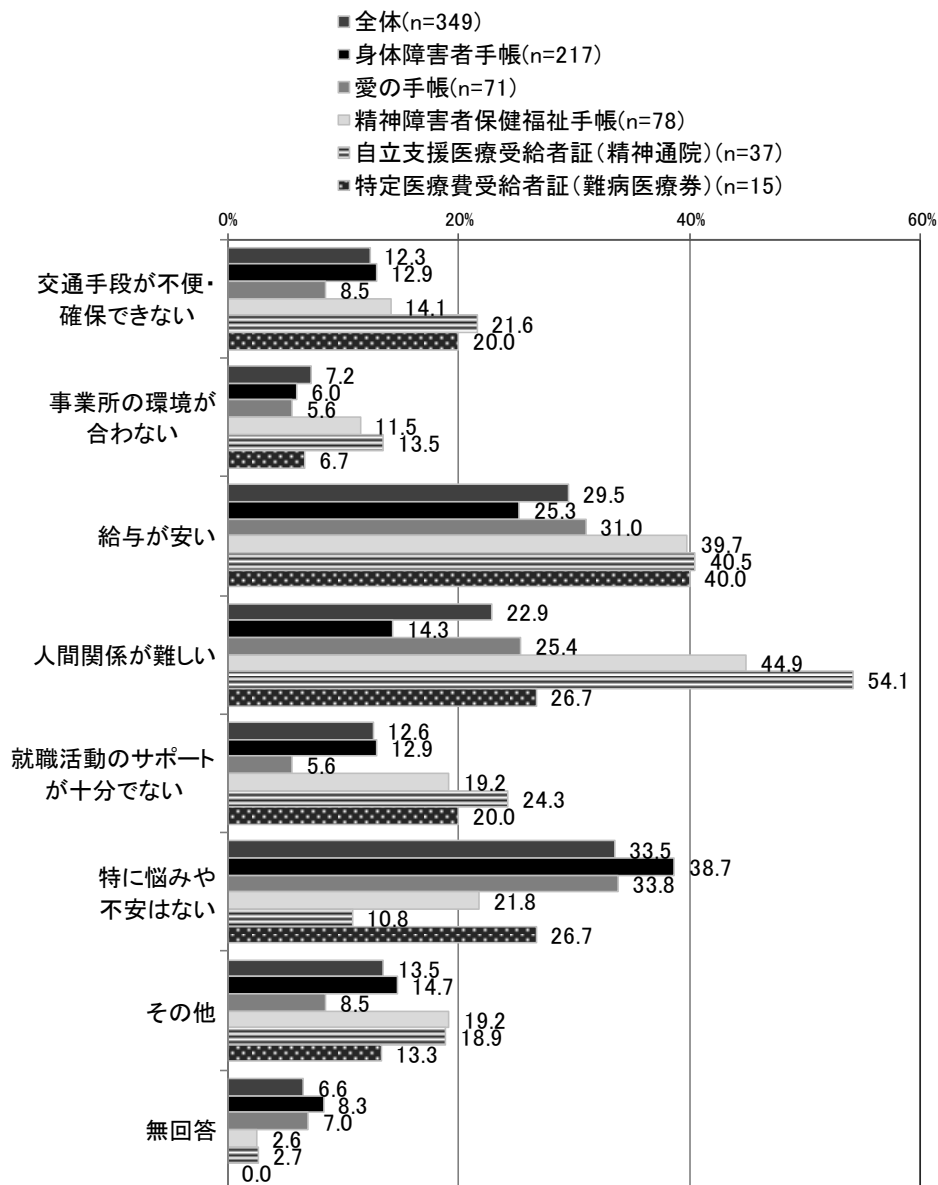
18歳以上

全体では、「特に悩みや不安はない」が33.5%と最も高く、次いで「給与が安い」が29.5%、「人間関係が難しい」が22.9%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「特に悩みや不安はない」が38.7%と最も高く、次いで「給与が安い」が25.3%、「その他」が14.7%となっている。

愛の手帳では、「特に悩みや不安はない」が33.8%と最も高く、次いで「給与が安い」が31.0%、「人間関係が難しい」が25.4%となっている。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、「人間関係が難しい」が最も高く、次いで「給与が安い」となっている。



(36) 現在働いていない理由

現在働いていない人に対して、理由をたずねた。

18歳以上

全体では、「高齢であるため」が43.9%と最も高く、次いで「体調や障がい、精神面の状態がよくないため」が39.9%、「採用される見込みが低いため」が12.3%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「高齢であるため」が52.1%と最も高く、次いで「体調や障がい、精神面の状態がよくないため」が37.9%、「働かなくてもよいため」が10.9%となっている。

愛の手帳では、「体調や障がい、精神面の状態がよくないため」が30.9%と最も高く、次いで「通勤・通所が難しいため」が15.5%、「その他」が11.3%となっている。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、「体調や障がい、精神面の状態がよくないため」が最も高くなっている。また、他の手帳等と比較して「体調や障がい、精神面の状態がよくないため」、「採用される見込みが低いため」、「通勤・通所が難しいため」が高い傾向となっている。

	体調や障がい、精神面の状態がよくないため (横%)	通勤・通所が難しいため	自分の希望する仕事や訓練がないため	採用される見込みが低い	高齢であるため	働かなくてもよいため	働きたいと思わないため	学校に通っているため	その他	特に理由はない	無回答
全体(n=685)	39.9	11.2	5.8	12.3	43.9	9.2	6.6	0.9	9.6	2.5	14.7
身体障害者手帳(n=514)	37.9	8.8	3.9	10.5	52.1	10.9	6.6	0.4	8.9	1.9	11.9
愛の手帳(n=97)	30.9	15.5	8.2	8.2	6.2	1.0	5.2	3.1	11.3	8.2	37.1
精神障害者保健福祉手帳(n=108)	63.9	23.1	14.8	25.0	19.4	3.7	7.4	2.8	13.0	1.9	14.8
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=56)	60.7	25.0	17.9	32.1	28.6	5.4	10.7	0.0	10.7	1.8	8.9
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=19)	42.1	10.5	5.3	15.8	52.6	21.1	15.8	0.0	10.5	0.0	15.8

(37) 学校で学ぶ上で、悩みや不安など

平日日中の過ごし方が専門学校・大学の人に対して、悩みや不安についてたずねた。

18歳以上

回答のあった5名では、特に悩みや不安はないが3名で最も多く、進路や就職が心配であるが1名、無回答が1名となっている。

悩みや不安	(人)
進路や就職が不安である	1
特に悩みや不安はない	3
無回答	1

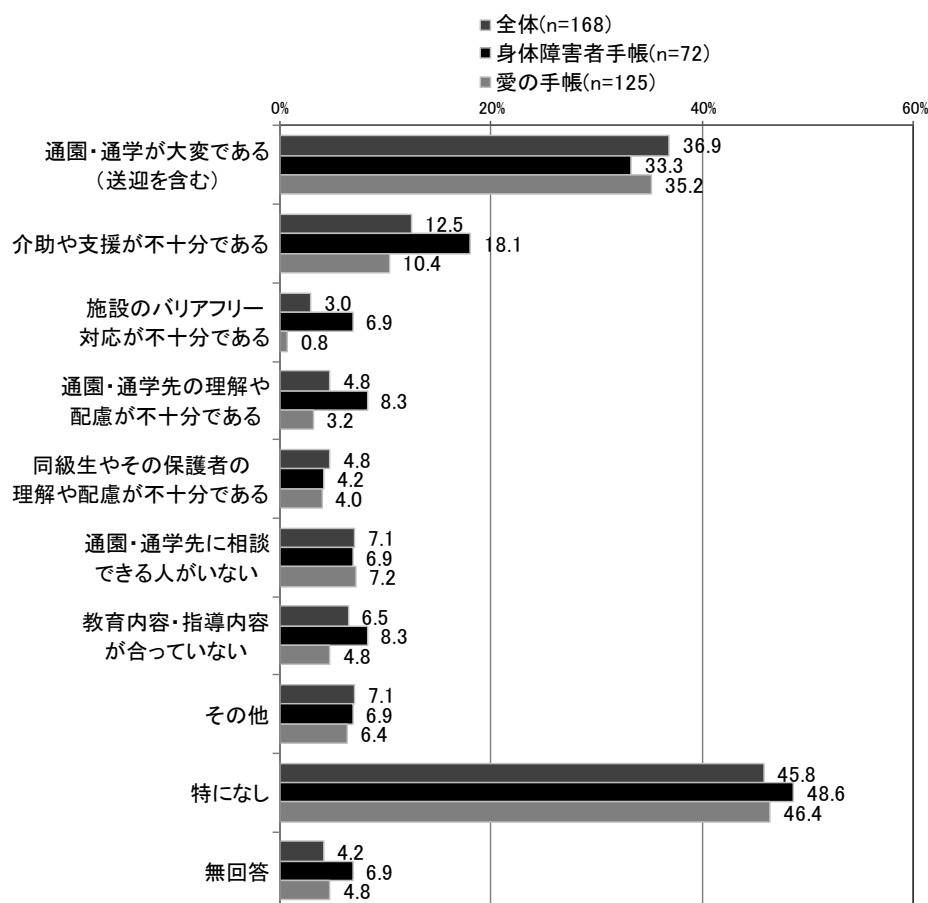
5. 療育・教育について

(38) 通園や通学で困っていること

18歳未満

全体では、「特になし」が45.8%と最も高く、次いで「通園・通学が大変である(送迎を含む)」が36.9%、「介助や支援が不十分である」が12.5%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、愛の手帳と比較して「介助や支援が不十分である」、「通園・通学先の理解や配慮が不十分である」がやや高い傾向である。



(39) 現在通っている施設など、今後利用したい施設など

18歳未満

現在通っている施設など

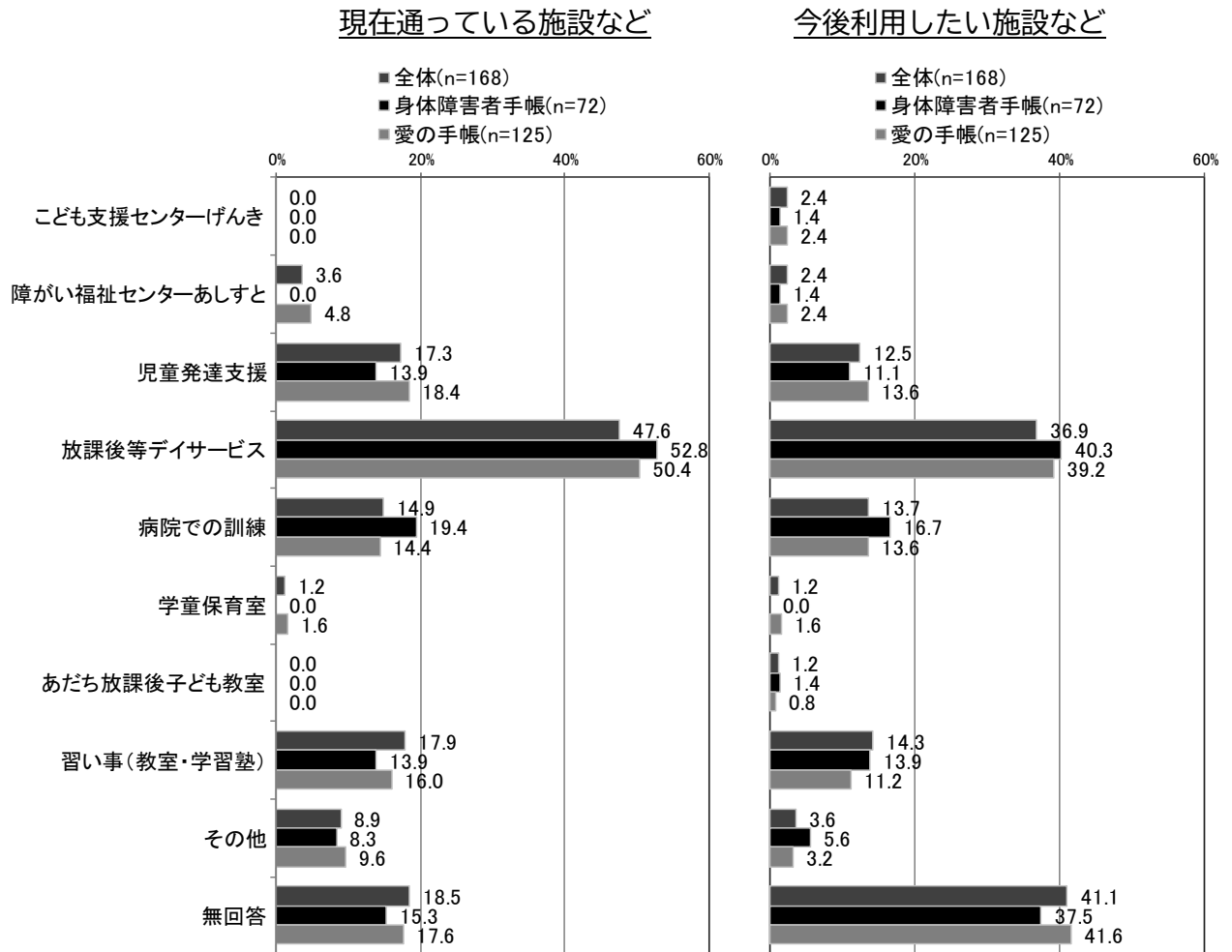
全体では、「放課後等デイサービス」が47.6%と最も高く、次いで「習い事(教室・学習塾)」が17.9%、「児童発達支援」が17.3%となっている。

手帳別でも、概ね同様の傾向が見られる。

今後利用したい施設など

全体では、「放課後等デイサービス」が36.9%と最も高く、次いで「習い事(教室・学習塾)」が14.3%、「病院での訓練」が13.7%となっている。

手帳別でも、概ね同様の傾向が見られる。



(40) 利用施設の利用頻度

現在通っている施設の利用頻度、今後利用を希望する施設及びその利用頻度についてたずねた。

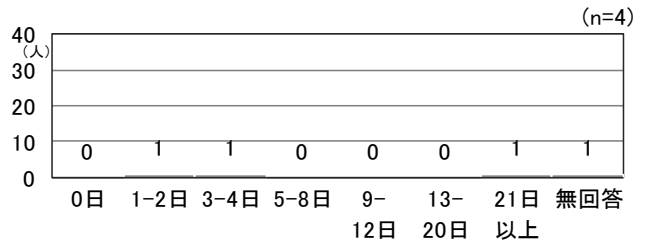
18歳未満

こども支援センターげんき

<現在の利用頻度/月>

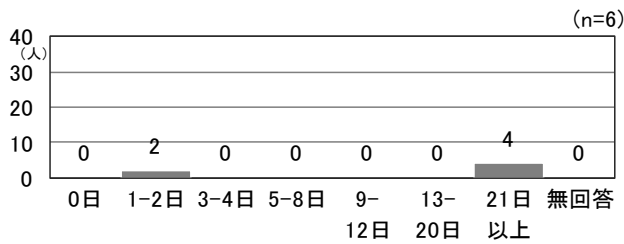
(利用している回答者なし)

<希望する利用頻度/月>

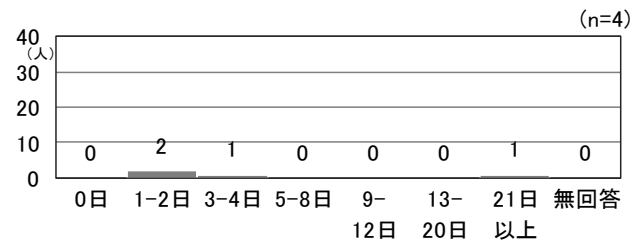


障害福祉センターあしすと

<現在の利用頻度/月>

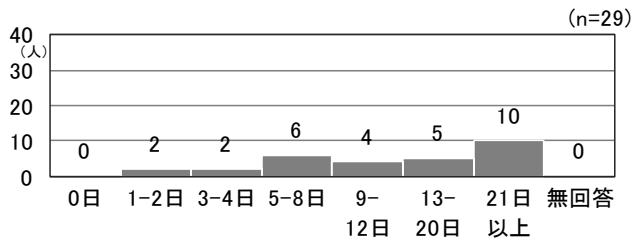


<希望する利用頻度/月>

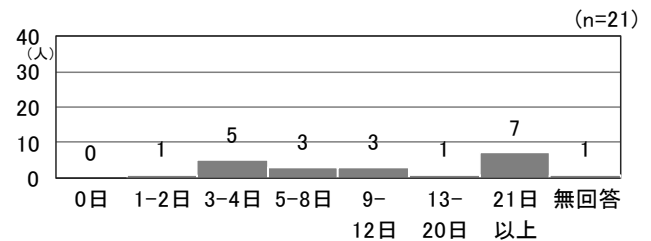


児童発達支援

<現在の利用頻度/月>

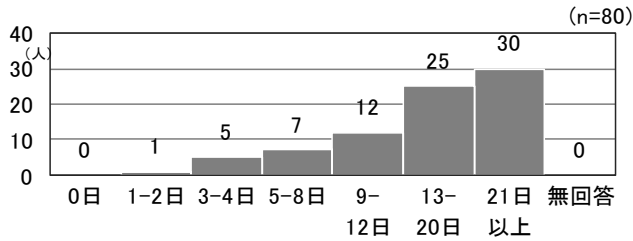


<希望する利用頻度/月>

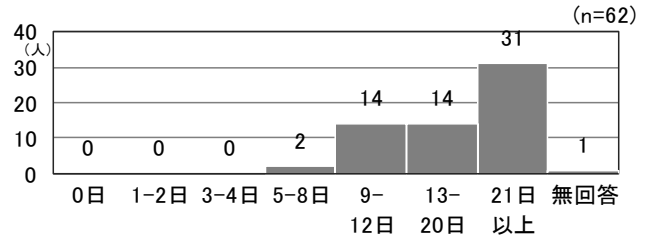


放課後等デイサービス

<現在の利用頻度/月>

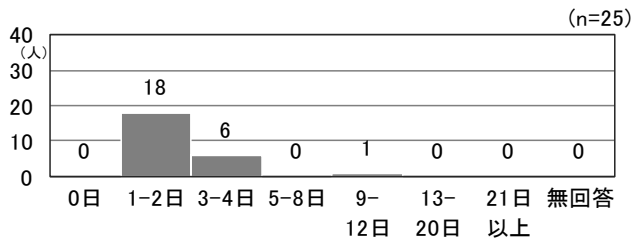


<希望する利用頻度/月>

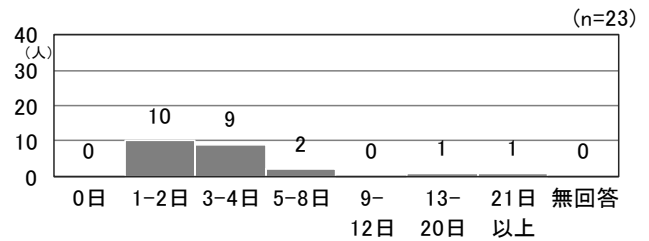


病院での訓練

<現在の利用頻度/月>

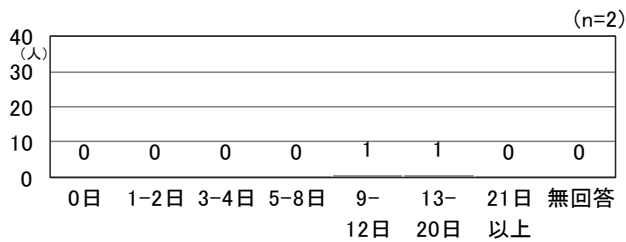


<希望する利用頻度/月>

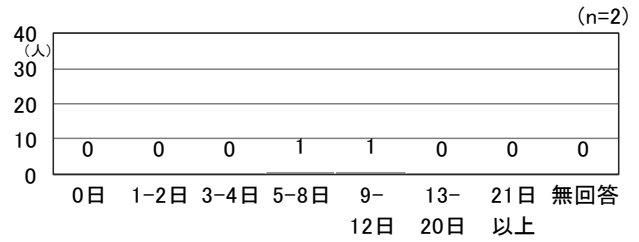


学童保育室

<現在の利用頻度/月>



<希望する利用頻度/月>

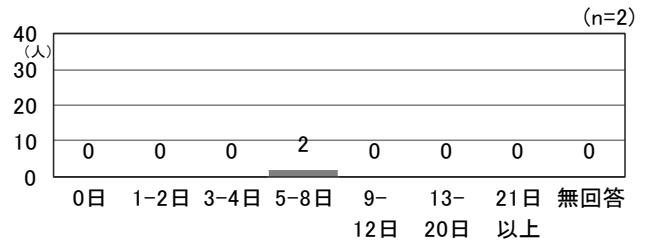


あだち放課後子ども教室

<現在の利用頻度/月>

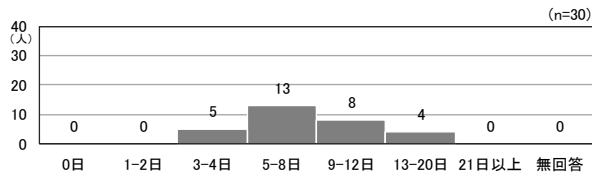
(利用している回答者なし)

<希望する利用頻度/月>

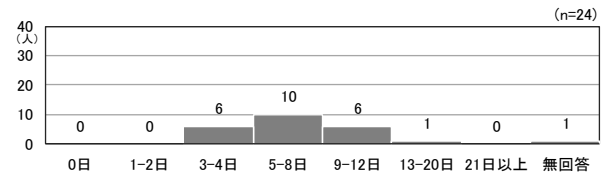


習い事 (教室・学習塾)

<現在の利用頻度/月>

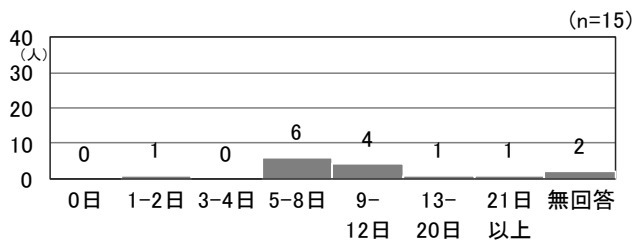


<希望する利用頻度/月>

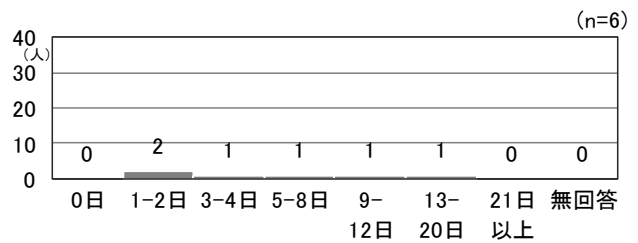


その他

<現在の利用頻度/月>



<希望する利用頻度/月>



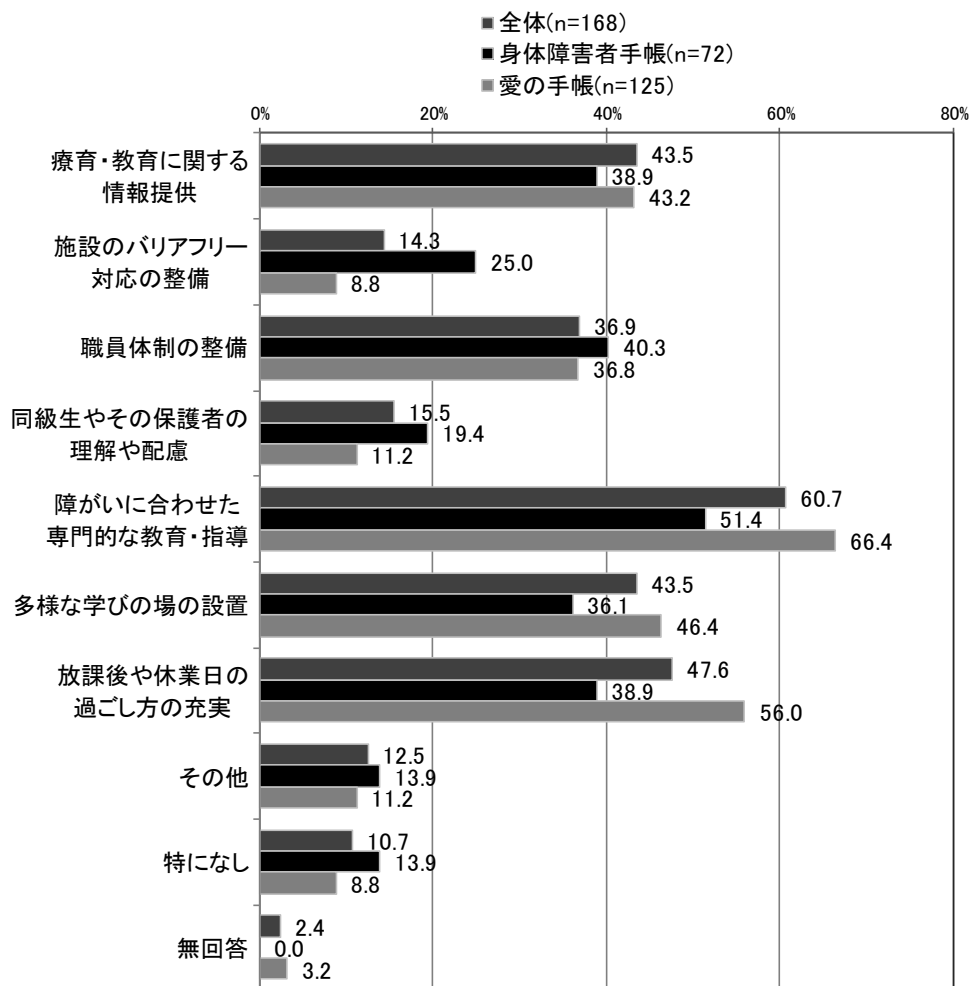
(41) 今後、より充実してほしい療育・教育

18歳未満

全体では、「障がいに合わせた専門的な教育・指導」が60.7%と最も高く、次いで「放課後や休業日の過ごし方の充実」が47.6%、「療育・教育に関する情報提供」と「多様な学びの場の設置」が43.5%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「障がいに合わせた専門的な教育・指導」が51.4%と最も高く、次いで「職員体制の整備」が40.3%、「療育・教育に関する情報提供」と「放課後や休業日の過ごし方の充実」が38.9%となっている。

愛の手帳では、「障がいに合わせた専門的な教育・指導」が66.4%と最も高く、次いで「放課後や休業日の過ごし方の充実」が56.0%、「多様な学びの場の設置」が46.4%となっている。



6.外出について

(42) 外出時の支援の要否

18歳以上

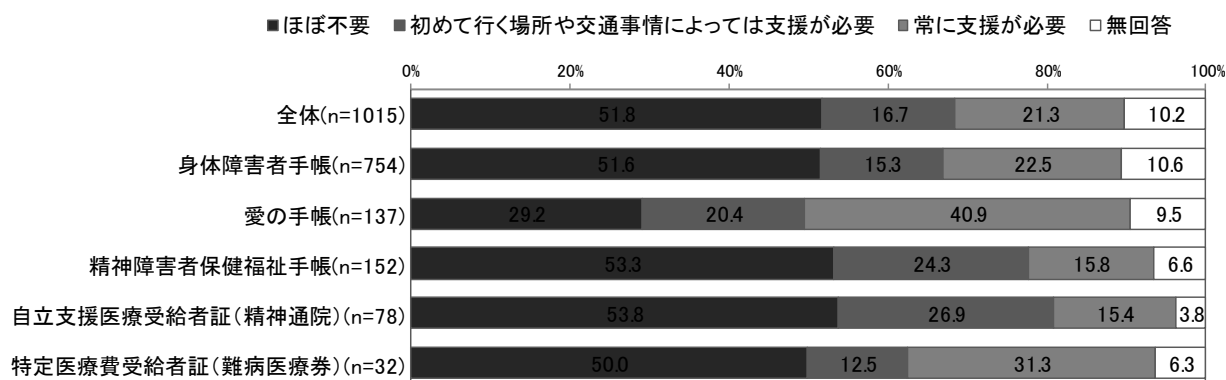
全体では、「ほぼ不要」が51.8%と最も高く、次いで「常に支援が必要」が21.3%、「初めて行く場所や交通事情によっては支援が必要」が16.7%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「ほぼ不要」が51.6%と最も高く、次いで「常に支援が必要」が22.5%、「初めて行く場所や交通事情によっては支援が必要」が15.3%となっている。

愛の手帳では、「常に支援が必要」が40.9%と最も高く、次いで「ほぼ不要」が29.2%、「初めて行く場所や交通事情によっては支援が必要」が20.4%となっている。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、「ほぼ不要」が過半数を占めているが、他の手帳等と比較して「初めて行く場所や交通事情によっては支援が必要」が高い傾向である。

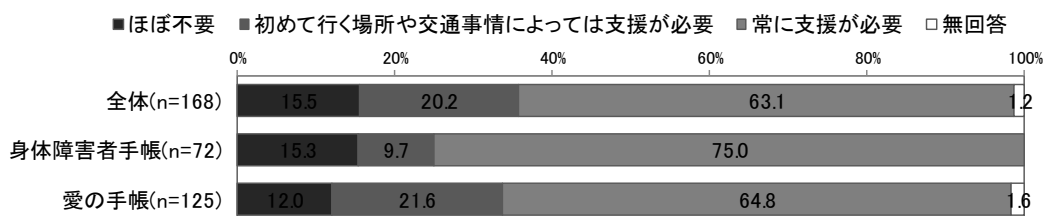
特定医療費(難病医療)では、「常に支援が必要」が50.0%と最も高く、次いで「ほぼ不要」が31.3%、「初めて行く場所や交通事情によっては支援が必要」が12.5%となっている。



18歳未満

全体では、「常に支援が必要」が63.1%と最も高く、次いで「初めて行く場所や交通事情によっては支援が必要」が20.2%、「ほぼ不要」が15.5%となっている。

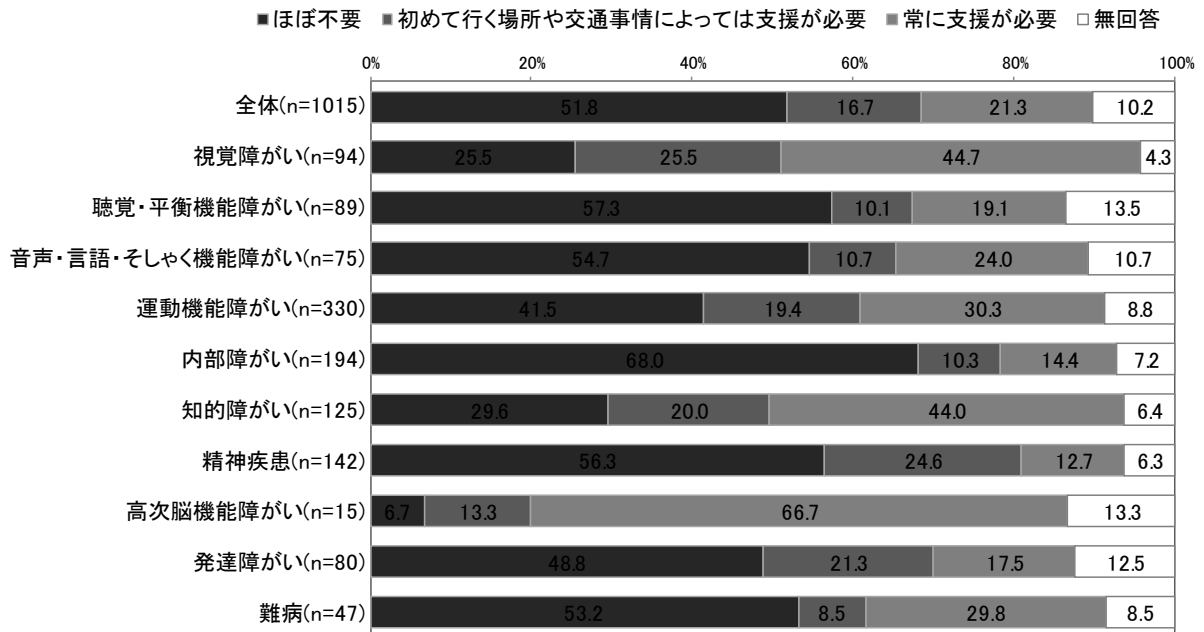
手帳別に見ると、身体障害者手帳では、愛の手帳と比較して「常に支援が必要」の割合が高い傾向である。



18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、視覚障がい、知的障がいでは、「常に支援が必要」が最も高く、他の障がいと比較して高い傾向である。

内部障がいでは、「ほぼ不要」が68.0%と最も高く、他の障がいと比較して高い傾向である。



(43) 外出時の主な支援者

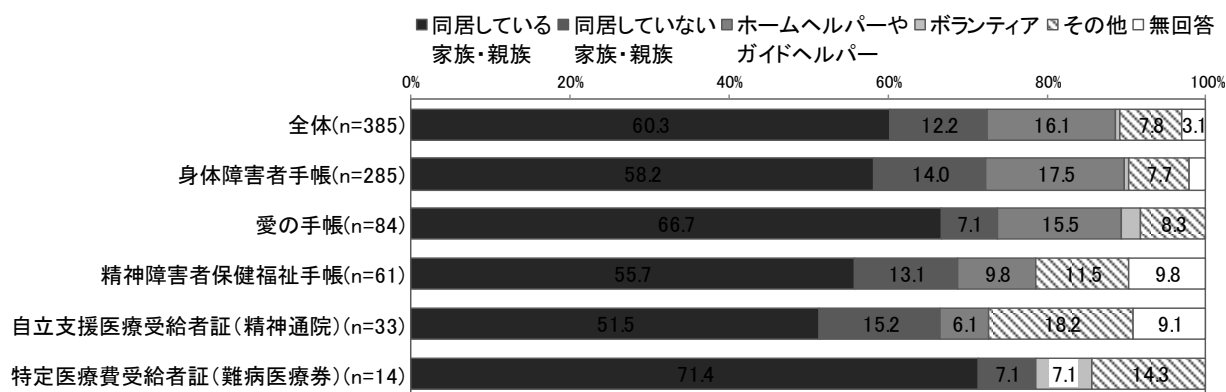
外出時に常に支援が必要、もしくは場所や交通事情によって支援が必要な人に対して、外出時に主に支援を行っている人をたずねた。

18歳以上

全体では、「同居している家族・親族」が60.3%と最も高く、次いで「ホームヘルパーやガイドヘルパー」が16.1%、「同居していない家族・親族」が12.2%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、他の手帳等と比較して「同居している家族・親族」の割合が高く、「同居していない家族・親族」は低い傾向である。

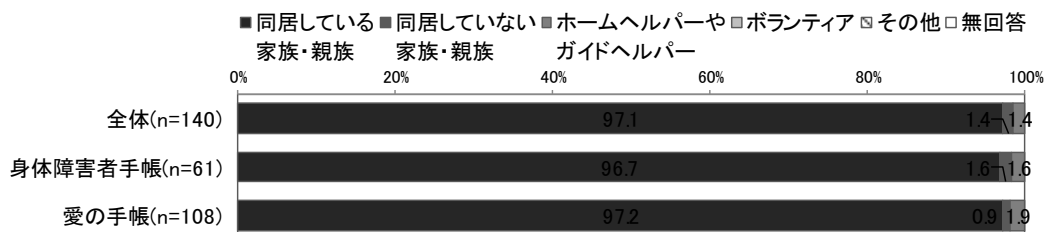
精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「同居している家族・親族」の割合が低い傾向である。



18歳未満

全体では、「同居している家族・親族」が97.1%と最も高く、次いで「同居していない家族・親族」と「ホームヘルパーやガイドヘルパー」が1.4%となっている。

手帳別でも、概ね同様の傾向が見られる。



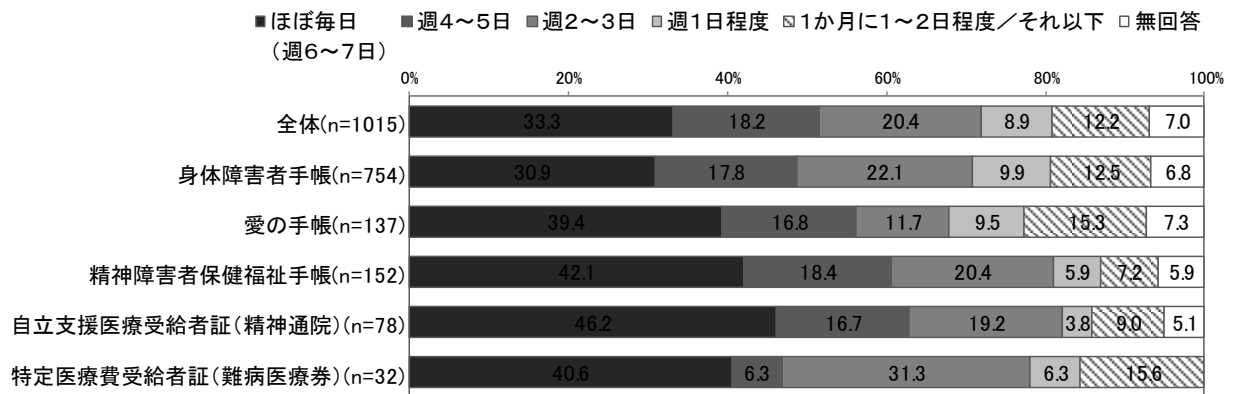
(44) 外出の頻度

18歳以上

全体では、「ほぼ毎日(週6~7日)」が33.3%と最も高く、次いで「週2~3日」が20.4%、「週4~5日」が18.2%となっている。

手帳別に見ると、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「ほぼ毎日(週6~7日)」の割合が高い傾向である。

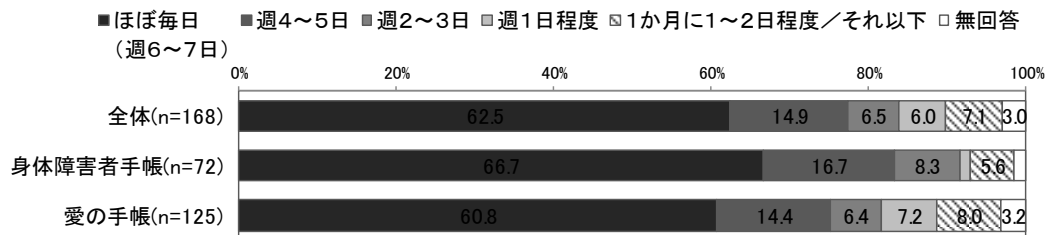
特定医療費(難病医療)では、他の手帳等と比較して「週1日程度」の割合が高い傾向である。



18歳未満

全体では、「ほぼ毎日(週6~7日)」が62.5%と最も高く、次いで「週4~5日」が14.9%、「1か月に1~2日程度/それ以下」が7.1%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、愛の手帳と比較して「ほぼ毎日(週6~7日)」の割合が高い傾向である。



(45)【現在】外出時、障がい福祉サービスの利用頻度

外出時に常に支援が必要、もしくは場所や交通事情によって支援が必要な人に対して、外出時の障害福祉サービスについて、現在の利用頻度をたずねた。

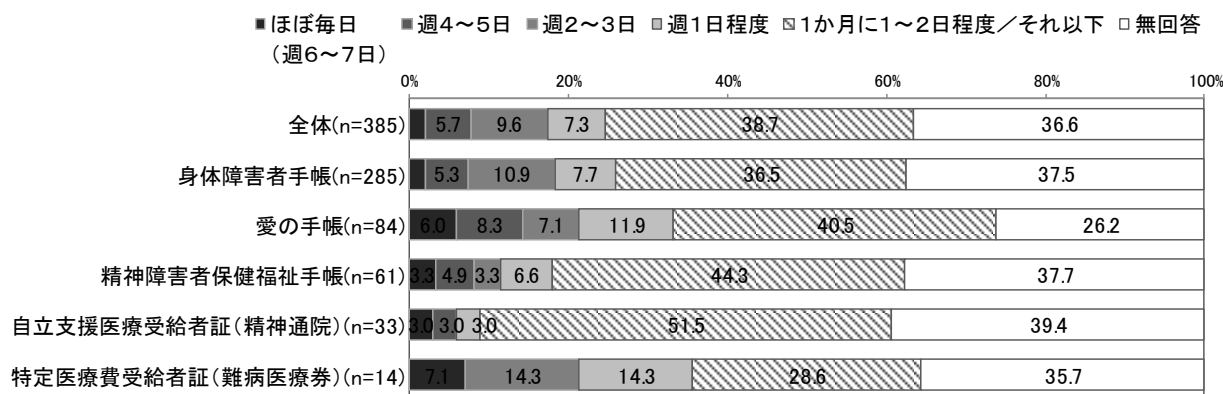
18歳以上

全体では、「1か月に1～2日程度／それ以下」が38.7%と最も高く、次いで「週2～3日」が9.6%、「週1日程度」が7.3%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「1か月に1～2日程度／それ以下」が36.5%と最も高く、次いで「週2～3日」が10.9%、「週1日程度」が7.7%となっている。

愛の手帳では、「1か月に1～2日程度／それ以下」が40.5%と最も高く、次いで「週1日程度」が11.9%、「週4～5日」が8.3%となっている。

精神障害者保健福祉手帳では、「1か月に1～2日程度／それ以下」が44.3%と最も高く、次いで「週1日程度」が6.6%、「週4～5日」が4.9%となっている。

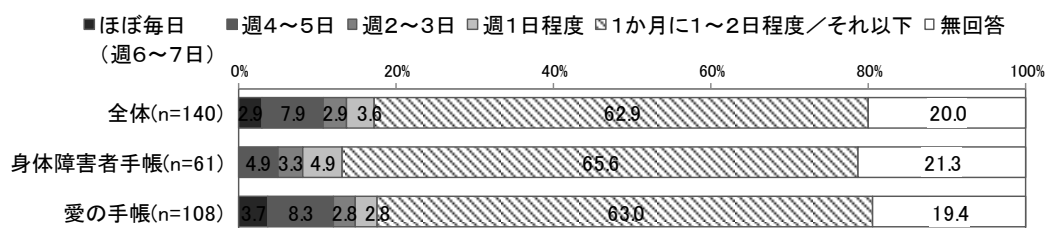


18歳未満

全体では、「1か月に1～2日程度／それ以下」が62.9%と最も高く、次いで「週4～5日」が7.9%、「週1日程度」が3.6%となっている。

身体障害者手帳では、「1か月に1～2日程度／それ以下」が65.6%と最も高く、次いで「週4～5日」と「週1日程度」が4.9%となっている。

愛の手帳では、「1か月に1～2日程度／それ以下」が63.0%と最も高く、次いで「週4～5日」が8.3%、「ほぼ毎日(週6～7日)」が3.7%となっている。



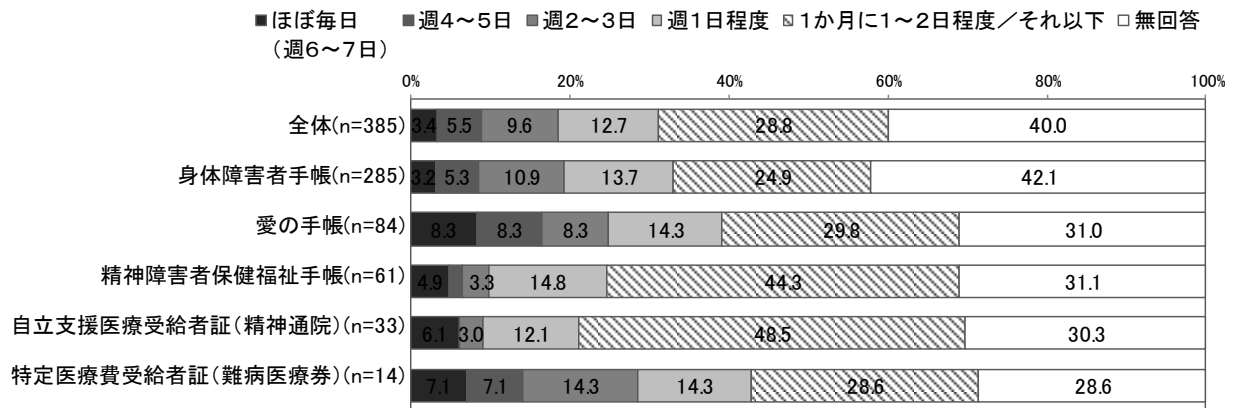
(46)【希望】外出時、障がい福祉サービスの利用頻度

外出時に常に支援が必要、もしくは場所や交通事情によって支援が必要な人に対して、外出時の障害福祉サービスについて、希望する利用頻度をたずねた。

18歳以上

全体では、「1か月に1～2日程度／それ以下」が28.8%と最も高く、次いで「週1日程度」が12.7%、「週2～3日」が9.6%となっている。

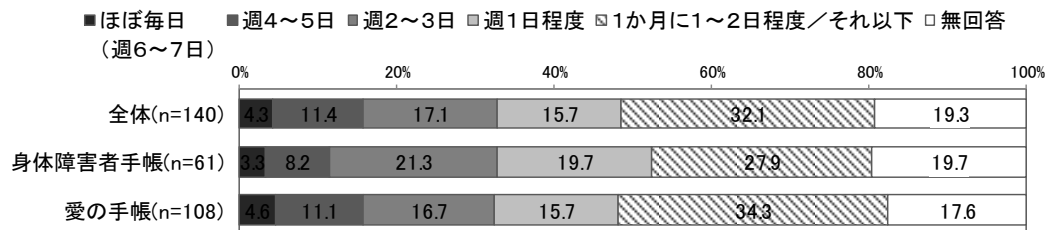
手帳別に見ると、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「1か月に1～2日程度／それ以下」の割合が高い傾向である。



18歳未満

全体では、「1か月に1～2日程度／それ以下」が32.1%と最も高く、次いで「週2～3日」が17.1%、「週1日程度」が15.7%となっている。

手帳別でも、概ね同様の傾向が見られる。



(47) 外出時の移動手段

18歳以上

全体では、「バス」が50.5%と最も高く、次いで「電車(地下鉄・モノレール含む)」が49.3%、「タクシー」が27.7%となっている。

手帳別に見ると、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では「電車(地下鉄・モノレール含む)」、「自転車」が他の手帳等より高い傾向である。

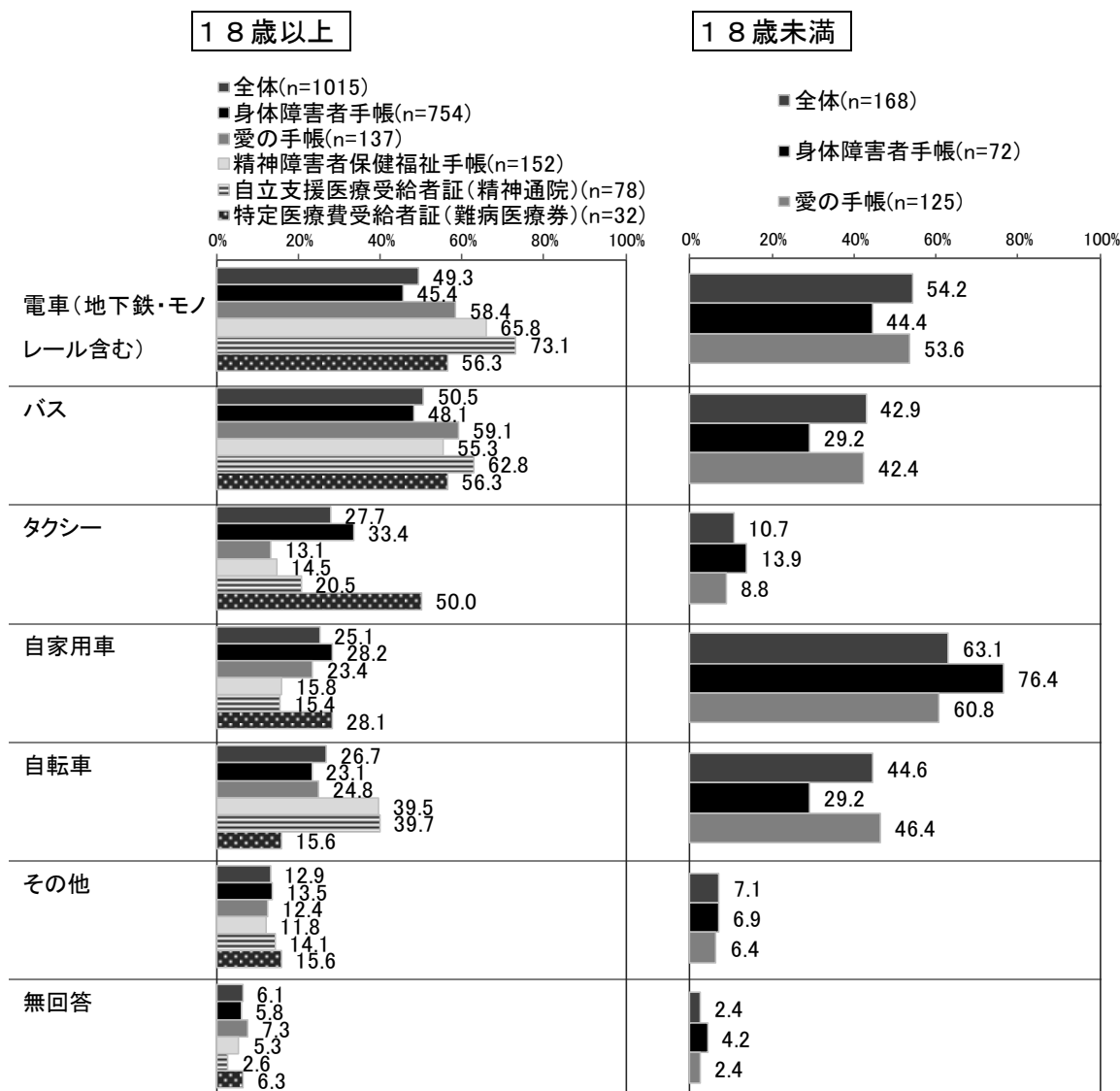
特定医療費(難病医療)では、他の手帳等より「タクシー」が高い傾向である。

18歳未満

全体では、「自家用車」が63.1%と最も高く、次いで「電車(地下鉄・モノレール含む)」が54.2%、「自転車」が44.6%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、愛の手帳と比較して「自家用車」が高い傾向である。

愛の手帳では、身体障害者手帳と比較して公共交通機関や「自転車」が高い傾向である。



(48) 足立区内での外出時に困っていること

18歳以上

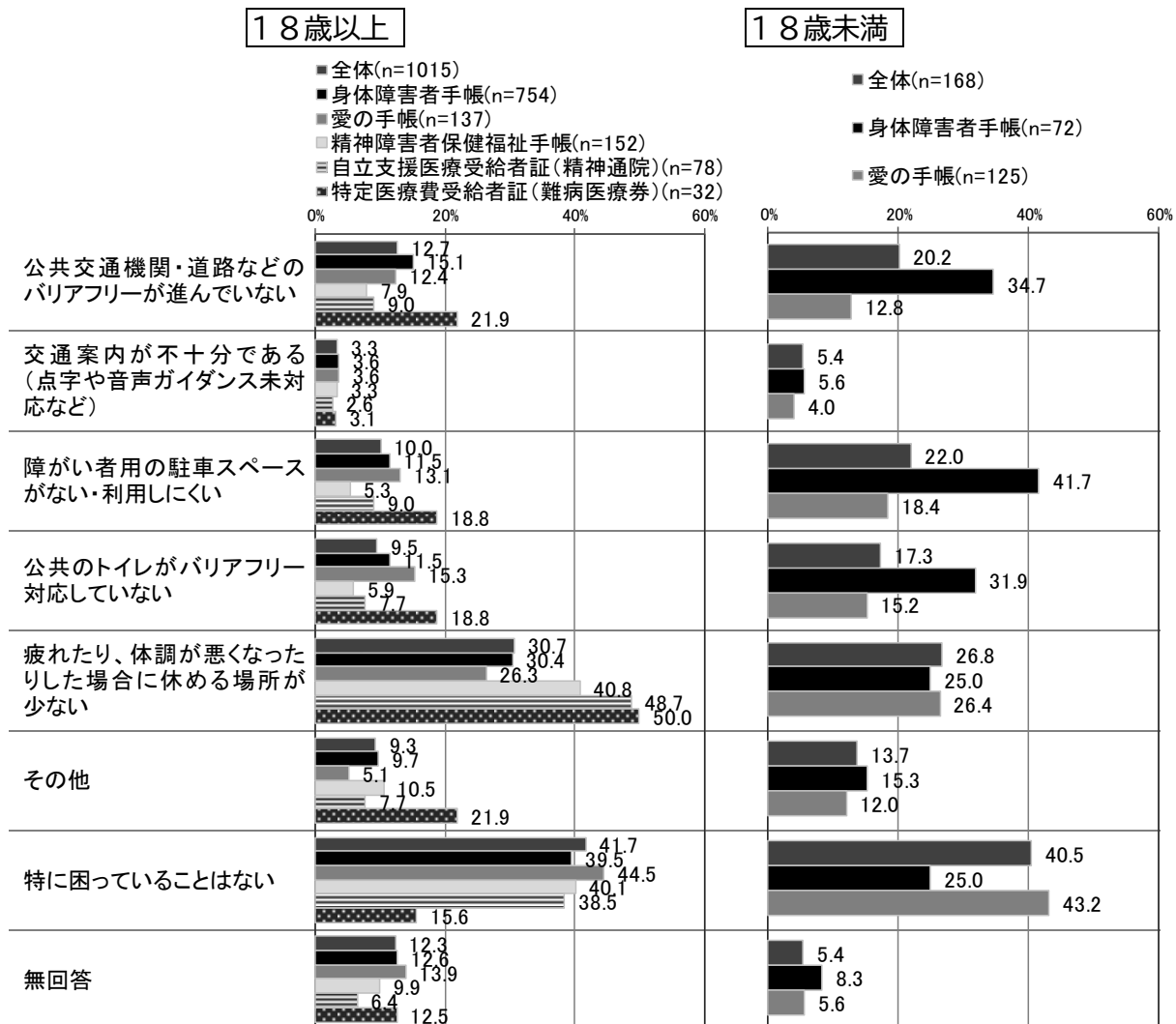
全体では、「特に困っていることはない」が41.7%と最も高く、次いで「疲れたり、体調が悪くなったりした場合に休める場所が少ない」が30.7%となっている。

手帳別に見ると、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)、特定医療費(難病医療)では、「疲れたり、体調が悪くなったりした場合に休める場所が少ない」が高い傾向である。

18歳未満

全体では、「特に困っていることはない」が40.5%と最も高く、次いで「疲れたり、体調が悪くなったりした場合に休める場所が少ない」が26.8%、「障がい者用の駐車スペースがない・利用しにくい」が22.0%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「障がい者用の駐車スペースがない・利用しにくい」(41.7%)、「公共交通機関・道路などのバリアフリーが進んでいない」(34.7%)、「公共のトイレがバリアフリー対応していない」(31.9%)が高く、愛の手帳と比較しても高い傾向である。



18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、視覚障がいでは、他の障がいと比較して「交通案内が不十分である(点字や音声ガイダンス未対応など)」(21.3%)が高い傾向である。

視覚障がい、運動機能障がいでは、他の障がいと比較して「公共交通機関・道路などのバリアフリーが進んでいない」が高い傾向である。

精神疾患では、「疲れたり、体調が悪くなったりした場合に休める場所が少ない」が42.3%と最も高く、他の障がいと比較しても高い傾向である。

(横%)	公共交通機関・道路などのバリアフリーが進んでいない	交通案内が不十分である(点字や音声ガイダンス未対応など)	障がい者のための駐車スペースがない・利用しにくい	公共のトイレがバリアフリー対応していない	疲れたり、体調が悪くなったりした場合に休める場所が少ない	その他	特に困っていることはない	無回答
全体(n=1015)	12.7	3.3	10.0	9.5	30.7	9.3	41.7	12.3
視覚障がい(n=94)	24.5	21.3	9.6	19.1	30.9	9.6	30.9	10.6
聴覚・平衡機能障がい(n=89)	12.4	3.4	10.1	10.1	24.7	16.9	46.1	11.2
音声・言語・そしゃく機能障がい(n=75)	12.0	4.0	13.3	12.0	22.7	14.7	44.0	14.7
運動機能障がい(n=330)	21.5	1.5	15.8	18.8	35.5	12.4	32.7	10.6
内部障がい(n=194)	9.8	0.5	13.9	5.2	27.3	5.7	47.4	9.8
知的障がい(n=125)	12.8	4.8	14.4	16.8	28.0	5.6	45.6	11.2
精神疾患(n=142)	8.5	2.1	6.3	4.9	42.3	9.2	39.4	10.6
高次脳機能障がい(n=15)	13.3	0.0	6.7	26.7	26.7	13.3	33.3	6.7
発達障がい(n=80)	5.0	2.5	5.0	7.5	30.0	7.5	47.5	17.5
難病(n=47)	14.9	6.4	12.8	8.5	38.3	12.8	27.7	17.0

7. 趣味・生きがいについて

(49) 趣味や生きがい

18歳以上

全体では、「特になし」が32.4%と最も高くなっている。活動の中では、「音楽の鑑賞、演奏・歌唱」(24.5%)、「スポーツ・運動(体を動かすこと)」(19.6%)などが高くなっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「特になし」が35.7%と最も高くなっている。活動の中では、「音楽の鑑賞、演奏・歌唱」(20.7%)、「スポーツ・運動(体を動かすこと)」(18.7%)などが高くなっている。

愛の手帳では、「音楽の鑑賞、演奏・歌唱」が34.3%と最も高くなっている。活動の中では、「スポーツ・運動(体を動かすこと)」(21.2%)などが高くなっている。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、「音楽の鑑賞、演奏・歌唱」が46.2%と最も高く、次いで「パソコン・インターネット」となっている。

特定医療費(難病医療)では、「特になし」が31.3%と最も高くなっている。活動の中では、「音楽の鑑賞、演奏・歌唱」(25.0%)、「スポーツ・運動(体を動かすこと)」(21.9%)などが高くなっている。

(横%)	芸術の鑑賞、創作※	音楽の鑑賞、演奏・歌唱	スポーツ・運動(体を動かすこと)	登山・ハイキング	料理	パソコン・インターネット	障がい者団体・患者会の活動	その他	特になし	無回答
全体(n=1015)	13.8	24.5	19.6	2.6	10.3	14.8	3.6	14.1	32.4	8.4
身体障害者手帳(n=754)	11.8	20.7	18.7	2.7	8.9	11.1	2.8	13.9	35.7	9.3
愛の手帳(n=137)	8.0	34.3	21.2	2.9	9.5	17.5	9.5	17.5	24.8	4.4
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	23.7	42.1	21.7	1.3	17.8	30.9	5.3	15.1	21.1	4.6
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)	29.5	46.2	26.9	1.3	21.8	32.1	3.8	17.9	16.7	2.6
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)	15.6	25.0	21.9	0.0	12.5	9.4	12.5	3.1	31.3	3.1

※絵画、写真、工芸、書道、華道、陶芸など

18歳未満

全体では、「特になし」が45.8%と最も高くなっている。活動の中では、「スポーツ・運動(体を動かすこと)」(26.8%)、「音楽の鑑賞、演奏・歌唱」(14.3%)が比較的高くなっている。

手帳別でも、概ね同様の傾向が見られる。

(横%)	芸術の鑑賞、創作	音楽の鑑賞、演奏・歌唱	スポーツ・運動(体を動かすこと)	登山・ハイキング	料理	パソコン・インターネット	障がい者団体・患者会の活動	その他	特になし	無回答
全体(n=168)	4.8	14.3	26.8	0.0	4.2	10.1	3.6	10.1	45.8	4.2
身体障害者手帳(n=72)	6.9	13.9	20.8	0.0	2.8	5.6	4.2	15.3	47.2	8.3
愛の手帳(n=125)	2.4	11.2	26.4	0.0	4.0	11.2	3.2	8.0	48.0	4.0

(50) 芸術の創作や音楽の演奏・歌唱をする上で、受けられるとよい支援

芸術の創作や音楽の演奏・歌唱をしている人に対して、受けられるとよい支援をたずねた。

18歳以上

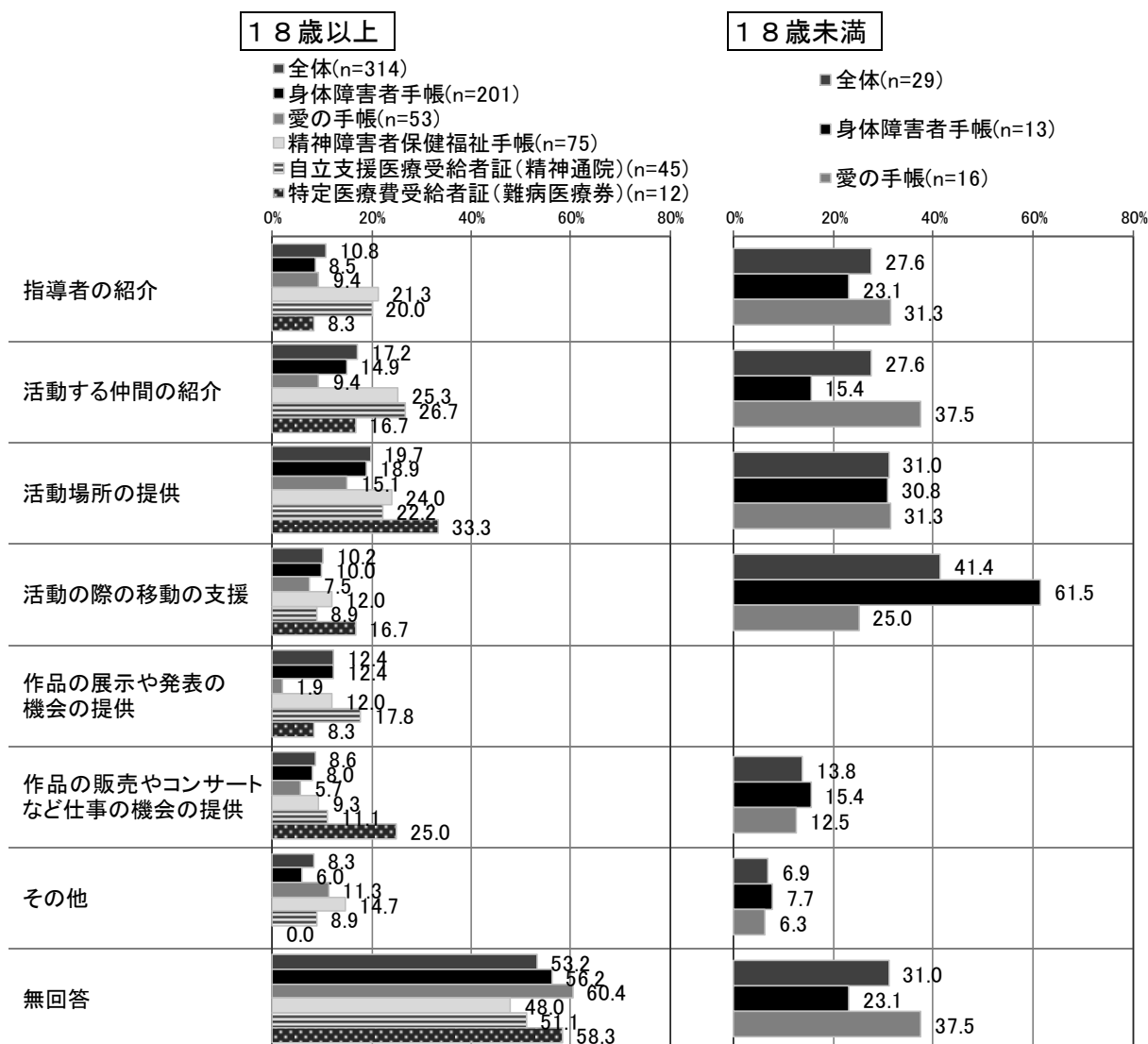
全体では、意見の中では「活動場所の提供」が19.7%と最も高く、次いで「活動する仲間の紹介」が17.2%、「作品の展示や発表の機会の提供」が12.4%となっている。

手帳別に見ると、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「指導者の紹介」、「活動する仲間の紹介」が高い傾向である。

18歳未満

全体では、「活動の際の移動の支援」が41.4%と最も高く、次いで「活動場所の提供」が31.0%、「指導者の紹介」と「活動する仲間の紹介」が27.6%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、愛の手帳と比較して「活動の際の移動の支援」が高い傾向である。



18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、視覚障がいでは、他の障がいと比較して「作品の販売やコンサートなどの仕事の機会の提供」(19.4%)の割合が高い傾向である。

運動機能障がいでは、意見の中では「活動場所の提供」が21.2%と最も高く、次いで「活動する仲間の紹介」が17.2%、「活動の際の移動の支援」が11.1%となっている。

内部障がいでは、意見の中では「活動場所の提供」が22.2%と最も高く、次いで「活動する仲間の紹介」と「作品の展示や発表の機会の提供」が14.8%となっている。

知的障がいでは、意見の中では「活動場所の提供」が15.1%と最も高くなっている。

精神疾患では、意見の中では「活動する仲間の紹介」と「活動場所の提供」が24.6%と最も高く、次いで「指導者の紹介」が20.0%となっている。

(横%)	指導者の紹介	活動する仲間の紹介	活動場所の提供	活動の際の移動の支援	作品の展示や発表の機会の提供	作品の販売やコンサートなど仕事の機会の提供	その他	無回答
全体(n=314)	10.8	17.2	19.7	10.2	12.4	8.6	8.3	53.2
視覚障がい(n=31)	6.5	16.1	16.1	19.4	16.1	19.4	0.0	54.8
聴覚・平衡機能障がい(n=15)	13.3	6.7	26.7	20.0	46.7	6.7	6.7	40.0
音声・言語・そしゃく機能障がい(n=17)	5.9	5.9	11.8	5.9	11.8	0.0	11.8	58.8
運動機能障がい(n=99)	10.1	17.2	21.2	11.1	10.1	8.1	7.1	51.5
内部障がい(n=54)	7.4	14.8	22.2	9.3	14.8	7.4	3.7	61.1
知的障がい(n=53)	9.4	9.4	15.1	7.5	1.9	5.7	11.3	60.4
精神疾患(n=65)	20.0	24.6	24.6	12.3	16.9	7.7	12.3	47.7
高次脳機能障がい(n=4)	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0
発達障がい(n=25)	24.0	20.0	32.0	12.0	8.0	4.0	16.0	44.0
難病(n=15)	6.7	13.3	13.3	6.7	13.3	13.3	0.0	66.7

(51) スポーツや運動（体を動かすこと）の取組状況

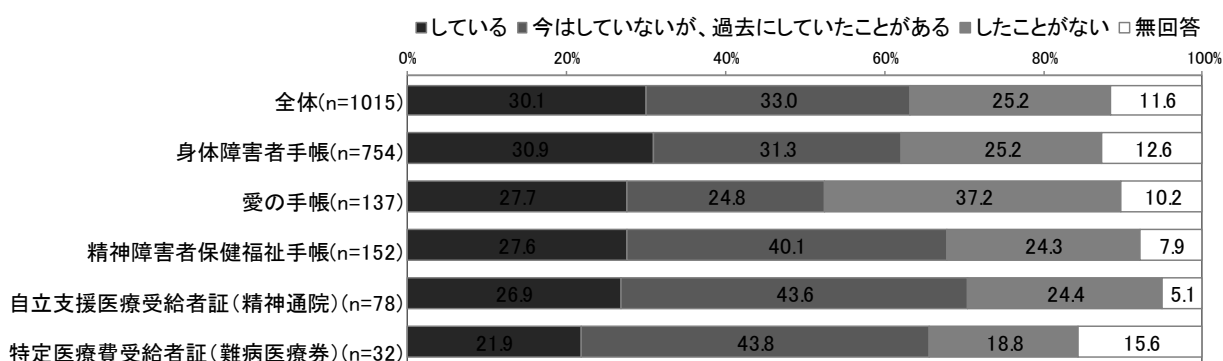
18歳以上

全体では、「今はしていないが、過去にしていたことがある」が33.0%と最も高く、次いで「している」が30.1%、「したことがない」が25.2%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「今はしていないが、過去にしていたことがある」が31.3%と最も高く、次いで「している」が30.9%、「したことがない」が25.2%となっている。

愛の手帳では、「したことがない」が37.2%と最も高く、また、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)、特定医療費(難病医療)では、「今はしていないが、過去にしていたことがある」が最も高くなっている。

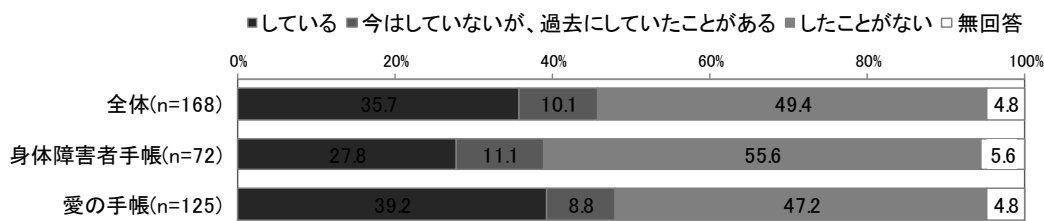


18歳未満

全体では、「したことがない」が49.4%と最も高く、次いで「している」が35.7%、「今はしていないが、過去にしていたことがある」が10.1%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「したことがない」が55.6%を占めている。

愛の手帳では、「したことがない」が47.2%と最も高くなっているが、「している」も39.2%を占めており、身体障害者手帳と比較して高い傾向である。

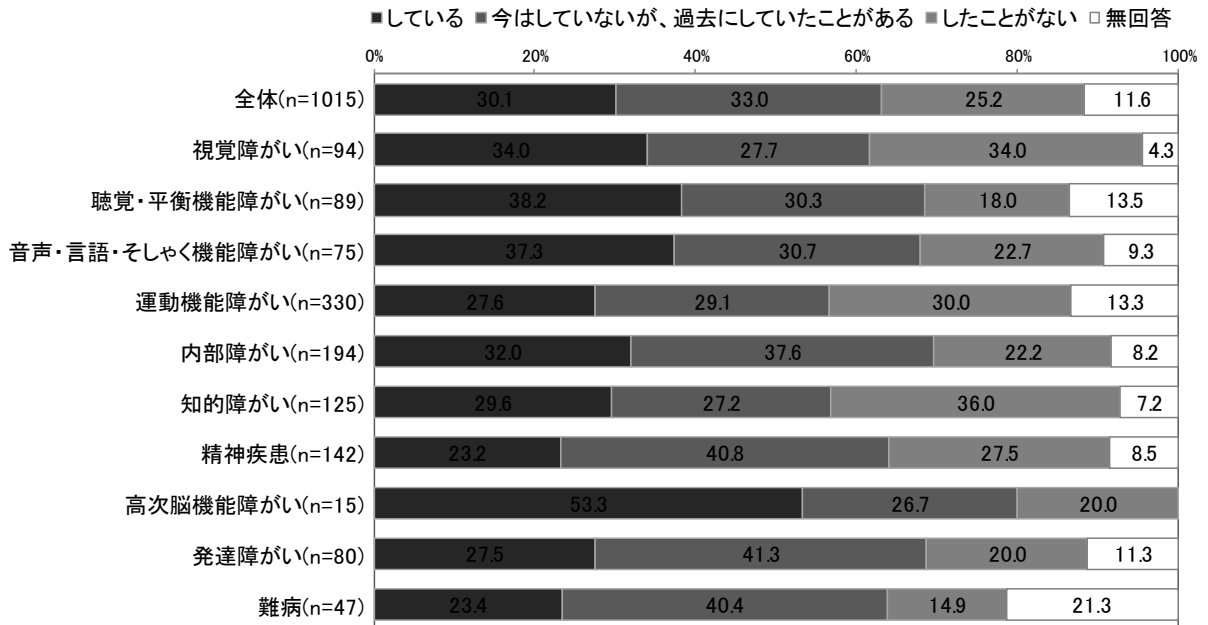


18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、聴覚・平衡機能障がい、音声・言語・そしゃく機能障がいでは、他の障がいと比較して「している」の割合が高い傾向である。

他方、精神疾患では、「している」の割合が他の障がいと比較して低い傾向である。

視覚障がい、知的障がいでは、他の障がいと比較して「したことがない」の割合が高い傾向である。



(52) スポーツや運動をする頻度

スポーツや運動をしている人に対して、頻度をたずねた。

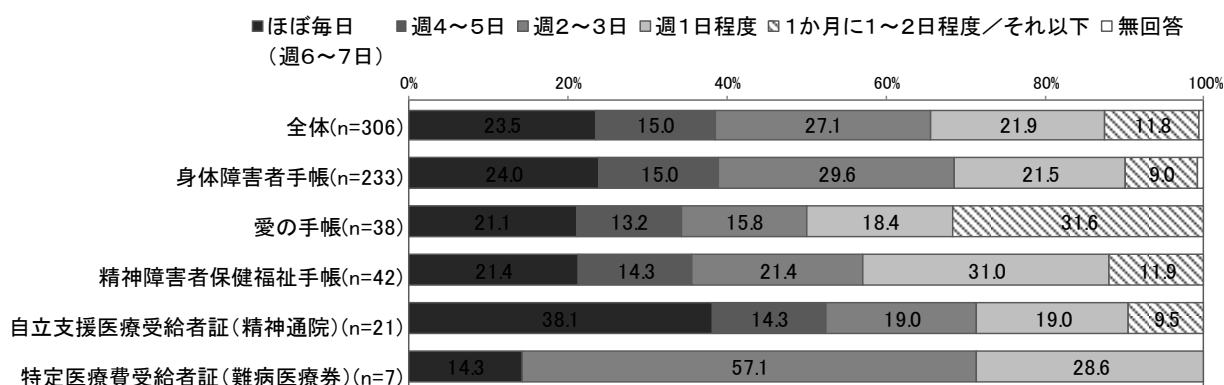
18歳以上

全体では、「週2～3日」が27.1%と最も高く、次いで「ほぼ毎日(週6～7日)」が23.5%、「週1日程度」が21.9%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「週2～3日」が29.6%と最も高く、次いで「ほぼ毎日(週6～7日)」が24.0%、「週1日程度」が21.5%となっている。

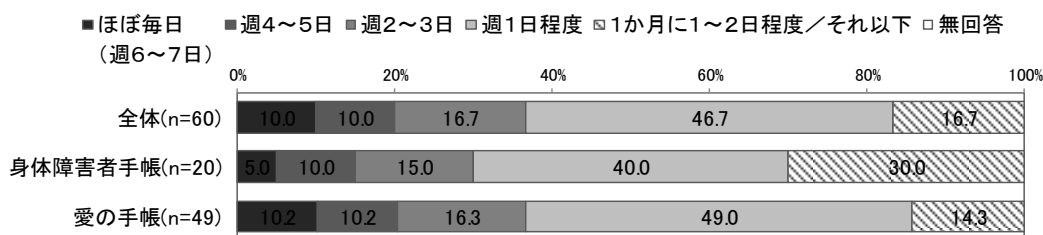
愛の手帳では、「1か月に1～2日程度/それ以下」が31.6%と最も高く、次いで「ほぼ毎日(週6～7日)」が21.1%、「週1日程度」が18.4%となっている。

精神障害者保健福祉手帳では、「週1日程度」が31.0%と最も高く、次いで「ほぼ毎日(週6～7日)」と「週2～3日」が21.4%となっている。



18歳未満

全体では、「週1日程度」が46.7%と最も高く、次いで「週2～3日」と「1か月に1～2日程度/それ以下」が16.7%となっている。



(53) スポーツや運動をしていない理由

スポーツや運動をしていない人に対して、理由をたずねた。

18歳以上

全体では、「スポーツや運動をしたいと思わない・好きではない」が24.4%と最も高く、次いで「その他」が22.3%、「体を動かすことが得意ではない」が22.0%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、「体を動かすことが得意ではない」が28.2%と最も高くなっている。また、他の手帳等と比較して「場所や環境がない」の割合が高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳、「スポーツや運動をしたいと思わない・好きではない」が29.6%と最も高く、次いで「経済的に余裕がない」と「体を動かすことが得意ではない」が27.6%となっている。

自立支援医療(精神通院)では、「体を動かすことが得意ではない」(37.7%)、「スポーツや運動をしたいと思わない・好きではない」(35.8%)、「経済的に余裕がない」(34.0%)、「一緒に取り組む仲間がいない」(24.5%)などが高く、また、他の手帳等と比較して高い傾向である。

(横%)	場所や環境がない	必要な用品や器具がそろえられない	施設の受け入れ体制が整っていない	一緒に取り組む仲間がいない	移動や準備・後片付けをサポートする人がいない	指導してくれる人がいない	時間的に余裕がない	経済的に余裕がない	どのようなスポーツや運動が合っているかわからない	体を動かすことが得意ではない	医師から止められている	スポーツや運動をしたいと思わない・好きではない	その他	無回答
全体(n=591)	11.2	3.0	4.2	13.4	5.8	6.9	13.5	14.0	12.7	22.0	8.6	24.4	22.3	10.5
身体障害者手帳(n=426)	8.2	2.3	4.0	11.5	5.9	7.0	11.7	11.3	11.5	20.7	10.3	21.8	24.4	11.5
愛の手帳(n=85)	21.2	7.1	8.2	22.4	9.4	15.3	15.3	15.3	16.5	28.2	5.9	23.5	16.5	4.7
精神障害者保健福祉手帳(n=98)	16.3	5.1	4.1	18.4	4.1	4.1	21.4	27.6	18.4	27.6	6.1	29.6	22.4	4.1
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=53)	18.9	7.5	3.8	24.5	3.8	3.8	20.8	34.0	22.6	37.7	5.7	35.8	15.1	1.9
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=20)	10.0	0.0	0.0	15.0	5.0	0.0	10.0	0.0	15.0	15.0	20.0	25.0	15.0	15.0

18歳未満

全体では、「病気や障がいのため」が31.0%と最も高く、次いで「どんなスポーツや運動をしてよいかかわからない」が23.0%、「スポーツや運動が得意ではない」が20.0%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「病気や障がいのため」が52.1%を占める。

愛の手帳では、「どんなスポーツや運動をしてよいかかわからない」が27.1%と最も高く、次いで「スポーツや運動が得意ではない」と「病気や障がいのため」が24.3%となっている。

(横%)	スポーツや運動をする場所がない	スポーツや運動をする仲間がいない	どんなスポーツや運動をしてよいかかわからない	スポーツや運動が得意ではない	病気や障がいのため	スポーツや運動が好きではない	その他	無回答
全体(n=100)	18.0	15.0	23.0	20.0	31.0	12.0	17.0	2.0
身体障害者手帳(n=48)	12.5	8.3	16.7	8.3	52.1	6.3	18.8	4.2
愛の手帳(n=70)	21.4	17.1	27.1	24.3	24.3	12.9	15.7	0.0

(54) 障がい者がスポーツや運動に取り組みやすくなると思う支援など

18歳以上

全体では、「障がいがあっても利用しやすいスポーツ施設の整備」が27.7%と最も高く、次いで「わからない」が27.3%、「本人に合ったスポーツや運動について医療の側からのアドバイス」が21.9%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「わからない」(27.2%)以外では、「障がいがあっても利用しやすいスポーツ施設の整備」(25.6%)、「本人に合ったスポーツや運動について医療の側からのアドバイス」(21.9%)などが高くなっている。

愛の手帳では、「障がいがあっても利用しやすいスポーツ施設の整備」(40.9%)、「障がい者スポーツを指導できる人や専門のスタッフの配置」(39.4%)が高く、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳では、「障がいがあっても利用しやすいスポーツ施設の整備」が30.9%と最も高く、次いで「補助など経済的な支援」が29.6%、「本人に合ったスポーツや運動について医療の側からのアドバイス」が27.6%となっている。

自立支援医療(精神通院)では、「障がいがあっても利用しやすいスポーツ施設の整備」が30.8%と最も高く、「わからない」が29.5%、「時間的な余裕」と「本人に合ったスポーツや運動について医療の側からのアドバイス」が28.2%となっている。

特定医療費(難病医療)では、「障がいがあっても利用しやすいスポーツ施設の整備」が40.6%と最も高く、次いで「本人に合ったスポーツや運動について医療の側からのアドバイス」が37.5%となっている。

(横%)	障がいがあっても利用しやすいスポーツ施設の整備	障がい者用のスポーツ用品・器具の提供	障がい者スポーツを指導できる人や専門のスタッフの配置	障がい者同士で一緒に取り組む仲間の確保	障がい者スポーツに参加してくれるボランティア等の増加	移動や準備・後片付けなどのサポート	時間的な余裕	補助など経済的な支援	本人に合ったスポーツや運動について医療の側からのアドバイス	巡回指導や専門家の派遣	普及のための広報やイベント	その他	わからない	無回答
全体(n=1015)	27.7	10.9	19.6	14.4	9.8	9.3	10.5	14.0	21.9	5.5	10.6	4.0	27.3	19.4
身体障害者手帳(n=754)	25.6	10.5	17.5	13.3	8.0	8.5	8.9	11.3	21.9	5.3	9.2	3.8	27.2	21.9
愛の手帳(n=137)	40.9	14.6	39.4	19.7	25.5	15.3	8.8	20.4	24.8	7.3	16.1	2.2	29.2	11.7
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	30.9	15.8	25.0	22.4	12.5	11.8	21.1	29.6	27.6	7.9	16.4	7.2	26.3	9.2
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)	30.8	15.4	16.7	23.1	10.3	11.5	21.8	28.2	28.2	6.4	16.7	7.7	29.5	5.1
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)	40.6	9.4	25.0	15.6	18.8	18.8	28.1	18.8	37.5	9.4	12.5	0.0	12.5	15.6

(55) これまでにしたことがあるスポーツ・運動

18歳以上

全体では、「ウォーキング」が52.9%と最も高く、次いで「水泳・プール」が29.6%、「ボウリング」が24.9%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、「水泳・プール」が48.2%と最も高く、次いで「ウォーキング」が45.3%となっている。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、「ウォーキング」のほか、「水泳・プール」、「ボウリング」、「卓球」などが高く、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

	ウォーキング	ランニング・マラソン	体操・ヨガ・太極拳	ダンス・エアロビクス	水泳・プール	野球・ソフトボール	サッカー・フットサル	バスケットボール	バレーボール・ソフトバレーボール	テニス・ソフトテニス	バドミントン	卓球
(横%)												
全体(n=1015)	52.9	13.6	13.3	9.7	29.6	14.6	8.1	8.6	9.5	11.6	11.1	19.1
身体障害者手帳(n=754)	52.1	10.2	11.9	7.3	24.7	13.4	5.4	5.7	8.0	10.2	8.0	16.6
愛の手帳(n=137)	45.3	13.9	6.6	15.3	48.2	7.3	10.2	10.2	3.6	10.2	13.9	13.1
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	62.5	30.3	23.7	15.8	49.3	23.0	20.4	21.7	22.4	21.7	26.3	35.5
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)	53.8	30.8	26.9	14.1	48.7	23.1	21.8	25.6	26.9	21.8	29.5	35.9
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)	68.8	21.9	18.8	9.4	34.4	21.9	6.3	9.4	9.4	18.8	12.5	34.4
	スケート	スキー・スノーボード	柔道・剣道・空手・テコンドー・合気道	ゲートボール	ボウリング	登山・ハイキング	サイクリング	筋力トレーニング	ポッチャ	その他	無回答	
全体(n=1015)	11.6	14.7	8.1	2.3	24.9	15.1	11.3	15.1	2.8	5.9	21.7	
身体障害者手帳(n=754)	11.1	12.1	7.2	2.0	21.5	15.1	10.2	13.8	2.7	5.0	23.6	
愛の手帳(n=137)	4.4	10.2	2.9	0.7	29.2	7.3	9.5	8.0	9.5	10.2	21.2	
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	18.4	27.6	15.8	4.6	40.8	19.7	17.1	26.3	3.3	6.6	12.5	
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)	23.1	28.2	12.8	6.4	42.3	20.5	24.4	25.6	1.3	5.1	15.4	
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)	6.3	3.1	3.1	6.3	25.0	15.6	21.9	21.9	3.1	6.3	18.8	

18歳未満

全体では、「水泳・プール」が44.0%と最も高く、次いで「ウォーキング」が28.6%、「ランニング・マラソン」と「ポッチャ」が21.4%となっている。

手帳別でも、概ね同様の傾向が見られる。

	ウォーキング	ランニング・マラソン	体操・ヨガ・太極拳	ダンス・エアロビクス	水泳・プール	野球・ソフトボール	サッカー・フットサル	バスケットボール	バレーボール・ソフトバレーボール	テニス・ソフトテニス	バドミントン	卓球
(横%)												
全体(n=168)	28.6	21.4	10.1	6.5	44.0	4.8	13.1	7.7	4.8	4.2	6.5	8.3
身体障害者手帳(n=72)	23.6	15.3	8.3	5.6	41.7	6.9	8.3	5.6	5.6	4.2	8.3	9.7
愛の手帳(n=125)	29.6	21.6	9.6	6.4	42.4	2.4	12.8	7.2	3.2	3.2	4.0	5.6
	スケート	スキー・スノーボード	柔道・剣道・空手・テコンドー・合気道	ゲートボール	ボウリング	登山・ハイキング	サイクリング	筋力トレーニング	ポッチャ	その他	無回答	
全体(n=168)	6.5	6.0	4.2	0.0	16.1	8.3	7.1	7.7	21.4	14.9	24.4	
身体障害者手帳(n=72)	8.3	6.9	5.6	0.0	13.9	11.1	4.2	11.1	29.2	18.1	30.6	
愛の手帳(n=125)	4.0	4.0	2.4	0.0	16.0	5.6	7.2	5.6	20.0	14.4	20.0	

(56) 今後も取り組みたいスポーツ・運動

18歳以上

全体では、「ウォーキング」が39.4%と最も高く、次いで「筋力トレーニング」が13.8%、「水泳・プール」が13.3%となっている。

手帳別に見ると、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「筋力トレーニング」、「体操・ヨガ・太極拳」がやや高い傾向である。

	ウォーキング	ランニング・マラソン	体操・ヨガ・太極拳	ダンス・エアロビクス	水泳・プール	野球・ソフトボール	サッカー・フットサル	バスケットボール	バレーボール・ソフトバレーボール	テニス・ソフトテニス	バドミントン	卓球
(横%)												
全体(n=1015)	39.4	4.8	10.8	5.0	13.3	2.1	2.2	1.2	2.0	2.9	2.8	5.0
身体障害者手帳(n=754)	38.2	3.8	9.9	3.3	12.9	1.9	1.6	0.8	1.7	2.5	1.7	4.2
愛の手帳(n=137)	40.1	5.8	10.2	10.9	19.7	2.9	3.6	3.6	2.2	5.8	3.6	5.1
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	45.4	8.6	15.8	9.9	15.8	3.3	4.6	1.3	4.6	4.6	7.9	9.2
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)	44.9	9.0	23.1	12.8	16.7	5.1	2.6	2.6	3.8	3.8	5.1	6.4
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)	53.1	6.3	12.5	6.3	18.8	9.4	6.3	3.1	3.1	6.3	9.4	12.5
	スケート	スキー・スノーボード	柔道・剣道・空手・テコンドー・合気道	ゲートボール	ボウリング	登山・ハイキング	サイクリング	筋力トレーニング	ボッチャ	その他	無回答	
全体(n=1015)	1.8	3.3	2.0	2.1	6.2	6.1	5.4	13.8	1.6	4.1	43.6	
身体障害者手帳(n=754)	1.5	2.7	1.2	2.3	5.8	5.8	4.6	13.1	1.7	3.1	46.4	
愛の手帳(n=137)	2.2	4.4	1.5	2.2	10.2	5.1	5.8	8.8	4.4	8.8	39.4	
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	3.9	5.3	5.9	2.6	6.6	8.6	8.6	21.7	2.0	5.3	32.9	
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)	6.4	3.8	2.6	3.8	6.4	9.0	11.5	23.1	1.3	2.6	32.1	
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)	9.4	3.1	3.1	3.1	18.8	6.3	6.3	15.6	3.1	6.3	34.4	

18歳未満

全体では、「水泳・プール」が41.7%と最も高く、次いで「ウォーキング」が21.4%、「ボッチャ」が14.9%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、身体障害者手帳と比較して「ウォーキング」、「ランニング・マラソン」などで高い傾向となっている。

	ウォーキング	ランニング・マラソン	体操・ヨガ・太極拳	ダンス・エアロビクス	水泳・プール	野球・ソフトボール	サッカー・フットサル	バスケットボール	バレーボール・ソフトバレーボール	テニス・ソフトテニス	バドミントン	卓球
(横%)												
全体(n=168)	21.4	10.7	11.3	13.1	41.7	6.5	9.5	6.0	2.4	3.0	4.8	7.1
身体障害者手帳(n=72)	11.1	2.8	5.6	12.5	37.5	8.3	8.3	4.2	0.0	2.8	5.6	6.9
愛の手帳(n=125)	24.8	13.6	12.8	13.6	44.0	4.0	8.8	5.6	3.2	2.4	3.2	6.4
	スケート	スキー・スノーボード	柔道・剣道・空手・テコンドー・合気道	ゲートボール	ボウリング	登山・ハイキング	サイクリング	筋力トレーニング	ボッチャ	その他	無回答	
全体(n=168)	3.0	6.5	3.0	0.0	10.1	6.5	5.4	12.5	14.9	13.7	26.8	
身体障害者手帳(n=72)	4.2	8.3	2.8	0.0	9.7	6.9	4.2	12.5	25.0	16.7	31.9	
愛の手帳(n=125)	2.4	4.0	2.4	0.0	8.8	5.6	4.8	11.2	11.2	12.8	24.8	

8. 障がい福祉サービスについて

(57) 現在利用しているサービス

18歳以上

全体では、サービスの中では「補装具」が9.6%と最も高く、次いで「外出する際の支援(同行援護・行動援護・移動支援)」が9.5%、「ホームヘルプなど(居宅介護・重度訪問介護)」が7.7%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、サービスの中では「外出する際の支援(同行援護・行動援護・移動支援)」(29.9%)、「サービス利用のプラン作成(計画相談支援)」(24.8%)、「日中の施設利用(生活介護)」(23.4%)などが高く、他の手帳等と比較しても高くなっている。

愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、サービスの中では「就労に向けた支援(就労移行支援・就労継続支援A型・B型)」の割合がやや高い傾向である。

特定医療費(難病医療)では、サービスの中では「補装具」が18.8%と最も高く、他の手帳等と比較して高い傾向である。

	項目なし	項目なし	項目なし	ホームヘルプなど(居宅介護・重度訪問介護)	外出する際の支援(同行援護・行動援護・移動支援)	一時的な預かり(ショートステイ・日中一時支援)	日中の施設利用(生活介護)	自立した生活に向けた訓練(自立訓練)	就労に向けた支援(就労移行支援・就労継続支援A型・B型)	地域生活を実現するための支援(地域移行支援・地域定着支援)	サービス利用のプラン作成(計画相談支援)	補装具	無回答
(横%)													
全体(n=1015)				7.7	9.5	5.0	7.1	2.6	4.7	2.1	7.2	9.6	70.0
身体障害者手帳(n=754)				8.9	9.2	4.9	7.0	2.5	1.5	1.9	6.8	12.2	70.7
愛の手帳(n=137)				13.1	29.9	14.6	23.4	3.6	16.8	2.9	24.8	10.2	41.6
精神障害者保健福祉手帳(n=152)				4.6	4.6	4.6	3.9	3.9	13.2	2.6	5.3	2.0	70.4
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)				6.4	5.1	5.1	6.4	5.1	10.3	1.3	7.7	0.0	70.5
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)				9.4	6.3	6.3	0.0	3.1	6.3	3.1	12.5	18.8	59.4

18歳未満

全体では、「放課後や休日に通って受ける訓練(放課後等デイサービス)」が48.8%と最も高く、次いで「療育(児童発達支援)」が31.0%、「補装具」が27.4%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、愛の手帳と比較して「補装具」(55.6%)が高い傾向にあり、愛の手帳では、身体障害者手帳と比較して「療育(児童発達支援)」(33.6%)が高い傾向である。

	療育(児童発達支援)	放課後や休日に通って受ける訓練(放課後等デイサービス)	通園先の保育園などを訪問して行う適応指導など(保育所等訪問支援)	ホームヘルプなど(居宅介護・重度訪問介護)	外出する際の支援(同行援護・行動援護・移動支援)	一時的な預かり(ショートステイ・日中一時支援)	項目なし	項目なし	項目なし	項目なし	サービス利用のプラン作成(障害児相談支援)	補装具	無回答
(横%)													
全体(n=168)	31.0	48.8	5.4	8.3	12.5	11.3					22.6	27.4	22.6
身体障害者手帳(n=72)	22.2	48.6	6.9	15.3	15.3	18.1					30.6	55.6	15.3
愛の手帳(n=125)	33.6	52.8	5.6	4.8	12.0	10.4					22.4	20.0	22.4

(58) 今後利用したいサービス

18歳以上

全体では、サービスの中では「外出する際の支援(同行援護・行動援護・移動支援)」が17.4%と最も高く、次いで「ホームヘルプなど(居宅介護・重度訪問介護)」が11.8%、「補装具」が10.7%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、他の手帳等と比較して「外出する際の支援(同行援護・行動援護・移動支援)」、「一時的な預かり(ショートステイ・日中一時支援)」、「日中施設利用(生活介護)」などが高く、他の手帳等と比較しても高くなっている。

愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「就労に向けた支援(就労移行支援・就労継続支援A型・B型)」の割合がやや高い傾向である。

特定医療受給者証(難病医療券)では、サービスの中では「サービス利用プランの作成(計画相談支援)」が31.3%と最も高く、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

	(項目なし)	(項目なし)	(項目なし)	ホームヘルプなど(居宅介護・重度訪問介護)	外出する際の支援(同行援護・行動援護・移動支援)	一時的な預かり(ショートステイ・日中一時支援)	日中の施設利用(生活介護)	自立した生活に向けた訓練(自立訓練)	就労に向けた支援(就労移行支援・就労継続支援A型・B型)	地域生活を実現するための支援(地域移行支援・地域定着支援)	サービス利用プラン作成(計画相談支援)	補装具	無回答
(横%)													
全体(n=1015)				11.8	17.4	10.5	10.4	8.9	7.4	5.7	10.5	10.7	55.5
身体障害者手帳(n=754)				13.7	17.4	10.5	10.9	8.1	4.0	5.4	10.3	13.8	56.2
愛の手帳(n=137)				13.1	37.2	27.0	22.6	13.9	16.8	8.8	23.4	8.8	36.5
精神障害者保健福祉手帳(n=152)				7.9	13.8	7.9	11.2	13.8	17.8	9.2	10.5	3.9	54.6
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)				12.8	15.4	9.0	12.8	16.7	16.7	7.7	11.5	3.8	59.0
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)				18.8	28.1	18.8	15.6	9.4	12.5	3.1	31.3	12.5	40.6

18歳未満

全体では、「放課後や休日に通って受ける訓練(放課後等デイサービス)」が48.8%と最も高く、次いで「一時的な預かり(ショートステイ・日中一時支援)」が42.9%、「外出する際の支援(同行援護・行動援護・移動支援)」が39.9%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「一時的な預かり(ショートステイ・日中一時支援)」が50.0%と最も高くなっている。また、愛の手帳と比較して「補装具」が高い傾向である。

愛の手帳では、身体障害者手帳と比較して「療育(児童発達支援)」(32.8%)が高い傾向である。

	療育(児童発達支援)	放課後や休日に通って受ける訓練(放課後等デイサービス)	通園先や保育園などを訪問して行う適応指導など(保育所等訪問支援)	ホームヘルプなど(居宅介護・重度訪問介護)	外出する際の支援(同行援護・行動援護・移動支援)	一時的な預かり(ショートステイ・日中一時支援)	(項目なし)	(項目なし)	(項目なし)	(項目なし)	サービス利用プラン作成(障害児相談支援)	補装具	無回答
(横%)													
全体(n=168)	27.4	48.8	6.5	10.7	39.9	42.9					31.0	22.0	22.6
身体障害者手帳(n=72)	18.1	45.8	11.1	19.4	41.7	50.0					34.7	45.8	22.2
愛の手帳(n=125)	32.8	52.0	5.6	8.8	40.0	44.0					31.2	15.2	20.8

(59) (障がい別) 現在利用しているサービス、今後利用したいサービス

18歳以上：障がい別

現在利用しているサービス

該当する障がい別に見ると、知的障がいでは、サービスの中では「外出する際の支援(同行援護・行動援護・移動支援)」(31.2%)、「サービス利用のプラン作成(計画相談支援)」(25.6%)、「日中の施設利用(生活介護)」(24.0%)などが高く、他の手帳等と比較しても高い傾向となっている。内部障がいでは、他の手帳等と比較してサービス利用が少ない傾向である。

(横%)	ホームヘルプなど(居宅介護・重度訪問介護)	外出する際の支援(同行援護・行動援護・移動支援)	一時的な預かり(ショートステイ・日中一時支援)	日中の施設利用(生活介護)	自立した生活に向けた訓練(自立訓練)	就労に向けた支援(就労移行支援・就労継続支援A型・B型)	地域生活を実現するための支援(地域移行支援・地域定着支援)	サービス利用のプラン作成(計画相談支援)	補装具	無回答
全体(n=1015)	7.7	9.5	5.0	7.1	2.6	4.7	2.1	7.2	9.6	70.0
視覚障がい(n=94)	6.4	16.0	6.4	8.5	5.3	1.1	2.1	7.4	14.9	62.8
聴覚・平衡機能障がい(n=89)	7.9	6.7	4.5	4.5	4.5	3.4	4.5	7.9	16.9	67.4
音声・言語・そしゃく機能障がい(n=75)	12.0	8.0	6.7	13.3	2.7	1.3	2.7	10.7	9.3	70.7
運動機能障がい(n=330)	14.2	14.2	6.7	12.1	3.3	1.5	1.5	11.5	17.3	62.1
内部障がい(n=194)	5.7	4.1	4.6	4.1	0.5	1.0	1.0	5.2	5.7	79.9
知的障がい(n=125)	13.6	31.2	16.0	24.0	5.6	16.8	3.2	25.6	10.4	39.2
精神疾患(n=142)	5.6	3.5	4.9	4.2	4.2	12.7	2.8	4.9	2.1	71.1
高次脳機能障がい(n=15)	26.7	13.3	13.3	20.0	6.7	6.7	6.7	6.7	26.7	26.7
発達障がい(n=80)	3.8	10.0	5.0	7.5	2.5	10.0	0.0	3.8	5.0	67.5
難病(n=47)	8.5	10.6	8.5	6.4	2.1	6.4	0.0	10.6	14.9	61.7

今後利用したいサービス

該当する障がい別に見ると、視覚障害、知的障がいでは、他の障がいと比較して、「外出する際の支援(同行援護・行動援護・移動支援)」が高くなっている。

知的障がいでは、サービスの中では「一時的な預かり(ショートステイ・日中一時支援)」(31.2%)、「サービス利用のプラン作成(計画相談支援)」(24.0%)などが高い傾向である。

知的障がい、精神疾患、発達障がいでは、他の障がいと比較して、「就労に向けた支援(就労移行支援・就労継続支援A型・B型)」の割合がやや高い傾向である。

(横%)	ホームヘルプなど(居宅介護・重度訪問介護)	外出する際の支援(同行援護・行動援護・移動支援)	一時的な預かり(ショートステイ・日中一時支援)	日中の施設利用(生活介護)	自立した生活に向けた訓練(自立訓練)	就労に向けた支援(就労移行支援・就労継続支援A型・B型)	地域生活を実現するための支援(地域移行支援・地域定着支援)	サービス利用のプラン作成(計画相談支援)	補装具	無回答
全体(n=1015)	11.8	17.4	10.5	10.4	8.9	7.4	5.7	10.5	10.7	55.5
視覚障がい(n=94)	16.0	36.2	10.6	8.5	9.6	6.4	6.4	11.7	17.0	38.3
聴覚・平衡機能障がい(n=89)	12.4	14.6	10.1	9.0	6.7	3.4	7.9	6.7	20.2	58.4
音声・言語・そしゃく機能障がい(n=75)	17.3	13.3	12.0	17.3	8.0	4.0	8.0	10.7	16.0	58.7
運動機能障がい(n=330)	18.2	21.8	15.2	14.8	10.0	2.4	4.8	14.8	18.2	49.4
内部障がい(n=194)	10.3	10.3	7.7	8.8	4.6	5.2	5.2	8.2	6.7	65.5
知的障がい(n=125)	16.0	39.2	31.2	22.4	14.4	17.6	9.6	24.0	10.4	32.8
精神疾患(n=142)	9.9	13.4	7.7	10.6	14.8	17.6	8.5	10.6	4.2	52.8
高次脳機能障がい(n=15)	13.3	6.7	20.0	6.7	6.7	6.7	6.7	0.0	13.3	40.0
発達障がい(n=80)	5.0	16.3	12.5	13.8	15.0	20.0	7.5	10.0	2.5	51.3
難病(n=47)	12.8	17.0	17.0	8.5	8.5	8.5	2.1	12.8	10.6	48.9

(60) 障がい福祉サービスの利用時の相談先

障がい福祉サービスを利用している人に対して、利用にあたって相談したところをたずねた。

18歳以上

全体では、「障がい福祉課各援護係」が43.3%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が25.9%、「医療機関」が16.4%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「障がい福祉課各援護係」が45.2%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が33.5%、「医療機関」が19.5%となっている。

愛の手帳では、「障がい福祉課各援護係」が65.0%と最も高く、次いで「相談支援事業所」が31.3%、「障がい福祉サービス事業所」が23.8%となっている。

精神障害者保健福祉手帳では、「保健所・保健センター」が51.1%と最も高く、次いで「障がい福祉課各援護係」が24.4%、「相談支援事業所」が15.6%となっている。

(横%)	障がい福祉課各援護係	障がい福祉センターあしすと	保健所・保健センター	地域包括支援センター	項目なし	相談支援事業所	障がい福祉サービス事業所	医療機関	学校	その他	どこにも相談していない	無回答
全体(n=305)	43.3	12.1	11.1	25.9		12.5	14.8	16.4	3.0	8.5	7.2	3.3
身体障害者手帳(n=221)	45.2	10.4	6.3	33.5		10.4	14.0	19.5	3.2	8.6	6.8	2.7
愛の手帳(n=80)	65.0	15.0	7.5	6.3		31.3	23.8	12.5	10.0	8.8	3.8	5.0
精神障害者保健福祉手帳(n=45)	24.4	13.3	51.1	13.3		15.6	8.9	13.3	0.0	11.1	11.1	4.4
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=23)	30.4	13.0	52.2	26.1		8.7	4.3	30.4	0.0	13.0	13.0	0.0
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=13)	30.8	0.0	38.5	38.5		7.7	15.4	23.1	7.7	30.8	0.0	0.0

18歳未満

全体では、「障がい福祉課各援護係」が55.4%と最も高く、次いで「相談支援事業所」が26.2%、「医療機関」が25.4%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「障がい福祉課各援護係」が63.9%と最も高く、次いで「医療機関」が31.1%、「相談支援事業所」が27.9%となっている。

愛の手帳では、「障がい福祉課各援護係」が54.6%と最も高く、次いで「相談支援事業所」が26.8%、「障がい福祉センターあしすと」と「医療機関」が20.6%となっている。

(横%)	障がい福祉課各援護係	障がい福祉センターあしすと	保健所・保健センター	項目なし	子ども支援センターげんき	相談支援事業所	障がい福祉サービス事業所	医療機関	学校	その他	どこにも相談していない	無回答
全体(n=130)	55.4	16.2	10.0		16.2	26.2	15.4	25.4	15.4	8.5	6.2	0.8
身体障害者手帳(n=61)	63.9	3.3	11.5		9.8	27.9	18.0	31.1	14.8	8.2	6.6	1.6
愛の手帳(n=97)	54.6	20.6	8.2		17.5	26.8	17.5	20.6	13.4	10.3	4.1	0.0

(61) 利用中のサービス事業者を選択した理由

障がい福祉サービスを利用している人に対して、利用している事業者の選択理由をたずねた。

18歳以上

全体では、「相談支援事業所・地域包括支援センターなどから紹介された」が27.2%と最も高く、次いで「障がい福祉課援護係や保健所・保健センターから紹介された」が18.4%、「以前に利用経験があった」が17.7%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「相談支援事業所・地域包括支援センターなどから紹介された」が31.2%と最も高く、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

愛の手帳では、「知人や家族会などの評判がよかった」が27.5%と最も高く、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳では、「障がい福祉課援護係や保健所・保健センターから紹介された」が28.9%と最も高く、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

	以前に 利用経 験があ った	知人や 家族会 などの 評判が よかつ た	障がい 福祉課 援護係 や保健 所・保 健セン ターか ら紹介 された	相談支 援事業 所・地 域包括 支援セ ンター などか ら紹介 された	イン ター ネット で情 報収 集し て利 用し たい と思 った	事業 者の 説明 を受け て利 用し たい と思 った	近所 で利 用し やす い	その他	特に理 由はな い	無回答
(横%)										
全体(n=305)	17.7	12.8	18.4	27.2	2.3	8.2	15.7	12.5	11.1	8.5
身体障害者手帳(n=221)	17.2	10.4	16.7	31.2	1.4	8.1	15.8	11.3	11.3	9.5
愛の手帳(n=80)	20.0	27.5	20.0	15.0	0.0	8.8	15.0	12.5	8.8	11.3
精神障害者保健福祉手帳(n=45)	22.2	13.3	28.9	15.6	8.9	13.3	22.2	20.0	11.1	4.4
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=23)	34.8	17.4	17.4	21.7	0.0	13.0	26.1	30.4	4.3	13.0
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=13)	30.8	23.1	15.4	23.1	0.0	7.7	23.1	30.8	0.0	0.0

18歳未満

全体では、「知人や家族会などの評判がよかった」が27.7%と最も高く、次いで「インターネットで情報収集して利用したいと思った」が22.3%、「障がい福祉課援護係や保健所・保健センターから紹介された」が21.5%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、愛の手帳と比較して「インターネットで情報収集して利用したいと思った」が低い傾向である。

	以前に 利用経 験があ った	知人や 家族会 などの 評判が よかつ た	障がい 福祉課 援護係 や保健 所・保 健セン ターか ら紹介 された	相談支 援事業 所から 紹介さ れた※	イン ター ネット で情 報収 集し て利 用し たい と思 った	事業 者の 説明 を受け て利 用し たい と思 った	近所 で利 用し やす い	その他	特に理 由はな い	無回答
(横%)										
全体(n=130)	15.4	27.7	21.5	11.5	22.3	14.6	18.5	14.6	4.6	3.1
身体障害者手帳(n=61)	14.8	24.6	21.3	13.1	13.1	14.8	18.0	21.3	6.6	6.6
愛の手帳(n=97)	15.5	32.0	21.6	12.4	24.7	16.5	21.6	12.4	4.1	1.0

※18歳以上では「障がい福祉課援護係や保健所・保健センターから紹介された」で聴取

(62) 利用中の障がい福祉サービスの満足度

障がい福祉サービスを利用している人に対して、利用中の障がい福祉サービスの満足度をたずねた。

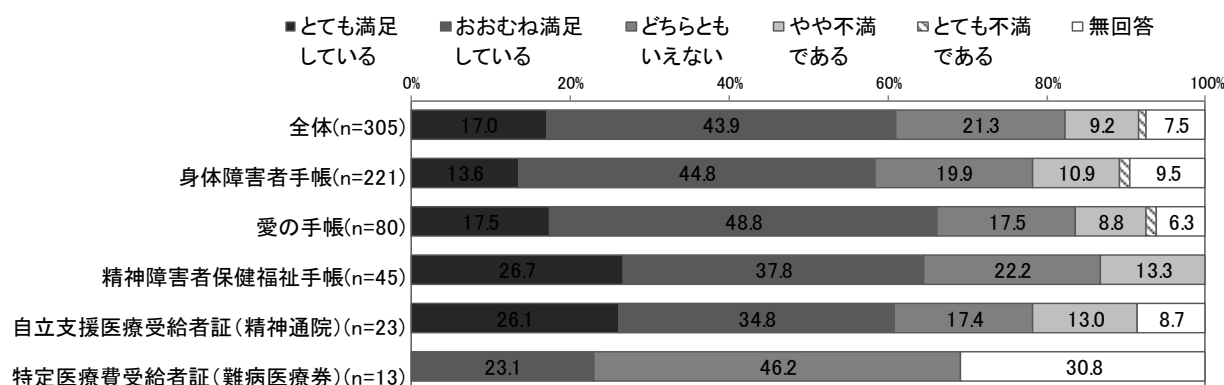
18歳以上

全体では、「おおむね満足している」が43.9%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が21.3%、「とても満足している」が17.0%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「おおむね満足している」が44.8%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が19.9%、「とても満足している」が13.6%となっている。

愛の手帳では、「おおむね満足している」が48.8%と最も高く、「とても満足している」(17.5%)と併せて、満足している人の割合が他の手帳等と比較してやや高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳では、「おおむね満足している」が37.8%と最も高く、次いで「とても満足している」が26.7%となっている。また、他の手帳等と比較して「とても満足している」の割合が高い傾向である。

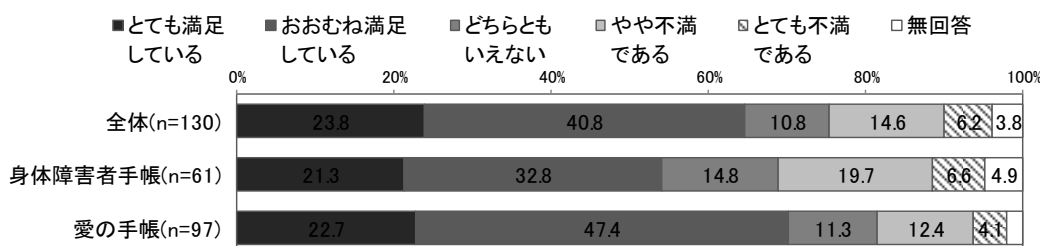


18歳未満

全体では、「おおむね満足している」が40.8%と最も高く、次いで「とても満足している」が23.8%、「やや不満である」が14.6%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「おおむね満足している」が32.8%と最も高く、次いで「とても満足している」が21.3%となっているが、愛の手帳と比較して「やや不満である」(19.7%)の割合がやや高い傾向である。

愛の手帳では、「おおむね満足している」が47.4%と最も高く、次いで「とても満足している」が22.7%となっている。身体障害者手帳と比較して満足している人の割合が高い傾向である。



(63) 利用中の障がい福祉サービスの不満点

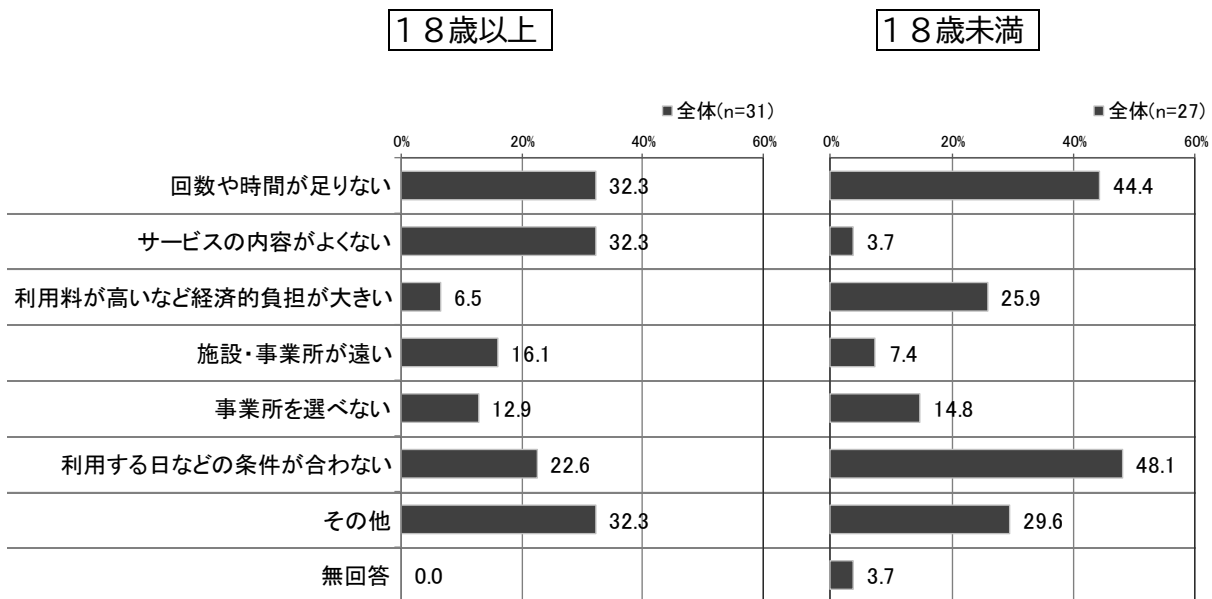
利用している障がい福祉サービスに不満がある人に対して、不満点をたずねた。

18歳以上

全体では、「回数や時間が足りない」と「サービスの内容がよくない」と「その他」が32.3%と最も高くなっている。

18歳未満

全体では、「利用する日などの条件が合わない」が48.1%と最も高く、次いで「回数や時間が足りない」が44.4%、「その他」が29.6%となっている。



(64) 今後の障がい福祉サービスの利用について

18歳以上

全体では、意向についての回答の中では「現在と同じ程度で利用したい」が29.0%と最も高く、次いで「わからない」が28.8%、「現在よりも利用を増やしたい」が9.1%となっている。

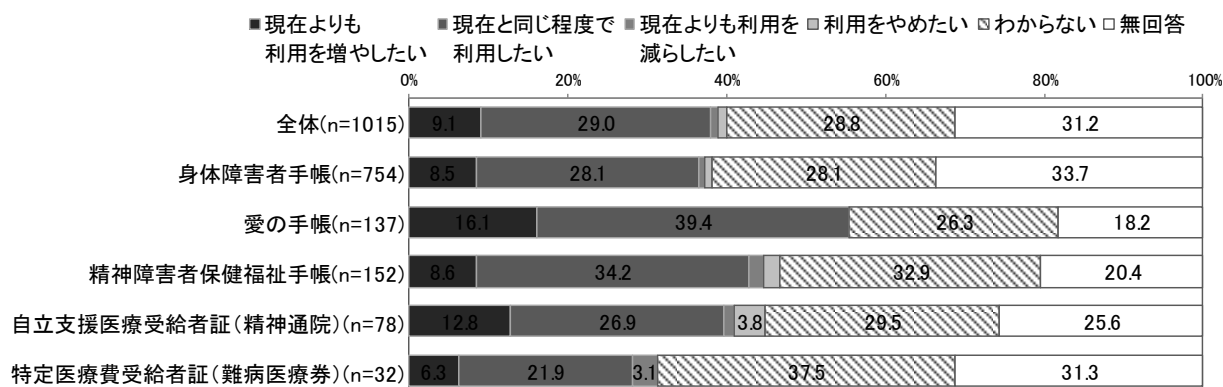
手帳別に見ると、身体障害者手帳では、意向についての回答の中では「現在と同じ程度で利用したい」と「わからない」が28.1%と最も高くなっている。

愛の手帳では、「現在と同じ程度で利用したい」が39.4%と最も高く、次いで「わからない」が26.3%となっている。また、他の手帳等と比較して「現在よりも利用を増やしたい」がやや高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳では、「現在と同じ程度で利用したい」が34.2%と最も高く、次いで「わからない」が32.9%となっている。

自立支援医療(精神通院)では、「わからない」が29.5%と最も高く、次いで「現在と同じ程度で利用したい」が26.9%となっている。

特定医療費(難病医療)では、他の手帳等と比較して「わからない」の割合が高い傾向である。

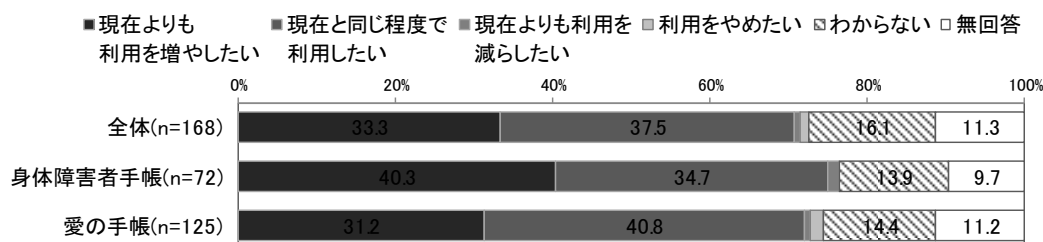


18歳未満

全体では、「現在と同じ程度で利用したい」が37.5%と最も高く、次いで「現在よりも利用を増やしたい」が33.3%、「わからない」が16.1%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「現在よりも利用を増やしたい」が40.3%と最も高く、次いで「現在と同じ程度で利用したい」が34.7%、「わからない」が13.9%となっている。

愛の手帳では、「現在と同じ程度で利用したい」が40.8%と最も高く、次いで「現在よりも利用を増やしたい」が31.2%、「わからない」が14.4%となっている。



9. 相談・障がい福祉の状況について

(65) 現在、悩んだり不安に感じていること

18歳以上

全体では、「自身の障がい・健康状態」が44.4%と最も高く、次いで「家族のこと」が40.5%、「将来のこと」が32.4%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「自身の障がい・健康状態」が42.7%と最も高く、次いで「家族のこと」が38.9%、「将来のこと」が25.7%となっている。

愛の手帳では、「将来のこと」が41.6%と最も高く、次いで「家族のこと」が38.0%、「自身の障がい・健康状態」が34.3%となっている。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、「自身の障がい・健康状態」、「経済面」、「家族のこと」、「将来のこと」などが高く、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

特定医療費(難病医療)では、「自身の障がい・健康状態」が56.3%と最も高く、次いで「家族のこと」が46.9%、「将来のこと」が37.5%となっている。

(横%)	自身の障がい・健康状態	経済面	生活のこと	外出(送迎)のこと	友人関係・恋愛	家族のこと	項目なし	将来のこと	災害時の対応	障がいに対する差別や偏見のこと	その他	特になし	無回答
全体(n=1015)	44.4	27.6	25.2	11.7	5.7	40.5		32.4	25.4	9.7	2.9	13.1	10.7
身体障害者手帳(n=754)	42.7	21.6	21.1	12.1	2.4	38.9		25.7	24.9	5.7	2.0	14.5	11.8
愛の手帳(n=137)	34.3	25.5	27.7	17.5	8.8	38.0		41.6	27.0	12.4	3.6	14.6	8.8
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	65.1	59.9	50.7	14.5	22.4	60.5		59.9	29.6	31.6	7.9	2.0	3.3
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)	70.5	62.8	55.1	14.1	21.8	61.5		60.3	34.6	24.4	9.0	2.6	1.3
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)	56.3	34.4	31.3	25.0	0.0	46.9		37.5	21.9	12.5	3.1	12.5	9.4

18歳未満

全体では、「将来のこと」が64.3%と最も高く、次いで「災害時の対応」が38.1%、「学校・教育のこと」が34.5%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「将来のこと」が68.1%と最も高くなっている。また、愛の手帳と比較して「災害時の対応」、「自身の障がい・健康状態」などが高い傾向である。

愛の手帳では、「将来のこと」が65.6%と最も高く、次いで「生活のこと」と「災害時の対応」が36.8%となっている。

(横%)	自身の障がい・健康状態	経済面	生活のこと	外出(送迎)のこと	友人関係・恋愛	家族のこと	学校・教育のこと	将来のこと	災害時の対応	障がいに対する差別や偏見のこと	その他	特になし	無回答
全体(n=168)	31.5	29.2	32.1	26.2	16.1	31.0	34.5	64.3	38.1	31.0	3.0	14.9	4.8
身体障害者手帳(n=72)	45.8	31.9	33.3	33.3	15.3	38.9	31.9	68.1	52.8	29.2	1.4	11.1	0.0
愛の手帳(n=125)	29.6	26.4	36.8	24.8	13.6	30.4	32.0	65.6	36.8	28.0	3.2	14.4	6.4

18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、視覚障がいでは、「自身の障がい・健康状態」が58.5%と最も高く、次いで「家族のこと」が51.1%となっている。また他の障がいと比較して「外出(送迎)のこと」が高い傾向である。

聴覚・平衡機能障がいでは、「自身の障がい・健康状態」が41.6%と最も高く、「家族のこと」が37.1%、「将来のこと」が34.8%となっている。

運動機能障がいでは、「自身の障がい・健康状態」が49.1%と最も高く、次いで「家族のこと」が40.0%、「災害時の対応」が25.8%となっている。

内部障がいでは、「自身の障がい・健康状態」が35.1%と最も高く、次いで「家族のこと」が33.5%、「経済面」が21.1%となっている。

知的障がいでは、「将来のこと」が44.8%と最も高く、次いで「自身の障がい・健康状態」が37.6%、「家族のこと」が36.8%となっている。

精神疾患では、「自身の障がい・健康状態」が65.5%と最も高く、次いで「経済面」が62.0%、「家族のこと」が60.6%となっている。また、他の障がいと比較して「将来のこと」、「生活のこと」、「障がいに対する差別や偏見のこと」「友人関係・恋愛」なども高い傾向である。

発達障がいでは、「将来のこと」が52.5%と最も高く、次いで「家族のこと」が50.0%、「自身の障がい・健康状態」が43.8%となっている。

難病では、「自身の障がい・健康状態」が61.7%と最も高く、次いで「家族のこと」が48.9%、「将来のこと」が42.6%となっている。

(横%)	自身の障がい・健康状態	経済面	生活のこと	外出(送迎)のこと	友人関係・恋愛	家族のこと	将来のこと	災害時の対応	障がいに対する差別や偏見のこと	その他	特になし	無回答
全体(n=1015)	44.4	27.6	25.2	11.7	5.7	40.5	32.4	25.4	9.7	2.9	13.1	10.7
視覚障がい(n=94)	58.5	26.6	34.0	28.7	3.2	51.1	42.6	36.2	11.7	2.1	11.7	1.1
聴覚・平衡機能障がい(n=89)	41.6	23.6	18.0	12.4	3.4	37.1	34.8	31.5	19.1	3.4	10.1	11.2
音声・言語・そしゃく機能障がい(n=75)	44.0	25.3	22.7	17.3	4.0	48.0	30.7	32.0	10.7	1.3	10.7	8.0
運動機能障がい(n=330)	49.1	23.6	22.7	13.9	1.2	40.0	24.8	25.8	4.8	2.1	12.7	10.3
内部障がい(n=194)	35.1	21.1	17.0	4.6	2.1	33.5	17.0	20.1	2.6	2.1	19.6	12.9
知的障がい(n=125)	37.6	28.0	30.4	20.8	10.4	36.8	44.8	32.0	14.4	3.2	12.8	8.0
精神疾患(n=142)	65.5	62.0	50.7	13.4	21.8	60.6	58.5	30.3	30.3	6.3	4.9	2.1
高次脳機能障がい(n=15)	66.7	13.3	20.0	13.3	13.3	60.0	33.3	20.0	6.7	0.0	6.7	0.0
発達障がい(n=80)	43.8	32.5	33.8	12.5	15.0	50.0	52.5	27.5	20.0	3.8	8.8	5.0
難病(n=47)	61.7	27.7	34.0	19.1	0.0	48.9	42.6	21.3	10.6	2.1	8.5	6.4

(66) 家族に対するの悩みや不安

「家族のこと」に悩みや不安がある人に対して、内容をたずねた。

18歳以上

全体では、「家族の健康のこと」が69.1%と最も高く、次いで「家計・経済的負担のこと」が36.7%、「介助する家族の年齢が上がっていること」が35.5%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、「家族の健康のこと」が57.7%と最も高くなっている。また、他の手帳等と比較して「介助する家族の年齢が上がっていること」が高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、「家族の健康のこと」が最も高くなっている。また、他の手帳等と比較して、「家計・経済的負担のこと」、「住まいのこと」が高い傾向である。

	家族の健康のこと	家族の休息・休養のこと	介助する家族の年齢が上がっていること	子どもの育児や教育のこと	高齢者の介護のこと	家族関係に関すること	家族の就業・仕事のこと	家計・経済的負担のこと	住まいのこと	家族に対する偏見や差別のこと	近所づきあいのこと	その他	特になし	無回答
(横%)														
全体(n=411)	69.1	12.9	35.5	5.6	22.4	13.4	9.7	36.7	16.5	3.6	10.5	4.9	0.7	0.2
身体障害者手帳(n=293)	69.3	10.9	37.2	3.8	23.2	11.3	8.9	33.8	11.9	1.0	8.2	3.8	0.3	0.3
愛の手帳(n=52)	57.7	19.2	55.8	1.9	9.6	9.6	9.6	32.7	17.3	1.9	11.5	5.8	3.8	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=92)	66.3	19.6	34.8	13.0	23.9	21.7	12.0	46.7	32.6	13.0	18.5	12.0	1.1	0.0
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=48)	70.8	14.6	31.3	12.5	22.9	27.1	18.8	50.0	41.7	10.4	20.8	10.4	0.0	0.0
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=15)	60.0	20.0	40.0	0.0	13.3	6.7	6.7	40.0	13.3	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0

18歳未満

全体では、「介助する家族の年齢が上がっていること」が57.7%と最も高く、次いで「家族の健康のこと」が51.9%、「家計・経済的負担のこと」が48.1%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、「介助する家族の年齢が上がっていること」が55.3%と最も高く、次いで「家計・経済的負担のこと」が50.0%、「家族の健康のこと」が47.4%となっている。

	家族の健康のこと	家族の休息・休養のこと	介助する家族の年齢が上がっていること	項目なし	高齢者の介護のこと	家族関係に関すること	家族の就業・仕事のこと	家計・経済的負担のこと	住まいのこと	家族に対する偏見や差別のこと	近所づきあいのこと	その他	特になし	無回答
(横%)														
全体(n=52)	51.9	34.6	57.7		7.7	7.7	32.7	48.1	30.8	5.8	7.7	1.9	0.0	0.0
身体障害者手帳(n=28)	57.1	32.1	67.9		3.6	3.6	32.1	46.4	32.1	3.6	3.6	0.0	0.0	0.0
愛の手帳(n=38)	47.4	31.6	55.3		10.5	7.9	28.9	50.0	21.1	5.3	10.5	2.6	0.0	0.0

(67) 悩みや不安を相談している相手

悩みや不安がある人に対して、相談している相手をたずねた。

18歳以上

全体では「家族・親族」が66.0%と最も高く、次いで「友人・知人」が24.2%、「医療関係者」が18.8%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、「家族・親族」が73.3%と特に高くなっている、また、他の手帳等と比較して「障がい福祉課各援護係」、「障がい福祉サービス事業所のスタッフ」が高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、「家族・親族」が最も高くなっている。また、他の手帳等と比較して「医療関係者」が高い傾向である。

特定医療費(難病医療)では、「家族・親族」が72.0%と最も高く、次いで「友人・知人」が32.0%、「医療関係者」が24.0%となっている。

(横%)	家族・親族	友人・知人	障がい福祉課各援護係	障がい福祉センターあしすと	保健所・保健センター	その他の区職員(生活保護地区担当員など)	民生委員・児童委員	障がい福祉サービス事業所のスタッフ	障がい者団体・家族会	地域包括支援センター	医療関係者※	インターネット・SNS	その他	相談できる人がいない	項目なし	無回答
全体(n=773)	66.0	24.2	7.1	3.9	4.5	3.2	1.2	6.5	1.4	7.6	18.8	1.9	5.7	8.8		5.3
身体障害者手帳(n=556)	66.2	23.2	7.9	2.3	2.0	3.1	1.1	4.5	1.1	9.2	15.3	1.6	5.2	8.5		6.8
愛の手帳(n=105)	73.3	15.2	19.0	7.6	4.8	1.0	1.9	17.1	4.8	3.8	13.3	1.0	12.4	5.7		5.7
精神障害者保健福祉手帳(n=144)	63.2	32.6	2.8	5.6	17.4	6.3	2.1	9.7	0.7	7.6	38.9	4.2	5.6	10.4		0.0
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=75)	66.7	28.0	4.0	5.3	17.3	8.0	4.0	9.3	0.0	8.0	44.0	2.7	5.3	10.7		2.7
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=25)	72.0	32.0	0.0	0.0	4.0	4.0	0.0	12.0	8.0	8.0	24.0	4.0	0.0	20.0		8.0

※医師・看護師・相談員・セラピスト・カウンセラー

18歳未満 <調査票の回答者について聴取する設問>

全体では、「家族・親族」が73.2%と最も高く、次いで「友人・知人」が50.0%、「医療関係者」が23.2%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「家族・親族」が81.9%で特に高く、次いで「友人・知人」が56.9%、「障がい福祉サービス事業所のスタッフ」と「医療関係者」が27.8%となっている。

愛の手帳では、「家族・親族」が69.6%と最も高く、次いで「友人・知人」が48.8%、「障がい福祉サービス事業所のスタッフ」が23.2%となっている。

(横%)	家族・親族	友人・知人	障がい福祉課各援護係	障がい福祉センターあしすと	子ども支援センターげんき	保健所・保健センター	その他の区職員(生活保護地区担当員など)	民生委員・児童委員	障がい福祉サービス事業所のスタッフ	障がい者団体・家族会	医療関係者	インターネット・SNS	その他	相談できる人がいない	相談はしない	無回答
全体(n=168)	73.2	50.0	16.1	3.0	4.2	0.0	0.6	0.0	22.6	3.0	23.2	5.4	13.1	4.2	4.2	4.2
身体障害者手帳(n=72)	81.9	56.9	16.7	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	27.8	4.2	27.8	6.9	15.3	2.8	4.2	1.4
愛の手帳(n=125)	69.6	48.8	16.8	4.0	3.2	0.0	0.8	0.0	23.2	3.2	20.8	4.0	11.2	5.6	3.2	4.8

(68) 今後あればよいと思う相談窓口

18歳以上

全体では、「相談が1か所ですむ総合的な相談窓口」が38.0%と最も高く、次いで「障がい特性に応じた専門相談窓口」が24.2%、「特になし」が19.6%となっている。

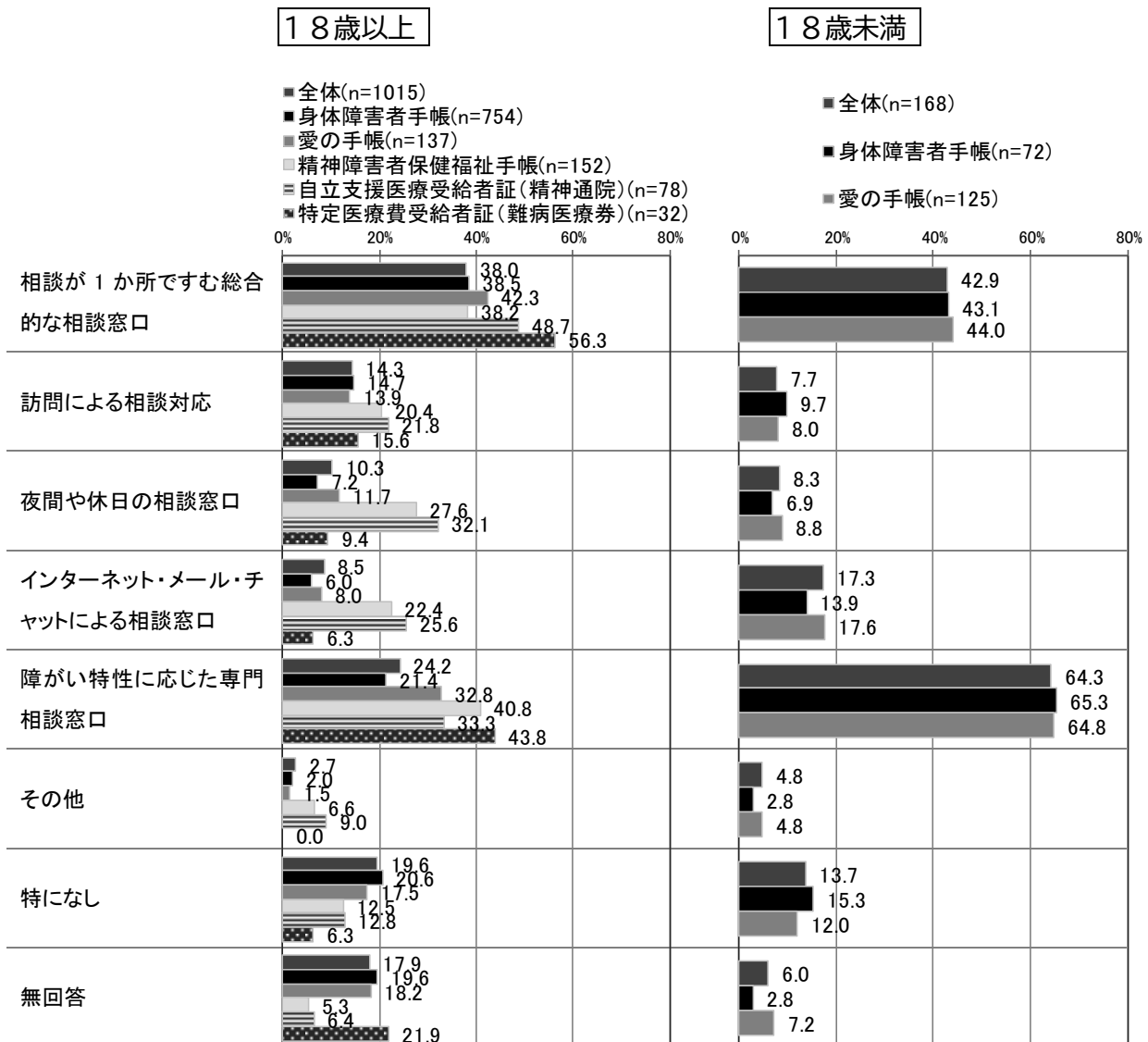
手帳別に見ると、特定医療費(難病医療)では、「相談が1か所ですむ総合的な相談窓口」が56.3%と最も高く、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「夜間や休日の相談窓口」、「インターネット・メール・チャットによる相談窓口」が高い傾向である。

18歳未満 <調査票の回答者について聴取する設問>

全体では、「障がい特性に応じた専門相談窓口」が64.3%と最も高く、次いで「相談が1か所ですむ総合的な相談窓口」が42.9%、「インターネット・メール・チャットによる相談窓口」が17.3%となっている。

手帳別でも、概ね同様の傾向が見られる。



(69) 障がい福祉に関する情報の入手手段

18歳以上

全体では、「あだち広報」が29.5%と最も高く、次いで「特になし」が20.2%、「足立区 障がい者のしおり」が16.3%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「あだち広報」が30.1%と最も高く、次いで「特になし」が20.4%、「足立区 障がい者のしおり」が18.3%となっている。

愛の手帳では、「あだち広報」が38.0%と最も高く、次いで「障がい福祉サービス事業所のスタッフ」が22.6%、「足立区 障がい者のしおり」が21.2%となっている。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、「医療関係者」が最も高くなっている。また、他の手帳等と比較して、「インターネット検索・SNS」も高い傾向である。

	区のホームページ・公式SNS	足立区障がい者のしおり	あだち広報	障がい福祉課各援護係	障がい福祉センターあしすと	項目なし	保健所・保健センター	障がい福祉サービス事業所のスタッフ	障がい者団体	医療関係者*	インターネット検索・SNS	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等	その他	特になし	無回答
全体(n=1015)	9.9	16.3	29.5	9.6	3.3		5.8	8.4	3.4	15.7	9.7	11.9	3.9	20.2	11.7
身体障害者手帳(n=754)	10.6	18.3	30.1	9.5	2.4		3.3	7.2	3.8	15.1	7.6	12.2	3.1	20.4	13.0
愛の手帳(n=137)	5.8	21.2	38.0	19.7	7.3		3.6	22.6	12.4	10.2	8.0	10.2	7.3	16.8	11.7
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	12.5	7.9	27.0	6.6	3.3		21.7	6.6	2.0	28.3	25.0	17.1	5.9	16.4	5.9
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)	7.7	6.4	28.2	3.8	2.6		23.1	6.4	1.3	38.5	28.2	20.5	3.8	15.4	3.8
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)	15.6	18.8	28.1	6.3	0.0		6.3	12.5	6.3	18.8	15.6	15.6	3.1	18.8	9.4

*医師・看護師・相談員・セラピスト・カウンセラー

18歳未満 <調査票の回答者について聴取する設問>

全体では、「インターネット検索・SNS」が33.9%と最も高く、次いで「足立区 障がい者のしおり」が28.0%、「障がい福祉課各援護係」が23.2%となっている。

手帳別でも、概ね同様の傾向が見られる。

	区のホームページ・公式SNS	足立区障がい者のしおり	あだち広報	障がい福祉課各援護係	障がい福祉センターあしすと	子ども支援センターげんき	保健所・保健センター	障がい福祉サービス事業所のスタッフ	障がい者団体・家族会	医療関係者	インターネット検索・SNS	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等	その他	特になし	無回答
全体(n=168)	20.8	28.0	22.0	23.2	4.8	4.8	1.8	22.6	8.3	14.9	33.9	7.1	10.1	12.5	7.1
身体障害者手帳(n=72)	20.8	31.9	22.2	26.4	0.0	1.4	1.4	25.0	9.7	25.0	33.3	6.9	11.1	11.1	6.9
愛の手帳(n=125)	20.0	25.6	23.2	24.0	6.4	5.6	1.6	24.8	8.8	11.2	33.6	8.0	12.8	12.0	6.4

18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、視覚障がい、運動機能障がい、知的障がいでは、他の障がいと比較して、「あだち広報」が高い傾向である。

知的障がいでは、他の障がいと比較して、「障がい福祉サービス事業所のスタッフ」、「障がい福祉課各援護係」が高い傾向である。

精神疾患では、「医療関係者」が28.2%と最も高く、他の障がいと比較しても高い傾向である。

(横%)	区のホームページ・公式SNS	足立区障がい者のしおり	あだち広報	障がい福祉課各援護係	障がい福祉センターあしすと	保健所・保健センター	障がい福祉サービス事業所のスタッフ	障がい者団体	医療関係者	インターネット検索・SNS	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等	その他	特になし	無回答
全体(n=1015)	9.9	16.3	29.5	9.6	3.3	5.8	8.4	3.4	15.7	9.7	11.9	3.9	20.2	11.7
視覚障がい(n=94)	11.7	16.0	35.1	13.8	2.1	2.1	8.5	10.6	11.7	7.4	8.5	4.3	19.1	5.3
聴覚・平衡機能障がい(n=89)	15.7	22.5	29.2	18.0	3.4	3.4	5.6	12.4	11.2	10.1	13.5	5.6	16.9	14.6
音声・言語・そしゃく機能障がい(n=75)	9.3	20.0	25.3	14.7	2.7	5.3	8.0	8.0	17.3	6.7	9.3	2.7	25.3	13.3
運動機能障がい(n=330)	10.9	20.6	35.2	12.4	2.1	2.7	9.4	3.6	17.0	9.1	12.4	3.3	19.4	11.8
内部障がい(n=194)	10.3	17.0	26.8	6.7	2.6	3.1	7.2	1.0	17.0	5.2	17.0	2.6	21.6	12.4
知的障がい(n=125)	8.0	24.0	38.4	20.8	8.8	5.6	23.2	13.6	10.4	8.8	9.6	6.4	17.6	8.0
精神疾患(n=142)	11.3	4.9	25.4	6.3	0.7	21.1	5.6	1.4	28.2	21.1	13.4	5.6	21.1	6.3
高次脳機能障がい(n=15)	13.3	13.3	40.0	13.3	13.3	13.3	6.7	0.0	26.7	20.0	13.3	0.0	20.0	6.7
発達障がい(n=80)	10.0	16.3	23.8	15.0	3.8	13.8	16.3	2.5	16.3	13.8	11.3	8.8	16.3	8.8
難病(n=47)	6.4	19.1	25.5	17.0	2.1	10.6	6.4	4.3	10.6	6.4	10.6	0.0	23.4	12.8

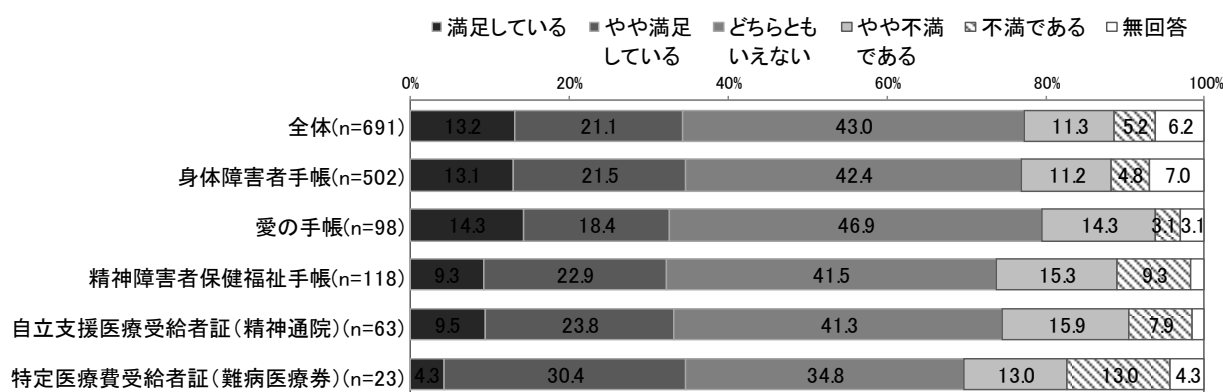
(70) 入手できる障がい福祉に関する情報の満足度

障がい福祉に関する情報を入手している人に対して、満足度をたずねた。

18歳以上

全体では、「どちらともいえない」が43.0%と最も高く、次いで「やや満足している」が21.1%、「満足している」が13.2%となっている。満足（「満足している」と「やや満足している」の合計）と回答している人の割合は34.3%となっている。

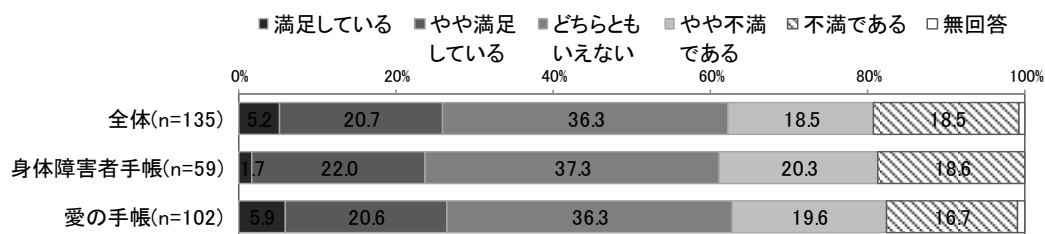
手帳別でも、概ね同様の傾向が見られる。



18歳未満 <調査票の回答者について聴取する設問>

全体では、「どちらともいえない」が36.3%と最も高く、次いで「やや満足している」が20.7%、「やや不満である」と「不満である」が18.5%となっている。満足（「満足している」と「やや満足している」の合計）と回答している人の割合は25.9%となっている。

手帳別でも、概ね同様の傾向が見られる。



(71) 情報の入手における不満点

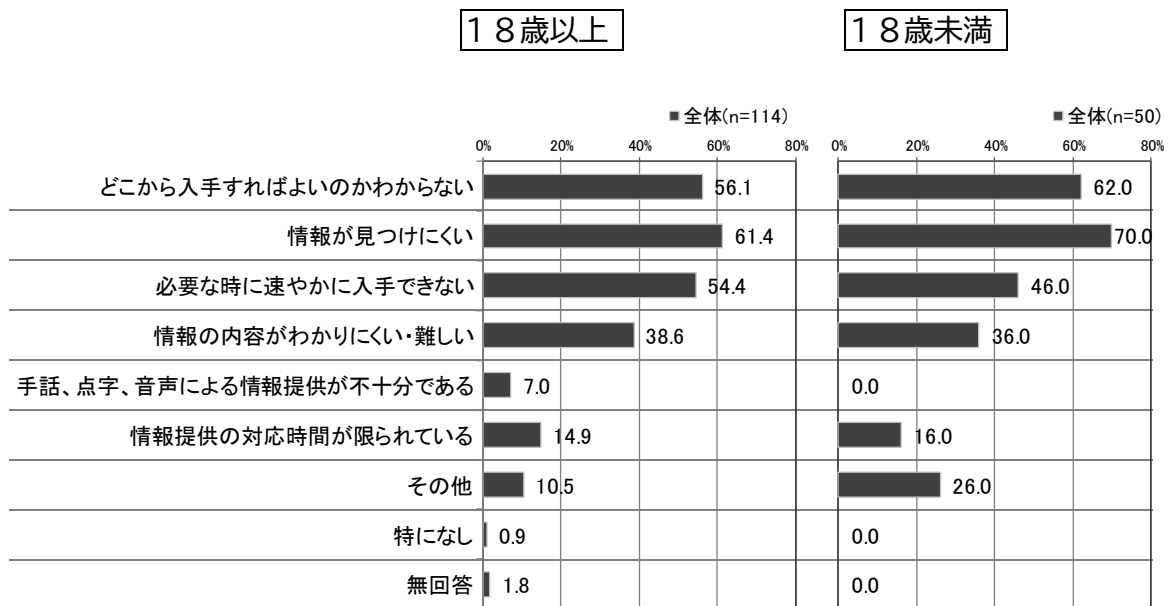
入手できる障がい福祉情報に不満がある人に対して、不満点をたずねた。

18歳以上

全体では、「情報が見つげにくい」が61.4%と最も高く、次いで「どこから入手すればよいのかわからない」が56.1%、「必要な時に速やかに入手できない」が54.4%となっている。

18歳未満

全体では、「情報が見つげにくい」が70.0%と最も高く、次いで「どこから入手すればよいのかわからない」が62.0%、「必要な時に速やかに入手できない」が46.0%となっている。



10. 災害対策について

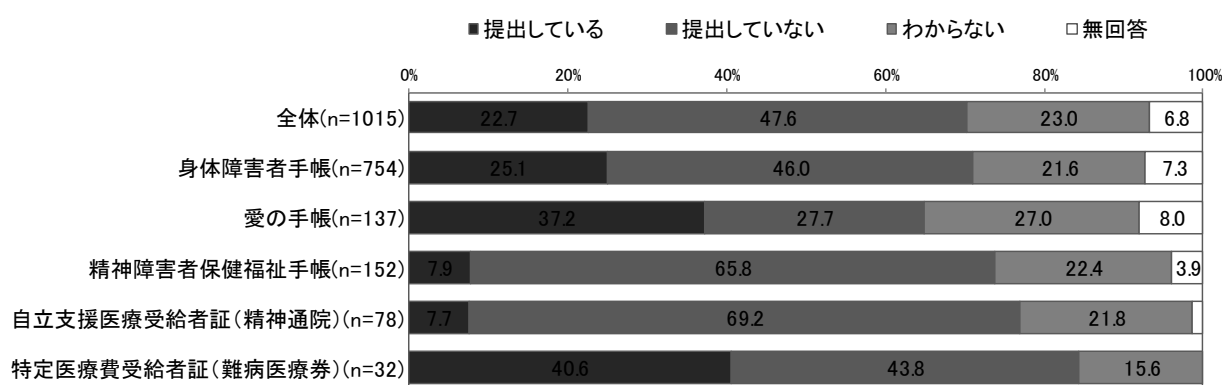
(72) 「災害時安否確認申出書」の提出状況

18歳以上

全体では、「提出していない」が47.6%と最も高く、次いで「わからない」が23.0%、「提出している」が22.7%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳、特定医療費(難病医療)では、他の手帳等と比較して「提出している」が高い傾向である。

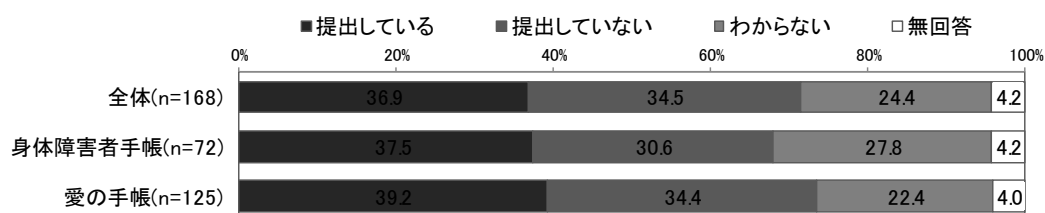
精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、「提出していない」が7割弱を占め、「提出している」は1割未満にとどまっている。



18歳未満

全体では、「提出している」が36.9%と最も高く、次いで「提出していない」が34.5%、「わからない」が24.4%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、愛の手帳と比較して「わからない」がやや高い傾向である。

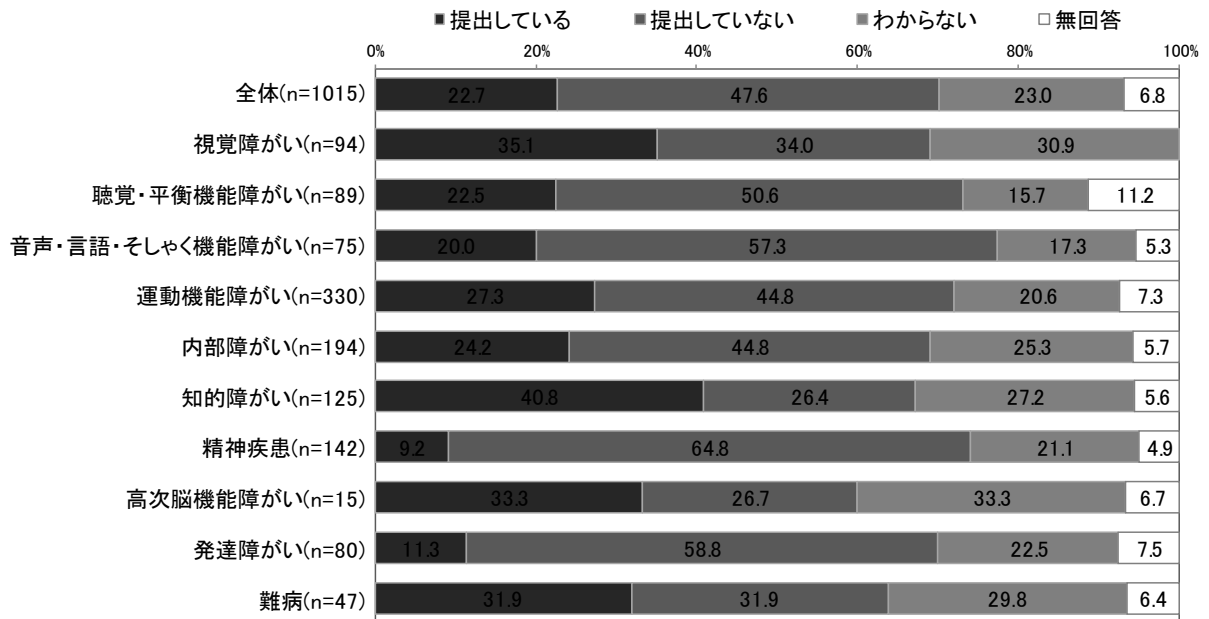


18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、視覚障がい、知的障がいでは、他の障がいと比較して「提出している」が高い傾向である。

音声・言語・そしゃく機能障がい、精神疾患、発達障がいでは、他の障がいと比較して「提出していない」の割合が高い傾向である。

難病は、他の障がいと比較して「わからない」(29.8%)の割合が高い傾向である。



(73) 「災害時安否確認申出書」を提出していない理由

「災害時安否確認申出書」を提出していない人に対して、理由をたずねた。

18歳以上

全体では、「自力で避難できる」が35.8%と最も高く、次いで「同居している家族等と一緒に避難できる」が33.1%、「災害時安否確認申出書」の提出対象ではない」が19.7%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、「同居している家族等と一緒に避難できる」が44.7%と最も高くなっている。また、他の手帳等と比較して「提出しても支援が受けられるかどうか不安である」が高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「提出対象ではない」の割合が高い傾向である。

(横%)	自力で避難できる	同居している家族等と一緒に避難できる	近所に支援してくれる人がいる	個人情報を提出することが不安である	提出しても支援が受けられるかどうか不安である	記入方法がわからなかった	その他	提出対象ではない	無回答
全体(n=483)	35.8	33.1	4.1	4.6	7.2	10.1	15.5	19.7	6.0
身体障害者手帳(n=347)	35.4	34.6	5.2	4.9	8.1	11.0	13.3	17.6	6.3
愛の手帳(n=38)	26.3	44.7	0.0	7.9	23.7	13.2	18.4	5.3	5.3
精神障害者保健福祉手帳(n=100)	35.0	19.0	2.0	4.0	5.0	7.0	24.0	34.0	6.0
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=54)	29.6	24.1	1.9	7.4	5.6	13.0	25.9	33.3	5.6
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=14)	35.7	21.4	0.0	7.1	0.0	0.0	28.6	35.7	14.3

18歳未満

全体では、「同居している家族等と一緒に避難できる」が51.7%と最も高く、次いで「提出しても支援が受けられるかどうか不安」が24.1%、「その他」が20.7%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、「同居している家族等と一緒に避難できる」が58.1%と最も高く、次いで「提出しても支援が受けられるかどうか不安」が30.2%、「その他」が20.9%となっている。

(横%)	自力で避難できる	同居している家族等と一緒に避難できる	近所に支援してくれる人がいる	個人情報を提出することが不安	提出しても支援が受けられるかどうか不安	記入方法がわからなかった	その他	提出対象ではない	無回答
全体(n=58)	6.9	51.7	1.7	3.4	24.1	8.6	20.7	6.9	3.4
身体障害者手帳(n=22)	9.1	45.5	4.5	0.0	13.6	9.1	18.2	18.2	4.5
愛の手帳(n=43)	4.7	58.1	2.3	4.7	30.2	11.6	20.9	0.0	2.3

18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、視覚障がいでは、「同居している家族等と一緒に避難できる」が59.4%と最も高く、他の障がいと比較しても高い傾向である。

内部障がいでは、「自力で避難できる」が57.5%と最も高く、他の障がいと比較しても高い傾向である。

視覚障がい、知的障がいでは、他の障がいと比較して「提出しても支援が受けられるかどうか不安である」の割合が高い傾向である。

聴覚・平衡機能障がい、知的障がいでは、他の障がいと比較して「記入方法がわからなかった」がやや高い傾向である。

運動機能障がい、精神疾患では、他の障がいと比較して、「提出対象ではない」が高い傾向である。

(横%)	自力で避難できる	同居している家族等と一緒に避難できる	近所に支援してくれる人がいる	個人情報を提出することが不安である	提出しても支援が受けられるかどうか不安である	記入方法がわからなかった	その他	提出対象ではない	無回答
全体(n=483)	35.8	33.1	4.1	4.6	7.2	10.1	15.5	19.7	6.0
視覚障がい(n=32)	31.3	59.4	3.1	6.3	21.9	9.4	6.3	18.8	3.1
聴覚・平衡機能障がい(n=45)	42.2	31.1	8.9	6.7	11.1	17.8	15.6	11.1	0.0
音声・言語・そしゃく機能障がい(n=43)	34.9	27.9	0.0	4.7	4.7	14.0	14.0	20.9	7.0
運動機能障がい(n=148)	22.3	32.4	5.4	4.7	12.2	9.5	12.2	26.4	6.1
内部障がい(n=87)	57.5	40.2	1.1	3.4	2.3	5.7	18.4	9.2	5.7
知的障がい(n=33)	33.3	45.5	0.0	9.1	24.2	15.2	18.2	3.0	3.0
精神疾患(n=92)	33.7	17.4	1.1	6.5	4.3	7.6	26.1	29.3	6.5
高次脳機能障がい(n=4)	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
発達障がい(n=47)	27.7	23.4	2.1	8.5	10.6	10.6	17.0	17.0	8.5
難病(n=15)	33.3	26.7	0.0	0.0	0.0	13.3	13.3	26.7	13.3

(74) 災害が発生した場合の不安

18歳以上

全体では、「避難場所で他者と過ごすことへの精神的な負担が大きい」が31.4%と最も高く、次いで「どこに避難すればよいのかわからない」が28.1%、「避難場所に自力で移動できない」が26.5%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「避難場所で他者と過ごすことへの精神的な負担が大きい」が高い傾向である。

愛の手帳では、他の手帳等と比較して「避難場所に自力で移動できない」が高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)、特定医療費(難病医療)では、他の手帳等と比較して「日常生活を助ける用具や薬が速やかに提供されない」の割合が高い傾向である。

	どこに避難すればよいのかわからない	避難場所に自力で移動できない	家族の安否確認や連絡手段が確保できない	被害状況の情報や防災情報が入手できない	避難所がバリアフリー対応していない	避難場所で他者と過ごすことへの精神的な負担が大きい	日常生活を助ける用具や薬が速やかに提供されない	その他	特になし	無回答
全体(n=1015)	28.1	26.5	17.0	15.9	10.1	31.4	25.3	7.8	14.8	13.1
身体障害者手帳(n=754)	26.5	30.2	16.6	15.9	12.3	27.7	24.8	6.4	14.5	14.5
愛の手帳(n=137)	38.0	38.7	21.2	13.1	13.1	42.3	26.3	8.8	13.1	9.5
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	33.6	12.5	20.4	19.1	4.6	47.4	35.5	15.1	11.8	9.2
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)	39.7	14.1	21.8	19.2	6.4	50.0	44.9	15.4	14.1	2.6
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)	25.0	31.3	21.9	15.6	18.8	28.1	34.4	18.8	12.5	9.4

18歳未満

全体では、「避難場所で他者と過ごすことへの精神的な負担が大きい」が56.5%と最も高く、次いで「避難場所に自力で移動できない」が45.2%、「どこに避難すればよいのかわからない」が34.5%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「避難場所で他者と過ごすことへの精神的な負担が大きい」が56.9%と最も高く、次いで「避難場所に自力で移動できない」が54.2%、「日常生活を助ける用具や薬が速やかに提供されない」が41.7%となっている。また、愛の手帳と比較して「避難場所に自力で移動できない」、「避難所がバリアフリー対応していない」が高い傾向である。

	どこに避難すればよいのかわからない	避難場所に自力で移動できない	家族の安否確認や連絡手段が確保できない	被害状況の情報や防災情報が入手できない	避難所がバリアフリー対応していない	避難場所で他者と過ごすことへの精神的な負担が大きい	日常生活を助ける用具や薬が速やかに提供されない	その他	特になし	無回答
全体(n=168)	34.5	45.2	31.5	23.2	13.1	56.5	28.6	13.1	7.1	4.2
身体障害者手帳(n=72)	30.6	54.2	29.2	25.0	25.0	56.9	41.7	18.1	4.2	2.8
愛の手帳(n=125)	36.0	44.0	33.6	23.2	9.6	61.6	24.8	10.4	8.0	4.8

18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、視覚障がいでは、「避難場所で他者と過ごすことへの精神的な負担が大きい」が46.8%と最も高く、次いで「避難場所に自力で移動できない」が44.7%となっている。

聴覚・平衡機能障がいでは、「どこに避難すればよいかわからない」が33.7%と最も高く、次いで「避難場所で他者と過ごすことへの精神的な負担が大きい」が28.1%となっている。

音声・言語・そしゃく機能障がいでは、「避難場所で他者と過ごすことへの精神的な負担が大きい」が30.7%と最も高く、次いで「どこに避難すればよいかわからない」が29.3%となっている。

運動機能障がいでは、「避難場所に自力で移動できない」が41.2%と最も高く、次いで「避難場所で他者と過ごすことへの精神的な負担が大きい」が30.3%となっている。

内部障がいでは、「日常生活を助ける用具や薬が速やかに提供されない」が27.8%と最も高く、次いで「どこに避難すればよいかわからない」が23.7%となっている。

知的障がいでは、「避難場所で他者と過ごすことへの精神的な負担が大きい」が43.2%と最も高く、次いで「避難場所に自力で移動できない」が42.4%となっている。

精神疾患では、「避難場所で他者と過ごすことへの精神的な負担が大きい」が47.2%と最も高く、次いで「日常生活を助ける用具や薬が速やかに提供されない」が35.9%となっている。

発達障がいでは、「避難場所で他者と過ごすことへの精神的な負担が大きい」が35.0%と最も高く、次いで「どこに避難すればよいかわからない」が32.5%となっている。

難病では、「避難場所に自力で移動できない」が34.0%と最も高く、次いで「どこに避難すればよいかわからない」が29.8%となっている。

(横%)	どこに避難すればよいかわからない	避難場所に自力で移動できない	家族の安否確認や連絡手段が確保できない	被害状況の情報や防災情報が入手できない	避難所がバリアフリー対応していない	避難場所で他者と過ごすことへの精神的な負担が大きい	日常生活を助ける用具や薬が速やかに提供されない	その他	特になし	無回答
全体(n=1015)	28.1	26.5	17.0	15.9	10.1	31.4	25.3	7.8	14.8	13.1
視覚障がい(n=94)	30.9	44.7	23.4	18.1	18.1	46.8	25.5	5.3	11.7	7.4
聴覚・平衡機能障がい(n=89)	33.7	21.3	18.0	22.5	15.7	28.1	20.2	6.7	15.7	16.9
音声・言語・そしゃく機能障がい(n=75)	29.3	25.3	24.0	18.7	9.3	30.7	28.0	5.3	17.3	13.3
運動機能障がい(n=330)	27.6	41.2	16.1	15.8	17.9	30.3	26.1	6.7	12.7	12.4
内部障がい(n=194)	23.7	18.6	13.4	13.9	7.2	20.6	27.8	8.8	14.9	13.9
知的障がい(n=125)	39.2	42.4	23.2	15.2	13.6	43.2	24.8	10.4	14.4	6.4
精神疾患(n=142)	34.5	11.3	23.2	19.0	5.6	47.2	35.9	14.1	12.7	10.6
高次脳機能障がい(n=15)	26.7	53.3	26.7	26.7	13.3	6.7	13.3	6.7	13.3	6.7
発達障がい(n=80)	32.5	18.8	16.3	18.8	3.8	35.0	25.0	11.3	16.3	13.8
難病(n=47)	29.8	34.0	8.5	8.5	10.6	23.4	27.7	8.5	17.0	12.8

(75) 災害時に想定している避難先

18歳以上

全体では、「住まいに近い一時避難所(小・中学校など)」が65.8%と最も高く、次いで「住まいの近くにある障がい者を対象とする福祉避難所」が12.5%、「わからない」が12.4%となっている。

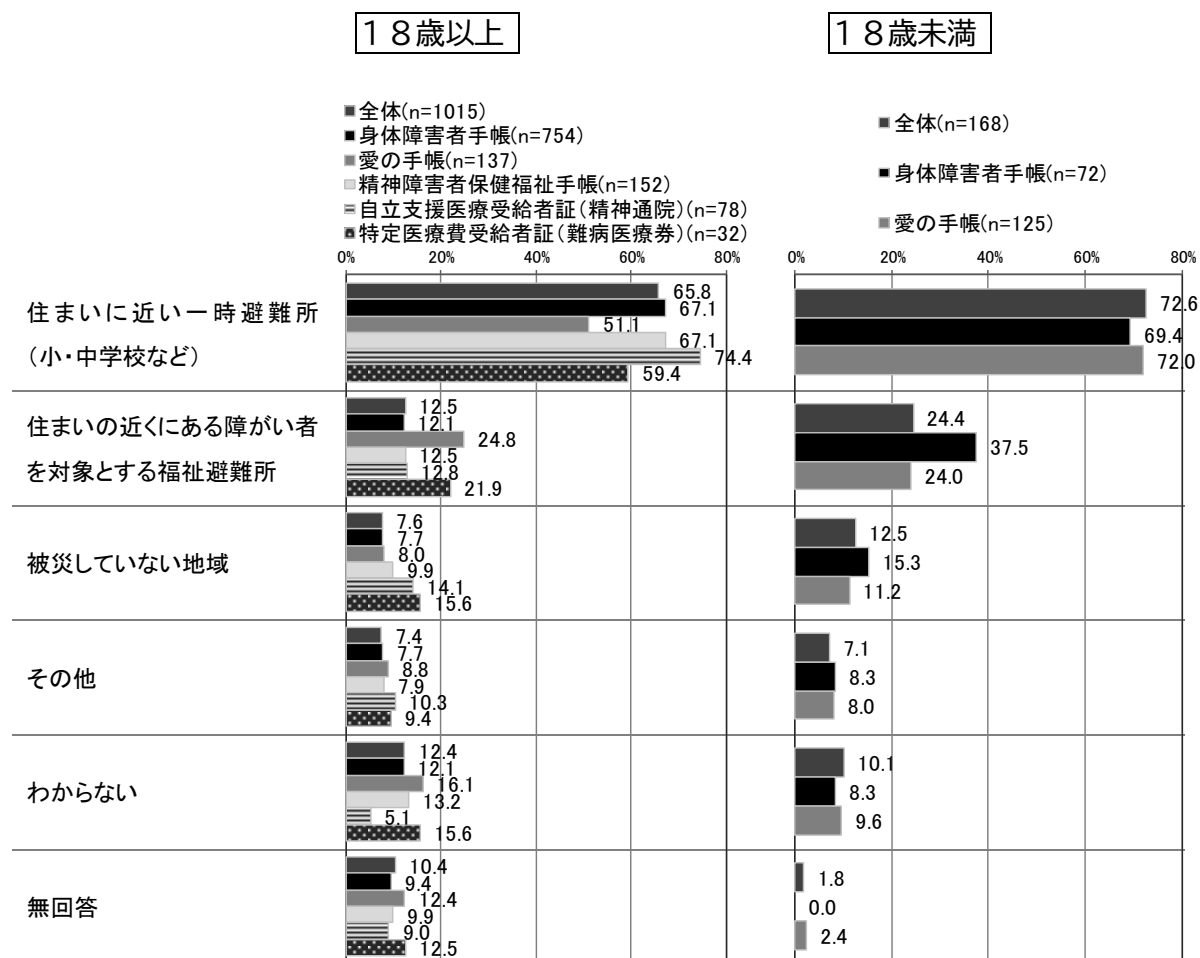
手帳別に見ると、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「住まいに近い一時避難所(小・中学校など)」が高い傾向である。

愛の手帳、特定医療費(難病医療)では、他の手帳等と比較して「住まいの近くにある障がい者を対象とする福祉避難所」も比較的高くなっている。

18歳未満

全体では、「住まいに近い一時避難所(小・中学校など)」が72.6%と最も高く、次いで「住まいの近くにある障がい者を対象とする福祉避難所」が24.4%、「被災していない地域」が12.5%となっている。

手当別に見ると、身体障害者手帳では、愛の手帳と比較して「住まいの近くにある障がい者を対象とする福祉避難所」が高い傾向である。



(76) 災害に備えて、日頃準備していること

18歳以上

全体では、「食料や飲料水、日常生活用品の備蓄」が36.4%と最も高く、次いで「特に準備していない」が32.6%、「非常時の持ち出し品の準備」が29.0%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「食料や飲料水、日常生活用品の備蓄」が38.9%と最も高く、次いで「非常時の持ち出し品の準備」が30.9%、「特に準備していない」が30.2%となっている。

愛の手帳では、「食料や飲料水、日常生活用品の備蓄」と「特に準備していない」が34.3%と最も高く、次いで「非常時の持ち出し品の準備」が29.2%となっている。

精神障害者保健福祉手帳では、「特に準備していない」が36.2%と最も高く、次いで「食料や飲料水、日常生活用品の備蓄」が33.6%、「非常時の持ち出し品の準備」が22.4%となっている。

自立支援医療(精神通院)では、「食料や飲料水、日常生活用品の備蓄」(38.5%)、「特に準備していない」(32.1%)などが高くなっている。また、他の手帳等と比較して「避難場所・避難経路の確認」や「災害時の情報収集ツールの準備」が高い傾向である。

特定医療費(難病医療)では、「食料や飲料水、日常生活用品の備蓄」(50.0%)、「非常時の持ち出し品の準備」(43.8%)、「家族等で安否確認方法を相談」(28.1%)が高く、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

(横%)	非常時の持ち出し品の準備	食料や飲料水、日常生活用品の備蓄	家具の落下や転倒防止	家族等で安否確認方法を相談	避難場所・避難経路の確認	災害時の情報収集ツールの準備	その他	特に準備していない	無回答
全体(n=1015)	29.0	36.4	20.3	10.8	16.2	5.5	2.1	32.6	11.5
身体障害者手帳(n=754)	30.9	38.9	22.4	10.7	15.8	4.6	1.6	30.2	10.3
愛の手帳(n=137)	29.2	34.3	17.5	13.1	15.3	5.1	5.1	34.3	14.6
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	22.4	33.6	16.4	11.8	19.7	11.8	3.9	36.2	11.2
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)	26.9	38.5	20.5	14.1	26.9	15.4	3.8	32.1	9.0
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)	43.8	50.0	21.9	28.1	25.0	9.4	6.3	18.8	12.5

18歳未満

全体では、「食料や飲料水、日常生活用品の備蓄」が54.2%と最も高く、次いで「非常時の持ち出し品の準備」が42.9%、「特に準備していない」が24.4%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「食料や飲料水、日常生活用品の備蓄」が68.1%と最も高く、次いで「非常時の持ち出し品の準備」が55.6%で高く、愛の手帳と比較して高い傾向である。

愛の手帳では、「食料や飲料水、日常生活用品の備蓄」が52.8%と最も高く、次いで「非常時の持ち出し品の準備」が38.4%、「特に準備していない」が27.2%となっている。

(横%)	非常時の持ち出し品の準備	食料や飲料水、日常生活用品の備蓄	家具の落下や転倒防止	家族等で安否確認方法を相談	避難場所・避難経路の確認	災害時の情報収集ツールの準備	その他	特に準備していない	無回答
全体(n=168)	42.9	54.2	21.4	13.7	17.9	7.7	1.8	24.4	1.8
身体障害者手帳(n=72)	55.6	68.1	26.4	13.9	23.6	6.9	4.2	15.3	0.0
愛の手帳(n=125)	38.4	52.8	22.4	13.6	16.0	9.6	0.0	27.2	2.4

11. 足立区での生活について

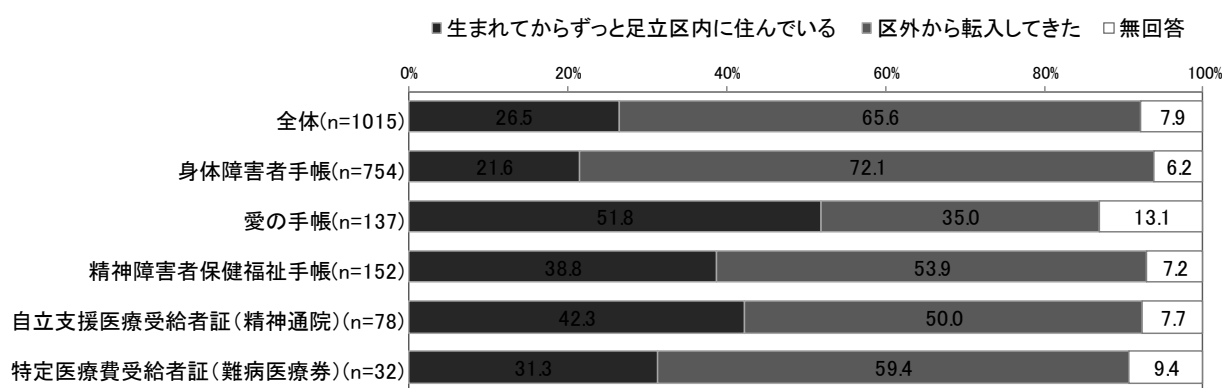
(77) 足立区内への在住歴

18歳以上

全体では、「区外から転入してきた」が65.6%、「生まれてからずっと足立区内に住んでいる」が26.5%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「区外から転入してきた」が72.1%を占め、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

愛の手帳では、「生まれてからずっと足立区内に住んでいる」が51.8%で、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

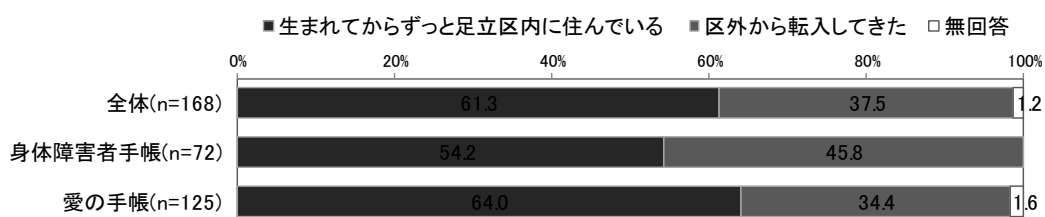


18歳未満

全体では、「生まれてからずっと足立区内に住んでいる」が61.3%、「区外から転入してきた」が37.5%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「生まれてからずっと足立区内に住んでいる」が54.2%、「区外から転入してきた」が45.8%となっており、愛の手帳と比較して転入してきた人の割合が高い傾向である。

愛の手帳では、「生まれてからずっと足立区内に住んでいる」が64.0%、「区外から転入してきた」が34.4%となっている。



(78) 足立区内への居住年数

区外から転入してきた人に対して、足立区内への居住年数をたずねた。

18歳以上

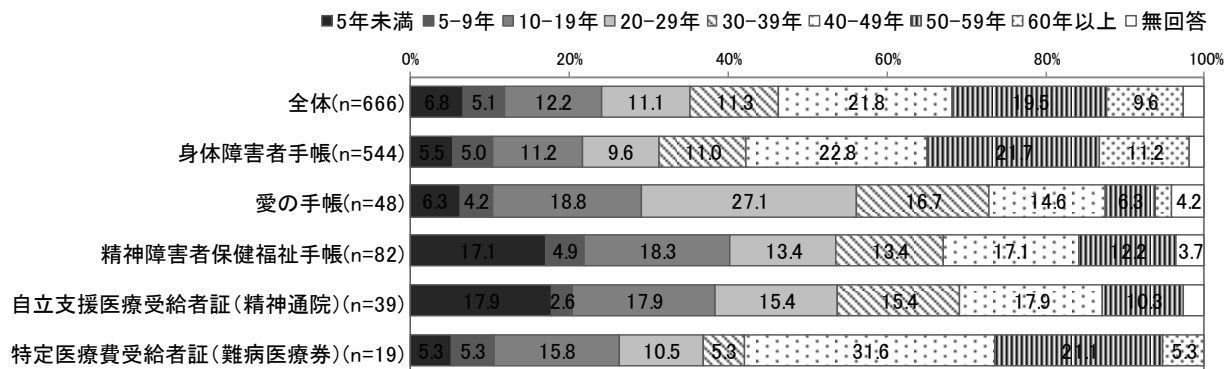
全体では、「40-49年」が21.8%と最も高く、次いで「50-59年」が19.5%、「10-19年」が12.2%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「40-49年」が22.8%と最も高く、次いで「50-59年」が21.7%となっており、40年から59年の年数の割合が高い傾向である。

愛の手帳では、「20-29年」が27.1%と最も高く、次いで「10-19年」が18.8%、「30-39年」が16.7%となっており、10年から39年の年数の割合が高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、「10-19年」と「40-49年」がやや高い傾向である。また、他の手帳等と比較して「5年未満」の割合が高い傾向である。

特定医療費(難病医療)では、「40-49年」が31.6%で最も多く、「50-59年」が21.1%となっており、40年から59年にかけての割合が高い傾向である。

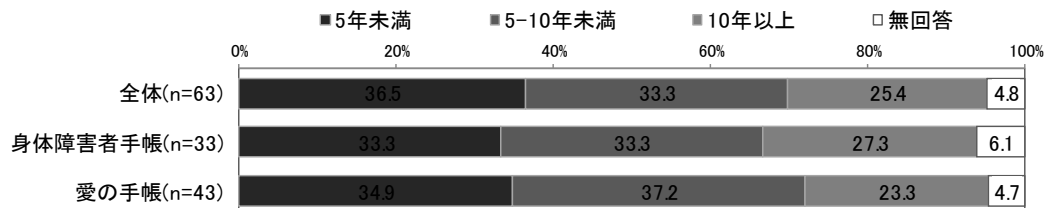


18歳未満

全体では、「5年未満」が36.5%と最も高く、次いで「5-10年未満」が33.3%、「10年以上」が25.4%となっている。

身体障害者手帳では、「5年未満」と「5-10年未満」が33.3%と最も高く、次いで「10年以上」が27.3%となっている。

愛の手帳では、「5-10年未満」が37.2%と最も高く、次いで「5年未満」が34.9%、「10年以上」が23.3%となっている。



(79) 足立区についての考え（「快適で安全なまち」と思うか）

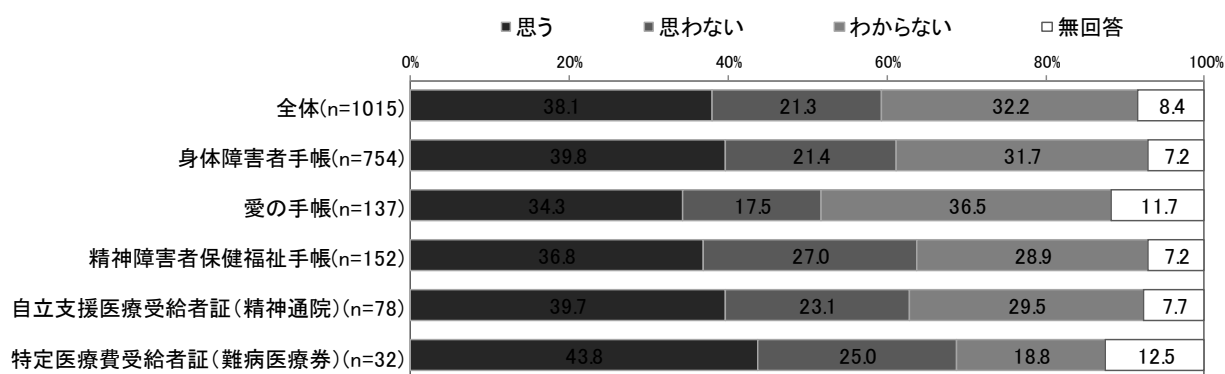
18歳以上

全体では、「思う」が38.1%と最も高く、次いで「わからない」が32.2%、「思わない」が21.3%となっている。

身体障害者手帳では、「思う」が39.8%と最も高く、次いで「わからない」が31.7%、「思わない」が21.4%となっている。

愛の手帳では、「わからない」が36.5%と最も高く、次いで「思う」が34.3%、「思わない」が17.5%となっている。

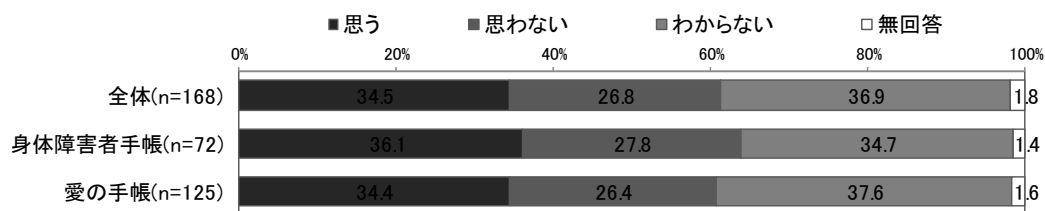
精神障害者保健福祉手帳では、「思う」が36.8%と最も高く、次いで「わからない」が28.9%、「思わない」が27.0%となっている。



18歳未満

全体では、「わからない」が36.9%と最も高く、次いで「思う」が34.5%、「思わない」が26.8%となっている。

手帳別でも、概ね同様の傾向が見られる。



(80) 足立区が「快適で安全」だと感じる理由

足立区について「快適で安全なまち」だと「思う」と回答した人に対して、理由をたずねた。

18歳以上

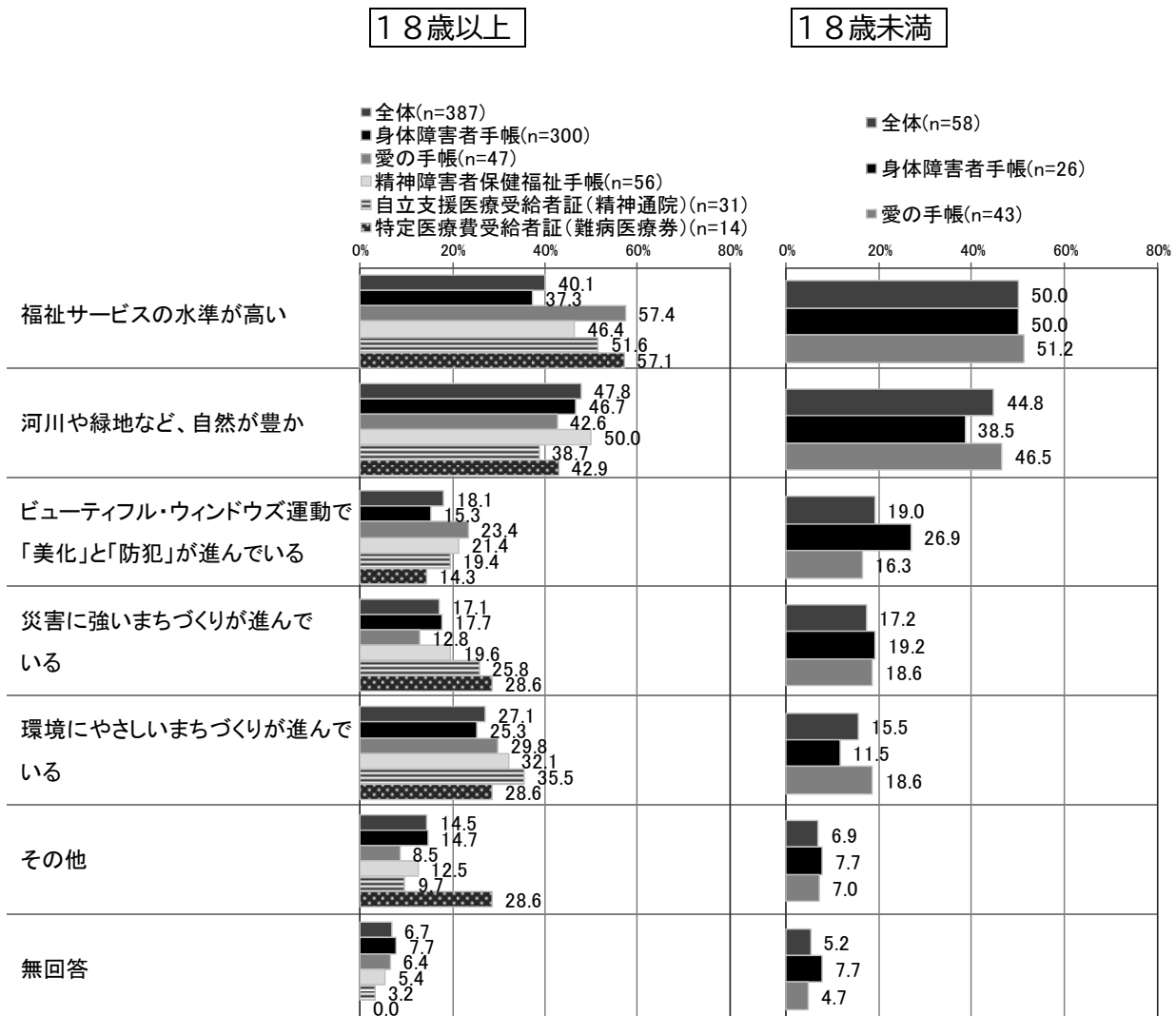
全体では、「河川や緑地など、自然が豊か」が47.8%と最も高く、次いで「福祉サービスの水準が高い」が40.1%、「環境にやさしいまちづくりが進んでいる」が27.1%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳、特定医療費(難病医療)では、他の手帳等と比較して「福祉サービスの水準が高い」が高い傾向である。

18歳未満

全体では、「福祉サービスの水準が高い」が50.0%と最も高く、次いで「河川や緑地など、自然が豊か」が44.8%、「ビューティフル・ウィンドウズ運動で「美化」と「防犯」が進んでいる」が19.0%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、愛の手帳と比較して「ビューティフル・ウィンドウズ運動で「美化」と「防犯」が進んでいる」が高い傾向である。



(81) 足立区が「快適で安全ではない」と感じる理由

足立区について「快適で安全なまち」だと「思わない」と回答した人に対して、理由をたずねた。

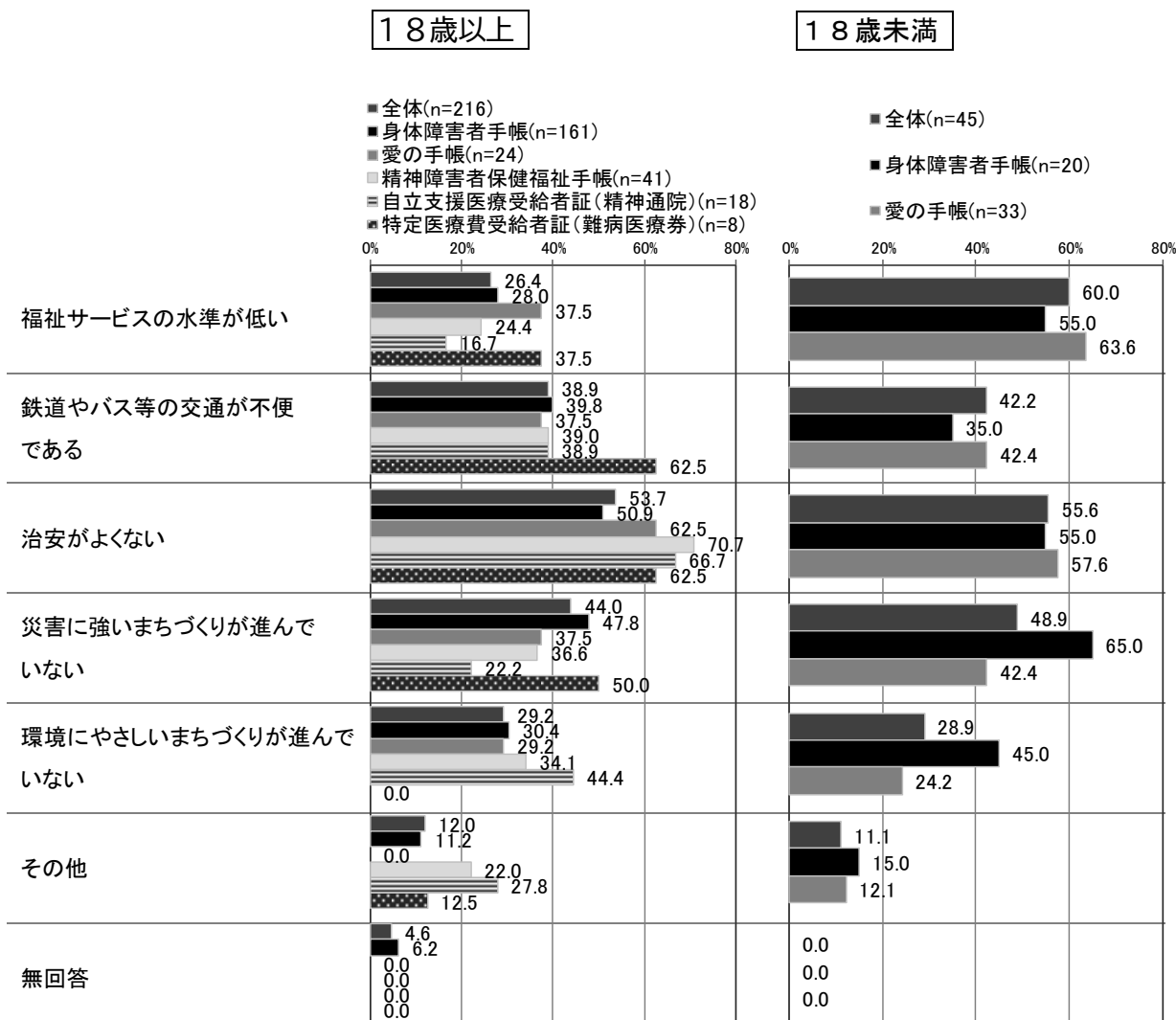
18歳以上

全体では、「治安がよくない」が53.7%と最も高く、次いで「災害に強いまちづくりが進んでいない」が44.0%、「鉄道やバス等の交通が不便である」が38.9%となっている。

精神障害者保健福祉手帳では、「治安がよくない」(70.7%)が最も高く、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

18歳未満

全体では、「福祉サービスの水準が低い」が60.0%と最も高く、次いで「治安がよくない」が55.6%、「災害に強いまちづくりが進んでいない」が48.9%となっている。



(82) 将来希望する暮らし方

18歳以上

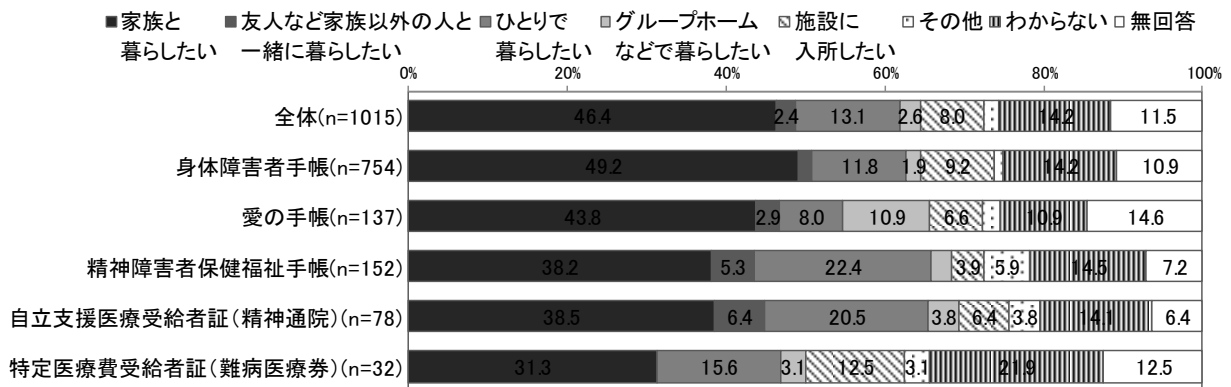
全体では、「家族と暮らしたい」が46.4%と最も高く、次いで「わからない」が14.2%、「ひとりで暮らしたい」が13.1%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「家族と暮らしたい」が49.2%と最も高く、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

愛の手帳では、「家族と暮らしたい」が43.8%と最も高くなっている。また、他の手帳等と比較して「グループホームなどで暮らしたい」が高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、「家族と暮らしたい」が4割弱で最も高くなっている。また、他の手帳等と比較して「ひとりで暮らしたい」が高い傾向である。

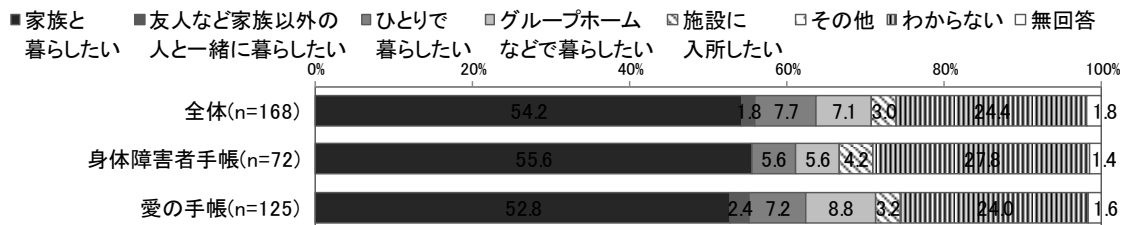
特定医療費(難病医療)では、他の手帳等と比較して「家族と暮らしたい」が低い傾向である。また、他の手帳等と比較して「わからない」、「施設に入所したい」が高い傾向である。



18歳未満

全体では、「家族と暮らしたい」が54.2%と最も高く、次いで「わからない」が24.4%、「ひとりで暮らしたい」が7.7%となっている。

手帳別でも、概ね同様の傾向が見られる。



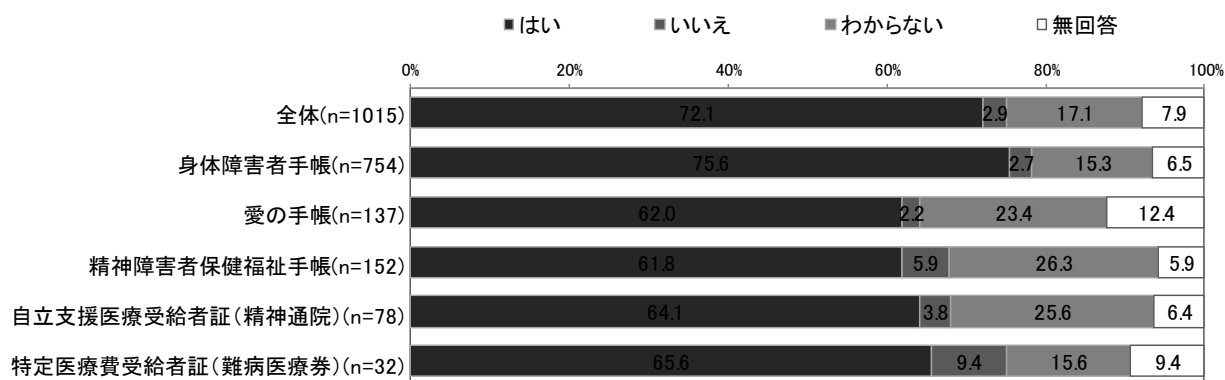
(83) 足立区にこれからも住み続けたいと思いますか

18歳以上

全体では、「はい」が72.1%と最も高く、次いで「わからない」が17.1%、「いいえ」が2.9%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「はい」が75.6%を占め、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

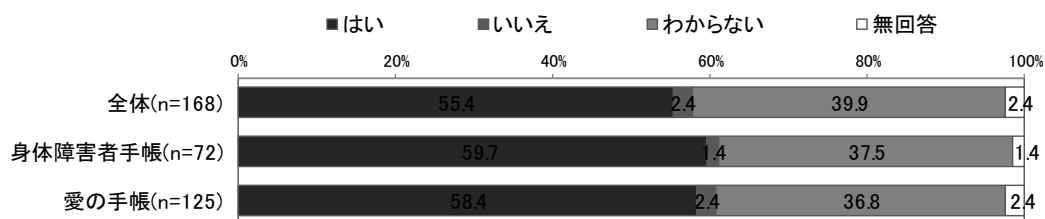
愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「わからない」が高い傾向である。



18歳未満

全体では、「はい」が55.4%と最も高く、次いで「わからない」が39.9%、「いいえ」が2.4%となっている。

手帳別でも、概ね同様の傾向が見られる。



(84) 今後も足立区で暮らしていくために整備が必要だと思う体制

18歳以上

全体では、「緊急時の受け入れ」が52.1%と最も高く、次いで「相談支援の充実」が44.4%、「専門的人材の確保」が28.6%となっている。

愛の手帳では、「緊急時の受け入れ」が59.9%と最も高くなっている。また、他の手帳等と比較して「緊急時の受け入れ」、「体験の場」が高い傾向である。

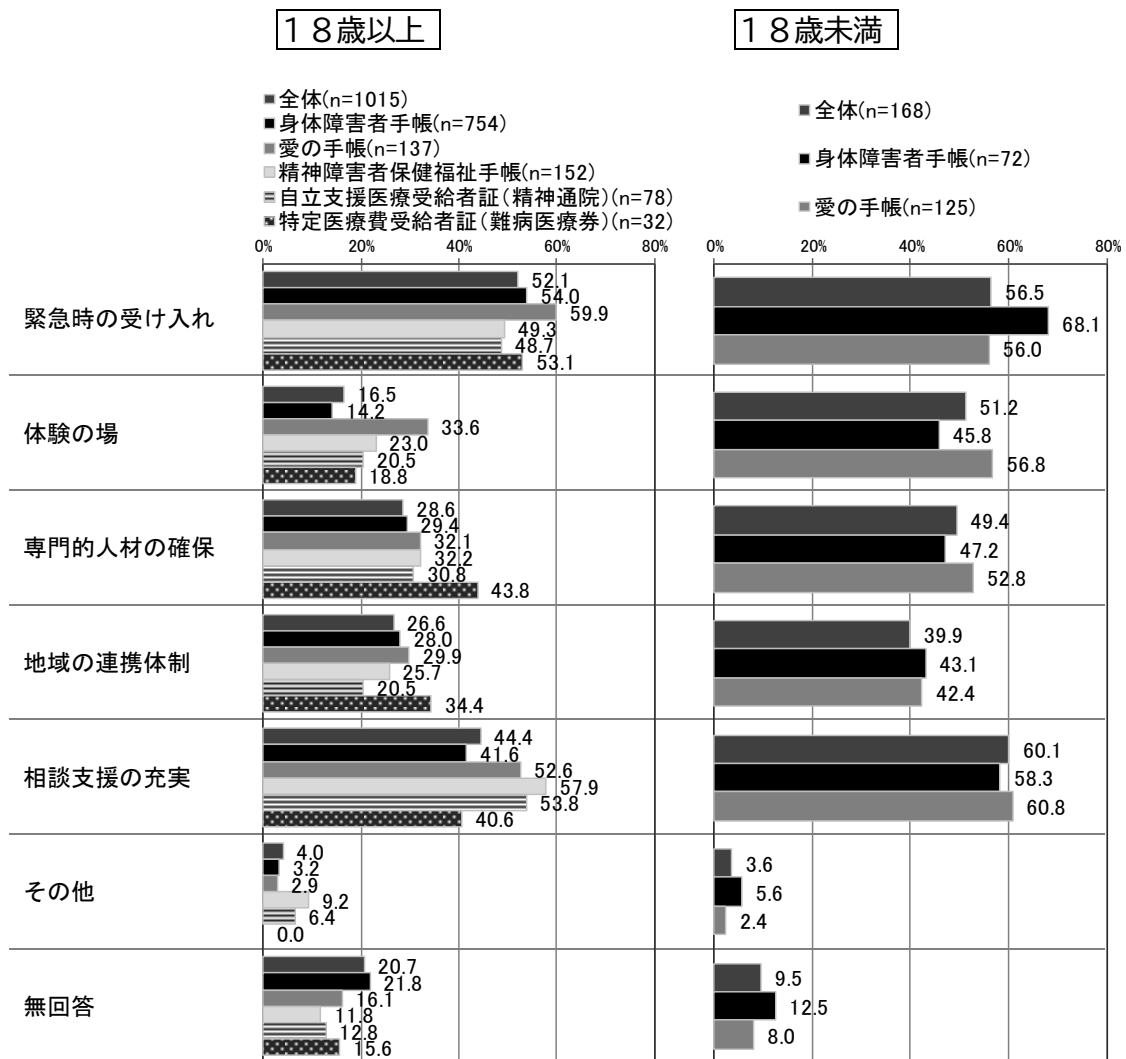
愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「相談支援の充実」が高い傾向である。

特定医療費(難病医療)では、他の手帳等と比較して「専門的人材の確保」が高い傾向である。

18歳未満

全体では、「相談支援の充実」が60.1%と最も高く、次いで「緊急時の受け入れ」が56.5%、「体験の場」が51.2%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、「緊急時の受け入れ」が68.1%と最も高くなっている。



12. 権利擁護について

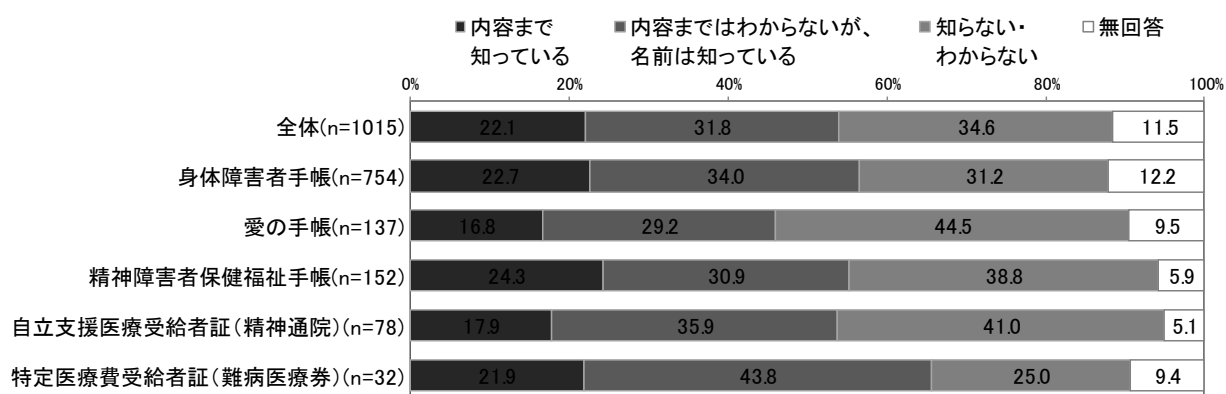
(85) 成年後見制度の認知度

18歳以上

全体では、「知らない・わからない」が34.6%と最も高く、次いで「内容まではわからないが、名前は知っている」が31.8%、「内容まで知っている」が22.1%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳、自立支援医療(精神通院)では、「知らない・わからない」が最も高く、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

特定医療費(難病医療)では、「内容まではわからないが、名前は知っている」が43.8%と最も高く、他の手帳等と比較しても高い傾向である。



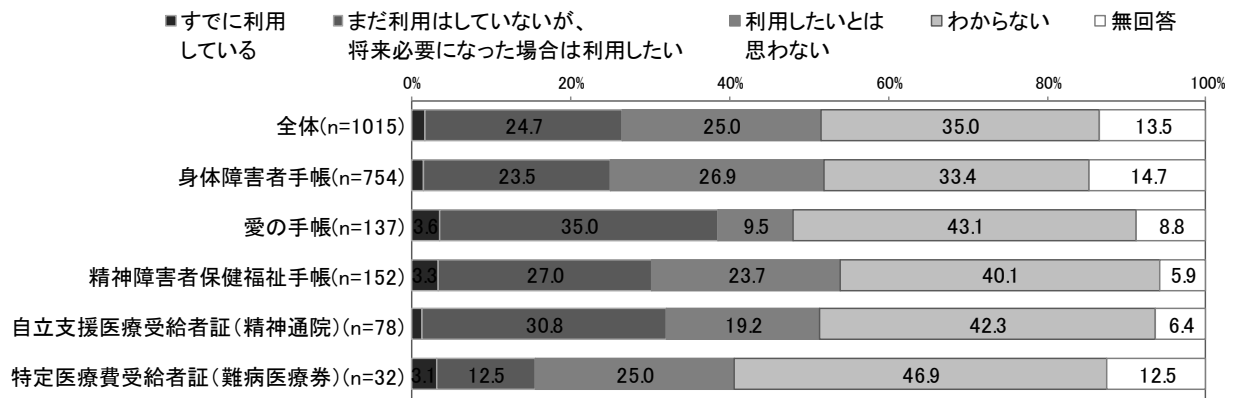
(86) 成年後見制度の利用意向

18歳以上

全体では、「わからない」が35.0%と最も高く、次いで「利用したいとは思わない」が25.0%、「まだ利用はしていないが、将来必要になった場合は利用したい」が24.7%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、「まだ利用はしていないが、将来必要になった場合は利用したい」が35.0%となっており、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

特定医療費(難病医療)では、他の手帳等と比較して「まだ利用はしていないが、将来必要になった場合は利用したい」が低い傾向である。

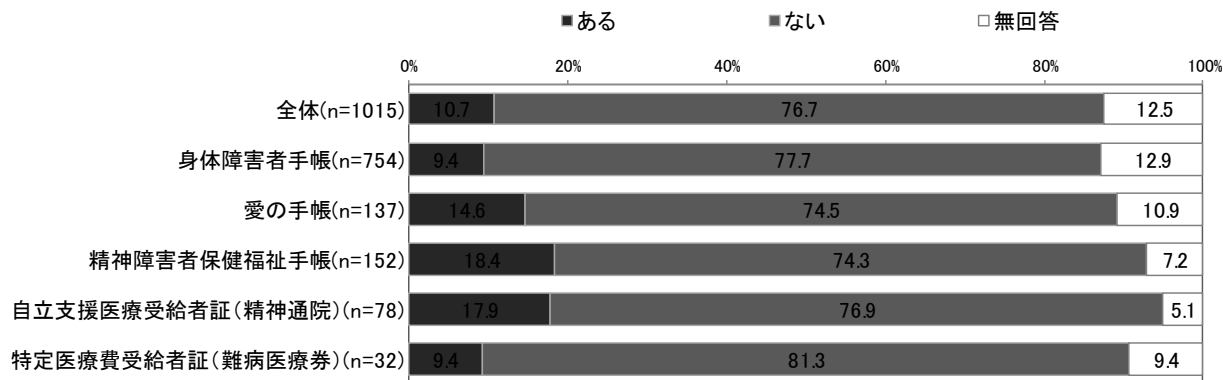


(87) 障がいを理由とした差別を受けた経験（過去1年間）

18歳以上

全体では、「ある」が10.7%に対して、「ない」が76.7%を占めている。

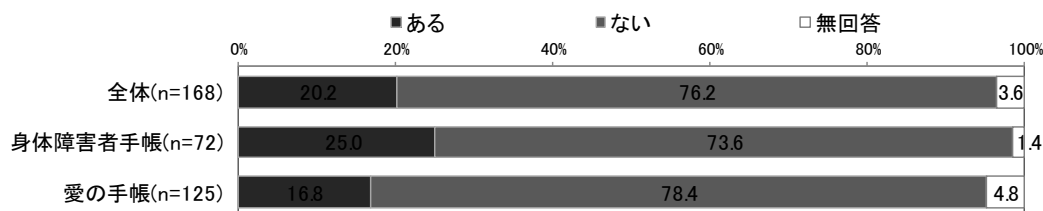
手帳別に見ると、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「ある」がやや高い傾向である。



18歳未満

全体では、「ある」が20.2%に対して、「ない」が76.2%を占めている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、愛の手帳と比較して「ある」(25.0%)が高い傾向である。



(88) 障がいを理由とした差別を受けた場面

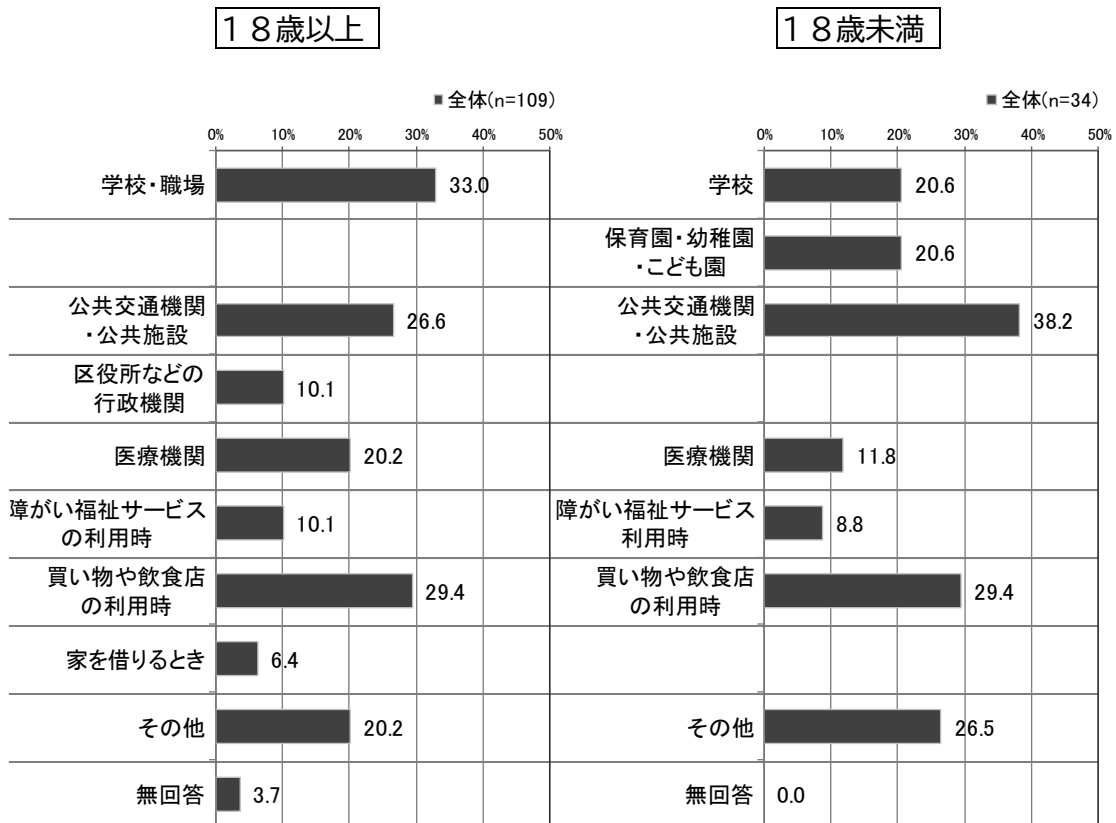
最近1年間に障がいを理由として差別を受けたことがある人に対して、差別を受けた場面についてたずねた。

18歳以上

全体では、「学校・職場」が33.0%と最も高く、次いで「買い物や飲食店の利用時」が29.4%、「公共交通機関・公共施設」が26.6%となっている。

18歳未満

全体では、「公共交通機関・公共施設」が38.2%と最も高く、次いで「買い物や飲食店の利用時」が29.4%、「その他」が26.5%となっている。



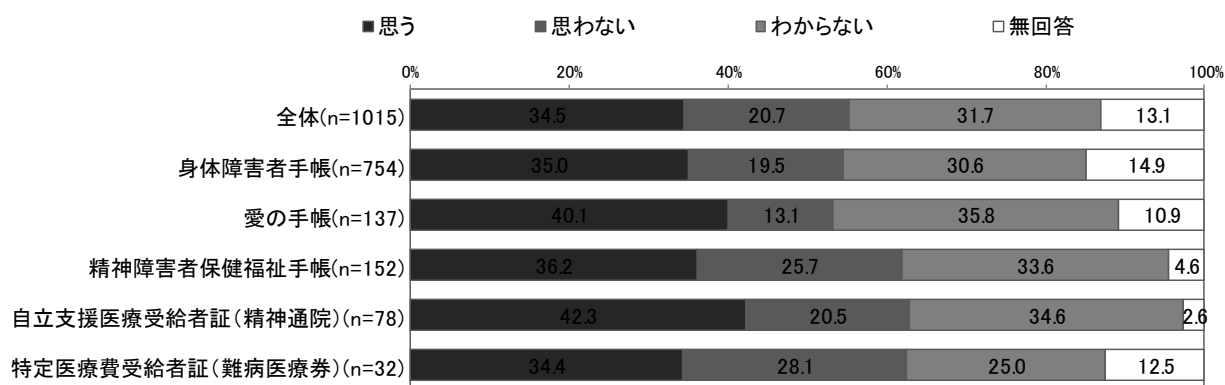
(89) 日常生活の中での周囲からの配慮

18歳以上

全体では、「思う」が34.5%と最も高く、次いで「わからない」が31.7%、「思わない」が20.7%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「思う」が高い傾向である。

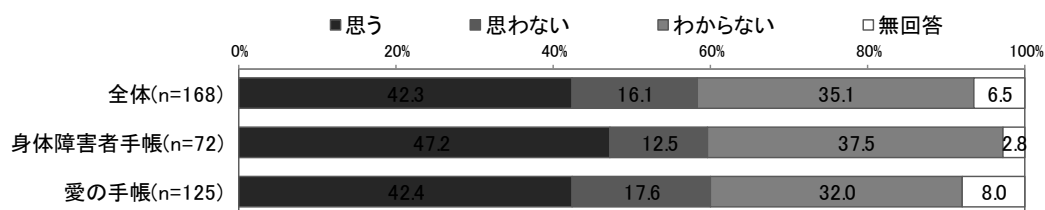
精神障害者保健福祉手帳、特定医療費(難病医療)では、他の手帳等と比較して「思わない」がやや高い傾向である。



18歳未満

全体では、「思う」が42.3%と最も高く、次いで「わからない」が35.1%、「思わない」が16.1%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、愛の手帳と比較して「思う」がやや高い傾向である。



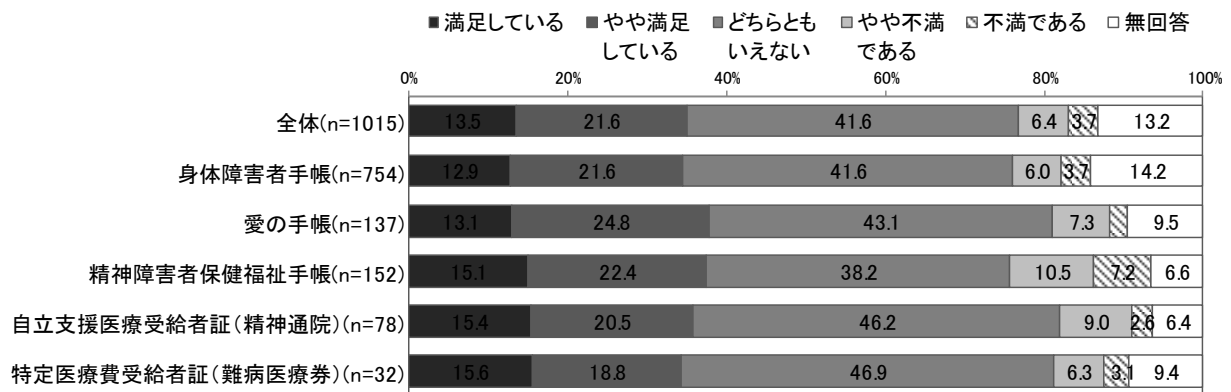
13. 障がい福祉政策についての意見

(90) 足立区における障がい福祉施策の満足度

18歳以上

全体では、「どちらともいえない」が41.6%と最も高く、次いで「やや満足している」が21.6%、「満足している」が13.5%となっている。

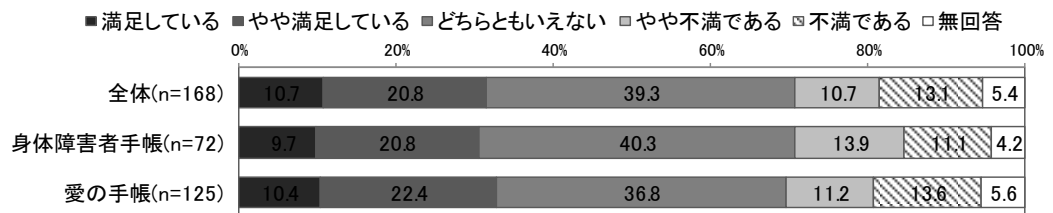
手帳別に見ると、特定医療費(難病医療)では、他の手帳等と比較して「やや不満である」が高い傾向である。



18歳未満

全体では、「どちらともいえない」が39.3%と最も高く、次いで「やや満足している」が20.8%、「不満である」が13.1%となっている。

手帳別でも、概ね同様の傾向が見られる。



(91) 充実を期待する足立区の障がい福祉施策

18歳以上

全体では、「経済的な支援の充実」が29.3%と最も高く、次いで「災害対策・災害時でも安心な体制の整備」が28.1%、「入所施設の確保」が22.3%となっている。

手帳別に見ると、愛の手帳では、「グループホームなど地域で暮らせる場の確保」が32.8%と最も高く、他の手帳等と比較しても高い傾向である。

精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療(精神通院)では、他の手帳等と比較して「経済的な支援の充実」、「就労・就学支援の充実」、「障がいを理由とする差別をなくすための取り組みの充実」などが高い傾向である。

(横%)	グループホームなど地域で暮らせる場の確保	入所施設の確保	在宅サービスの充実	日中活動の場の確保	芸術やスポーツなどの活動の振興	経済的な支援の充実	項目なし	就労・就学支援の充実	バリアフリー対応の整備	医療やリハビリテーションの充実	相談支援体制や情報提供体制の充実	災害対策・災害時でも安心な体制の整備	障がいを理由とする差別をなくすための取り組みの充実	その他	わからない	無回答
全体(n=1015)	13.0	22.3	18.4	10.8	7.1	29.3		10.4	12.7	21.7	20.3	28.1	10.5	2.7	11.4	12.0
身体障害者手帳(n=754)	10.9	23.9	21.2	9.7	6.0	26.3		7.0	15.5	22.9	18.8	29.6	8.0	2.1	10.6	13.3
愛の手帳(n=137)	32.8	28.5	9.5	18.2	7.3	24.8		13.1	8.0	16.8	22.6	30.7	15.3	2.9	14.6	6.6
精神障害者保健福祉手帳(n=152)	12.5	14.5	15.1	15.1	11.8	48.0		23.0	5.9	26.3	26.3	24.3	19.1	5.9	11.8	6.6
自立支援医療受給者証(精神通院)(n=78)	11.5	12.8	16.7	15.4	10.3	51.3		29.5	7.7	28.2	29.5	23.1	20.5	5.1	11.5	5.1
特定医療費受給者証(難病医療券)(n=32)	3.1	18.8	31.3	15.6	12.5	31.3		15.6	21.9	31.3	25.0	34.4	3.1	3.1	6.3	12.5

18歳未満

全体では、「就労支援の充実」が45.8%と最も高く、次いで「療育・就学支援の充実」が43.5%、「災害対策・災害時でも安心な体制の整備」が38.7%となっている。

手帳別に見ると、身体障害者手帳では、愛の手帳と比較して「入所施設の確保」、「バリアフリー対応の推進」、「医療やリハビリテーションの充実」、「災害対策・災害時でも安心な体制の整備」などが高い傾向である。

(横%)	グループホームなど地域で暮らせる場の確保	入所施設の確保	在宅サービスの充実	日中活動の場の確保	芸術やスポーツなどの活動の振興	経済的な支援の充実	療育・就学支援の充実	就労支援の充実	バリアフリー対応の整備	医療やリハビリテーションの充実	相談支援体制や情報提供体制の充実	災害対策・災害時でも安心な体制の整備	障がいを理由とする差別をなくすための取り組みの充実	その他	わからない	無回答
全体(n=168)	32.7	27.4	12.5	28.6	11.3	35.1	43.5	45.8	11.3	20.2	30.4	38.7	26.2	2.4	4.2	3.6
身体障害者手帳(n=72)	29.2	36.1	13.9	23.6	6.9	36.1	38.9	33.3	25.0	30.6	31.9	47.2	18.1	4.2	4.2	2.8
愛の手帳(n=125)	36.8	28.0	12.8	32.8	10.4	33.6	40.0	49.6	6.4	16.0	28.0	35.2	27.2	0.8	4.0	4.0

18歳以上：障がい別

18歳以上について該当する障がい別に見ると、視覚障がいでは、他の障がいと比較して、「バリアフリー対応」(27.7%)、「相談支援体制や情報提供体制の充実」(37.2%)が高い傾向である。

知的障がいでは、「グループホームなど地域で暮らせる場の確保」が34.4%と最も高く、他の障がいと比較しても高い傾向である。

精神疾患では、「経済的な支援の充実」が48.6%と最も高く、他の障がいと比較しても高い傾向である。

	グループホームなど地域で暮らせる場の確保	入所施設の確保	在宅サービスの充実	日中活動の場の確保	芸術やスポーツなどの活動の振興	経済的な支援の充実	就労・就学支援の充実	バリアフリー対応の整備	医療やリハビリテーションの充実	相談支援体制や情報提供体制の充実	災害対策・災害時でも安心な体制の整備	障がいを理由とする差別をなくすための取り組みの充実	その他	わからない	無回答
全体(n=1015)	13.0	22.3	18.4	10.8	7.1	29.3	10.4	12.7	21.7	20.3	28.1	10.5	2.7	11.4	12.0
視覚障がい(n=94)	9.6	26.6	21.3	10.6	8.5	27.7	8.5	27.7	23.4	37.2	29.8	18.1	2.1	9.6	2.1
聴覚・平衡機能障がい(n=89)	10.1	22.5	21.3	12.4	6.7	24.7	12.4	12.4	14.6	22.5	24.7	23.6	6.7	9.0	18.0
音声・言語・そしゃく機能障がい(n=75)	13.3	24.0	18.7	14.7	6.7	21.3	2.7	8.0	24.0	22.7	26.7	12.0	2.7	9.3	22.7
運動機能障がい(n=330)	12.7	26.1	23.9	13.9	6.4	28.2	5.5	20.6	30.6	15.8	30.3	7.6	2.4	8.8	10.3
内部障がい(n=194)	10.3	24.2	21.1	6.7	8.2	29.9	8.8	9.3	20.6	17.0	32.0	5.2	0.5	11.9	13.9
知的障がい(n=125)	34.4	32.0	11.2	20.0	9.6	26.4	16.0	8.8	16.0	24.0	29.6	19.2	3.2	12.8	4.8
精神疾患(n=142)	12.0	13.4	14.8	14.1	9.9	48.6	22.5	4.2	23.9	26.8	24.6	16.2	4.9	12.0	7.0
高次脳機能障がい(n=15)	6.7	33.3	20.0	20.0	0.0	13.3	0.0	20.0	46.7	33.3	13.3	6.7	0.0	6.7	6.7
発達障がい(n=80)	16.3	16.3	8.8	13.8	11.3	31.3	21.3	3.8	16.3	17.5	25.0	16.3	3.8	15.0	12.5
難病(n=47)	6.4	25.5	27.7	6.4	6.4	27.7	6.4	14.9	17.0	17.0	27.7	4.3	2.1	17.0	10.6

(92) 障がい福祉施策に関する意見など

障がい福祉施策に関する意見として、主なものは以下の通りである。

18歳以上

サービス

- ・ 就労移行支援の利用期間の延長。
- ・ 通所施設の確保
- ・ 精神障害者同士で話し合える日中の活動場所の確保。
- ・ 各町内、外とも更に増設してもらいたい。
- ・ 高校卒業後のデイサービス
- ・ 緊急テレビボックスの設置を！
- ・ 職員のプロ化を望む。入れ替えが激しいのも困る。
- ・ タクシー会社との連携
- ・ 親の説得に対しての代理(本人の意思ではない)。

暮らし

- ・ 住むところ、暮らせるお金の管理、生活の不安の解除。
- ・ 住に対する支援
- ・ 生活保護受給者の救済

相談

- ・ 1人で孤立したくない。
- ・ 今は姉がいるが、いなくなったら大変困る。

情報

- ・ 悪化した時どうしたらいいのかわからない。情報量の低下。

その他

- ・ 通院の場合の差別
- ・ 周囲に障害を理解する啓蒙。
- ・ アルコール・薬物・ギャンブル・摂食障害・買い物・窃盗癖など依存症に対する興味をもっと持っていてただけとうれしいです。回復者はたくさんいるので。
- ・ 公共交通機関(移動経路)の充実
- ・ JR電車の精神障害者の割引への旗振り

18歳未満

サービス・療育

- ・ 就学以降の療育が十分ではありません。土日休日の活動の場が見つけれられません。
- ・ 現在は、小中高と障害者を受け入れてくれる学校があるので満足しているが、その後の就労等を考えると不安や心配。支援級と支援学校のサービスの充実度が違いすぎる。支援級だと先生方が子供たちの特性をわかっているつもりになっていて預けるのが不安。見学や体験入学を見てそう思いました。
- ・ 特別支援学校を卒業した後の通所する場所が少なく(医療ケア児童)、週1~2日ほどでは今まで学校に3~5日行っていた子供としては、とてもストレスが出るのがわかります。どうか医療ケア児童が通える場所を増やしてほしいです。
- ・ (1)学校卒業後もデイサービスを利用したい。ショートステイを増やしてほしい。行動援護を使える事業所を増やしてほしい。(2)障がい者に優しい病院が必要。待っている間も目立ってしまい苦痛。発達協会王子クリニックのような専門病院を足立区にも作って欲しい。
- ・ おかげさまで学生時代はとても充実しています。卒業後が不安でしょうがないです。同じようなサービスを受けられることを望みます。18歳で特児の判定、愛の手帳の成人判定、医師の診断書等、同じことをあちらこちらで行っていて、本人も親も疲れてしまいます。情報を役所や病院で共有してほしいです。子供1人の情報を一括で管理してほしい。子供が小さい時からのことを何度も何度も話さなければならぬ。知的重度の子の手当等の2年更新、3年更新は無駄だと思います。変わりません。
- ・ 職業訓練先が少なく入れない！との声をよく聞くため、学校のように年齢別、中高年、若手とかで入りやすくしてもらいたい。デイサービスのように5時以降の帰宅時間に高卒してもできないのか？急に早く帰って来られても、体が大きくなっているため介護に負担がかかる。
- ・ 医療的ケア児の存在をしっかり理解し、その子たちが家以外で過ごせる居場所を作って欲しい。
- ・ 娘は動ける医療的ケア児です。私は本当であれば仕事をし、子供を保育園に預けたいと思っていますが、それは実現できていません。子どもの発達のために保育園や幼稚園に通園させたかったのですが、結局は医療的ケアを理由に母付き添いでこども園(短時間)の利用ということになりました。就学についても同じ理由で支援学校でさえも付き添いが必要かもしれないということで、本格的に職探しをできる状況にありません。障害の有無にかかわらず希望する教育を受けられるようにして欲しいです。
- ・ 子供でも親の負担は、とても大きいです。放課後デイはない、短期入所施設はない、日中一時施設はない(肢体不自由)。他区を利用するのは構わないが、その支援をしてください。足立区内に利用できる場所がないのなら、毎日車を走らせ、特に受診、ショートステイ、日中一時、放課後デイ、リハビリ、学校…。この生活どうですか？考えられますか？現在、足立区内で頼っているのは相談支援のみです。足立区に住んでいるのに足立区の利用がない。地域での共生社会を望んでいますが、毎日他区へ。実現できますか？一緒に考えてください。
- ・ 生活保護の担当者も障害を理解してほしい。近くの小学校や中学校に支援級がないから、遠くの学校に行かざるを得ない。
- ・ 障害に応じて相談窓口や就学支援など対応してほしいです。高等部のスクールバスを増やしてほしいです。

- ・ 聾学校幼稚部に通わせたいと考えていますが、近隣の幼稚園と違い、距離があるので毎日の送迎、日中の付き添いが今から不安に思っています。他の特別支援学校は通学バスがあるのに、なぜ聾学校にはないのか。充実した教育を受けさせたいが母親の負担が大きいです。
- ・ 骨が弱く、体を動かすことですぐ折れたり疲れしたりしてしまいます。ですが体を動かさないと筋肉が衰えてしまい、寝たきりになってしまいます。なので近くに福祉スポーツセンターがあると嬉しいです。
- ・ 余暇について足立区内に水泳を習える場が欲しい。小学生からずっと親の付き添いも可能なところ。太ってしまい右手足の麻痺があり、他のスポーツも難しく、15歳以上じゃないと習えるところも足立区には見当たらないので作って欲しい。
- ・ 芸術やスポーツなどの活動の振興をもっと充実させて欲しい。子供たちはなかなか受け入れられる機会がない。自分で申請したり調べたりしないとわからない。発達支援に通っている未就学児、区と連携して支援の中に取り入れたり訪問してもらい、移動しなくても体験できるなど充実させて欲しい。
- ・ イオン(レイクタウン、その他イオンでも見たことがあります)の障がい者スペースの駐車管理は素晴らしい考えだと思います。世の中全部がそこまでとは言いきれませんが、あれくらい丁寧に考えていただけたら、安心して外出できるようになると思います。よろしくお願いします。
- ・ 長子の療育、幼稚園の通園に次子を保育所へ入所させなければ通えないため、申し込みに行ったがポイントが低く入れないかもとのことであった。付き添わなければ療育や教育を受けることができないのに、保育所へ入所できなくなると長子はどこにもいけなくなる。介護という枠組みでのポイントであったが、老人介護とは違うので家庭状況を配慮した保育所入所の選考をしていただきたい。足立区内で医療ケア児、障害児を受け入れる幼稚園がない。
- ・ 言葉が遅いだけで保育園入園の時、支援センターげんきの面接を受けなくてはならなかった。そのため支援児ということになり、保育園入園を拒否される園が多かった。未就学児のための児童デイサービスが欲しい。福祉とは名ばかりで生活苦だし孤独です。
- ・ 介助を行いながら仕事を続けることに難しさを感じます。支援学校までバスによる通学から放課後等デイサービスを利用後の帰宅となると、多くの時間を外で過ごします。仕方がないことではあるでしょうが、これまで療育施設で親と通い、親と一緒に過ごしてきた子供が、就学時に環境が大きく変化してしまう負担を危惧しています。福祉施策の視点とは異なるかもしれませんが、親と子ども充実した日々となる取り組みはないものでしょうか。
- ・ 知的障害や発達障害を伴わない肢体のみ不自由の子供(乳児や幼児)はとても少数派の為、行き先が見つけにくい。健常者の中では移動にサポートが必要で、障害児の中ではコミュニケーションができる相手が少ない。過保護になる。パラスポーツの車いすジュニア部門があったら入ってみたい。災害移動、食事やケア、トイレおむつ替えなどのために、キャンピングカーのようなスペースが便利で必須。コストが高いので助成制度が欲しいです。
- ・ 公共のトイレに大きなベッドが置いてある所が少ない。肢体不自由の人にとってベッドは必要なので、ぜひぜひ増やしてもらいたいと思います。

暮らし

- ・ 働ける就学支援の充実を期待します。子供が1人になったら暮らせる場所、一人暮らしは無理だし寂しい。
- ・ 遠方ではなく生まれ育った地域に施設があればとずっと思っています。
- ・ 親亡き後も子供が地域で生活していけるための福祉施策を望みます。(1)通学時の移動支援サービスの設置。(2)年少年中からの就学相談。(3)放課後等デイサービスを卒業した後の日中活動の場。

- ・ 将来親がいなくなった後のことを一番考えることが多く、他の方も同じだと思います。施設を建設するまでの時間は、地域の方への理解などを含めるとかなり時間がかかります。それを念頭に施設の新設も増やして欲しいと思っています。

相 談

- ・ ここがどんな活動をしているのか？何を相談して良いのか？誰が対象なのか？手帳がある人のみ OR 度数による等。重度の人には手厚いが軽度の人にもサポートが欲しい。
- ・ 発達に関して相談したい。療育や指導を受けたい。手帳の手続きの際、予約がいっぱいで数週間待たないといけなかったり、今年度は無理で来年度ならということもあった。思い立ったときにもう少し早く対応してもらえる体制、相談場所を増やすなどが整うと良いです。区のホームページも情報量が多く検索しても情報にたどり着けないことが多いです。当事者でもわかりやすいように、例えばフローチャートのようなものから最低限のクリック数で必要とする情報にとべるなどの工夫があると、より調べやすいし利用しやすいと思います。
- ・ 日々を過ごすことで精一杯となりがちなので、困った時に相談できる窓口が複数あるとありがたいなと思います。
- ・ 困っていることがあり、相談しても受け入れてもらえない。障害がある子供の世話で、兄弟との関わる時間が削られて、兄弟はとて我慢している。もう少し家族に寄り添って、一緒に悩みが解決できることを願います。
- ・ 福祉事務所の担当者が変わりすぎる。引継ぎもうまくできていないので困る。障がい者のしおりの新しいものができたら教えて欲しい。
- ・ 今は福祉課の援護係に相談することが多いが、他の所へ相談すると「相談できません」と断られることが多い。それだけはやめていただけきたい。あと障害のある子供って人に限られることが多いので、交流する機会を作ってほしいと思います。

情 報

- ・ 福祉事務所の担当の方により、サービスや情報の提供に差があるが、こちらは知らないことだらけなので、聞いたことへの回答だけではなく、こんな制度がありますよ、こんなサービスを受けられますよ、など積極的に教えてもらいたい。
- ・ 援護係等役所の方から「こんなサービスや援助等が受けられる」と教えていただけるとありがたい。何事も「わからない」からスタートすることが多いので「障がい者のしおり」などではわからないことも多い。アドバイスを受けられるととても助かります。
- ・ 障害があるという事は普通の人よりできないことが多いので考慮が必要ですが、人それぞれできることが違うのでオーダーメイドでできるようになるといいですね。家族からすると色々な人たちから情報をもらい、手探りで未来のことが見えずに、学校探し病院探しをしているので辛くなる時があります。
- ・ 足立区側から定期的に連絡や訪問をしていただき、常時情報をアップデートするようになれば安心して生活ができます。
- ・ 障害に詳しい人が少ないと思う。相談しようとしてもわからないと言われるのでアシスト・げんきや保健所はあてにならない。折り返すと言っていたのに保健所はその後一切連絡がなかった。その障害の全体的な話をされても個人には当てはまらないことが多く、話を聞いても結局どうすれば良いのか答えが出てこない。個人へのアプローチ、サポートをちゃんと考えられる専門の人を相談窓口においてほしい。当たり障りのない話を聞くために相談しているわけではない。手帳が等級や年齢によって

は支援が合わず取得メリットがない。未就学児に交通費がかからないのに、子供料金を払えば同伴者が半額では、支払う金額は同じ。精神障がい者が同伴している場合に障がい者スペースに駐車をしたい。その際に証明書等がないと不便。4度だと補助金が出ないのは不満。4度であっても経済的負担はかなりある。4度であっても電車やバスに乗れない人もいることをあまり理解していないと思うが、手帳取得をさらに申請をしないと受けられない支援などもあり、窓口が違う等手間がかかりすぎる。

- ・ ギターをやってみたいけれど障害の人に教えてくれる場所がわからない。プールの練習は北区に行っている。足立区にも欲しい。カラオケサークルを紹介してほしい。

災害

- ・ (1)災害時、安否確認申出書は1～2年ごとに内容確認の案内をいただきたい。情報とともに。(2)高額障害福祉サービス費の手続きが煩雑である上、不親切である。PC 台帳からリストアップして案内をいただきたい。よくわからないと返金を受けていないのでは？利用区民の不利益になっている。
- ・ 防災に関してとても不安です。うちの子は人工内耳を使っているので充電が必須です。避難もマンションで暮らしているので出来るだけ避難所にはいかず、食糧・水・電気の提供を受けたいと思いますが、実際に受けられるのか不安です。

その他

- ・ 差別等は障がい者のことを全く知らないから「怖い」など外見から始まっていくのだと思います。健常者と障がい者が交流する場があれば、障がい者を理解できるきっかけになっていくのではないのでしょうか。
- ・ 障害児が安心して暮らせるようにしてもらいたい。障がい者に対しても差別やいじめが起きないように教育現場を目指してもらいたい。大人になってからの経済的支援をもっと手厚くしてもらいたい。
- ・ インクルージョンを推進してください。身近で小さい頃から障害のある人と接する事はとても大事です。
- ・ 今、バリアフリーといわれていますが、現実には公園やスーパーへ行ってもどうしてもジロジロ見られたり、ぎょっとされたり、もしくは子供が他の人へ急に近づいたり触ってしまったりして、頭を下げる休日を過ごしています。障がい者用の公園や児童館・公民館みたいなものを有料でも良いので作って欲しいです。滑り台や遊具ひとつとっても幅広くに作ってもらえたりすれば、順番などルールをそこまで遵守せずにストレスなく遊べる気がします。
- ・ 区の予算も大事ですが、障害に見合った支援を受けられるように障がい者目線で施策を考えていただきたい。
- ・ 問題点が多いと思いますが一つ一つクリアしてほしい。現実には想像以上に大変と理解してほしい。ケアを上手に使っている人はすごくうらやましいと思うが、一方でちょうど抜け目になっている気がする。障がい者手帳一級を持っていて ETC と車を登録したいが、中古で購入したら車載器ナンバーがわからず登録できない。乗っているのは事実なのに、とこんな小さな問題でも一つ一つ申請するために準備して、手続きをして医師の意見書が必要ならば文章代で3千円～5千円とられる。毎年、半年の話。更新時は意見書ももう少し簡単なものを。「意見書」ではなく申込書に医師のサインが必要程度とか。又、手続きや提出書類、準備する書類が多すぎる。毎年必ず申請している書類で、区で連携して情報をそちらで処理できるようにしてほしい。
- ・ 西部福祉事務所は、障がい関係とその他(保護)の受付やブースを分けて欲しい。福祉事務所の勤務になったら最低限障がいのことについては勉強すべきだと思う。言動など、配慮がほしい。移動支

援ヘルパー、放課後デイサービスなど、職員にしっかりとした指導をし、定期的なヒアリング等を行って欲しい。

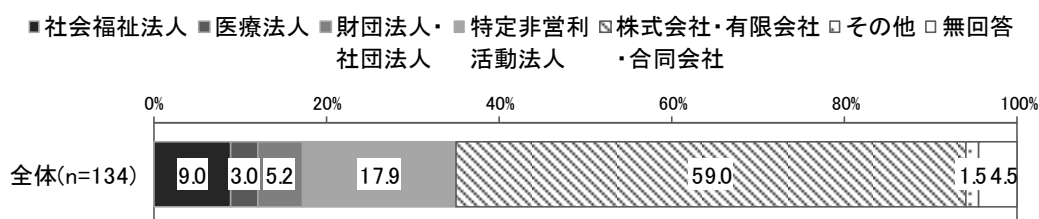
- ・ もっと当事者や介護者の声を聞いてほしい。こちらの立場を想像して制度を作ってほしい。よろしくをお願いします。グループホームを建てる、アドバイスのセミナーなどをやってほしい。
- ・ 何か問題が起これば原因は障害であり、責任は本人とその家族にあるという理解の仕方であると思う。それは否定できないが社会に責任はないのだろうか。障害があろうとなかろうと、あくまで自立させる。そのために早期の治療を積極的に行う。こうした欧米の対応と比較してしまう。

第2節 事業者調査

1. 事業所の概要について

(1) 運営主体の法人格

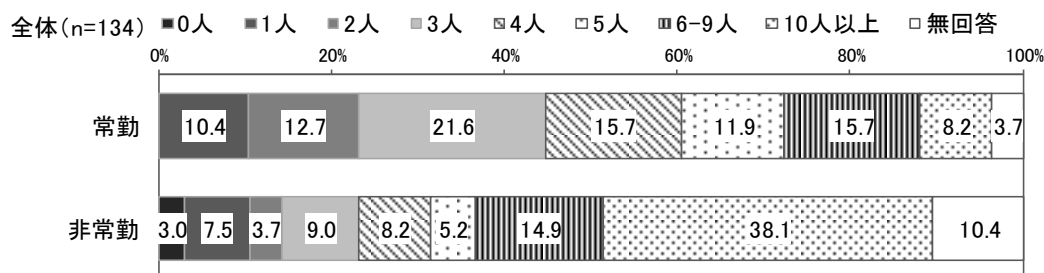
「株式会社・有限会社・合同会社」が59.0%と最も高く、次いで「特定非営利活動法人」が17.9%、「社会福祉法人」が9.0%となっている。



(2) 事業所の職員数

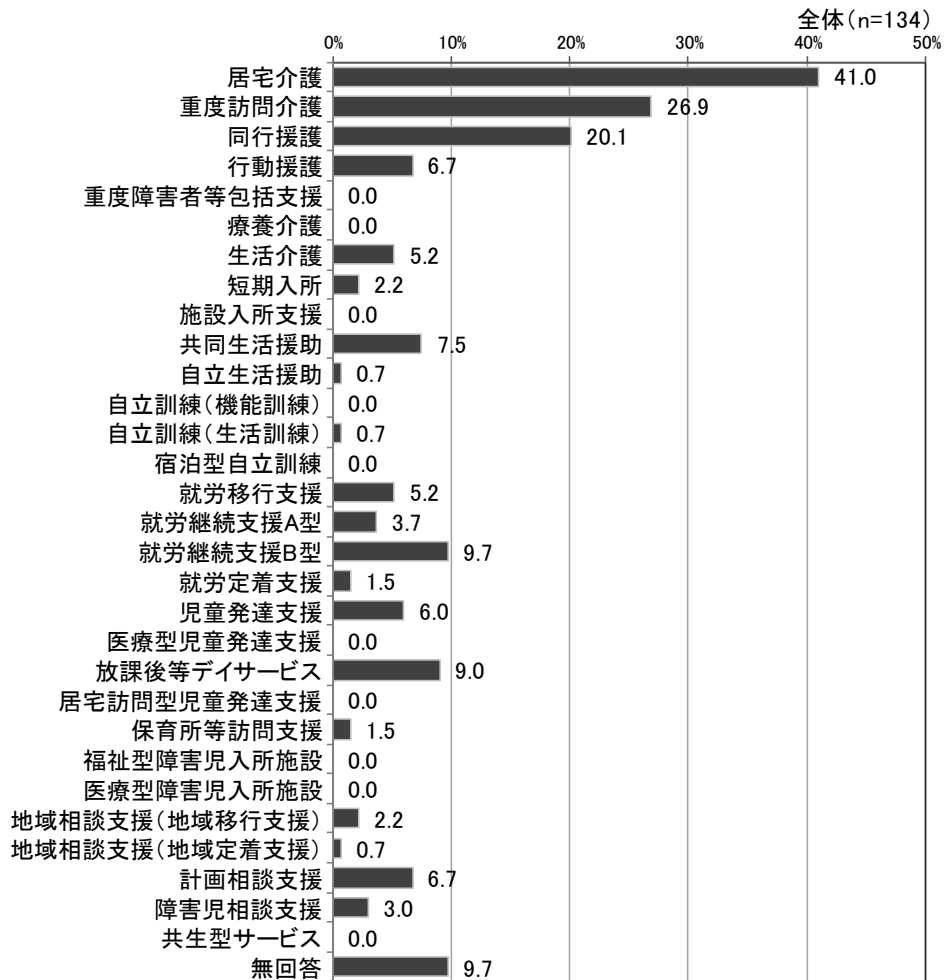
常勤は、「3人」が21.6%と最も高く、次いで「4人」と「6-9人」が15.7%となっている。

非常勤は、「10人以上」が38.1%と最も高く、次いで「6-9人」が14.9%、「3人」が9.0%となっている。



(3) 事業所におけるサービス種別

事業所で実施しているサービス種別としては、「居宅介護」が41.0%と最も高く、次いで「重度訪問介護」が26.9%、「同行援護」が20.1%となっている。



1. 事業所の概要について

(4) 事業所におけるサービス種別の利用者数

事業所で実施しているサービス種別で、成人・児童それぞれの利用者数をたずねた。

【利用者数：身体障がい】

	n=	成人									児童								
		0人	1人	2人	3人	4人	5人	6 9人	10 人 以上	無 回 答	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6 9人	10 人 以上	無 回 答
居宅介護	55	6	3	8	8	6	4	10	10	0	49	2	2	1	1	0	0	0	0
重度訪問介護	36	8	6	10	5	2	0	4	1	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0
同行援護	27	4	7	6	2	2	1	2	3	0	26	1	0	0	0	0	0	0	0
行動援護	9	8	0	0	0	1	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0
生活介護	7	4	1	0	0	1	0	0	1	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
短期入所	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
共同生活援助	10	9	0	0	0	0	1	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0
自立生活援助	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
自立訓練(生活訓練)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
就労移行支援	7	2	3	2	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
就労継続支援A型	5	2	0	0	1	0	0	2	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
就労継続支援B型	13	10	2	0	0	0	0	1	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0
就労定着支援	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
児童発達支援	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	1	0	0	0
放課後等デイサービス	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	7	2	0	1	0	0	1	1	0
保育所等訪問支援	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
地域相談支援(地域移行支援)	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
地域相談支援(地域定着支援)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
計画相談支援	10	8	1	0	0	0	0	0	1	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0
障害児相談支援	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0

【利用者数：知的障がい】

	n=	成人									児童								
		0人	1人	2人	3人	4人	5人	6 9人	10 人 以上	無 回 答	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6 9人	10 人 以上	無 回 答
居宅介護	55	30	12	3	1	1	2	4	2	0	46	5	2	0	1	0	1	0	0
重度訪問介護	36	35	1	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0
同行援護	27	27	0	0	0	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0
行動援護	9	2	2	0	2	0	0	1	2	0	4	2	1	1	0	1	0	0	0
生活介護	7	0	0	1	0	0	1	0	5	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
短期入所	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
共同生活援助	10	6	0	0	2	0	0	1	1	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0
自立生活援助	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
自立訓練(生活訓練)	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
就労移行支援	7	1	0	2	1	1	2	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
就労継続支援A型	5	0	0	0	0	1	1	1	2	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
就労継続支援B型	13	6	0	1	0	0	0	2	4	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0
就労定着支援	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
児童発達支援	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	0	0	1	1	0
放課後等デイサービス	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	3	5	0
保育所等訪問支援	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
地域相談支援(地域移行支援)	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
地域相談支援(地域定着支援)	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
計画相談支援	10	6	0	0	0	1	0	0	3	0	9	0	0	0	0	0	0	1	0
障害児相談支援	4	3	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0

第3部 調査結果 第2節 事業者調査

1. 事業所の概要について

【利用者数：精神障がい】

	n=	成人									児童								
		0人	1人	2人	3人	4人	5人	6 9人	10 人 以上	無 回 答	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6 9人	10 人 以上	無 回 答
居宅介護	55	30	8	5	2	3	1	1	5	0	55	0	0	0	0	0	0	0	0
重度訪問介護	36	35	1	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0
同行援護	27	26	1	0	0	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0
行動援護	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0
生活介護	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
短期入所	3	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
共同生活援助	10	4	0	0	1	1	1	1	2	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0
自立生活援助	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
自立訓練(生活訓練)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
就労移行支援	7	1	0	0	0	0	0	1	5	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
就労継続支援A型	5	1	0	0	1	0	0	0	3	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
就労継続支援B型	13	5	0	0	0	0	1	1	6	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0
就労定着支援	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
児童発達支援	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等デイサービス	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	11	1	0	0	0	0	0	0	0
保育所等訪問支援	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
地域相談支援(地域移行支援)	3	0	0	1	1	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
地域相談支援(地域定着支援)	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
計画相談支援	10	6	0	0	0	0	0	0	4	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0
障害児相談支援	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0

【利用者数：発達障がい】

	n=	成人									児童								
		0人	1人	2人	3人	4人	5人	6 9人	10 人 以上	無 回 答	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6 9人	10 人 以上	無 回 答
居宅介護	55	52	3	0	0	0	0	0	0	0	55	0	0	0	0	0	0	0	0
重度訪問介護	36	36	0	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0
同行援護	27	27	0	0	0	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0
行動援護	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0
生活介護	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
短期入所	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
共同生活援助	10	9	1	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0
自立生活援助	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
自立訓練(生活訓練)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
就労移行支援	7	3	1	1	0	0	2	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
就労継続支援A型	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
就労継続支援B型	13	10	1	1	0	1	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0
就労定着支援	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
児童発達支援	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	4	0
放課後等デイサービス	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	1	1	4	0
保育所等訪問支援	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
地域相談支援(地域移行支援)	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
地域相談支援(地域定着支援)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
計画相談支援	10	9	0	0	0	0	0	0	1	0	9	0	0	0	0	0	0	1	0
障害児相談支援	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0

第3部 調査結果 第2節 事業者調査

1. 事業所の概要について

【利用者数：重心・医ケア】

	n=	成人									児童								
		0人	1人	2人	3人	4人	5人	6 9人	10 人 以上	無 回 答	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6 9人	10 人 以上	無 回 答
居宅介護	55	50	4	1	0	0	0	0	0	0	53	0	1	0	0	1	0	0	0
重度訪問介護	36	28	4	3	0	1	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0
同行援護	27	27	0	0	0	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0
行動援護	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0
生活介護	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
短期入所	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
共同生活援助	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0
自立生活援助	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
自立訓練(生活訓練)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
就労移行支援	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
就労継続支援A型	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
就労継続支援B型	13	13	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0
就労定着支援	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
児童発達支援	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	2	2	0
放課後等デイサービス	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	1	1	0	0	0	1	0
保育所等訪問支援	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
地域相談支援(地域移行支援)	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
地域相談支援(地域定着支援)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
計画相談支援	10	7	1	0	0	0	0	2	0	0	9	1	0	0	0	0	0	0	0
障害児相談支援	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0

【利用者数：難病】

	n=	成人									児童								
		0人	1人	2人	3人	4人	5人	6 9人	10 人 以上	無 回 答	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6 9人	10 人 以上	無 回 答
居宅介護	55	55	0	0	0	0	0	0	0	0	55	0	0	0	0	0	0	0	0
重度訪問介護	36	33	2	1	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0
同行援護	27	27	0	0	0	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0
行動援護	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0
生活介護	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
短期入所	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
共同生活援助	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0
自立生活援助	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
自立訓練(生活訓練)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
就労移行支援	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
就労継続支援A型	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
就労継続支援B型	13	12	1	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0
就労定着支援	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
児童発達支援	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	1	0	0	0	0	0
放課後等デイサービス	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	1	0	0	0	0	0	0
保育所等訪問支援	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
地域相談支援(地域移行支援)	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
地域相談支援(地域定着支援)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
計画相談支援	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0
障害児相談支援	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0

第3部 調査結果 第2節 事業者調査

1. 事業所の概要について

(5) 事業所におけるサービス種別の職員数

事業所で実施しているサービス種別で、常勤・非常勤それぞれの利用者数をたずねた。

【職員数：常勤・非常勤】

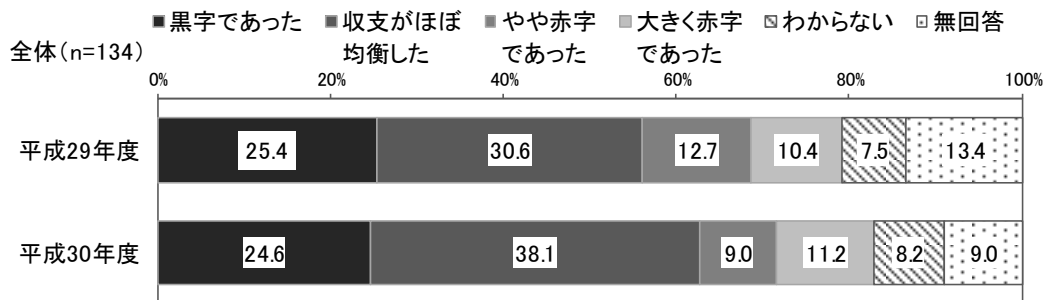
	n=	常勤									非常勤								
		0人	1人	2人	3人	4人	5人	6 9人	10 人 以上	無 回 答	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6 9人	10 人 以上	無 回 答
居宅介護	55	6	5	9	14	7	6	7	1	0	6	5	9	14	7	6	7	1	0
重度訪問介護	36	6	7	7	6	2	2	5	1	0	6	7	7	6	2	2	5	1	0
同行援護	27	5	7	6	3	3	2	1	0	0	5	7	6	3	3	2	1	0	0
行動援護	9	1	2	1	1	0	1	3	0	0	1	2	1	1	0	1	3	0	0
生活介護	7	0	0	2	1	1	0	2	1	0	0	0	2	1	1	0	2	1	0
短期入所	3	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0
共同生活援助	10	0	3	2	2	0	1	2	0	0	0	3	2	2	0	1	2	0	0
自立生活援助	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
自立訓練(生活訓練)	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
就労移行支援	7	1	0	0	3	1	1	1	0	0	1	0	0	3	1	1	1	0	0
就労継続支援A型	5	1	0	0	1	0	1	2	0	0	1	0	0	1	0	1	2	0	0
就労継続支援B型	13	0	0	3	3	5	1	1	0	0	0	0	3	3	5	1	1	0	0
就労定着支援	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
児童発達支援	8	0	0	0	2	2	2	1	1	0	0	0	0	2	2	2	1	1	0
放課後等デイサービス	12	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	3	3	3	3	0	0	0
保育所等訪問支援	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
地域相談支援(地域移行支援)	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0
地域相談支援(地域定着支援)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
計画相談支援	10	4	3	2	1	0	0	0	0	0	4	3	2	1	0	0	0	0	0
障害児相談支援	4	1	2	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0

2. 運営状況や事業展開について

(5) 障がい者支援に関する部門全体の収支

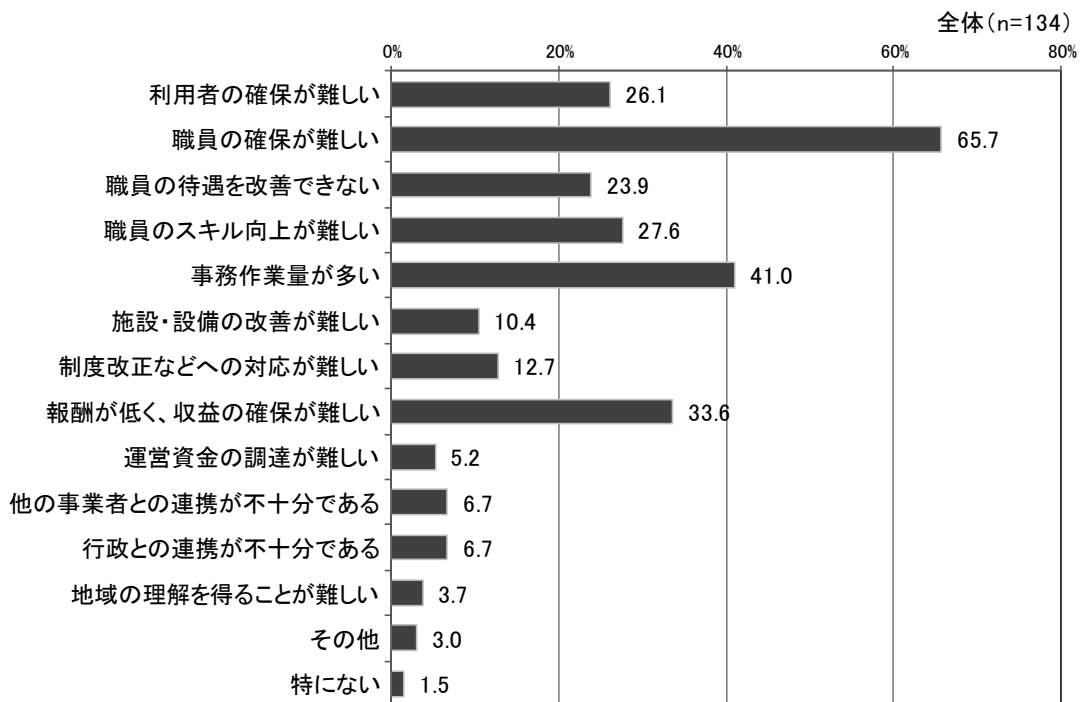
平成29年度は、「収支がほぼ均衡した」が30.6%と最も高く、次いで「黒字であった」が25.4%、「やや赤字であった」が12.7%となっている。

平成30年度は、「収支がほぼ均衡した」が38.1%と最も高く、次いで「黒字であった」が24.6%、「大きく赤字であった」が11.2%となっている。



(6) 事業所経営の課題

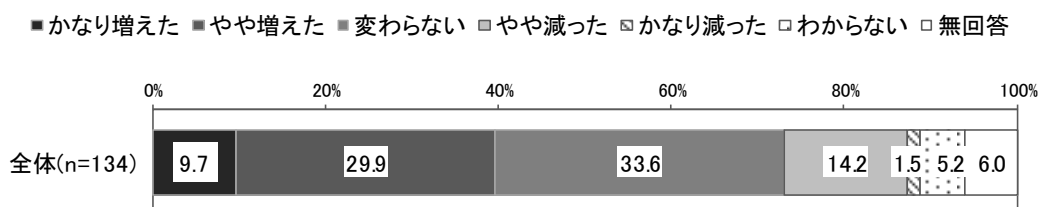
「職員の確保が難しい」が65.7%と最も高く、次いで「事務作業量が多い」が41.0%、「報酬が低く、収益の確保が難しい」が33.6%となっている。



(7) 新規サービス提供依頼者数の変化

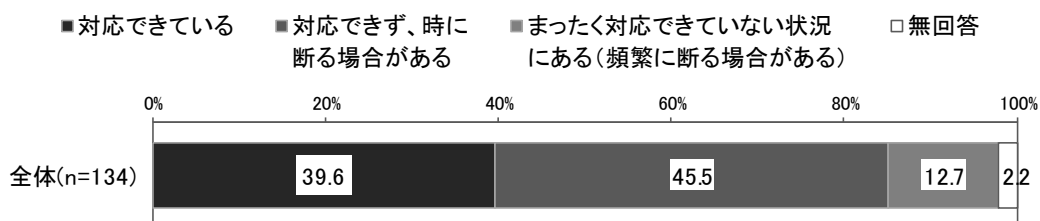
「変わらない」が33.6%と最も高く、次いで「やや増えた」が29.9%、「やや減った」が14.2%となっている。

増加(「かなり増えた」、「やや増えた」の合計)は39.6%、減少(「やや減った」、「かなり減った」の合計)は15.7%となっている。



(8) 新規のサービス提供依頼への対応

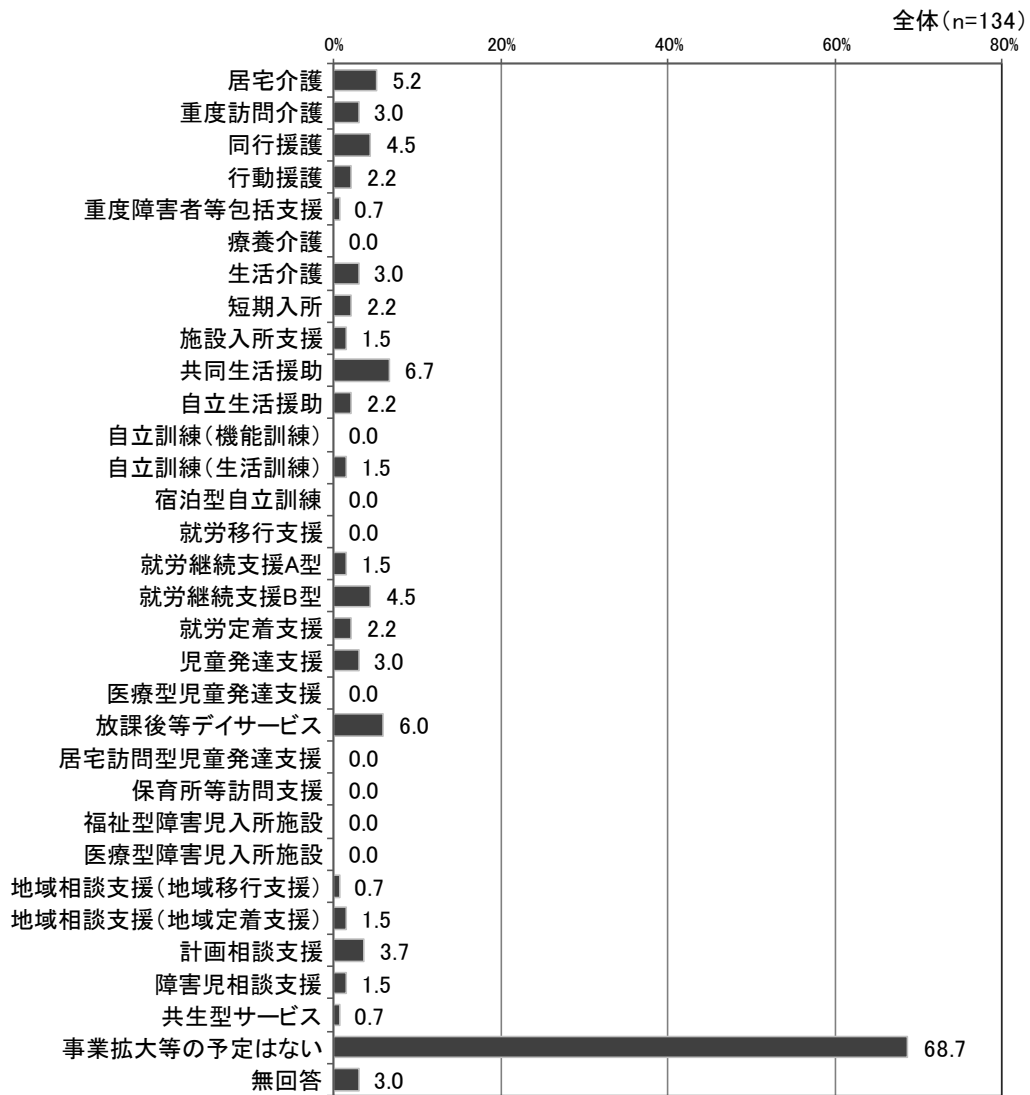
「対応できている」が39.6%に対して、「対応できず、時に断る場合がある」が45.5%を占め、「まったく対応できていない状況にある(頻繁に断る場合がある)」が12.7%となっている。



(9) 事業拡大（又は新規参入）を検討している障がい福祉サービス

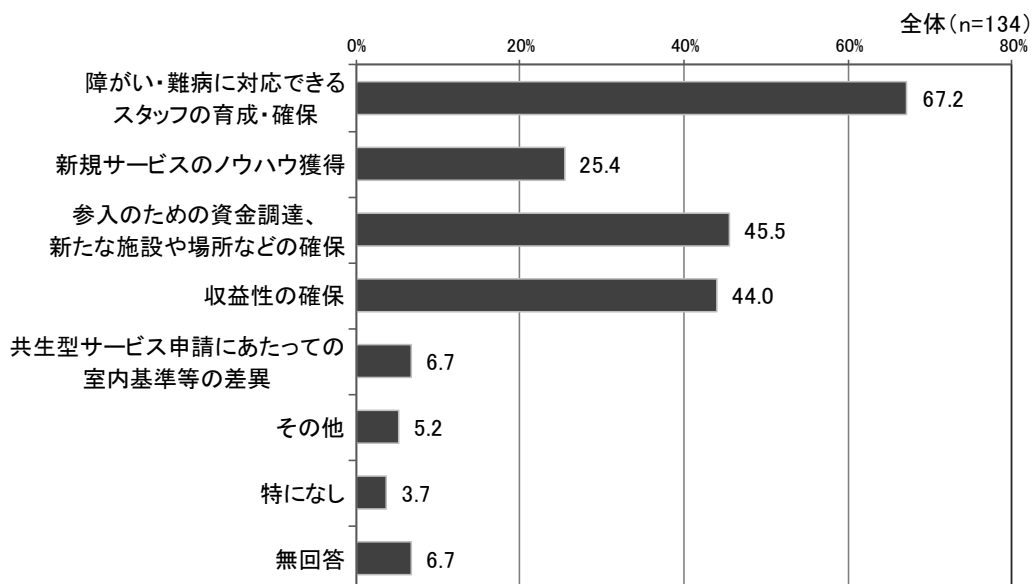
「事業拡大等の予定はない」が68.7%を占めている。

障がい福祉サービスの中では、「共同生活援助」が6.7%と最も高く、次いで「放課後等デイサービス」が6.0%、「居宅介護」が5.2%となっている。



(10) 新規サービスに参入するにあたり、発生すると思われる課題

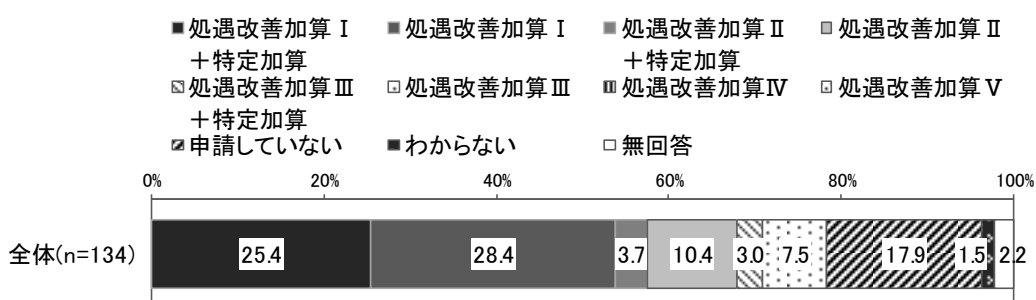
「障がい・難病に対応できるスタッフの育成・確保」が67.2%と最も高く、次いで「参入のための資金調達、新たな施設や場所などの確保」が45.5%、「収益性の確保」が44.0%となっている。



(11) 処遇改善加算の登録状況

「処遇改善加算Ⅰ」が28.4%と最も高く、次いで「処遇改善加算Ⅰ+特定加算」が25.4%、「処遇改善加算Ⅱ」が10.4%となっている。

特定加算が算定されているのは、32.1%となっている。



(12) 処遇改善加算を申請していない理由

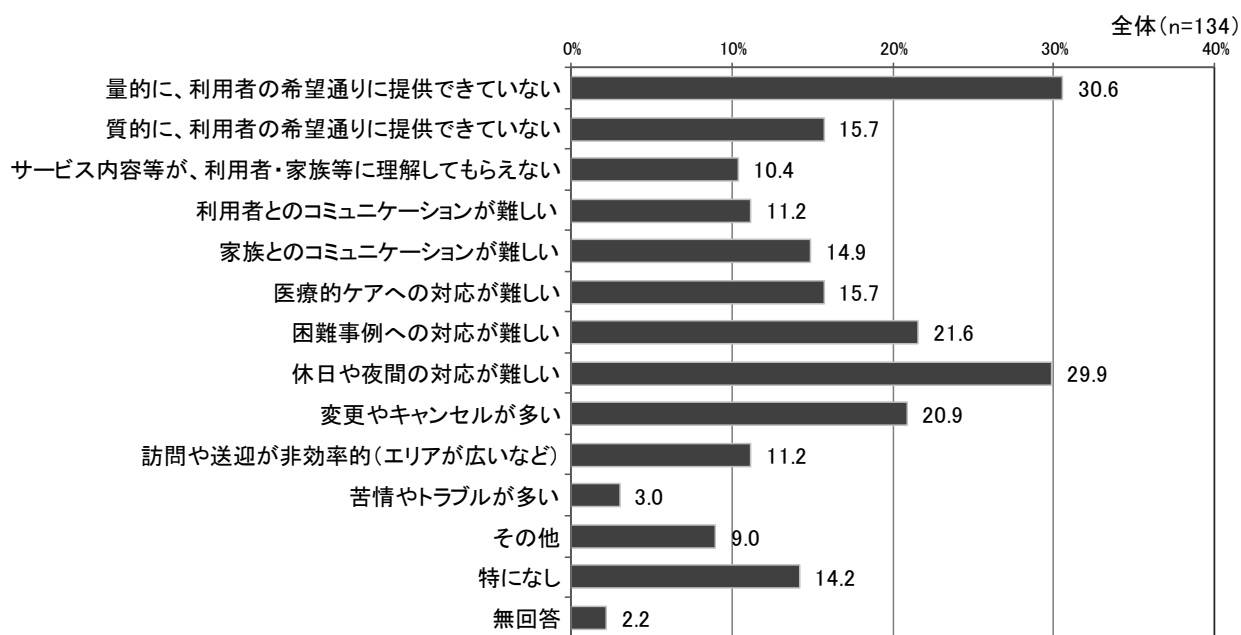
処遇改善加算について「申請していない」と回答した24者に申請していない理由をたずねた。
「手続きが煩雑である」が13者で最も多く、次いで「支給要件に該当していない」が12者となっている。

申請していない理由	件数
手続きが煩雑である	13
支給要件に該当していない	12
職種によって不公平感が出る	2
支給額が低い	2
その他	3
無回答	0

3. サービスの質の向上について

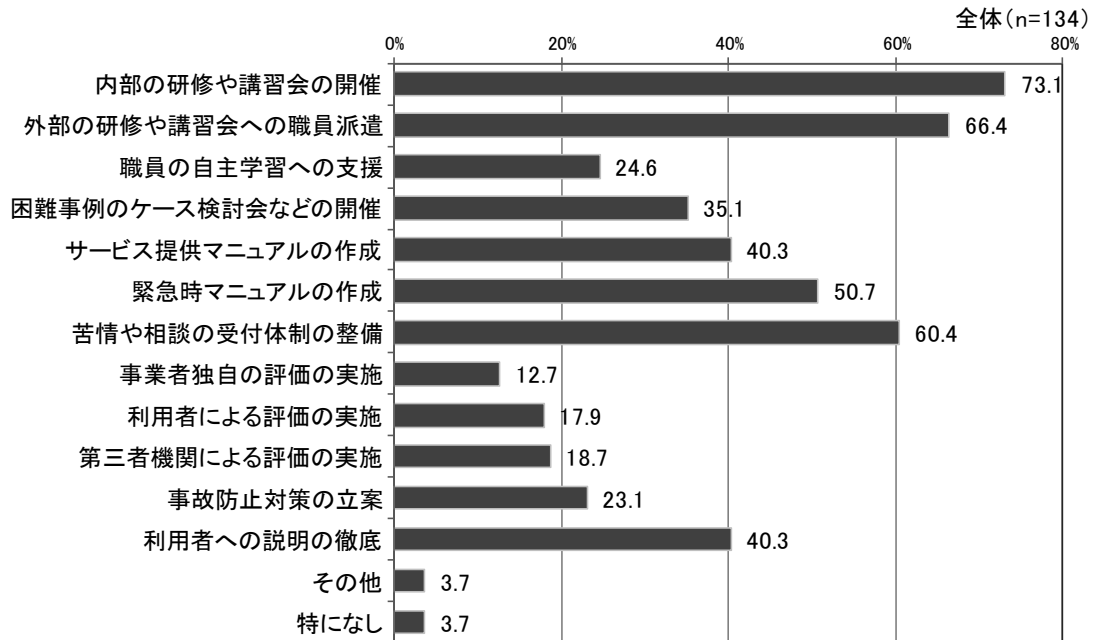
(13) サービスの提供における課題

「量的に、利用者の希望通りに提供できていない」が30.6%と最も高く、次いで「休日や夜間の対応が難しい」が29.9%、「困難事例への対応が難しい」が21.6%となっている。



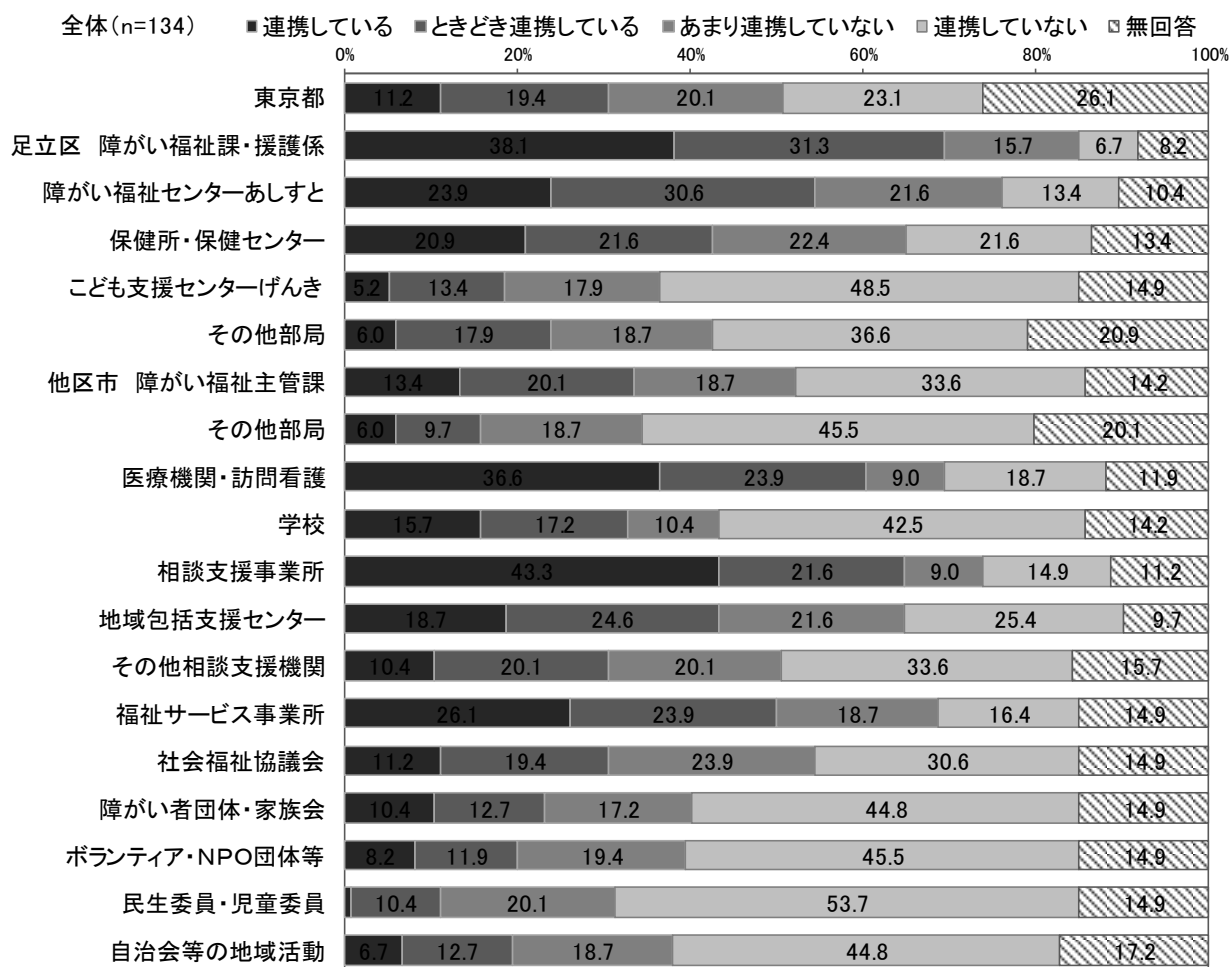
(14) サービスの質の向上のためにしている取り組み

「内部の研修や講習会の開催」が73.1%と最も高く、次いで「外部の研修や講習会への職員派遣」が66.4%、「苦情や相談の受付体制の整備」が60.4%となっている。



(15) 地域組織との連携

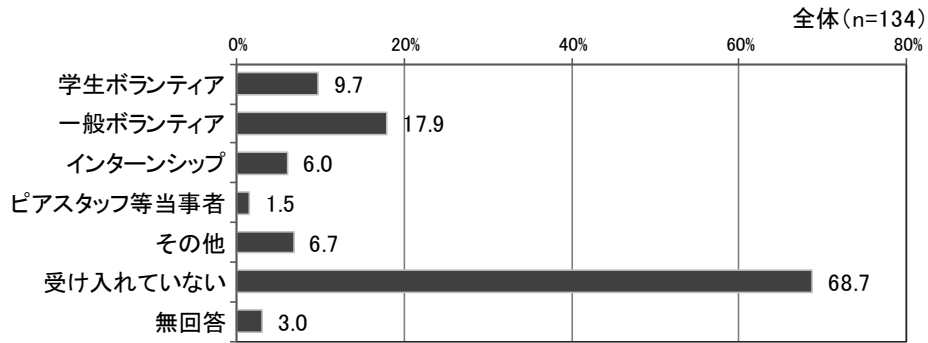
「足立区 障がい福祉課・援護係」との連携(「連携している」、「ときどき連携している」の合計)が69.4%、「相談支援事業所」との連携が64.9%、「医療機関・訪問介護」との連携が60.5%で高くなっている。



(16) 受け入れているボランティアの種別

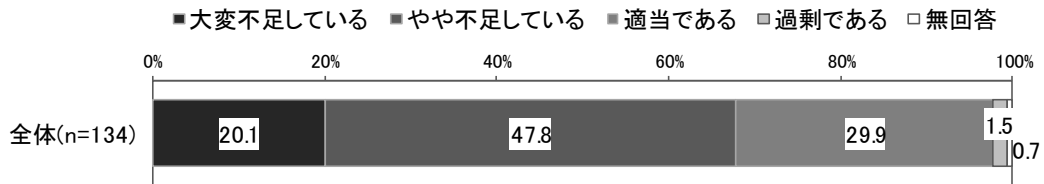
「受け入れている」が68.7%を占めている。

受け入れている中では、「一般ボランティア」が17.9%と最も高く、次いで「学生ボランティア」が9.7%となっている。



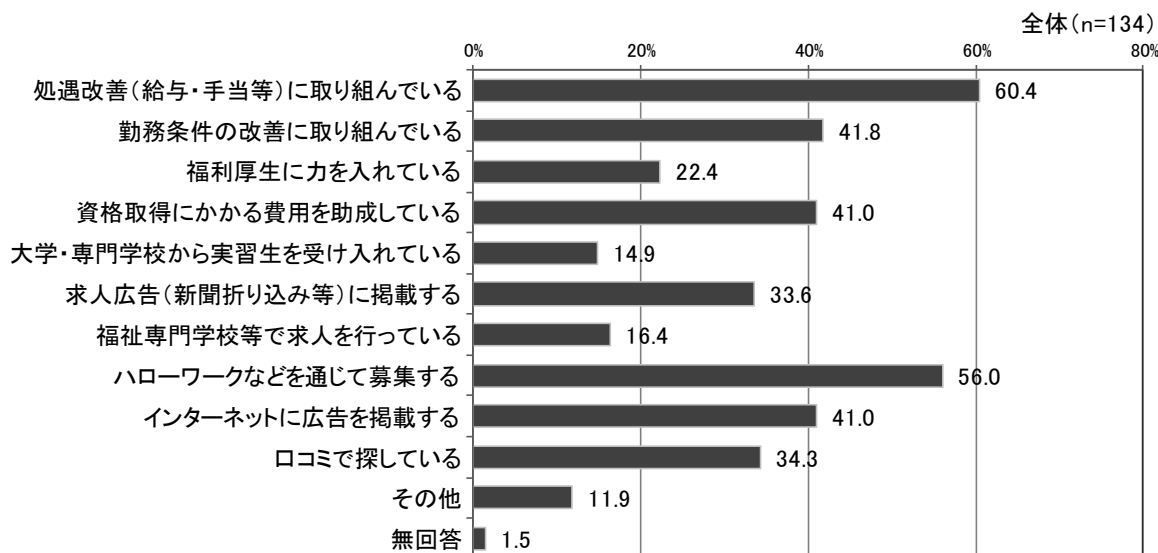
(17) 職員数の状況

「やや不足している」が47.8%と最も高く、「大変不足している」が20.1%と併せて67.9%が不足である。「適当である」は29.9%となっている。



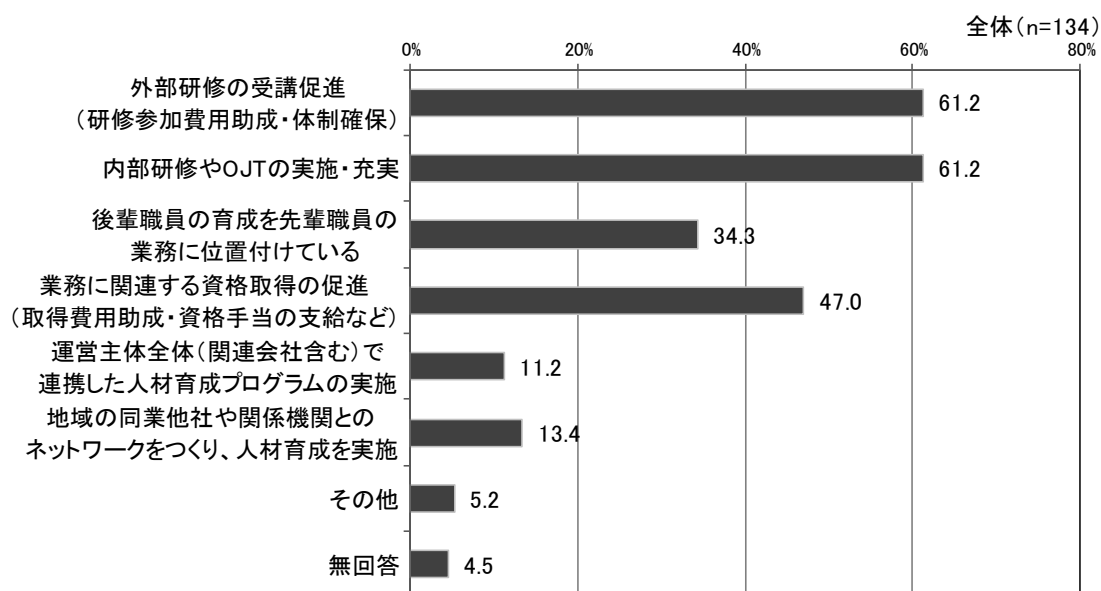
(18) 人材の確保の方法

「処遇改善(給与・手当等)に取り組んでいる」が60.4%と最も高く、次いで「ハローワークなどを通じて募集する」が56.0%、「勤務条件の改善に取り組んでいる」が41.8%となっている。



(19) 人材育成について行っている取り組み

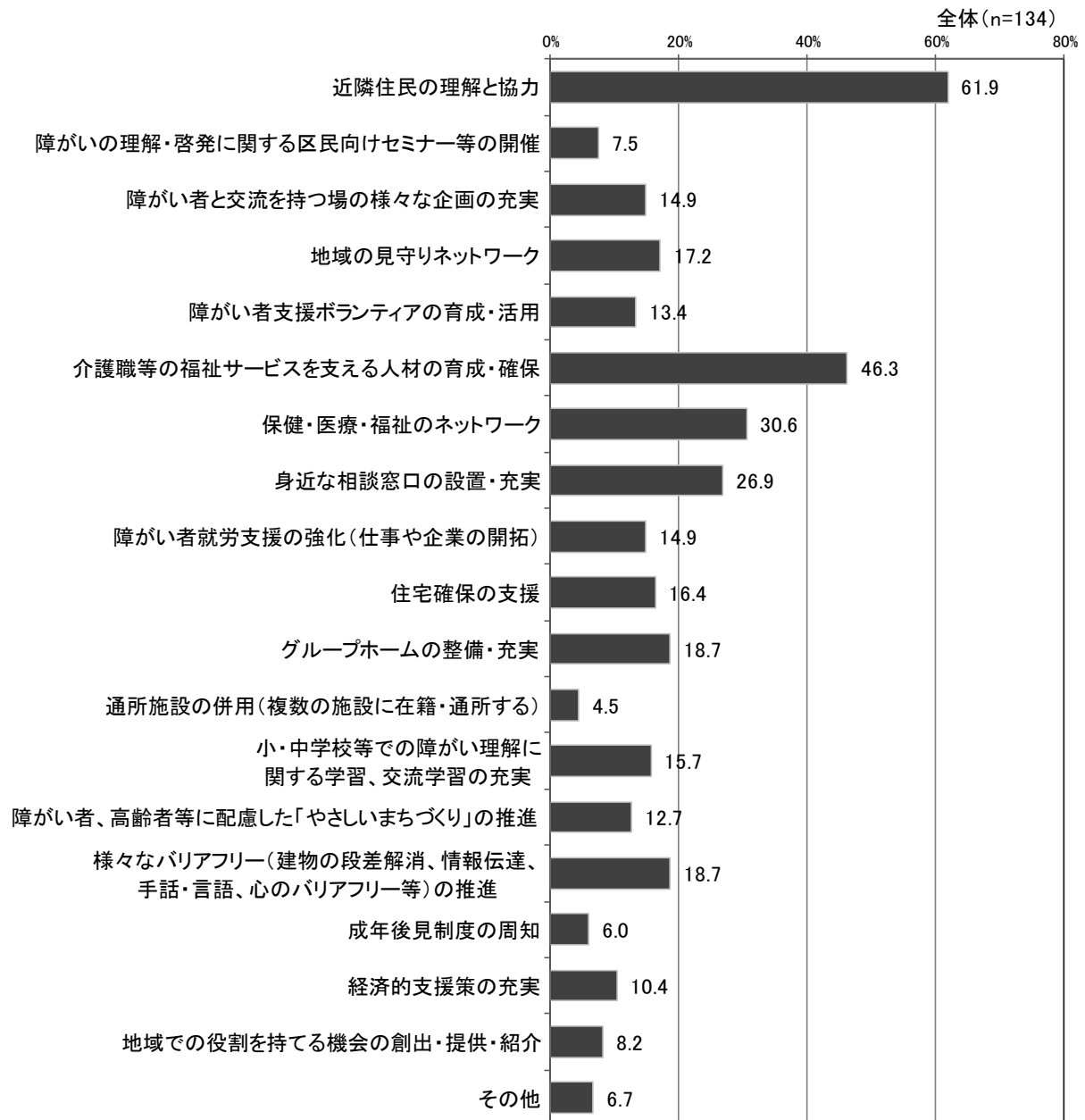
「外部研修の受講促進(研修参加費用助成・体制確保)」と「内部研修やOJTの実施・充実」が61.2%と最も高く、次いで「業務に関連する資格取得の促進(取得費用助成・資格手当の支給など)」が47.0%となっている。



4. 障がい者の地域生活の向上に向けた取り組みの状況について

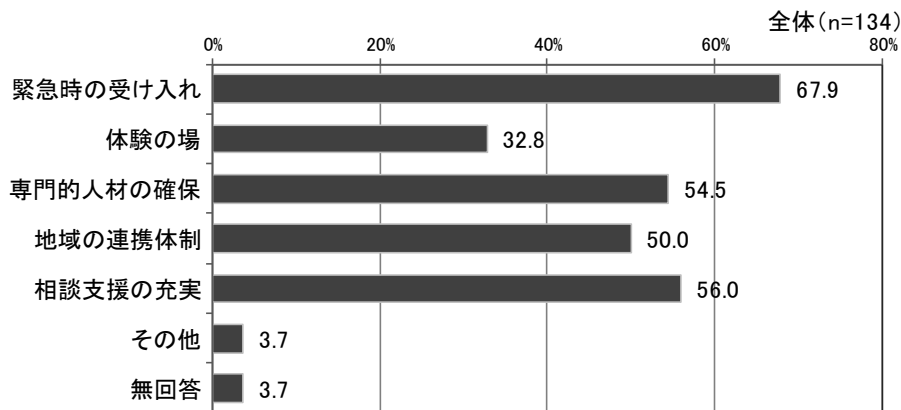
(20) 障がい者が安心して地域で生活し続けるために必要なこと

「近隣住民の理解と協力」が61.9%と最も高く、次いで「介護職等の福祉サービスを支える人材の育成・確保」が46.3%、「保健・医療・福祉のネットワーク」が30.6%となっている。



(21) 地域生活支援拠点整備

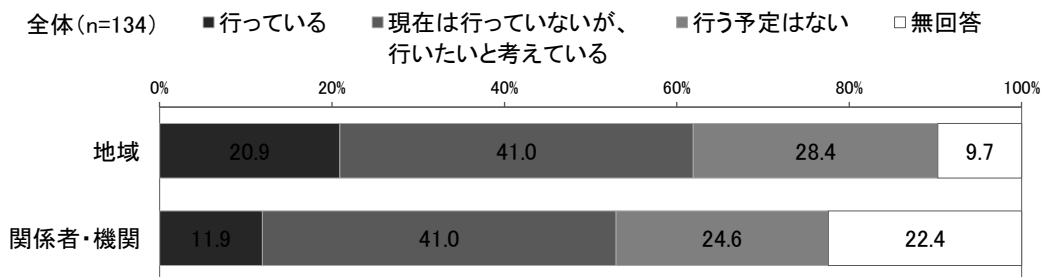
「緊急時の受け入れ」が67.9%と最も高く、次いで「相談支援の充実」が56.0%、「専門的人材の確保」が54.5%となっている。



(22) 障がい福祉に関して普及啓発や理解促進のための取り組みの有無

地域に対して、「現在は行っていないが、行いたいと考えている」が41.0%と最も高く、「行っている」(20.9%)と併せて、取り組みを行う意向があるのは61.9%となっている。「行わない予定はない」は28.4%となっている。

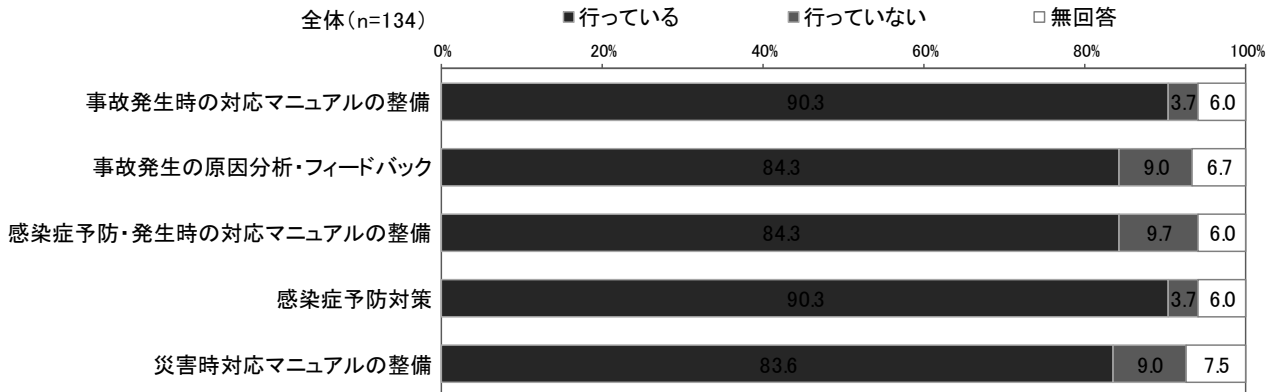
関係者・機関に対して、「現在は行っていないが、行いたいと考えている」が41.0%と最も高く、「行っている」(11.9%)と併せて、取り組みを行う意向があるのは52.9%となっている。「行わない予定はない」は24.6%となっている。



5. 事故や災害等に対する取り組みについて

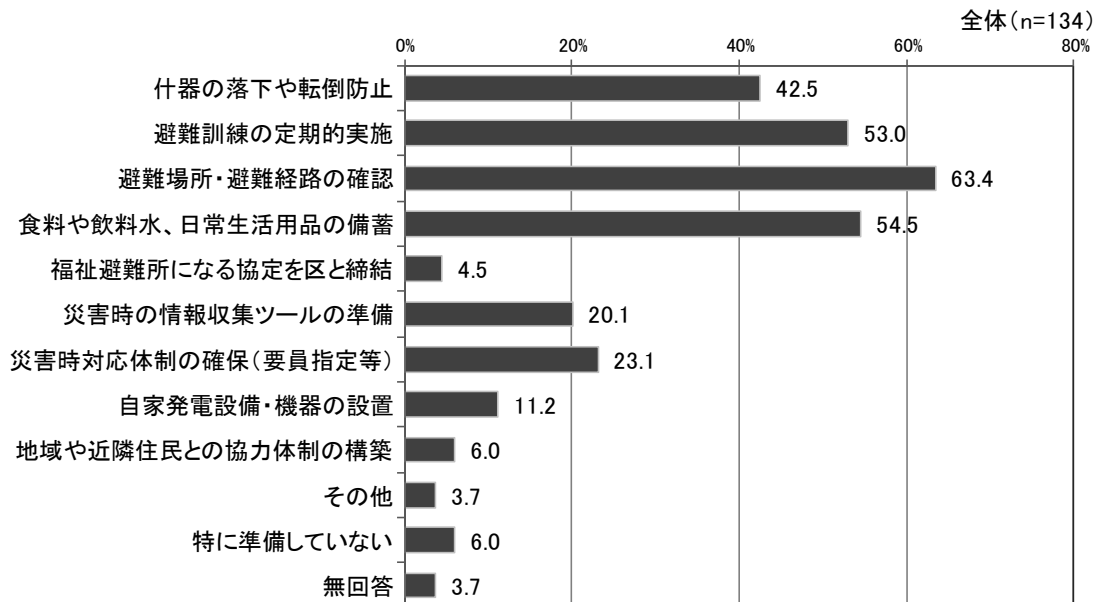
(23) 事故や災害の対応状況

「事故発生時の対応マニュアルの整備」、「感染症予防対策」において「行っている」が90.3%であり、「事故発生の原因分析・フィードバック」、「感染症予防・発生時の対応マニュアルの整備」、「災害時対応マニュアルの整備」でも8割以上となっている。



(24) 災害に備えて、日頃から準備していること

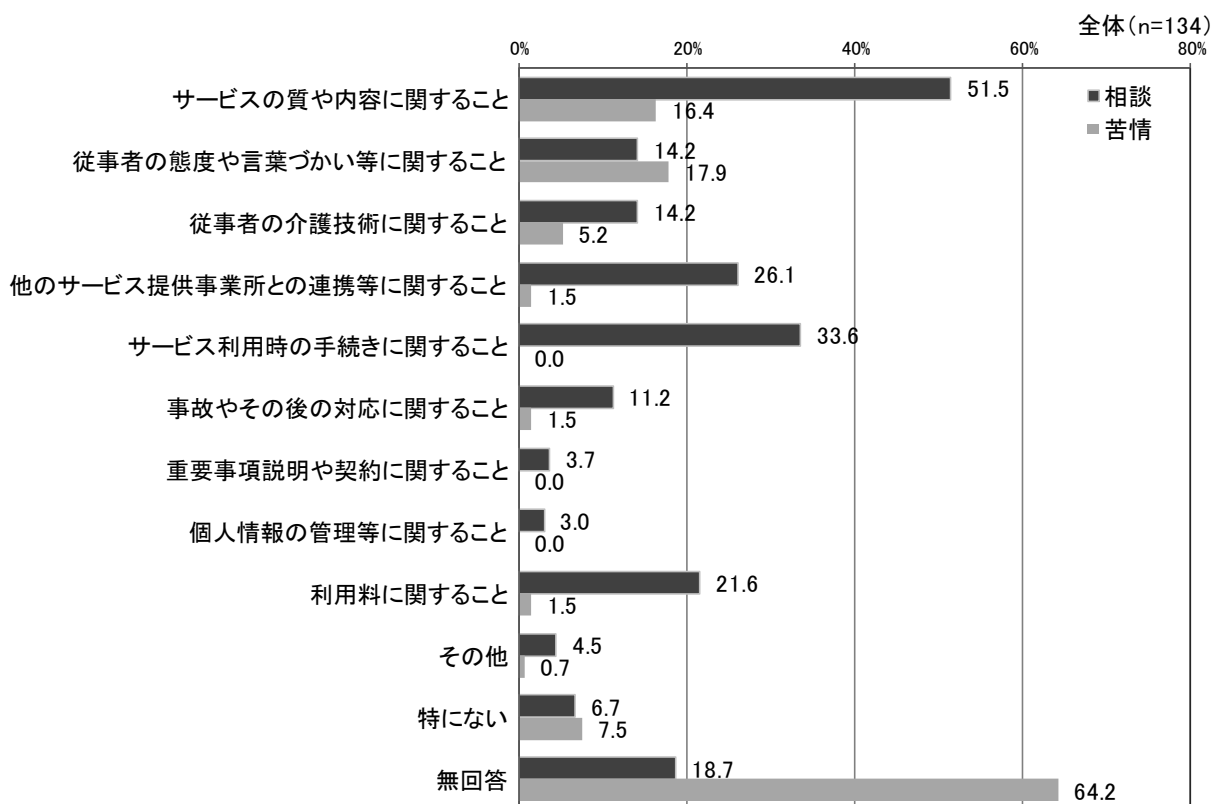
「避難場所・避難経路の確認」が63.4%と最も高く、次いで「食料や飲料水、日常生活用品の備蓄」が54.5%、「避難訓練の定期的実施」が53.0%となっている。



(25) 利用者やご家族の方からの相談や苦情の内容

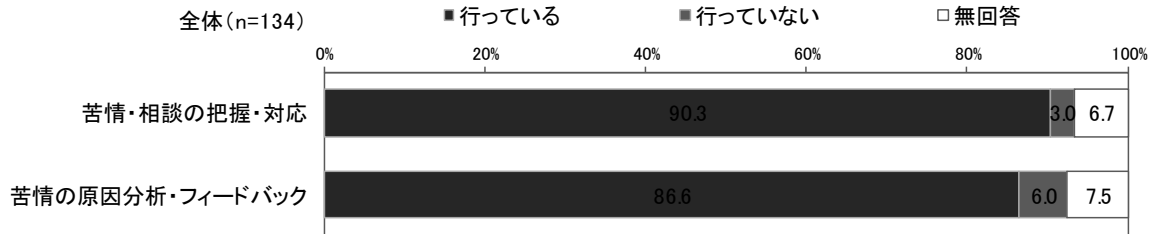
相談としては、「サービスの質や内容に関すること」が 51.5%と最も高く、次いで「サービス利用時の手続きに関すること」が 33.6%、「他のサービス提供事業所との連携等に関すること」が 26.1%となっている。

苦情としては、「無回答」が 64.2%を占めているが、内容の中では「従事者の態度や言葉づかい等に関すること」が 17.9%と最も高く、次いで「サービスの質や内容に関すること」が 16.4%、「従事者の介護技術に関すること」が 5.2%となっている。



(26) 苦情の対応状況

「苦情・相談の把握・対応」を行っているのは90.3%、「苦情の原因分析・フィードバック」を行っているのは86.6%である。



6. 障がい福祉施策に関する意見

(27) 足立区の障がい福祉施策に関する意見など

資源の不足

- ・ 障害者の通所施設が少ないです。また作業所等へ行ける方でも能力を活用できていない方が多いです。毎日何もすることがなく自宅にいるケースが多い。
- ・ (1)グループホーム退去者で千住地域に暮らすことを希望する方の住まいの確保に苦勞しています。生活保護内での部屋探しと不動産屋さん大家さんの理解を得ることが難しいです。地域で障害のある方を支援するにあたって、区としてもこの現実に対して何らかのアクションを起こしていただきたいと存じます。(2)グループホーム退去者の支援に関して現在ボランティアで支援を行っております。自立生活援助のサービスへの事業拡大も検討しておりますが、現場では体制整備の必要もあり、難しいと考えております。退去者支援は今後も増える見込みであり、このままボランティアで続けていくのも難しいのではないかと感じます。こうした実状に沿ったサービスの創出を行政で考えていただけないでしょうか。
- ・ (1)作成日だけでは運営をしていけない。(2)ひとつの相談に対して時間をとられてしまい他の仕事や計画策定が行えない。(3)契約人数に対して加算などを足立区で作ってくれないと相談支援事業を続けていけない。(4)放課後等デイサービスが足りていない。特に軽度発達(小中普通級児)の子たちが利用できていない。(5)強度行動障がいを受け入れる入所、放デイを足立区運営で作って欲しい。
- ・ 短期入所をもっと利用できるように増やして欲しい。日数も7日/月では何かあった時には足りない。
- ・ 高齢化に伴い就労B型から生活介護へ移行が必要な利用者が今後多くなってくると思います。就労移行を含めてニーズの再調査や区としての方向性を示していただけると助かります。
- ・ (1)成人の医ケアの方のレスパイト事業の利用。(2)医ケア・重心の方の移動支援の利用。(3)通所先の入浴と訪問入浴の併用。(4)高校卒業後の医療ケア・重心の方の受け入れ先の充実。(5)児童発達支援放課後デイサービス、児童デイサービスの併用の見直し。その子に合っているのか？質・量も含めもう少し慎重に検討が必要だと思う。子供がオーバーワークしていないかと心配。

人材の不足

- ・ サービスの充実により需要の高さ、必要性が利用者から聞かれる一方で供給できる体制が充分ではないため、ニーズや課題に沿ったプラン作成を考え提案しても解決に結びつきにくい状況と感じています。
- ・ ヘルパーの高齢化に伴い障がい者サービスを続けていくのが難しい状況にあります。ヘルパーの募集はしていますが集まらないのが現状です。障がいサービスを担えるようなヘルパー確保について、区のご協力をいただけたらと思います。
- ・ 絶対数が足りていない。ヘルパーの量を増やす施策を検討していただきたい。
- ・ 障害サービスを利用したいとの相談はたくさんありますが、介助者が足りなくお断りしている次第です。特に身体障害、重度障害では体力が求められ、ヘルパーの高齢化が深刻な問題となっています。担当の福祉事務所、相談員に相談しても解決できず、事業所が無理をしているのが現状です。この

まま利用者を支え続けられるのか不安です。担当福祉事務所は移動が多く利用者のアセスメントも行っていない様子、せめて一緒に問題解決できる立場にいてくれると心強く感じます。

- ・ 人材確保のための施策を考えてほしいです。

加算・助成等の課題

- ・ (1)障害福祉サービス、自己負担の助成を再開してほしい。(2)家賃補助も再開してほしい。(3)足立区独自予算で助成してほしい。
- ・ 平成30年度から始まった利用者の状態像を勘案した指標の設定に基づく報酬区分の設定が大きな影響を受け、事業所の運営の収益が大きく減ったのに加えスタッフの配置も厳しくなり、運営状況は改善というよりはさらに悪くなりました。このような環境の中でも子供たちの安全と安心、笑顔で居てくれる事を守るために、日々本人主体の支援を取り組んでいます。足立区でも事業所内の様々な立場にマッチングした部門部署ごとの研修を行ってほしいと思います。いろいろな情報が知りたいです。
- ・ 福祉事務所によって該当児、非該当児が異なるため、報酬に大きな差があるので統一してほしい。
- ・ (1)福祉事務所によって支給決定等の差があるので困ります。(2)新規利用の依頼がご家族やご本人から来ることが多く、皆さん大変そうです。以前のように間に入って探してあげる人がいれば良いと思います。
- ・ 先日、障害の方のサービス時、訪問すると応答がなく会社から電話をしても出る様子がなくヘルパーさんが10分待機して退室した。その件を相談支援事業所や福祉事務所の担当の方にも連絡をした。なぜなら1人での生活でもありヘルパーが訪問することで安否確認にもなっていた。連絡がない場合にはキャンセル料も発生してしまうからだった。ご本人は亡くなっていて、生活扶助または介護扶助の中からキャンセル料は支払っていただけないのかと聞いても、それはもう亡くなっているので無理とのこと。このようなケースでサービス事業所だけが支払ってもらえないのはいかがなものかと思う。他のケースでもありますので今後の対応策をよろしく願いいたします。

体制整備の不足

- ・ グループホームの定員割れが発生しているが営業をかけているにもかかわらず、宝探しをしているような状況。グループホームを探しているという声も聞こえるが、グループホームが急増しているようでタイミングによって選択されないこともあるように感じる。また一元管理ができていないとは思えない。デジタル化の推進、システム構築、シンプルな仕組みづくり、特に報酬に関わる部分を質・量ともに改善を希望。
- ・ 障害者(利用者)の成長により、体格や精神などの変化に介護者がついていけず、どうしていくかなどもっと話し合う機会を設けて欲しい。訪問時の地震発生や災害時の対応ができていないので、ぜひ足立区が中心になり対応について検討するようにして欲しい。ヘルパーの安全かサービスか。
- ・ 利用者様・サービス提供事業所・行政の3者が一体となって適切なサービスが行えるよう連携をとっていくことが大事だと考えます。障害福祉課さん、福祉事務所の方々のお仕事、本当に大切に大変なお仕事と思いますが頑張ってください。
- ・ (1)区内の関係機関の機能的、スムーズな連携協力が必要。(2)各種関係相談のハードルの低い窓口が必要。(3)縦割行政に横串を刺すようなトータルなサービスが必要。
- ・ 他区との連携もあると良いと思います。他区の事業所のやり方も参考にしたいので、規模の大きくない事業所にも、もっと利用者を紹介して欲しいです。中々事業所に来られない利用者も多く、引きこもっている方も多いため、保健師さんか足立区さんからもアプローチがあると助かります。

その他

- ・ ここ数年たくさんの外部企業の事業所参入を受け入れていますが、長年区内で活動してきた中小規模の法人を区として今後どのようにフォローして育てていこうとしているのかが見えません。
- ・ 足立区において初めてのケースですが、他の大きな法人さん同様のシステム(ローカルルール)よりもう少し柔軟な対応をしていただけると大変ありがたいです。
- ・ 足立区の移動支援事業について1年ごとに実施申請の提出は非効率だと思いますが、それ以上に前年度実績のない事業所の申請が受理されないことに違和感があります。実施できる事業所が減っていくことになりはしませんか。